

第41回県政世論調査結果報告書

平成30年7月実施

岐阜県

目 次

I	調査概要.....	1
1. 1	調査の目的	1
1. 2	調査の経緯	1
1. 3	調査項目	1
1. 4	調査の設計	1
1. 5	回収結果	1
1. 6	標本誤差	2
1. 7	報告書の見方.....	2
1. 8	対象者の属性.....	3
II	調査結果.....	8
2. 1	暮らしについて.....	8
問1	くらしの前年比較	8
問1-2	くらしが苦しくなったと感じる理由	13
問2	くらしの満足度	19
問3	生活面での不安	24
問4	今後のくらしの中で重視していきたいこと.....	33
問5	生活に必要な情報の入手媒体	42
問6	現在住んでいる地域は住みやすいか	49
問6-2	住んでいる地域が住みやすいと感じる点.....	53
問6-3	住んでいる地域が住みにくいと感じる点.....	60
問7	今後も岐阜県に住み続けたいか	67
2. 2	県の取り組み全般について	71
問8	施策や事業についての情報の入手方法.....	71
問9	県事業への関心の有無.....	78
問9-2	県事業に関心がない理由.....	83
問10	県の取り組みでよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野.....	87
問11	重点的に進めるべきだと思う分野	101
問12	人口減少社会への将来不安.....	108
問13	国の内外に誇れるもの.....	114
問14	子育て支援への対策	117
問14-2	地域全体で子育てを支える環境の整備.....	123
問15	若者の県内定着への対策.....	126

2. 3	生活を取り巻くさまざまな課題について	132
問16	「高齢者」「障がい者」を支える環境の整備	132
問17	健康づくりへの対策	138
問18	食品の安全性への不安	144
問18-2	食品の安全性への不安に対する県民の取り組み	149
問19	過去1年間の文化活動・文化鑑賞	155
問19-2	文化行政に望むこと	161
問20	過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無	167
問21	不審な電話による勧誘被害の対策	171
問22	社会貢献活動への参加	174
問23	在住外国人との共生	177
問24	「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度	180
問25	災害や緊急時の備え	183
問26	防災対策や避難行動の情報源	186
問27	避難情報に対する行動	193

I 調査概要

1. 1 調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政の各施策に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

1. 2 調査の経緯

昭和42年から実施、今回41回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施 昭和63年～平成18年：隔年実施 平成20年～：毎年実施

1. 3 調査項目

- (1) くらしについて
- (2) 県の取り組み全般について
- (3) 生活を取り巻くさまざまな課題について

1. 4 調査の設計

- (1) 調査地域 岐阜県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成30年6月28日～7月17日
- (7) 調査実施機関 株式会社 中部タイム・エージェント

1. 5 回収結果

	調査時期	標本数 (A)	回収数 (B)	有効回答数 (C)	回収率 (B/A)	有効回答率 (C/A)
第41回 (平成30年度)	平成30年 7月	3,000	1,437	1,436	47.9%	47.9%
第40回 (平成29年度)	平成29年 7月	3,000	1,522	1,522	50.7%	50.7%
第39回 (平成28年度)	平成28年 7月	3,000	1,533	1,533	51.1%	51.1%

1. 6 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P: \text{回答比率} \quad n: \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数（ n ）及び②回答比率（ P ）によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P (回答比率 %)									
		5 又 は 95	10 又 は 90	15 又 は 85	20 又 は 80	25 又 は 75	30 又 は 70	35 又 は 65	40 又 は 60	45 又 は 55	50
総数	1,436	1.1	1.6	1.8	2.1	2.2	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6

(注) 1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,436 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.6%である。」

1. 7 報告書の見方

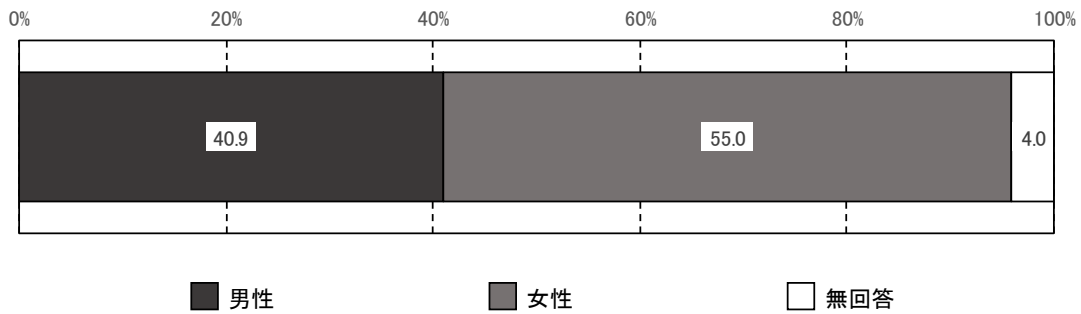
- (1) 比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数は「 n 」(件数)として掲載した。したがって比率は、 n を 100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な設問では総回答数を「 N 」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
- (4) 本報告書中の表、グラフ、及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (5) クロス集計において、年代別の 18～19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことからグラフへの表示及び分析を行っていない。

1. 8 対象者の属性

F-1 性別

図 F-1 性別

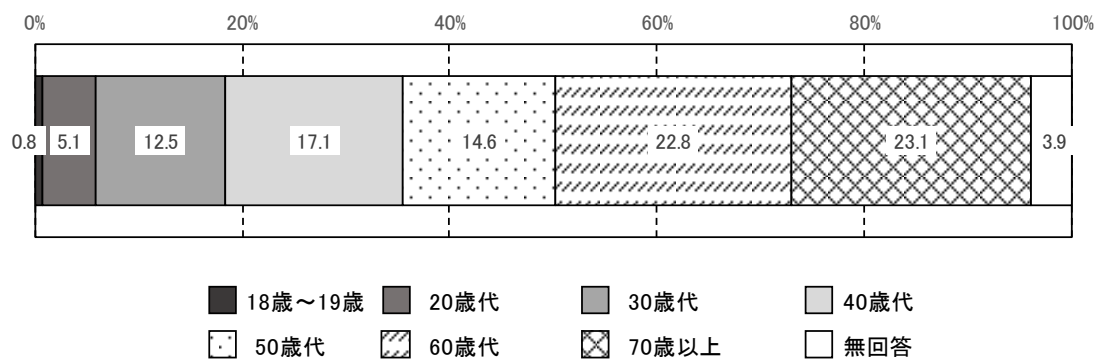
回答者数 (n = 1,436)



F-2 年代

図 F-2 年代

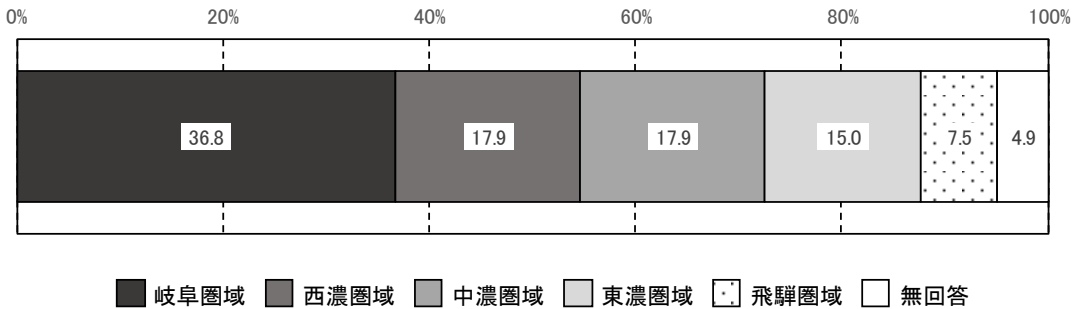
回答者数 (n = 1,436)



F-3 居住圏域（5分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数 (n = 1,436)

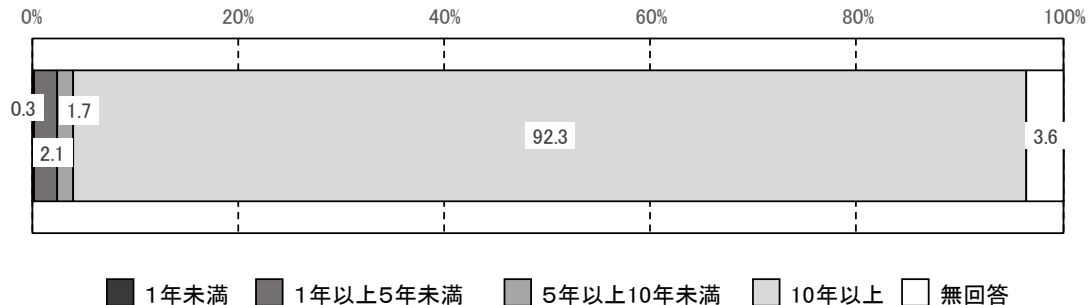


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）
 西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・
 揖斐川町・大野町・池田町）
 中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・
 八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）
 東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）
 飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

F-4 居住年数

図 F-4 居住年数

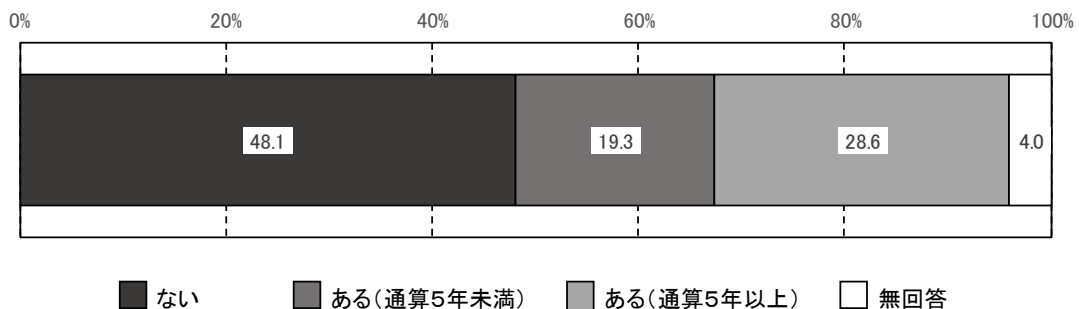
回答者数 (n = 1,436)



F-5 県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

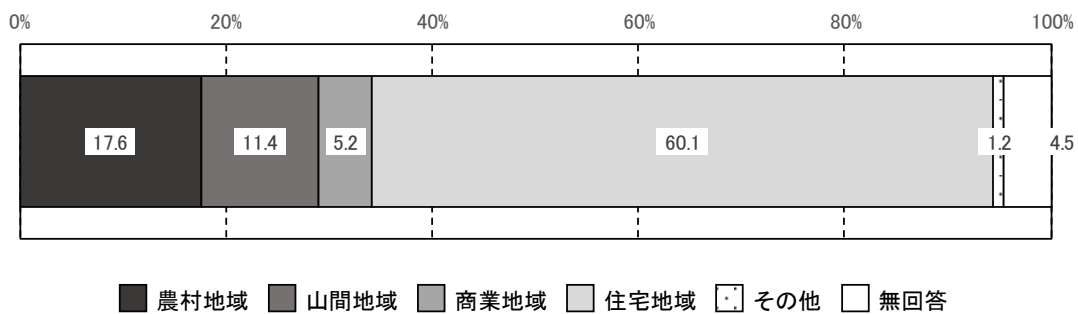
回答者数 (n = 1,436)



F-6 居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

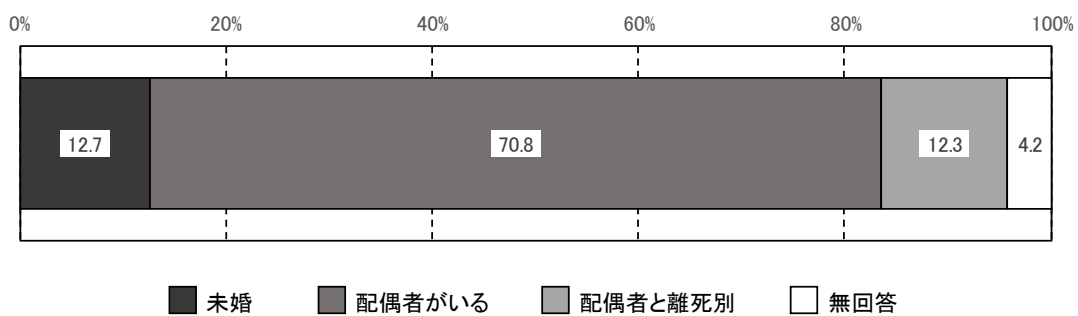
回答者数 (n = 1,436)



F-7 配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

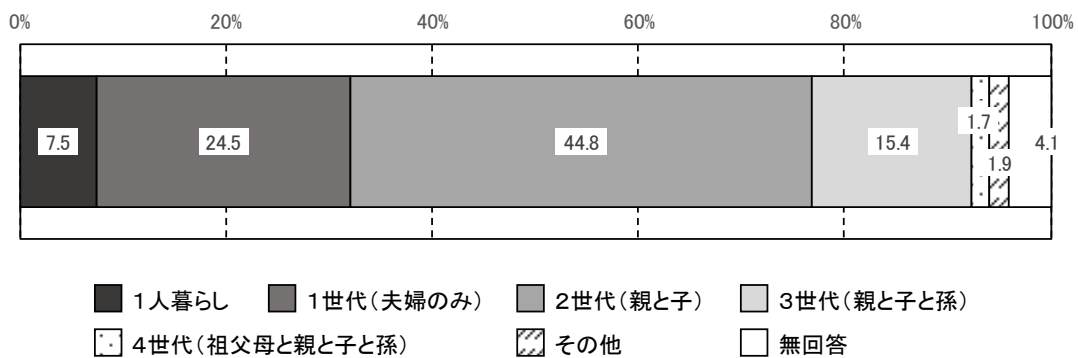
回答者数 (n = 1,436)



F-8 家族形態

図 F-8 家族形態

回答者数 (n = 1,436)

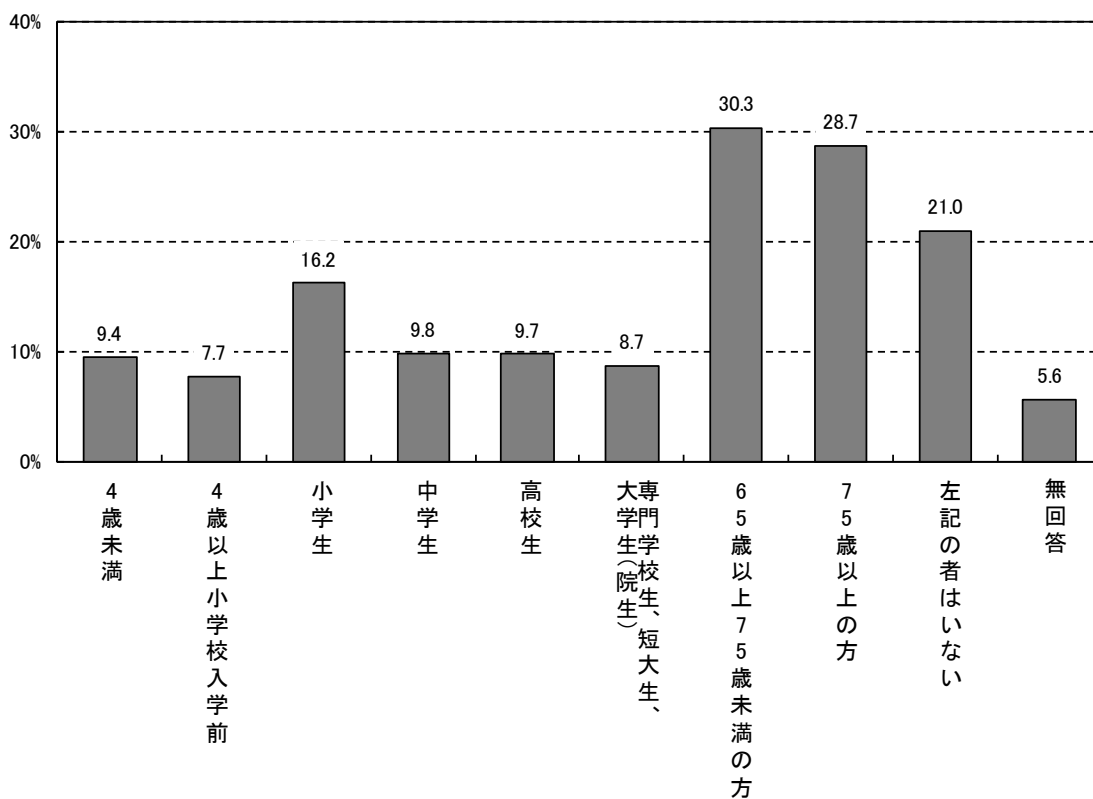


F-9 家族構成

図 F-9 家族構成

回答者数 (n = 1,436)

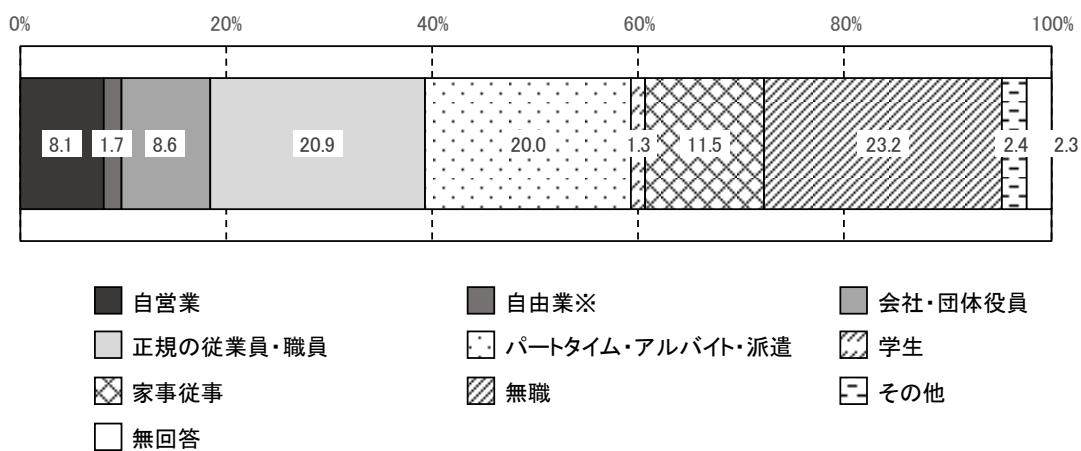
総回答数 (N = 2,114)



F-10 職業

図 F-10 職業

回答者数 (n = 1,436)

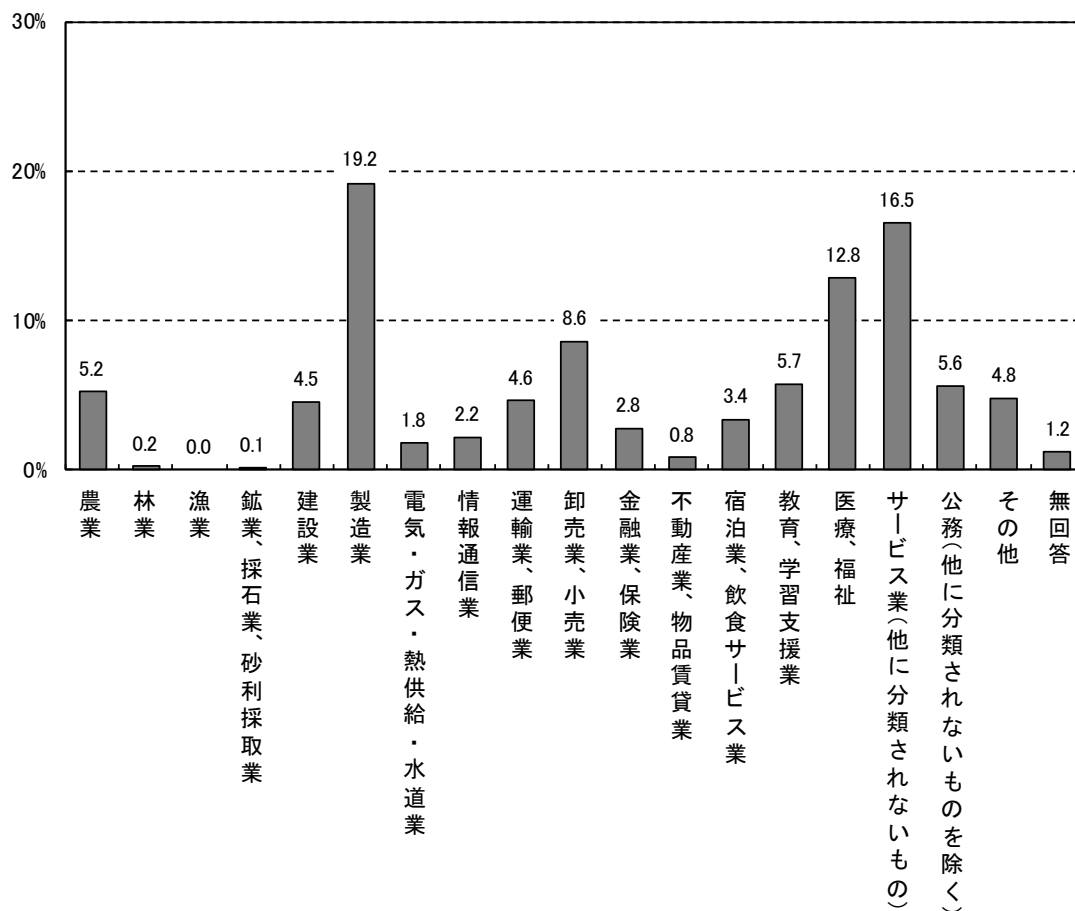


※ 自由業: 一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

F-11 業種

図 F-11 業種

回答者数 (n = 853) ※

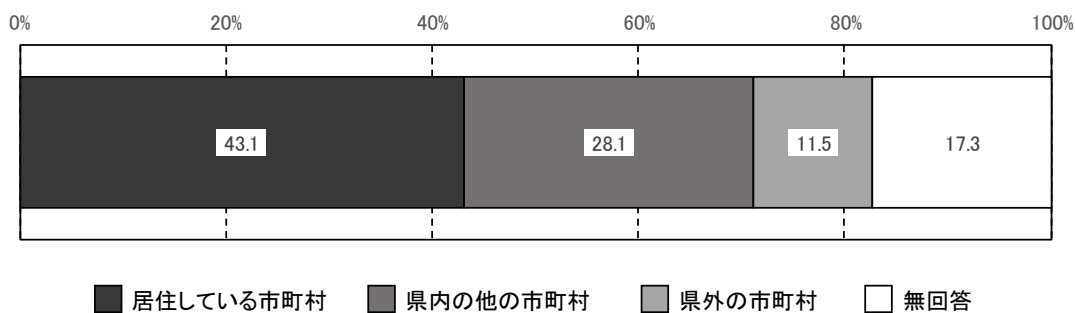


※ 「F10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

F-12 通勤、通学先

図 F-12 通勤、通学先

回答者数 (n = 871) ※



※ 「F10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

Ⅱ 調査結果

2. 1 くらしについて

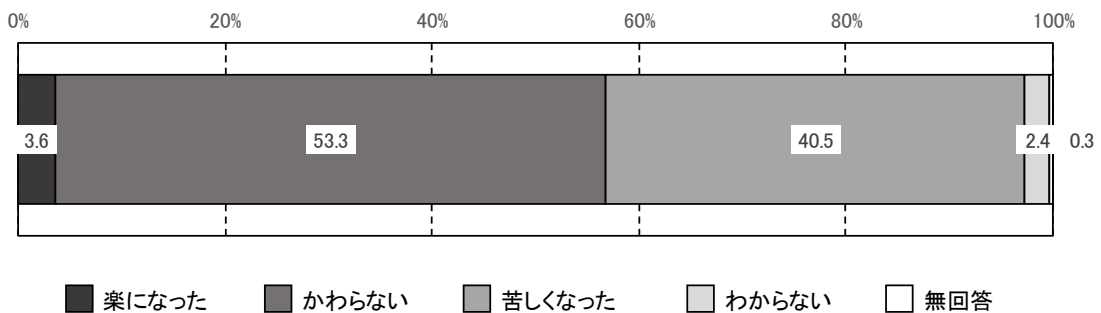
問1 くらしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭のくらし向き(家計など)は、去年の今頃と比べてどうですか。
(1つだけ)

全体(図 1-1)でみると、「かわらない」が 53.3%と最も高く、次いで「苦しくなった」(40.5%)、「楽になった」(3.6%)の順となっている。

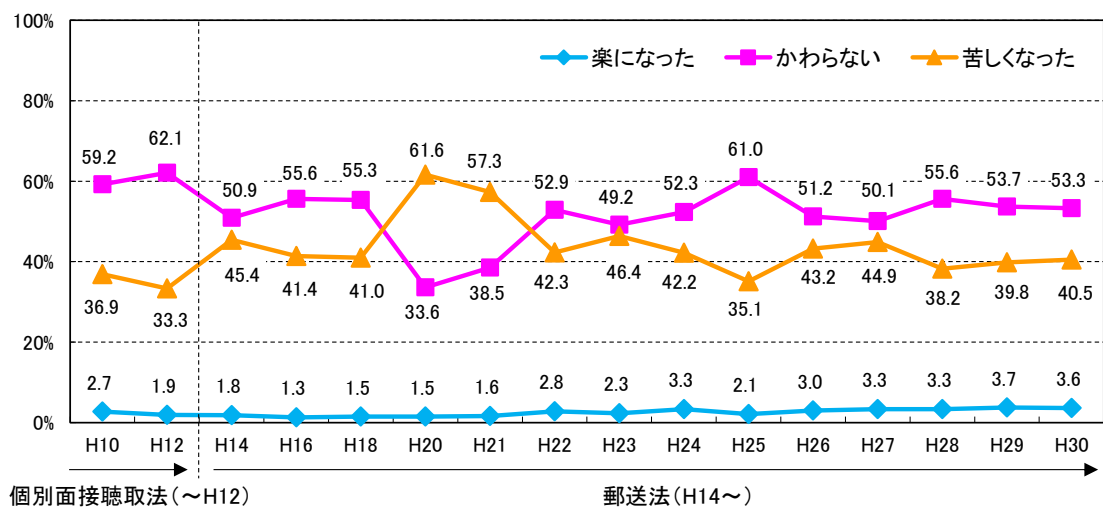
図 1-1 くらしの前年比較

回答者数(n = 1,436)



経年変化(図 1-2)でみると、平成 18 年までは、「かわらない」が最も高くなっている。平成 20 年から平成 21 年では「苦しくなった」が最も高くなっており、平成 22 年からは再び「かわらない」が最も高くなっている。平成 30 年は、平成 29 年より「楽になった」が 0.1 ポイント低くなっており、また「苦しくなった」が 0.7 ポイント高くなっている。

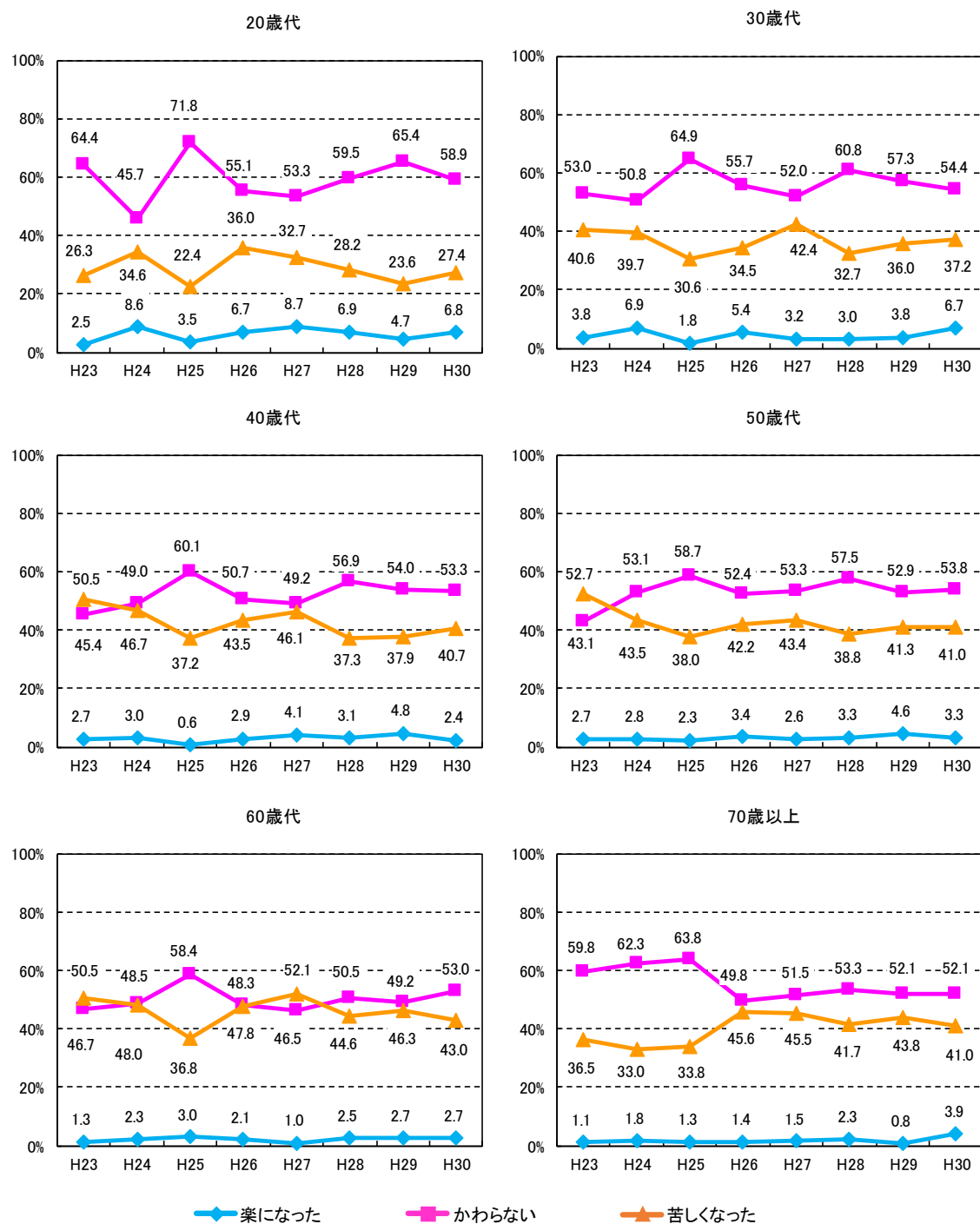
図 1-2 【経年変化】くらしの前年比較



※ 調査方法:平成 12 年度まで個別面接聴取法、平成 14 年度から郵送法

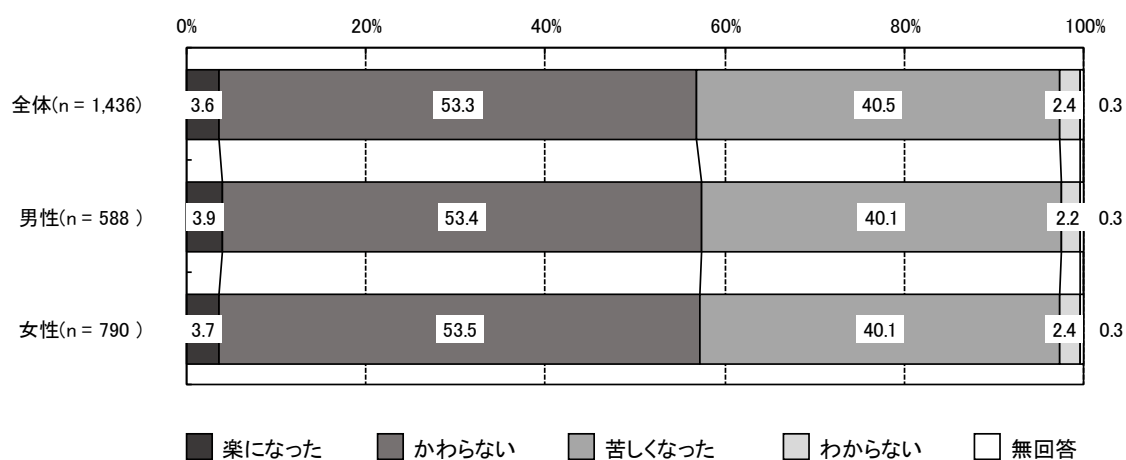
年代別の経年変化（図 1-3）でみると、平成 30 年では平成 29 年に比べ、20 歳代、30 歳代、40 歳代で「苦しくなった」のポイントが高くなっている。「楽になった」では 20 歳代、30 歳代、70 歳以上のポイントが高くなっている。そのうち 70 歳以上では前回と比べて 3.1 ポイント増加した。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



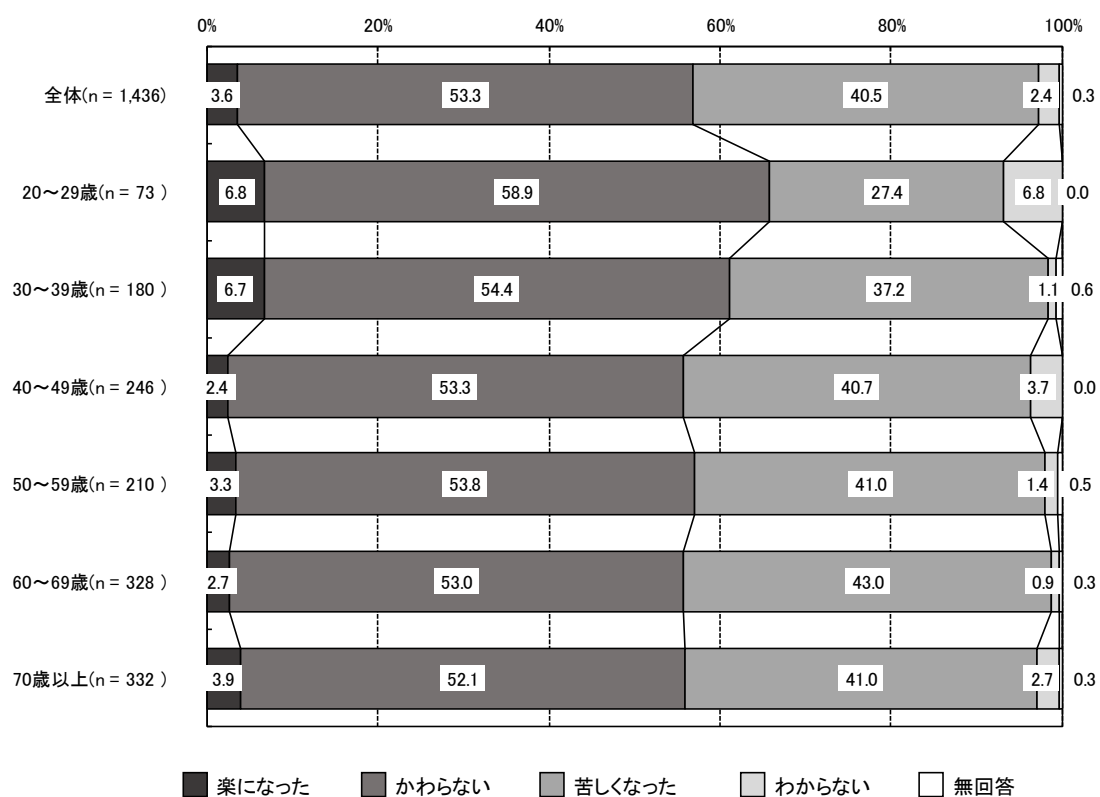
性別（図 1-4）でみると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 53.4%、女性が 53.5%と、女性が男性より 0.1 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



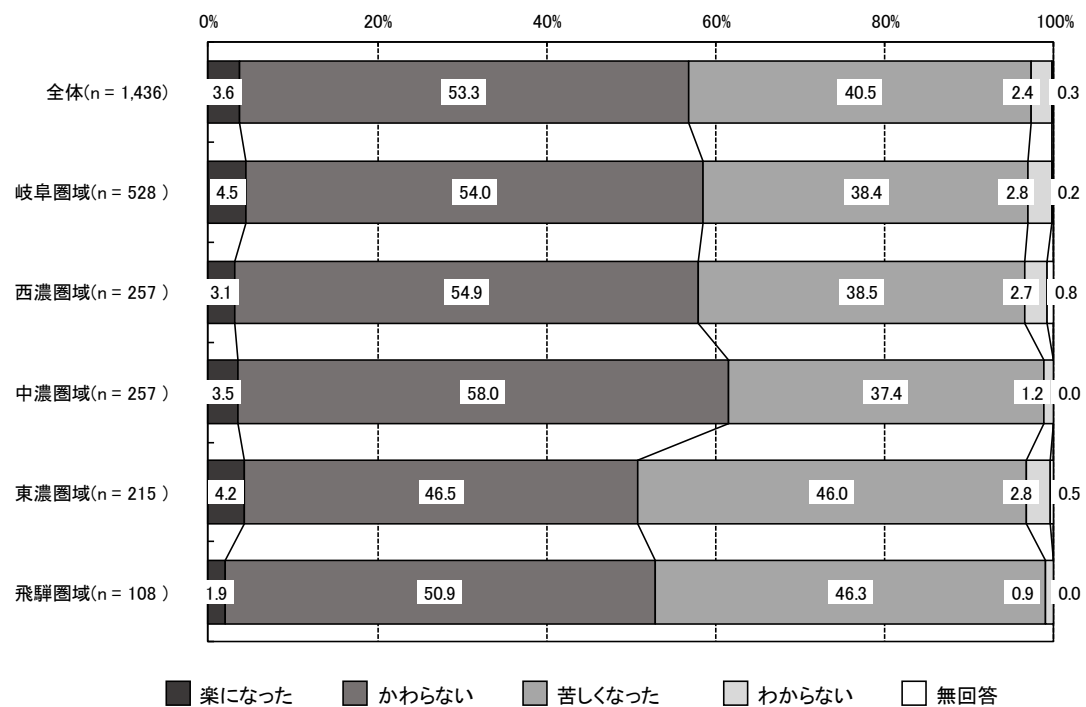
年代別（図 1-5）でみると、「かわらない」は 20 歳代が 58.9%と最も高く、次いで 30 歳代（54.4%）、50 歳代（53.8%）の順となっている。また、「苦しくなった」は、60 歳代が 43.0%と最も高く、次いで 50 歳代と 70 歳以上の 41.0%の順となっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



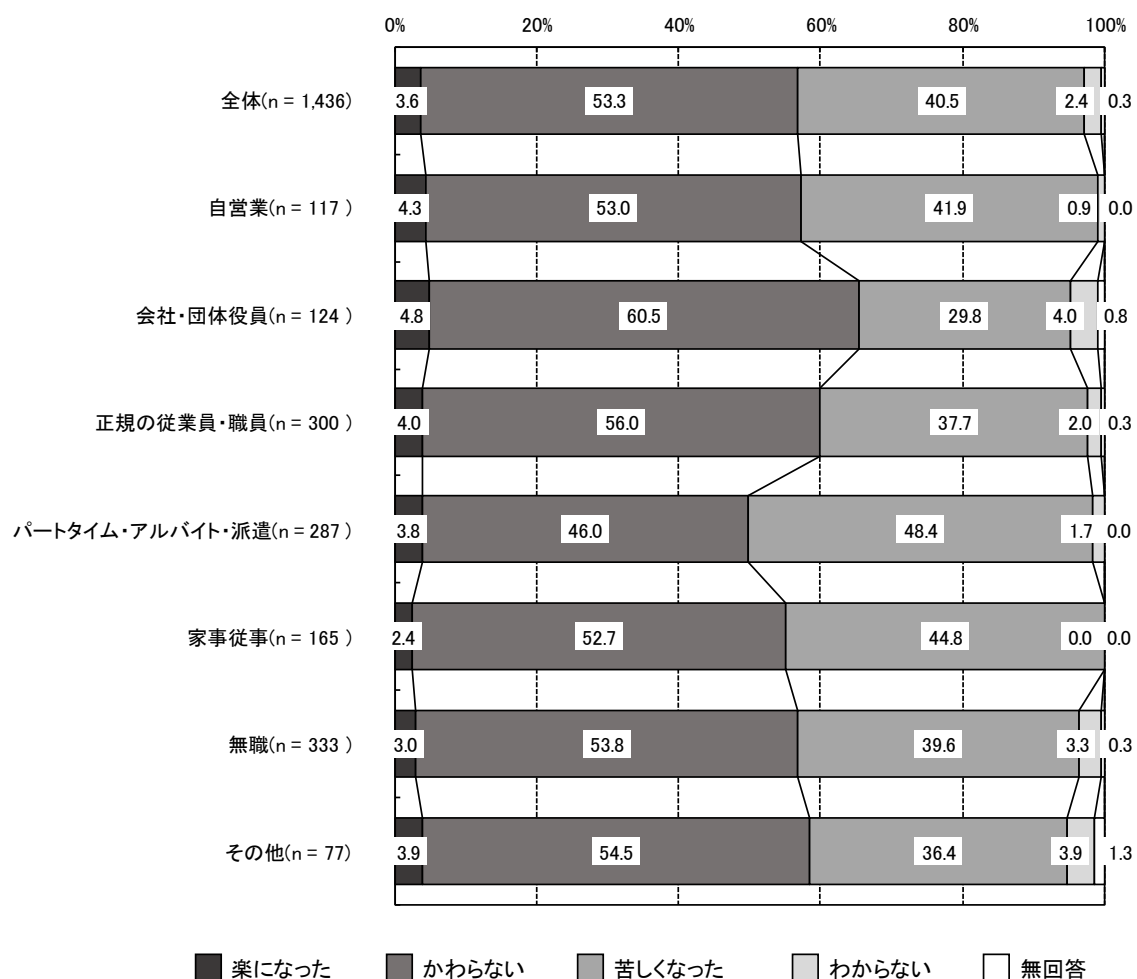
居住圏域別（図 1-6）でみると、「かわらない」は中濃圏域が 58.0%と最も高く、次いで西濃圏域（54.9%）、岐阜圏域（54.0%）の順となっている。「苦しくなった」では飛騨圏域が 46.3%と最も高く、次いで東濃圏域（46.0%）、西濃圏域（38.5%）の順となっている。

図 1-6 【居住圏域別】くらしの前年比較



職業別（図 1-7）でみると、「かわらない」は会社・団体役員が 60.5%と最も高く、次いで正規の従業員・職員（56.0%）、その他（54.5%）の順となっている。「苦しくなった」ではパートタイム・アルバイト・派遣が 48.4%と最も高く、次いで家事従事（44.8%）、自営業（41.9%）の順となっている。

図 1-7 【職業別】くらしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む

問1-2 くらしが苦しくなったと感じる理由

問1-2 「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。

あなたが、くらしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。

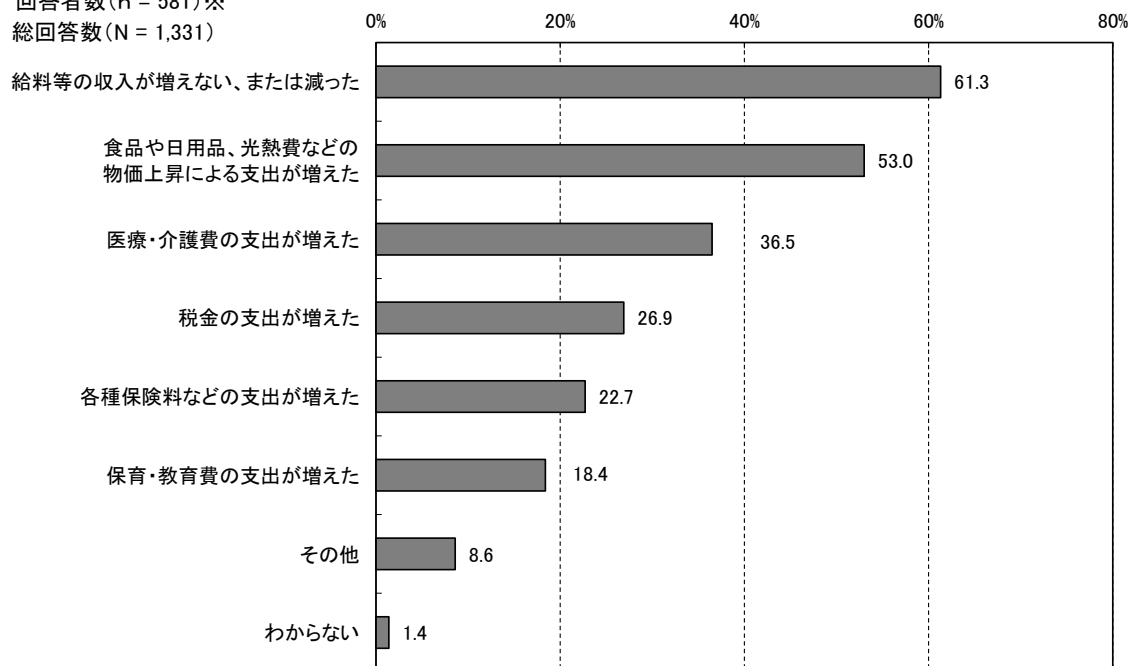
(3つまで)

全体(図1-2-1)でみると、「給料等の収入が増えない、または減った」が61.3%と最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」(53.0%)、「医療・介護費の支出が増えた」(36.5%)の順となっている。

図1-2-1 くらしが苦しくなったと感じる理由

回答者数(n = 581)※

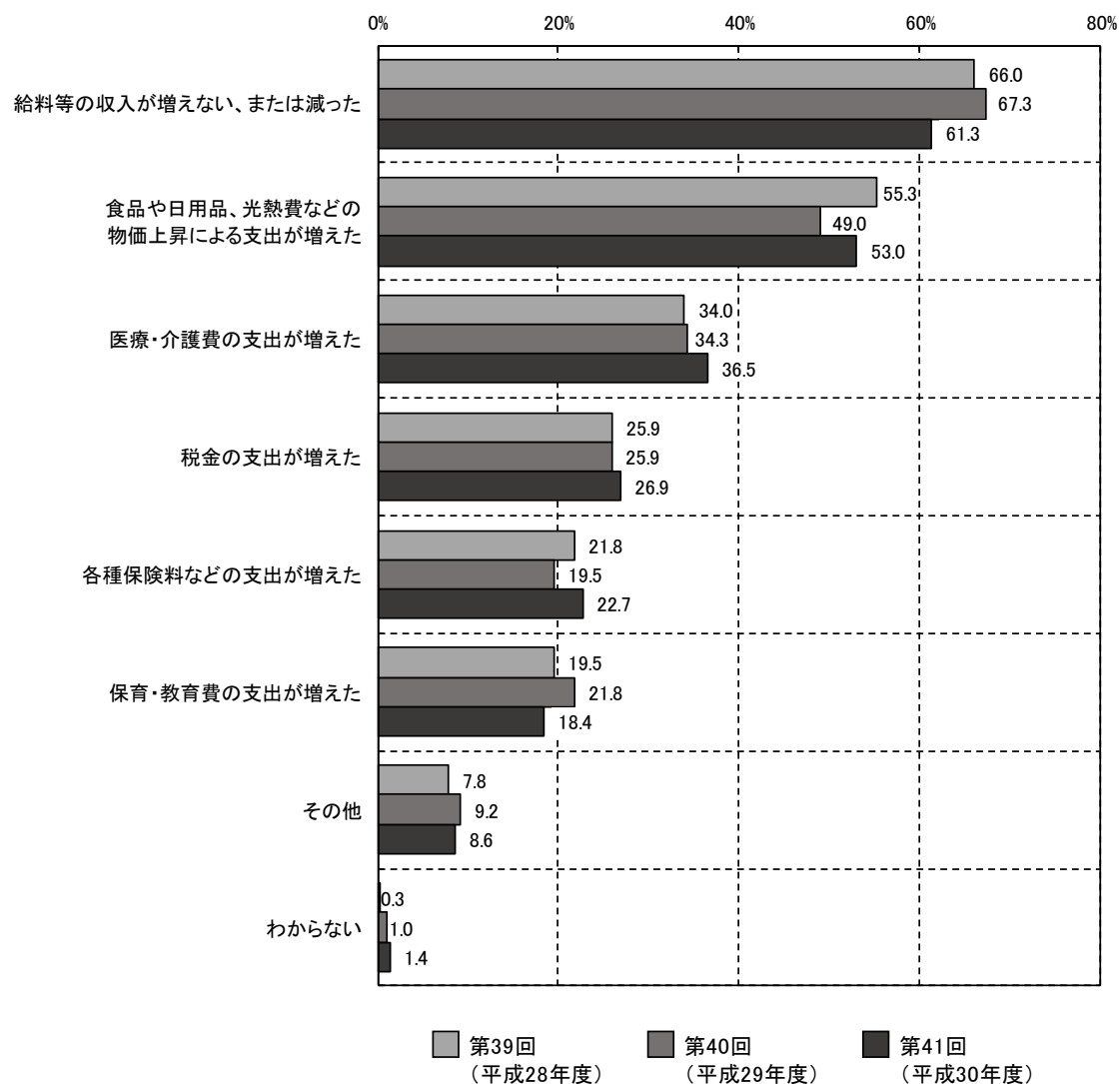
総回答数(N = 1,331)



※ 問1で「苦しくなった」と答えた方のみ

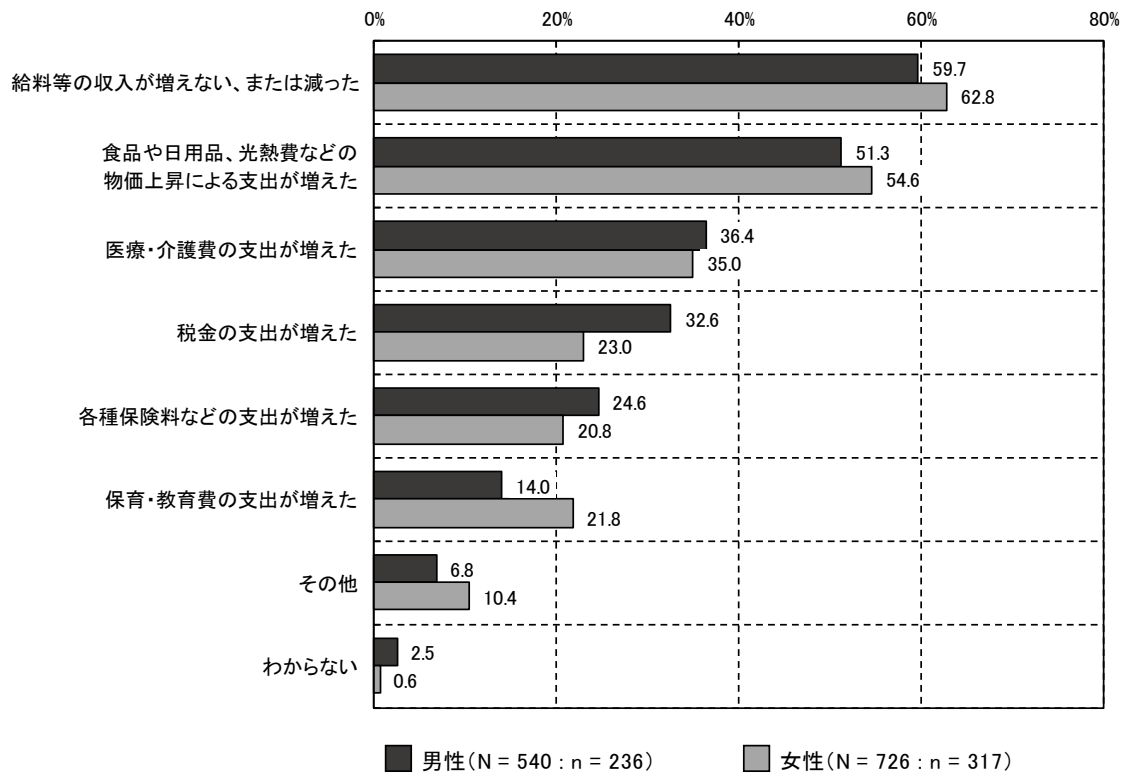
前々回・前回比較（図 1-2-2）でみると、「医療・介護費の支出が増えた」は年々高くなっており、前回と比べても 2.2 ポイント増加している。「給料等の収入が増えない、または減った」は前回に比べて 6 ポイント減少している。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）でみると、男女ともに「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高くなっており、女性が男性より 3.1 ポイント高くなっている。

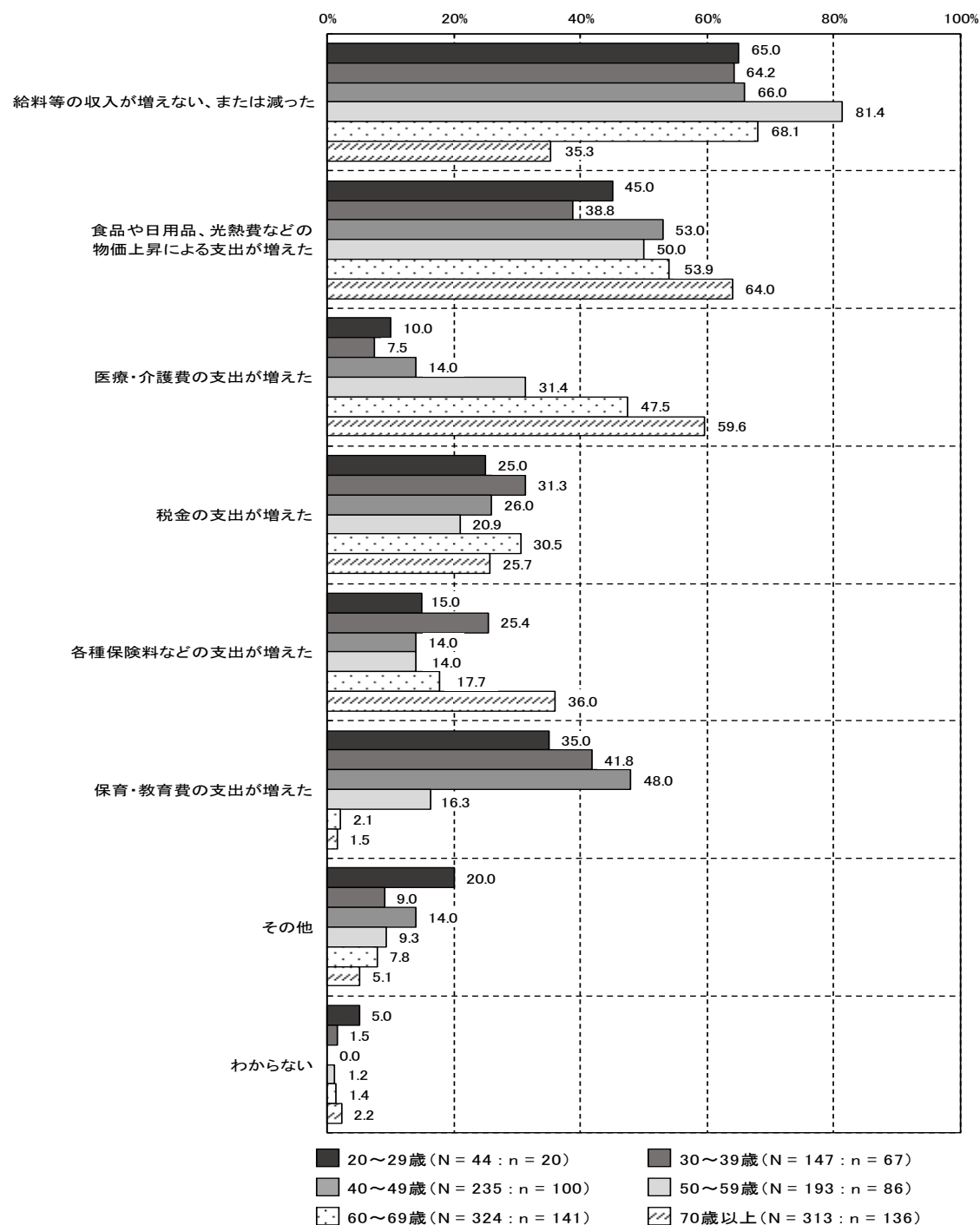
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N＝総回答数 n＝回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち 50 歳代が 81.4%と最も高くなっている。70 歳以上では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が 64.0%と最も高くなっている。

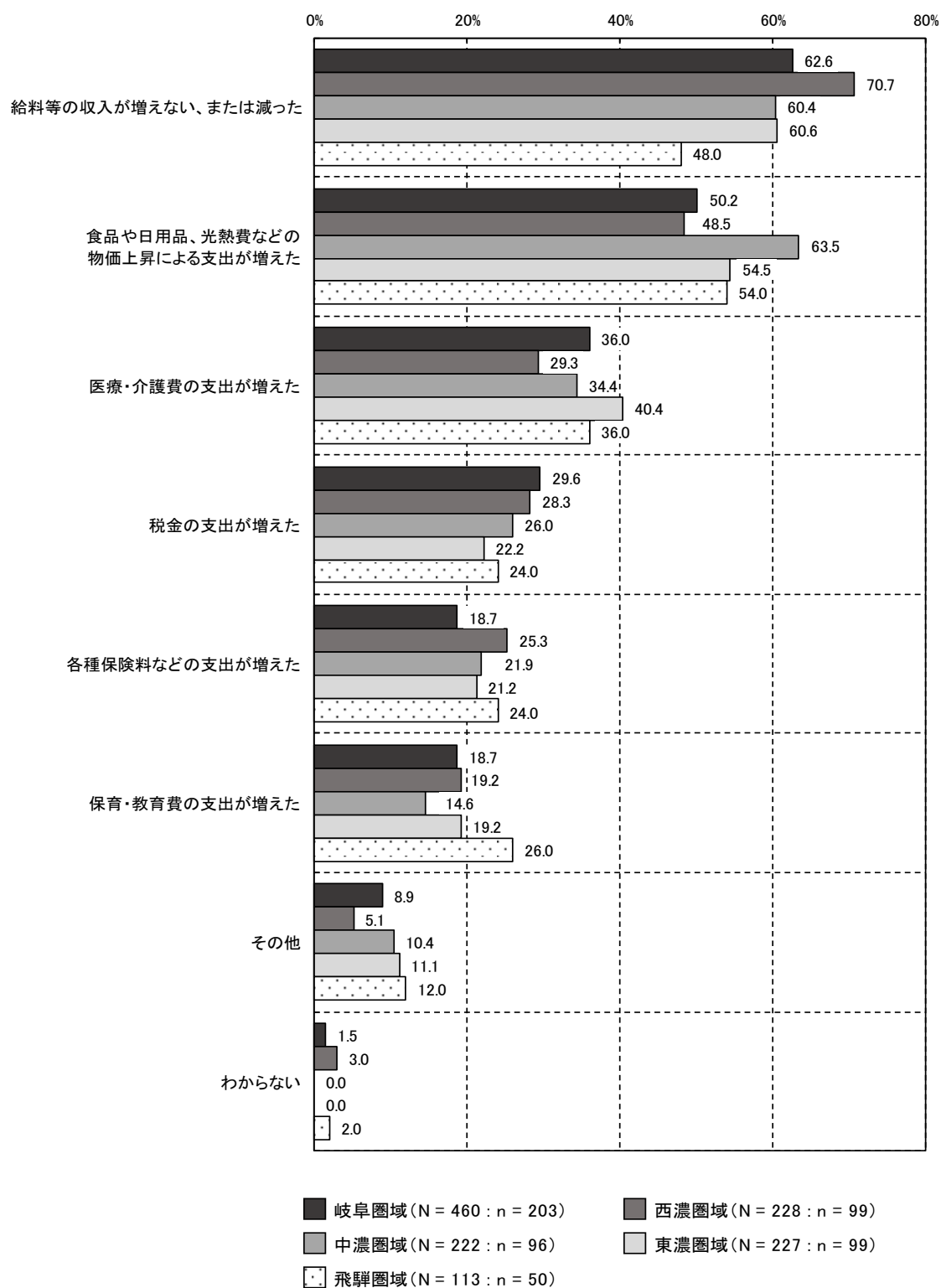
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、東濃圏域において「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうち西濃圏域が 70.7%と最も高くなっている。中濃圏域と飛騨圏域では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高く、そのうち中濃圏域が 63.5%と最も高くなっている。

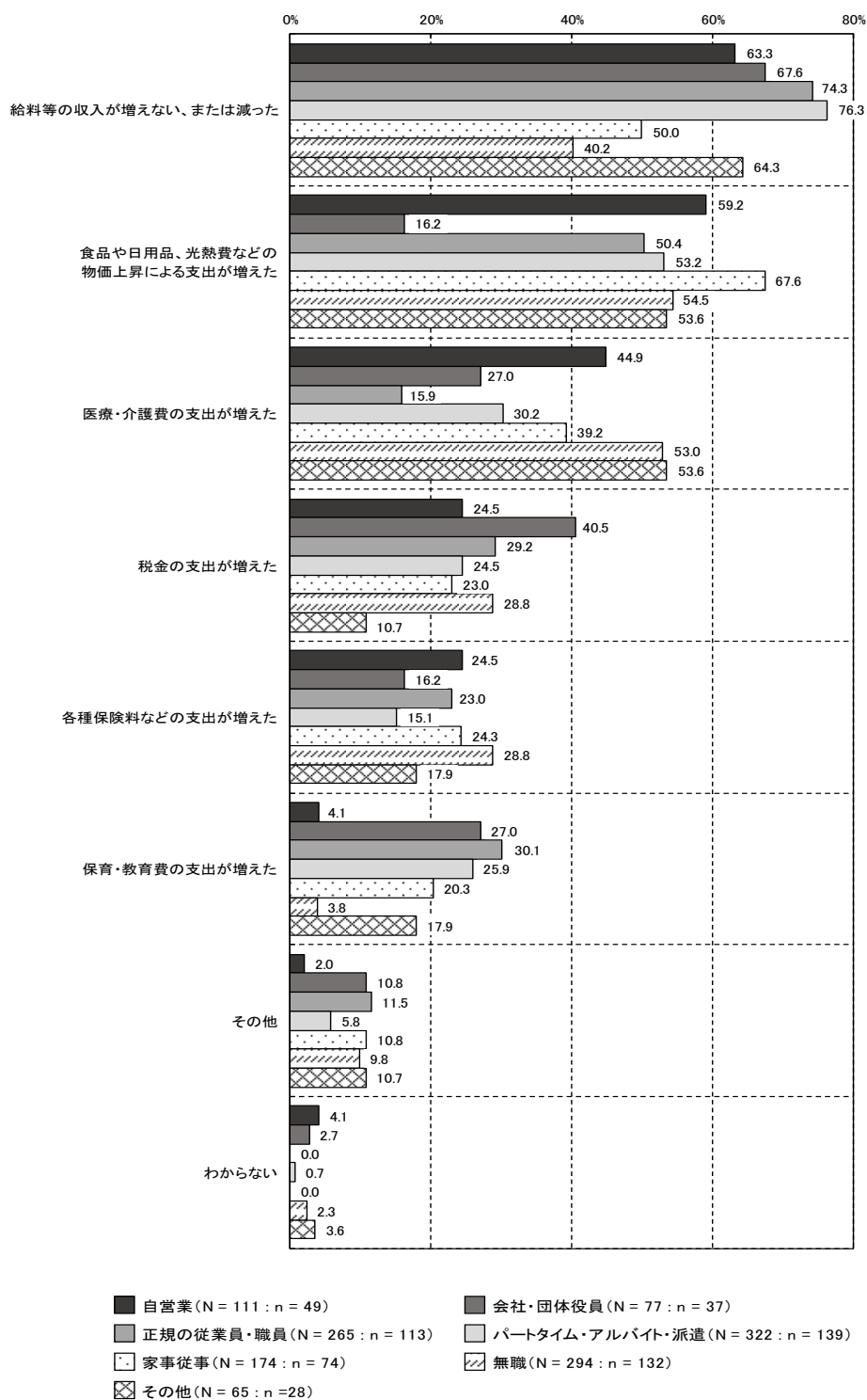
図 1-2-5 【居住圏域別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、家事従事と無職を除くいずれの職業においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、そのうちパートタイム・アルバイト・派遣が76.3%と最も高くなっている。家事従事と無職では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が家事従事（67.6%）、無職（54.5%）とそれぞれ最も高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数 n＝回答者数

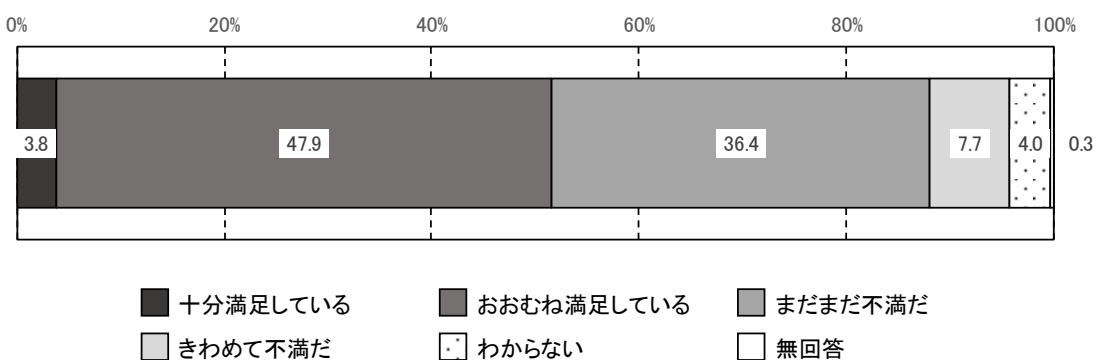
問2 くらしの満足度

問2 あなたは、現在のくらし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図2-1）でみると、「おおむね満足している」が47.9%と最も高く、次いで、「まだまだ不満だ」（36.4%）、「きわめて不満だ」（7.7%）の順となっている。

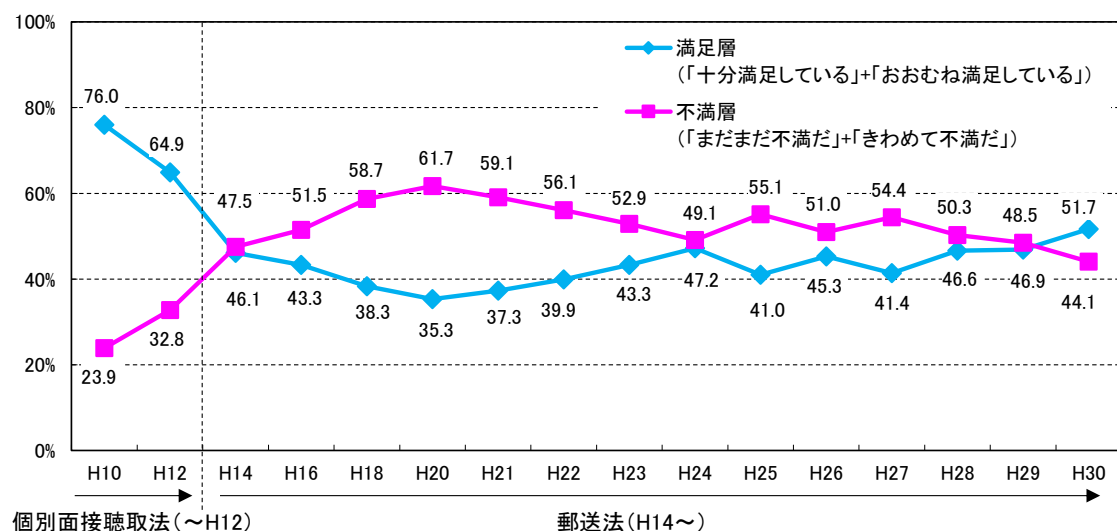
図2-1 くらしの満足度

回答者数(n = 1,436)



経年変化（図2-2）でみると、平成14年から「不満層」（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）が「満足層」（「十分満足している」+「おおむね満足している」）を逆転しており、平成24年以降は接近した状態となっていた。平成30年は、前年に比べて「満足層」が4.8ポイント増加、「不満層」は4.4ポイント減少し、18年ぶりに「満足層」が「不満層」を上回った。

図2-2 【経年変化】くらしの満足度

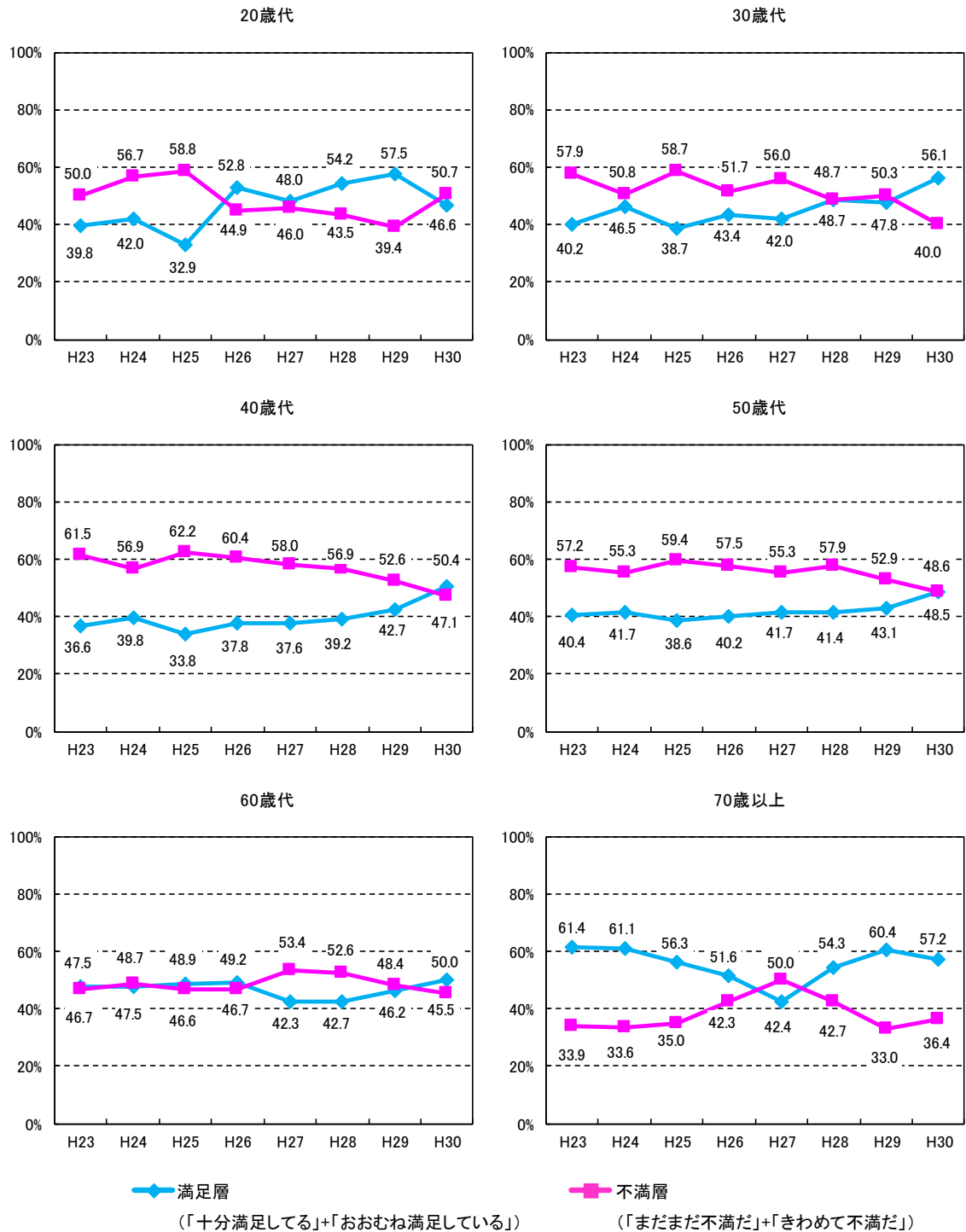


※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

年代別の経年変化（図 2-3）でみると、平成 30 年は、前年に比べて 20 歳代と 70 歳以上を除くいずれの年代においても「満足層」が増加しており、そのうち 30 歳代が 8.3 ポイント増加している。

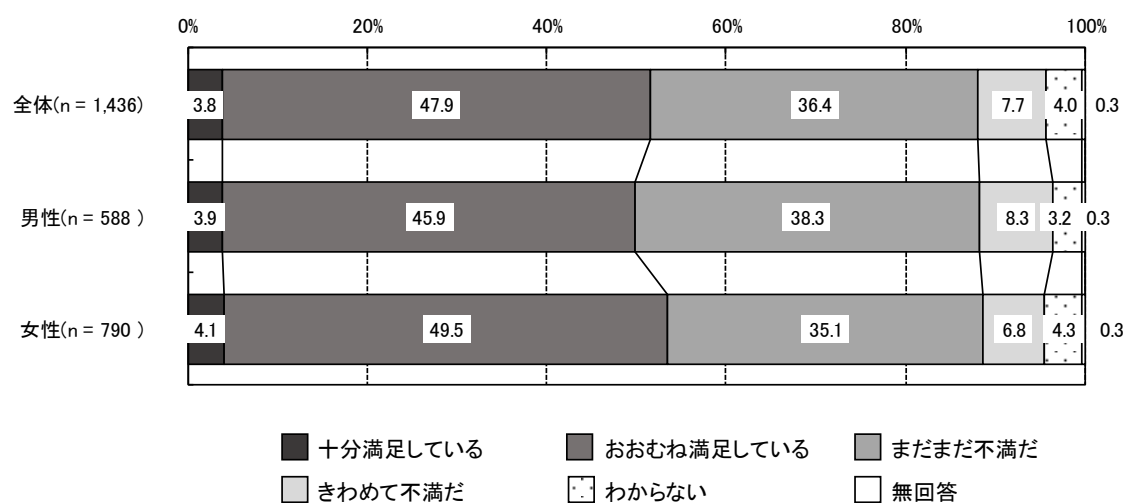
20 歳代では、「満足層」が 10.9 ポイント減少した。

図 2-3 【経年変化(年代別)】くらしの満足度



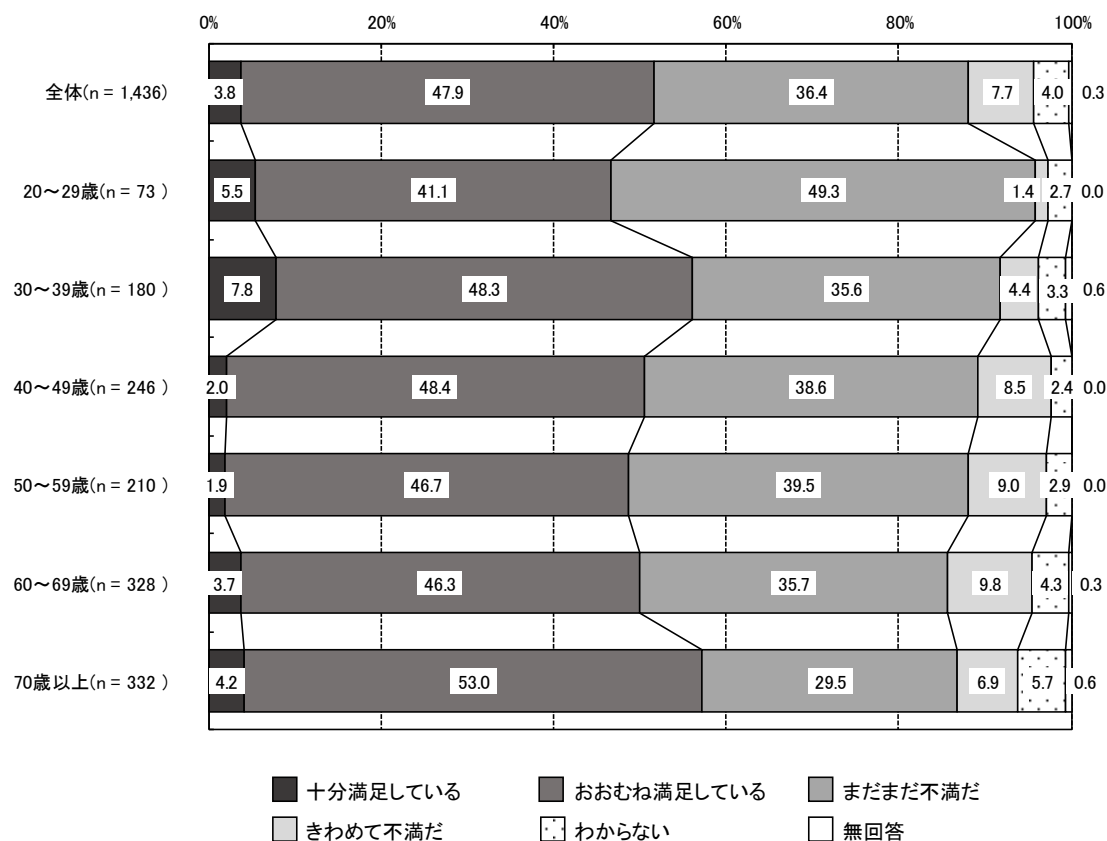
性別（図 2-4）でみると、「おおむね満足している」が男性（45.9%）、女性（49.5%）と男女ともに最も高くなっている。

図 2-4 【性別】くらしの満足度



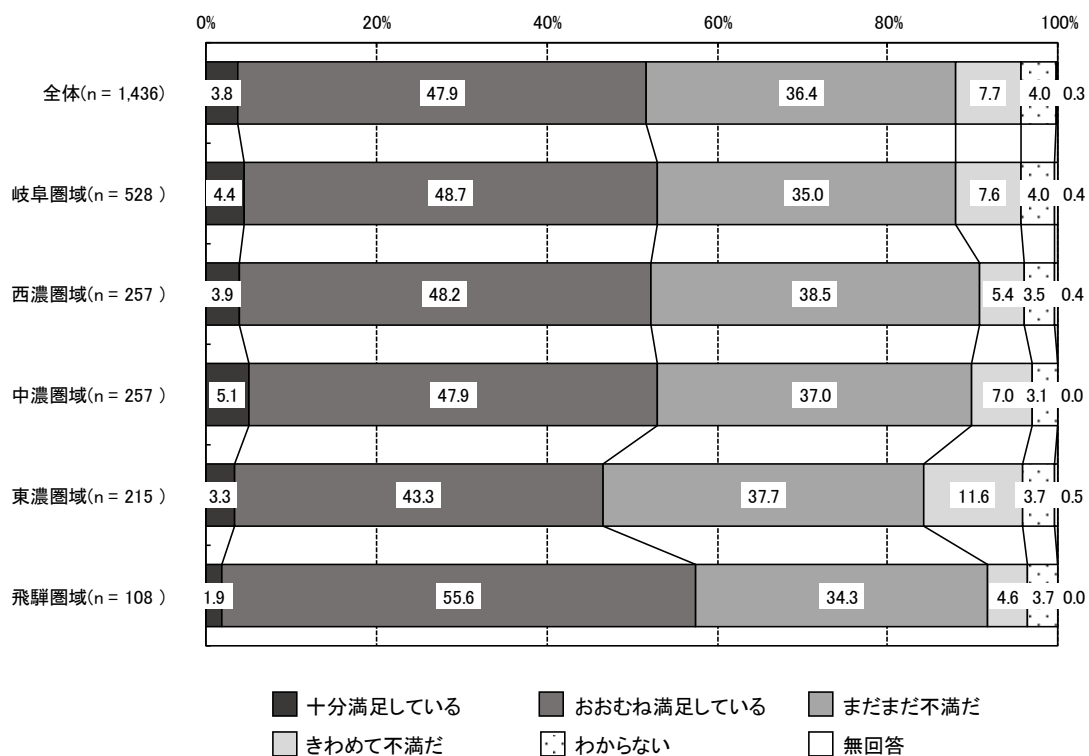
年代別（図 2-5）でみると、20 歳代を除くすべての年代で「おおむね満足している」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 53.0%と最も高くなっている。20 歳代では「まだまだ不満だ」が 49.3%と最も高くなっている。

図 2-5 【年代別】くらしの満足度



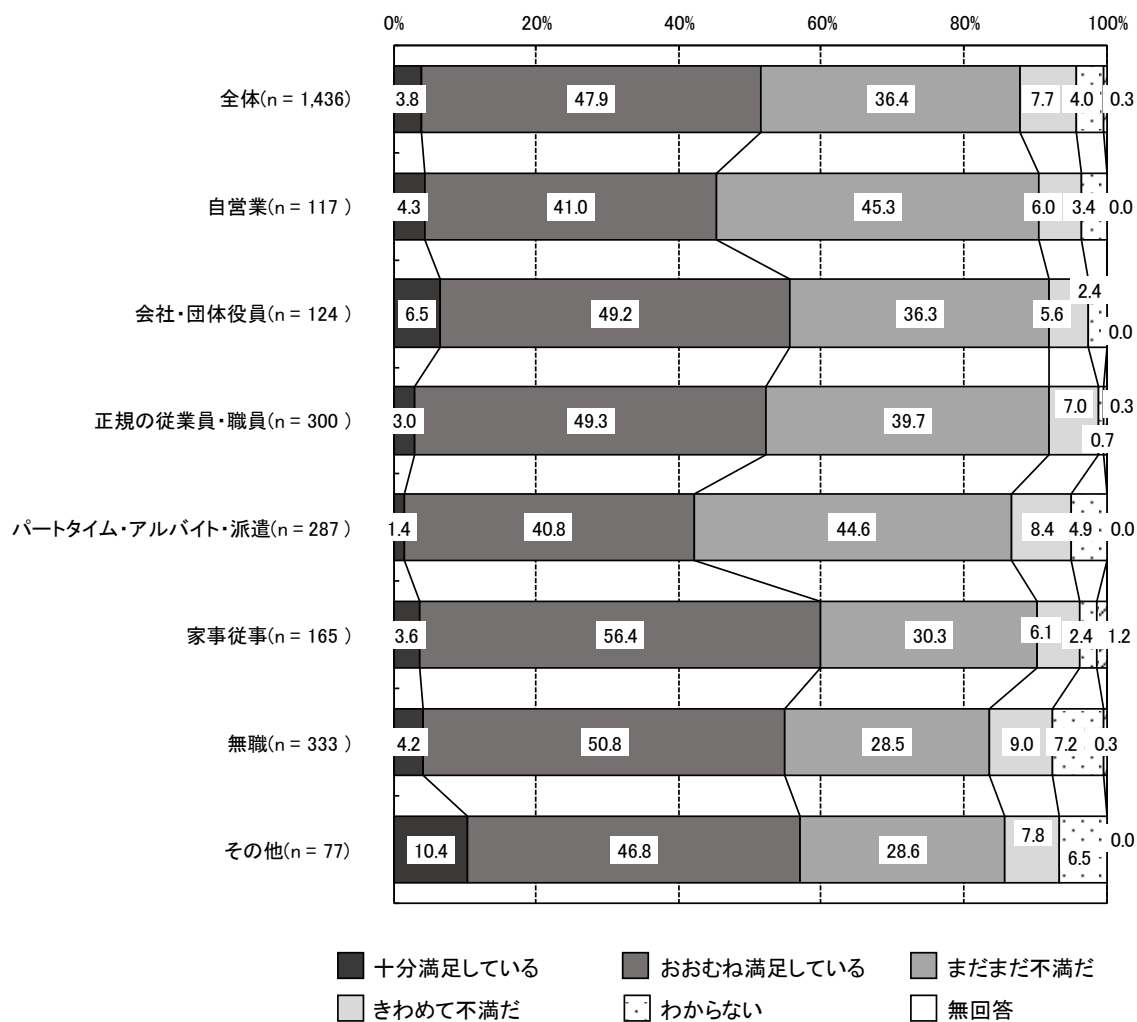
居住圏域別（図 2-6）でみると、すべての圏域で「おおむね満足している」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 55.6%と最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】くらしの満足度



職業別（図 2-7）でみると、自営業とパートタイム・アルバイト・派遣を除くいずれの職業においても「おおむね満足している」が最も高くなっている。自営業とパートタイム・アルバイト・派遣では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】 暮らしの満足度



※ その他には、自由業、学生を含む

問3 生活面での不安

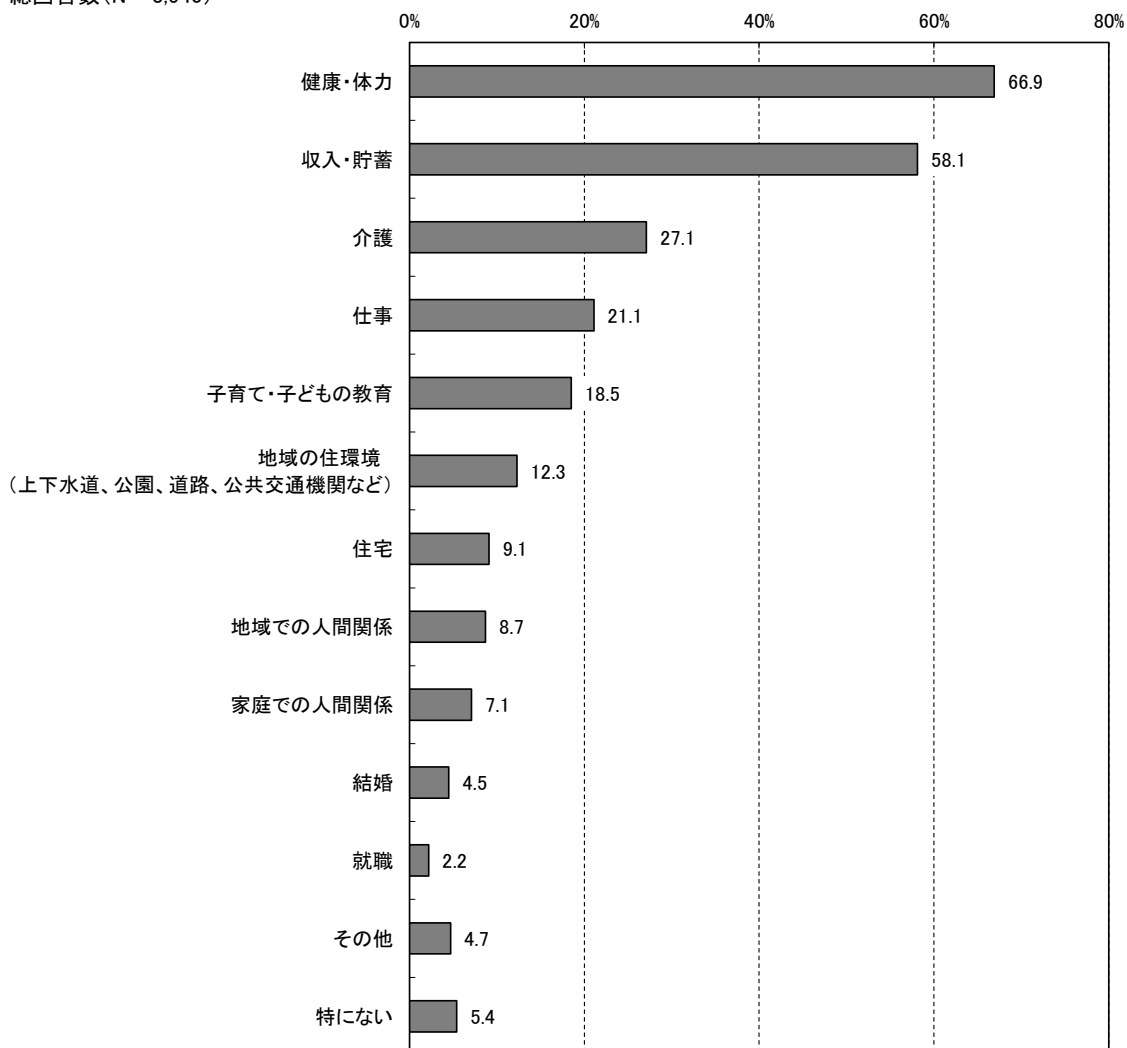
問3 あなたは、日頃の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(3つまで)

全体(図3-1)でみると、「健康・体力」が66.9%と最も高く、次いで「収入・貯蓄」(58.1%)、「介護」(27.1%)の順となっている。

図3-1 生活面での不安

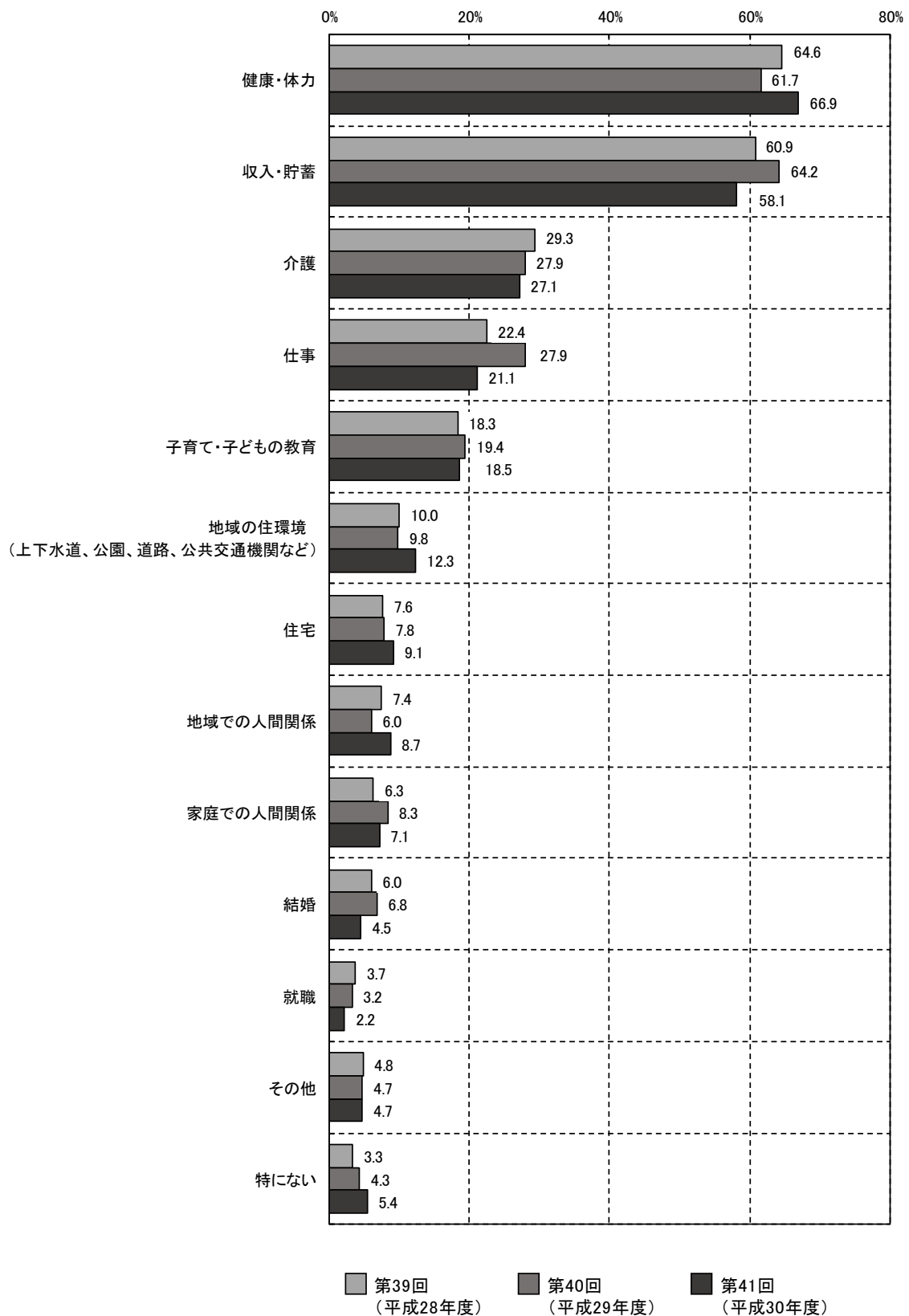
回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 3,540)



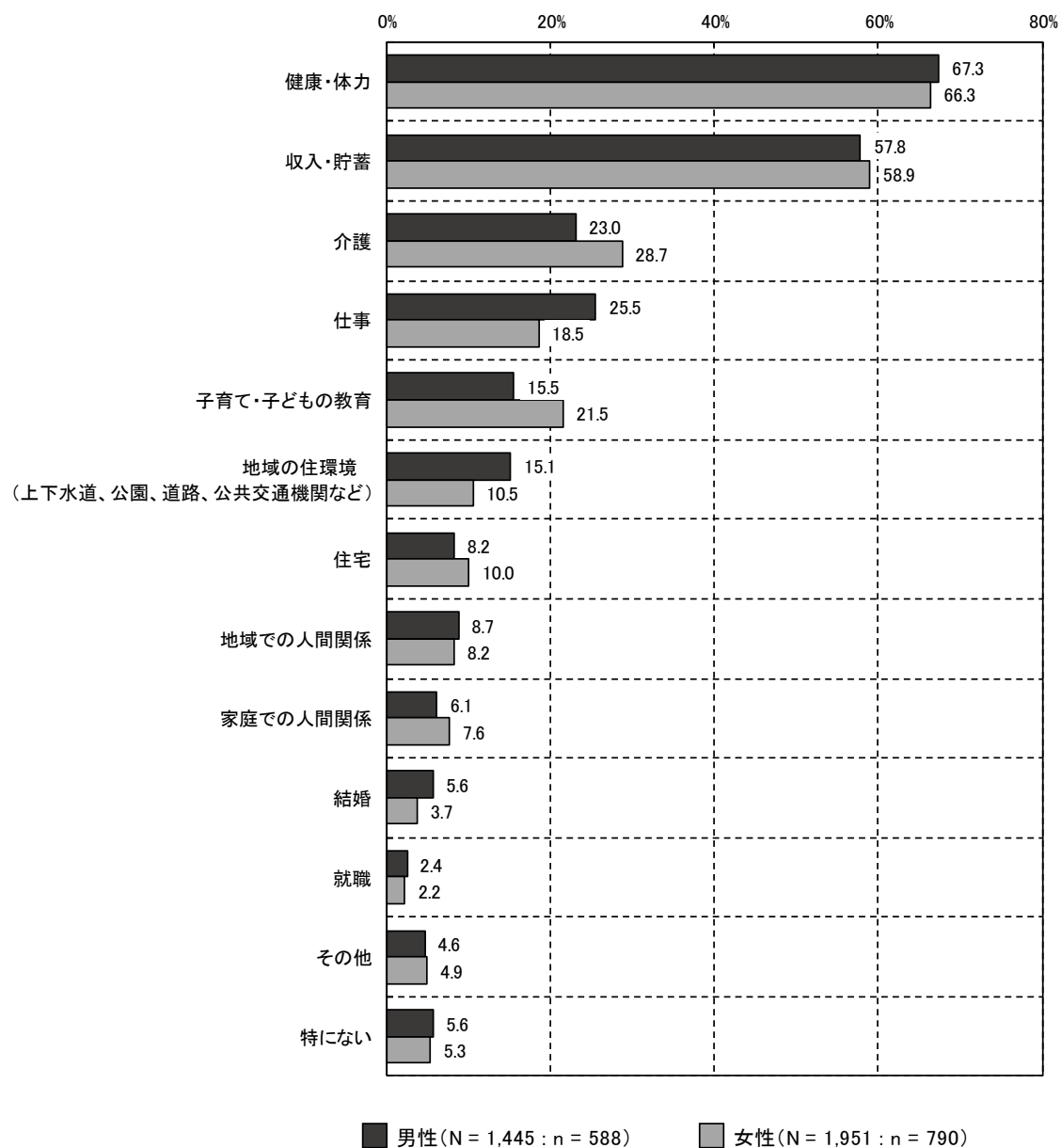
前々回・前回比較（図 3-2）でみると、「健康・体力」は前回に比べて 5.2 ポイント増加している。「収入・貯蓄」は前回に比べて 6.1 ポイント減少している。

図 3-2 【前々回・前回比較】生活面での不安



性別（図 3-3）でみると、男女ともに「健康・体力」が最も高くなっており、次いで「収入・貯蓄」となっている。「仕事」では男性が女性より 7 ポイント高くなっており、「子育て・子どもの教育」では女性が男性より 6 ポイント高くなっている。

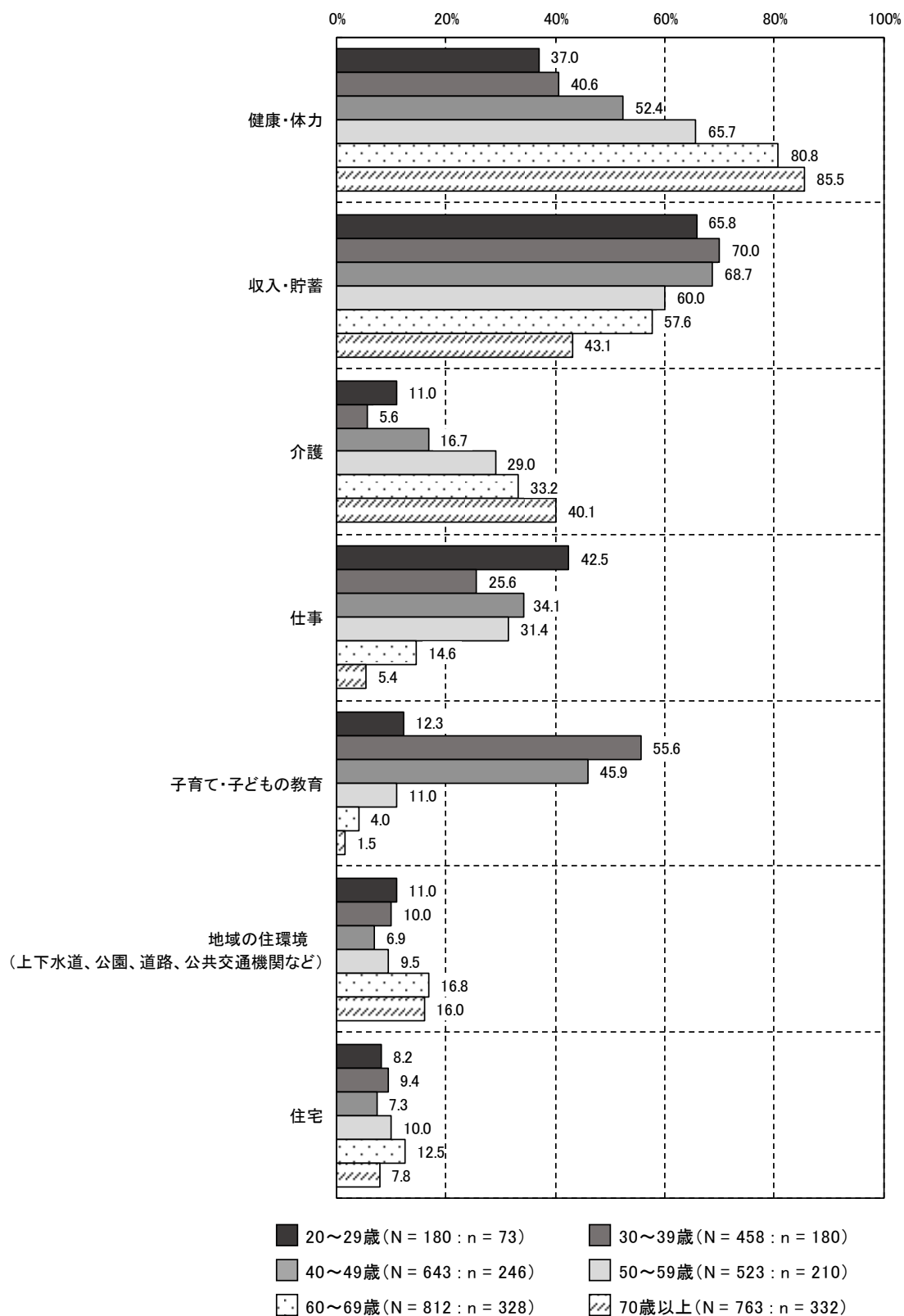
図 3-3 【性別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

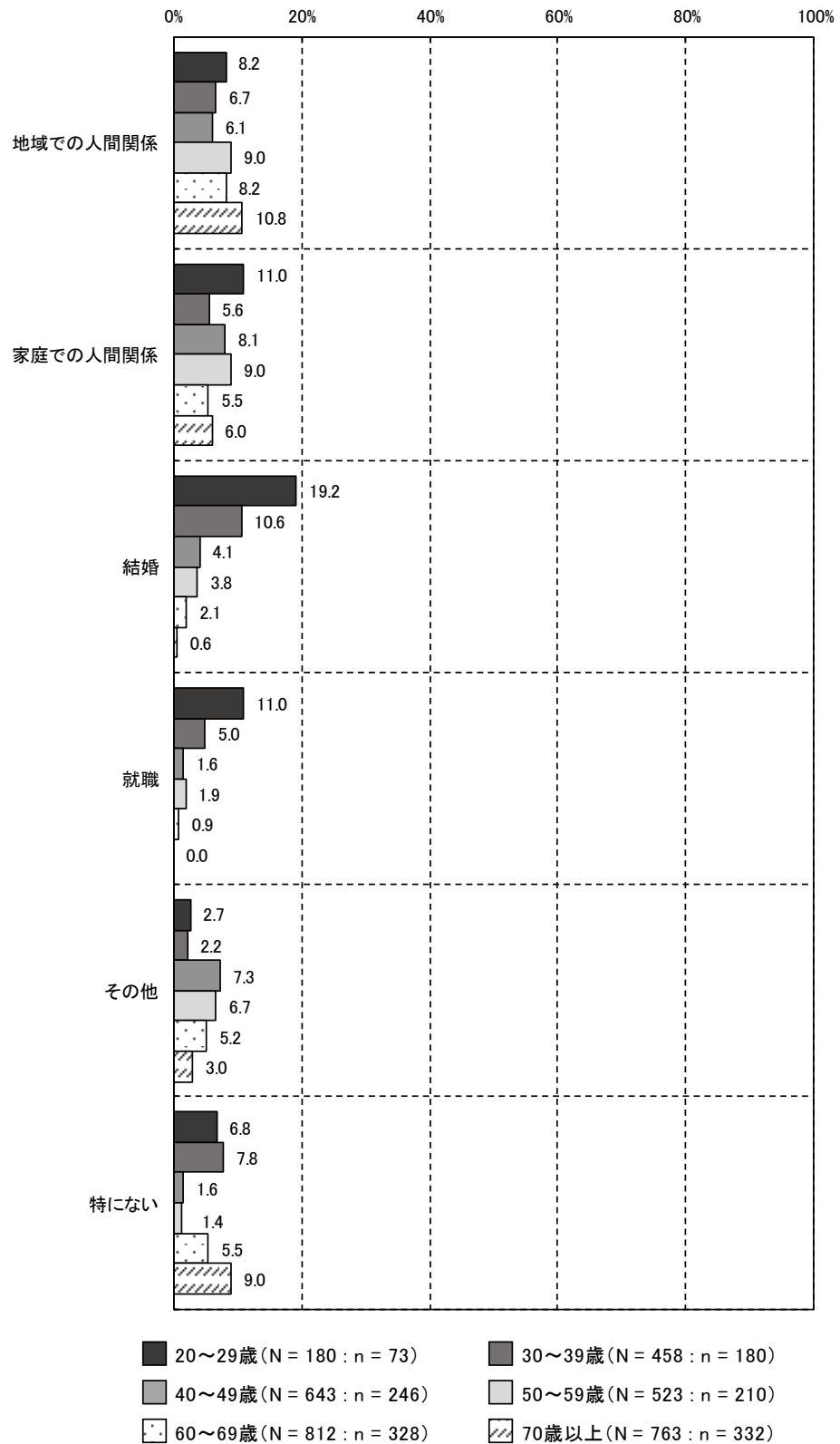
年代別（図 3-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「収入・貯蓄」が最も高く、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高くなっている。30 歳代では「子育て・子どもの教育」も 55.6%と半数以上となっている。

図 3-4 【年代別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

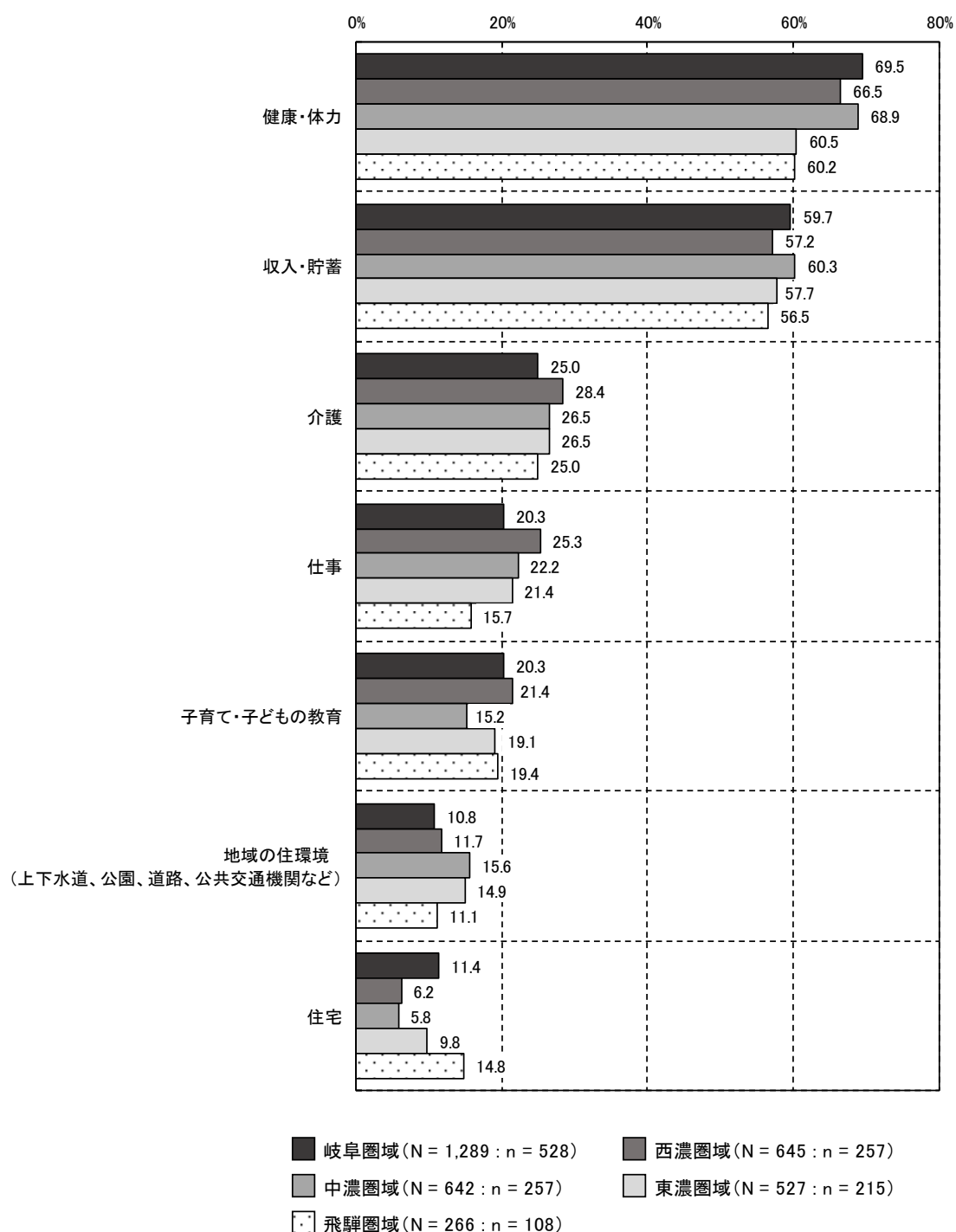
図 3-4 【年代別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

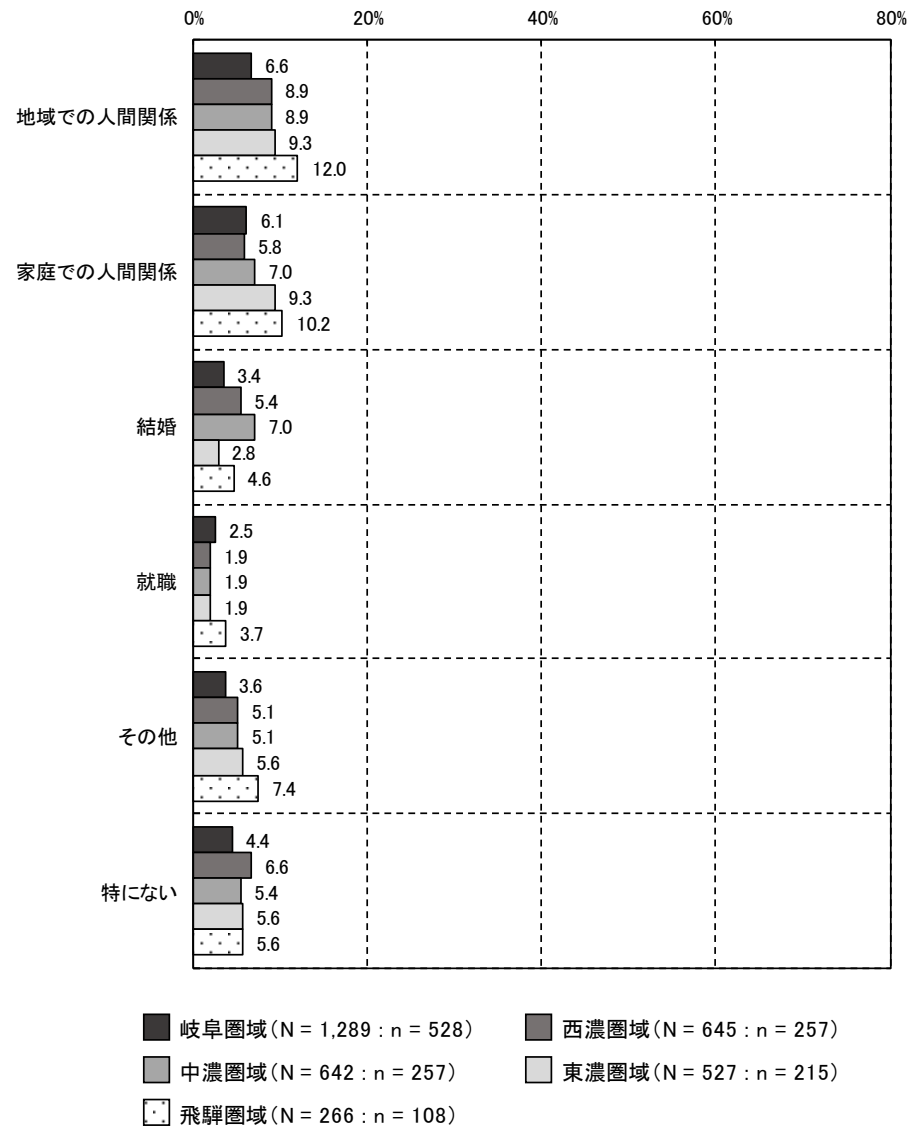
居住圏域別（図 3-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力」が最も高く、次いで「収入・貯蓄」となっている。

図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

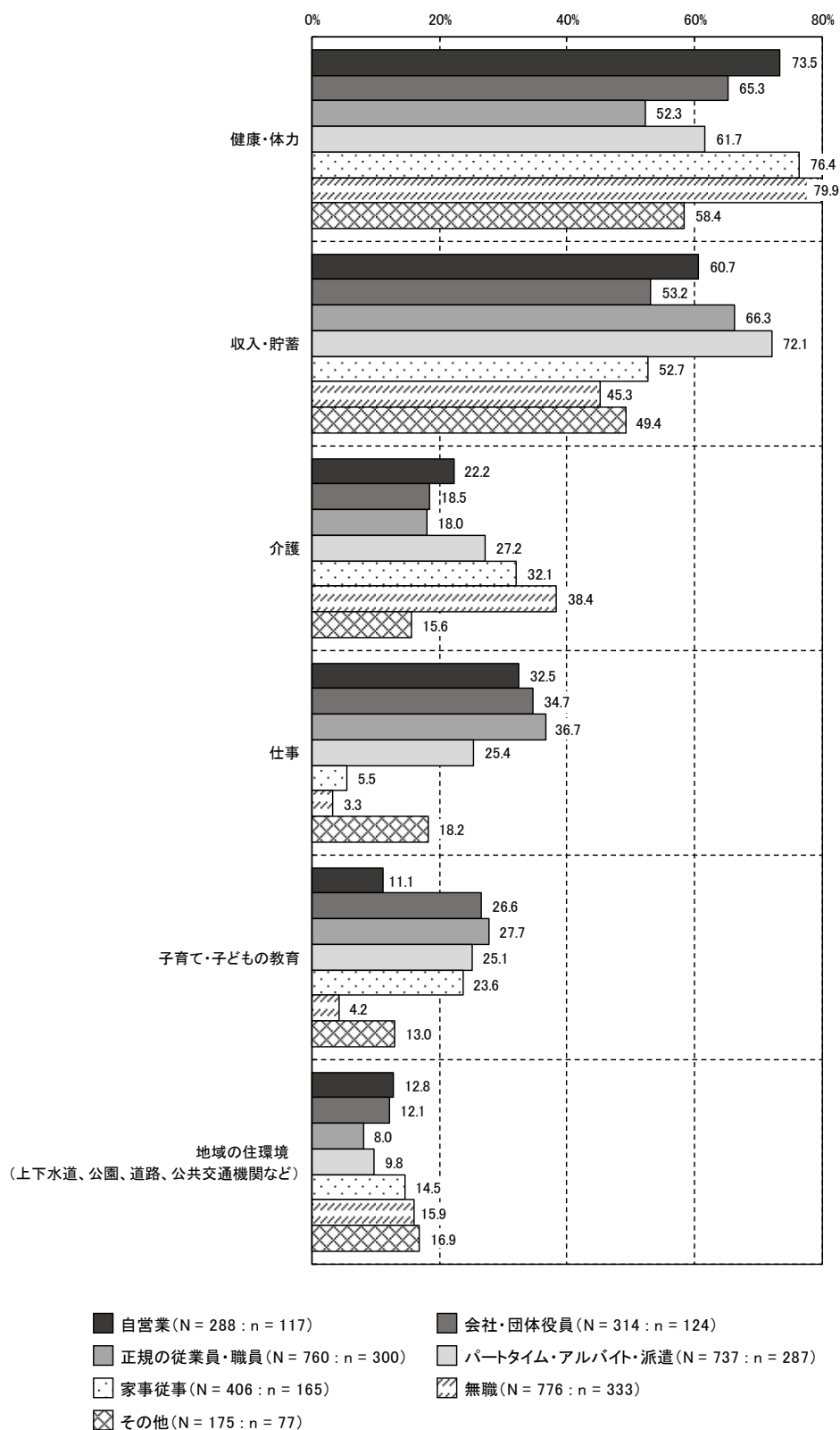
図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 3-6）でみると、自営業、会社・団体役員、家事従事、無職、その他では「健康・体力」が最も高く、そのうち無職が 79.9%と最も高くなっている。正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣では「収入・貯蓄」が最も高くなっている。

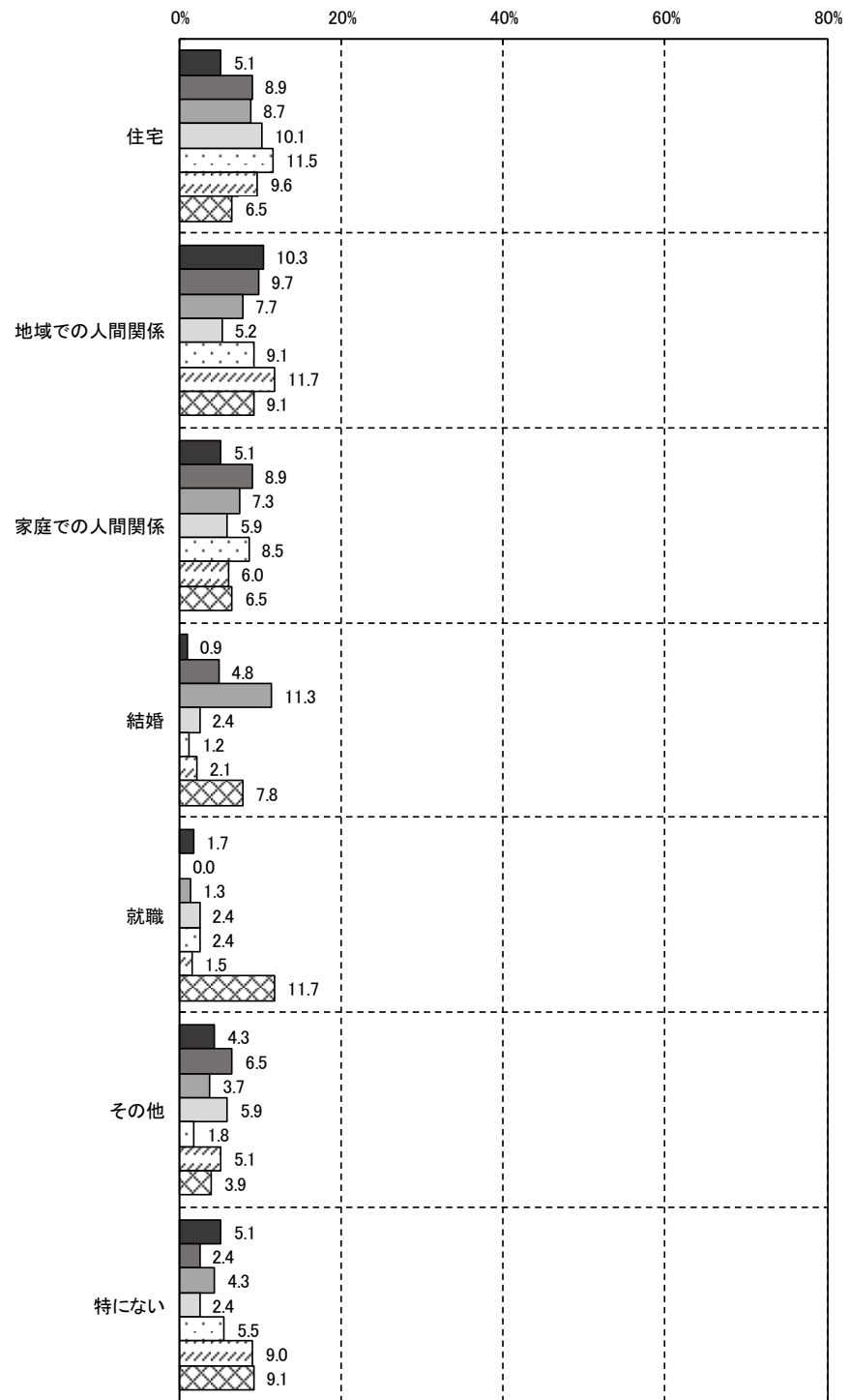
図 3-6 【職業別】 生活面での不安



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-6 【職業別】生活面での不安（続き）



■ 自営業 (N = 288 : n = 117)

■ 会社・団体役員 (N = 314 : n = 124)

■ 正規の従業員・職員 (N = 760 : n = 300)

■ パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 737 : n = 287)

■ 家事従事 (N = 406 : n = 165)

■ 無職 (N = 776 : n = 333)

■ その他 (N = 175 : n = 77)

※ その他には、自由業、学生を含む

※ N=総回答数 n=回答者数

問4 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

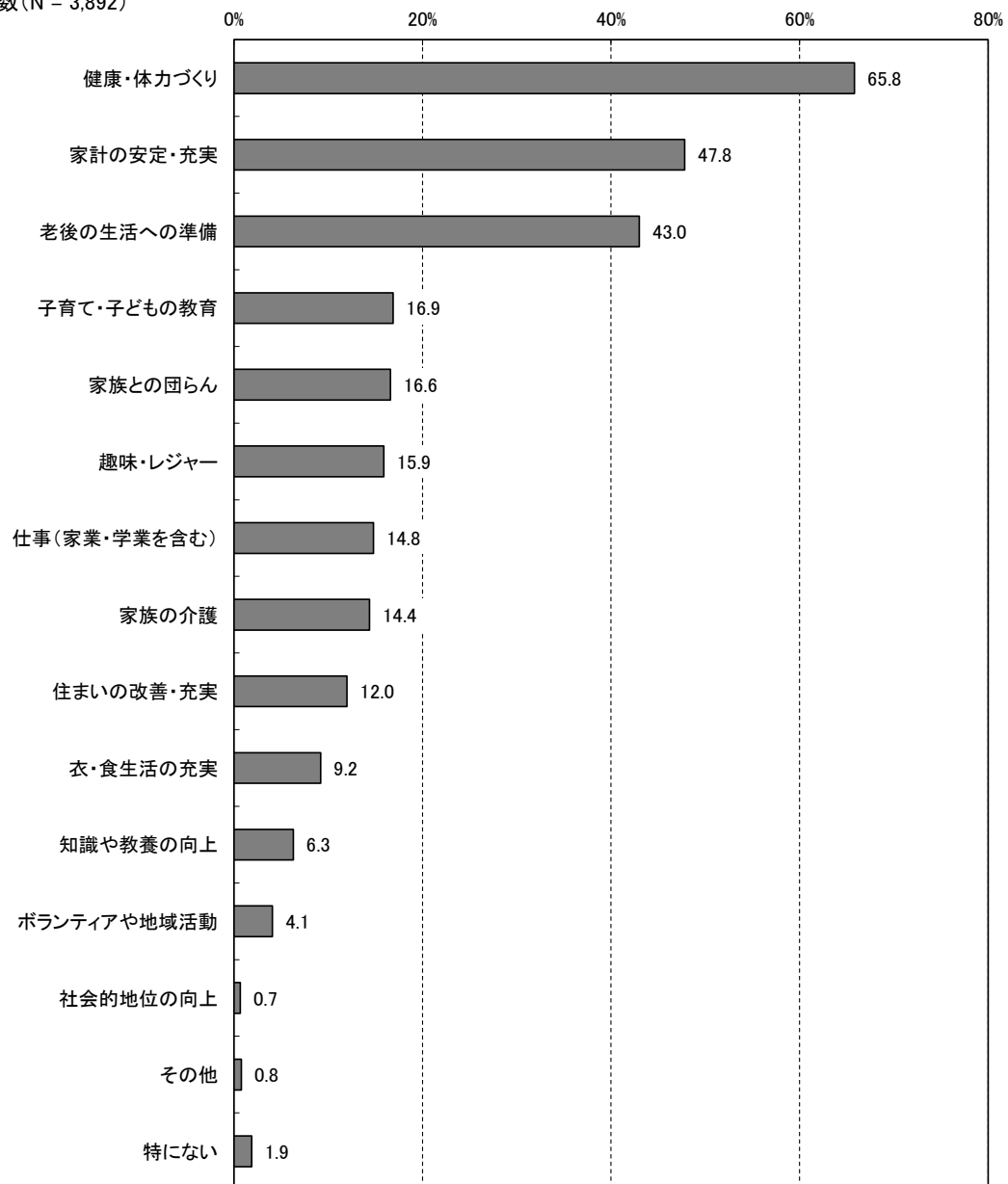
問4 あなたが、今後の暮らしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。
(3つまで)

全体(図4-1)でみると、「健康・体力づくり」が65.8%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」(47.8%)、「老後の生活への準備」(43.0%)の順となっている。

図4-1 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

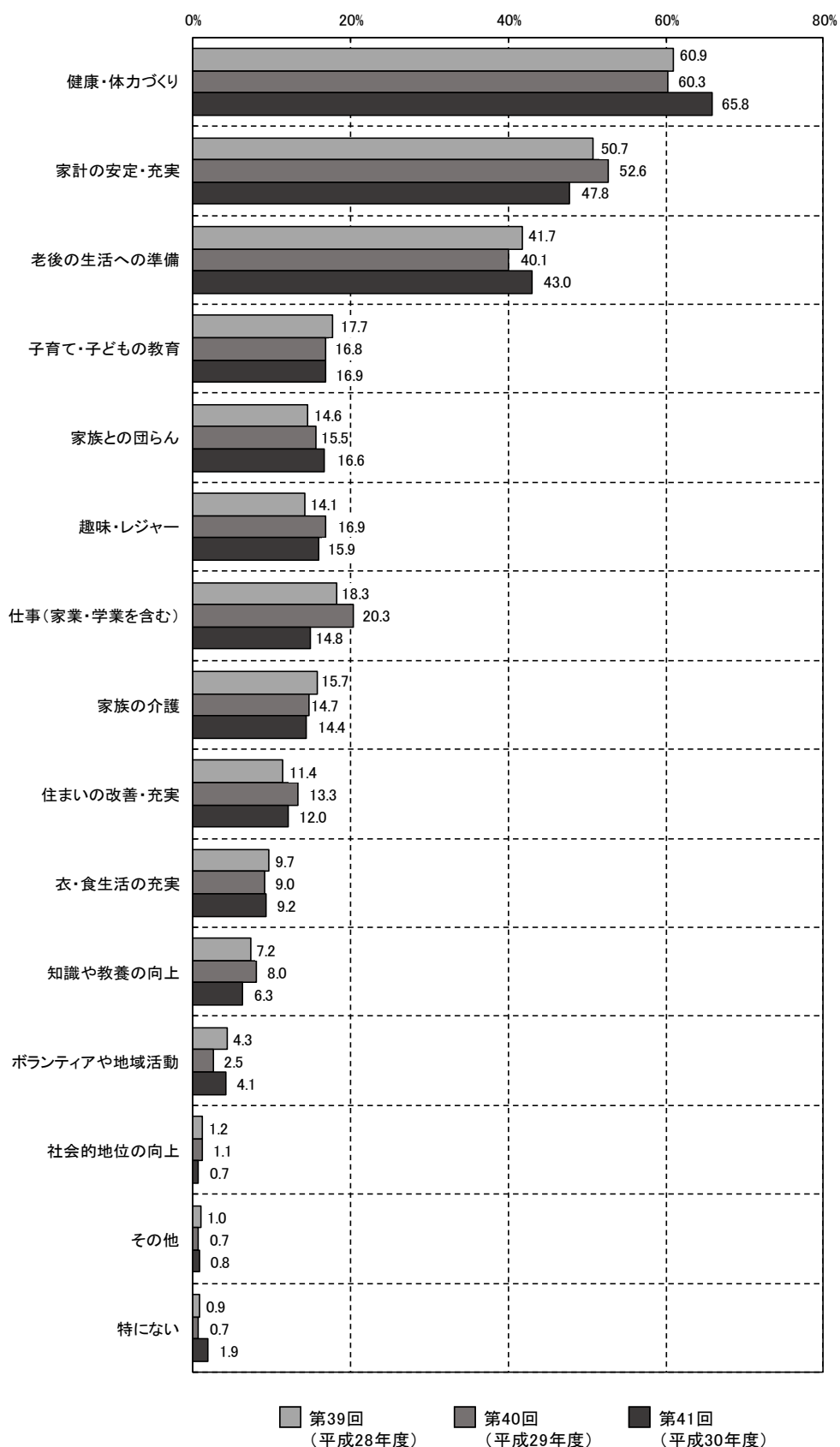
回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 3,892)



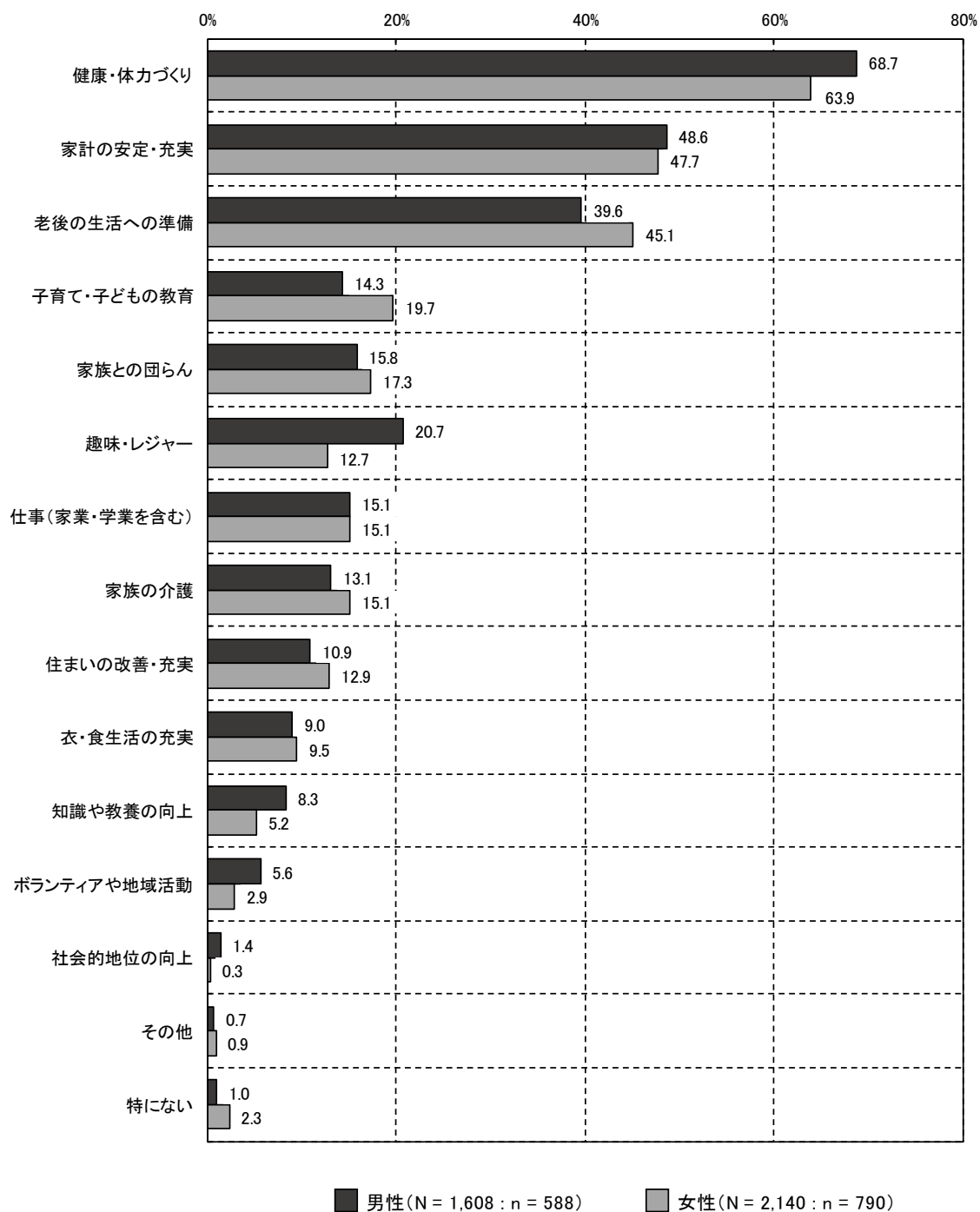
前々回・前回比較（図 4-2）でみると、前々回・前回と同様に「健康・体力づくり」が最も高くなっており、前回から 5.5 ポイント増加している。次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-2 【前々回・前回比較】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



性別（図 4-3）でみると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、男性が 68.7%、女性が 63.9%となっている。「老後の生活への準備」では 5.5 ポイント、「子育て・子どもの教育」では 5.4 ポイント、女性が男性よりそれぞれ高くなっている。

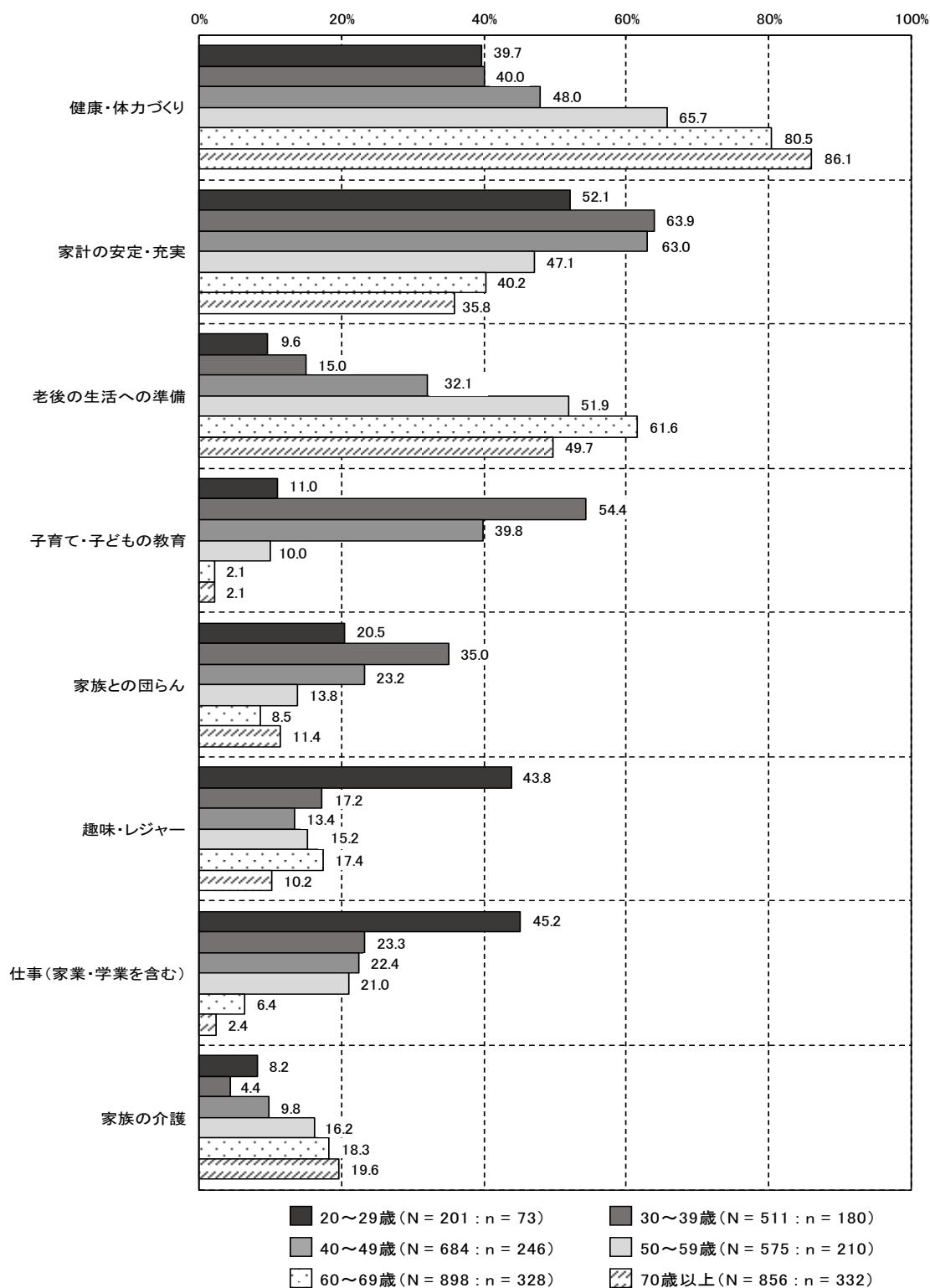
図 4-3 【性別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

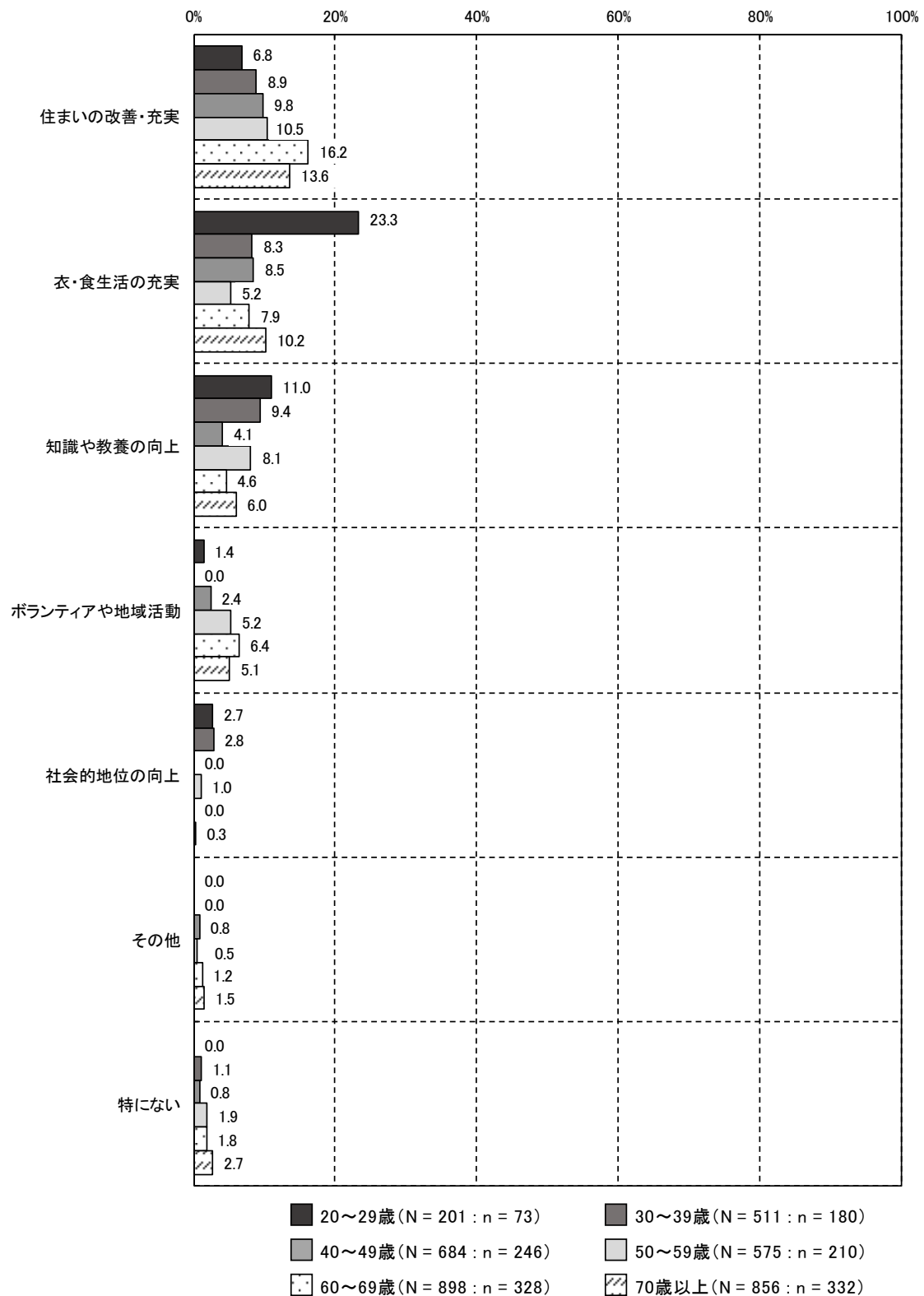
年代別（図 4-4）でみると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上において「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 86.1%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代、40 歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、そのうち 30 歳代が 63.9%と最も高くなっている。

図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

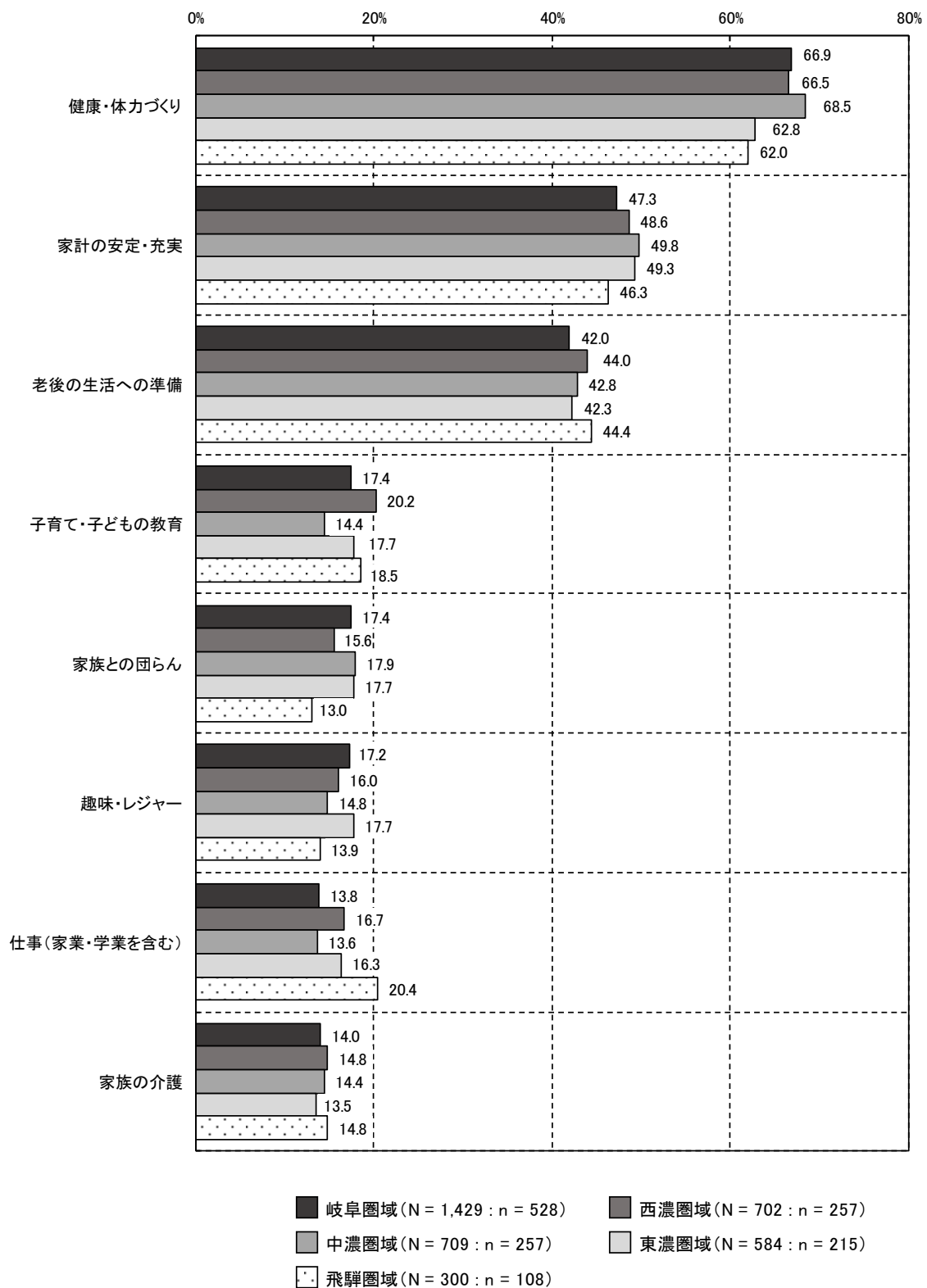
図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

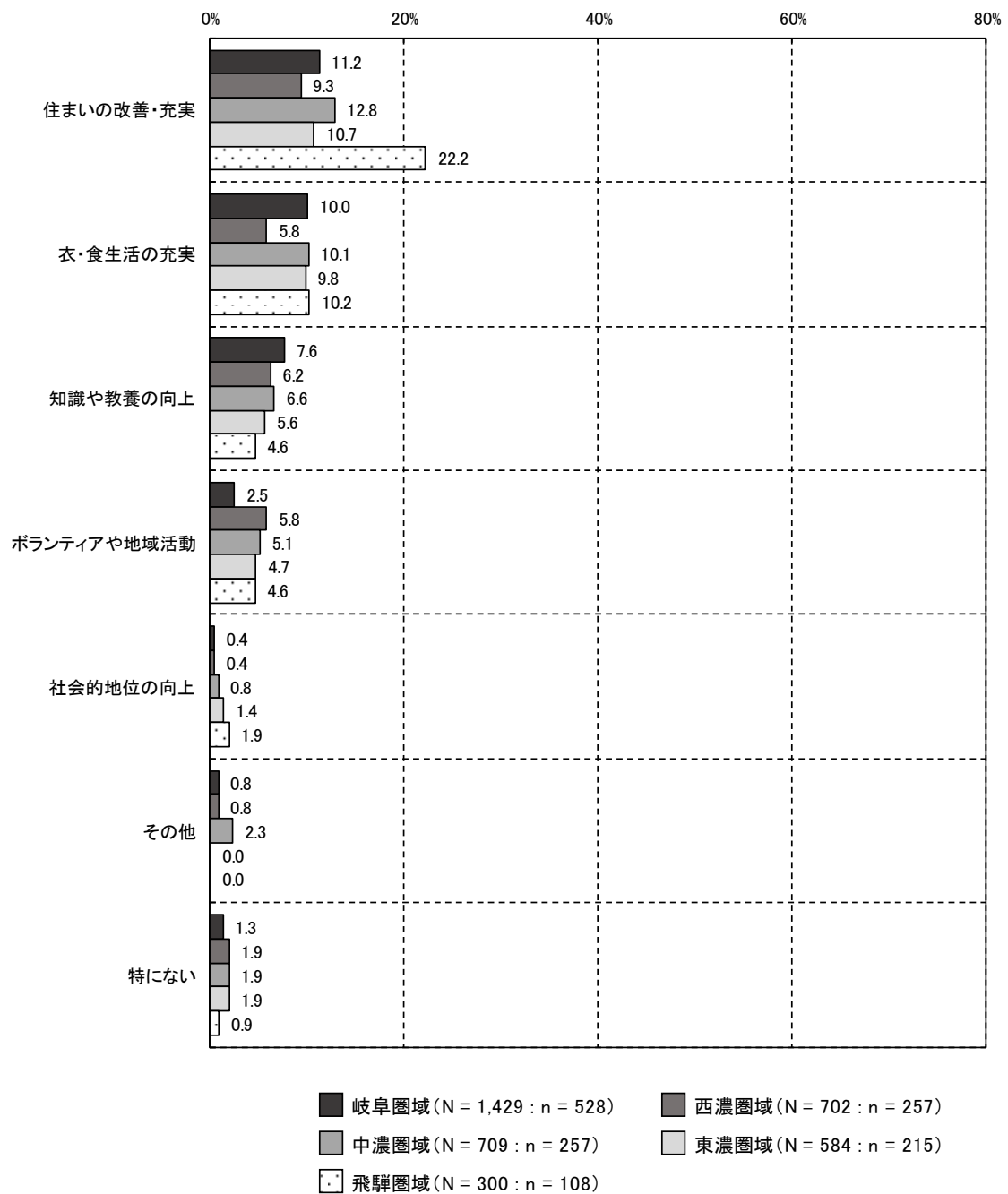
居住圏域別（図 4-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち中濃圏域が 68.5%と最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

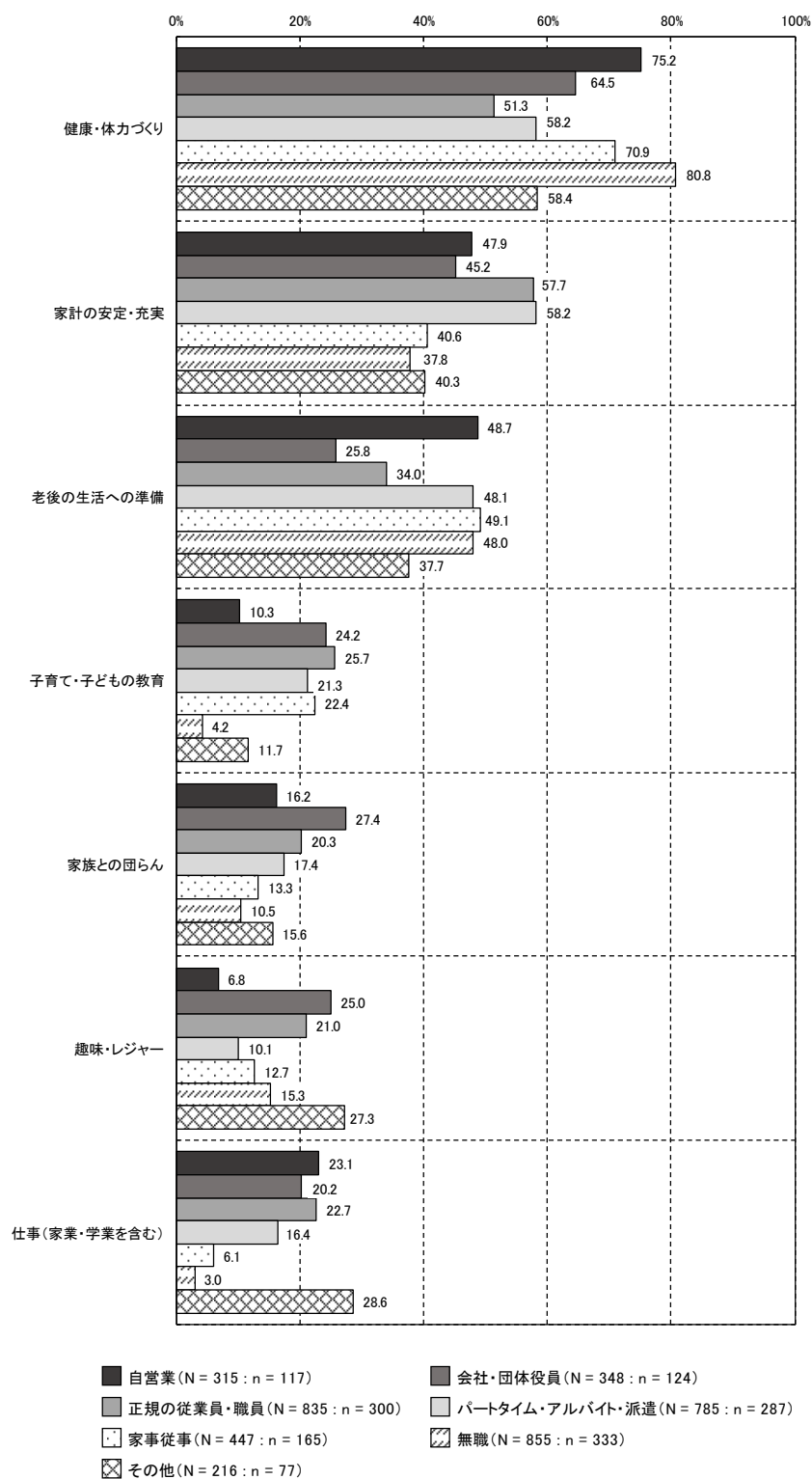
図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

職業別（図 4-6）でみると、正規の従業員・職員を除くいずれの職業においても「健康・体力づくり」が最も高く（パートタイム・アルバイト・派遣は「家計の安定・充実」とともに 58.2%）、そのうち無職が 80.8%と最も高くなっている。正規の従業員・職員は「家計の安定・充実」が 57.7%と最も高くなっている。

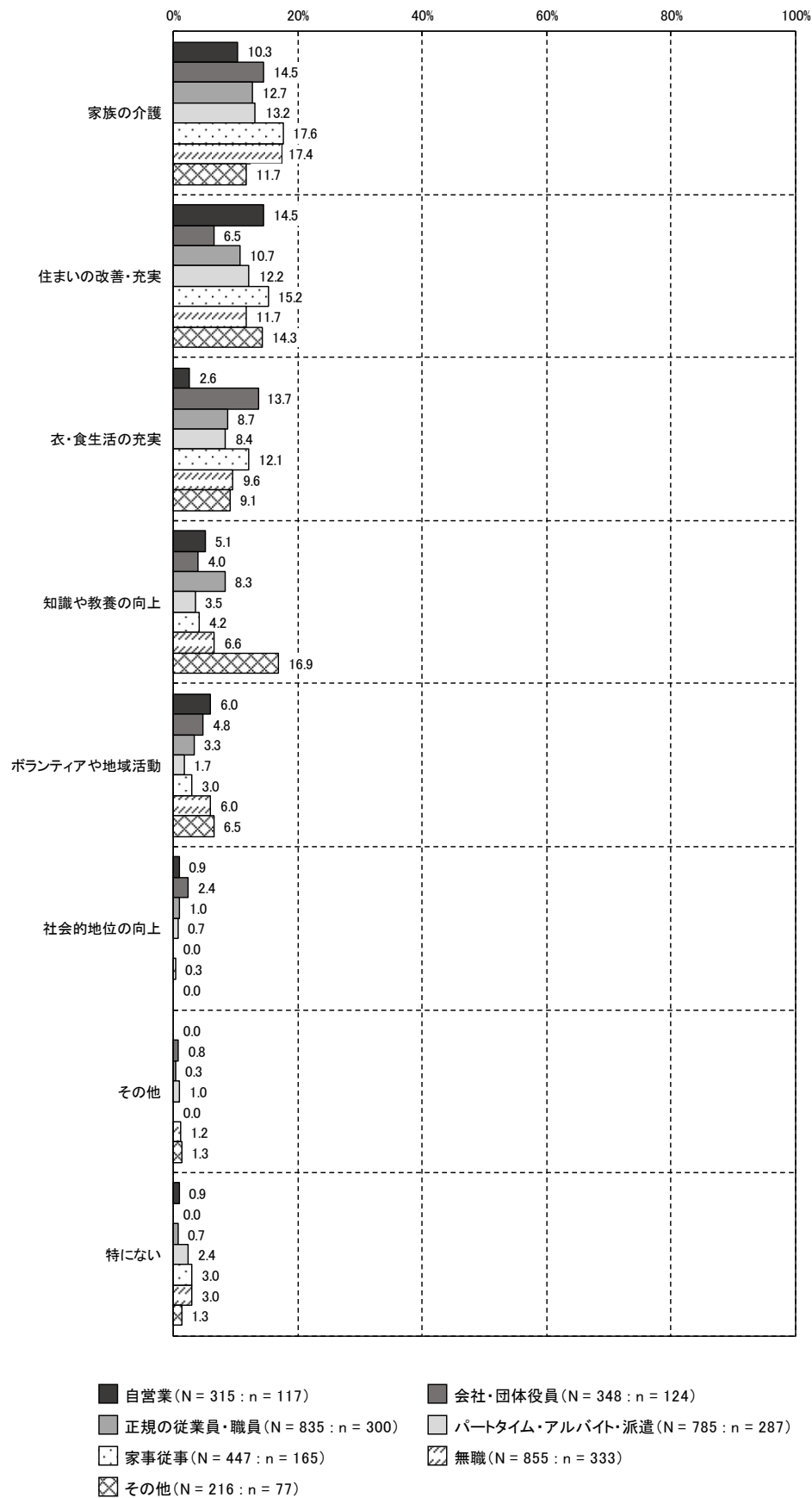
図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む

※ N＝総回答数 n＝回答者数

問5 生活に必要な情報の入手媒体

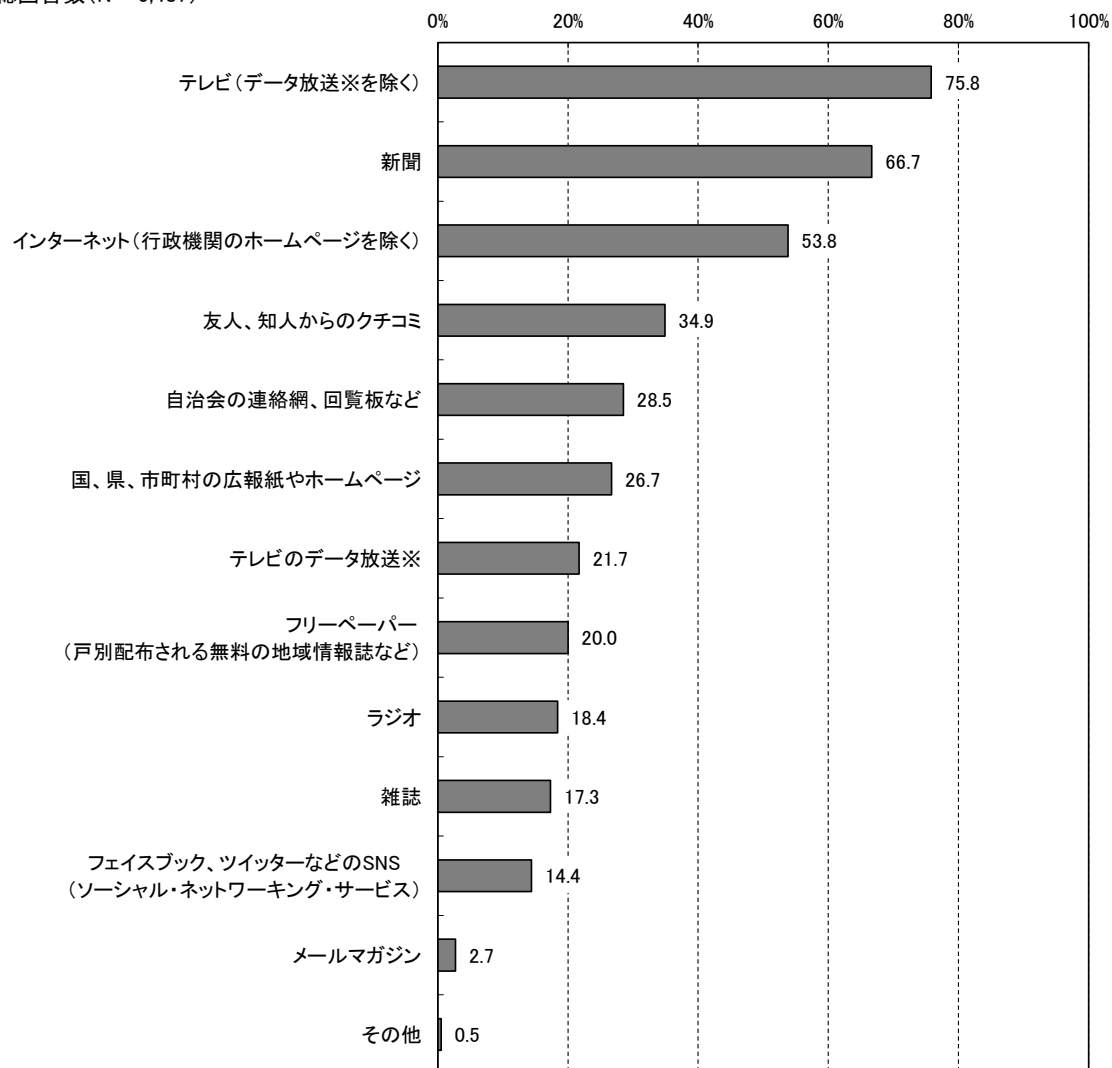
問5 あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。(いくつでも)

全体(図5-1)でみると、「テレビ(データ放送を除く)」が75.8%と最も高く、次いで「新聞」(66.7%)、「インターネット(行政機関のホームページを除く)」(53.8%)の順となっている。

図5-1 生活に必要な情報の入手媒体

回答者数(n = 1,436)

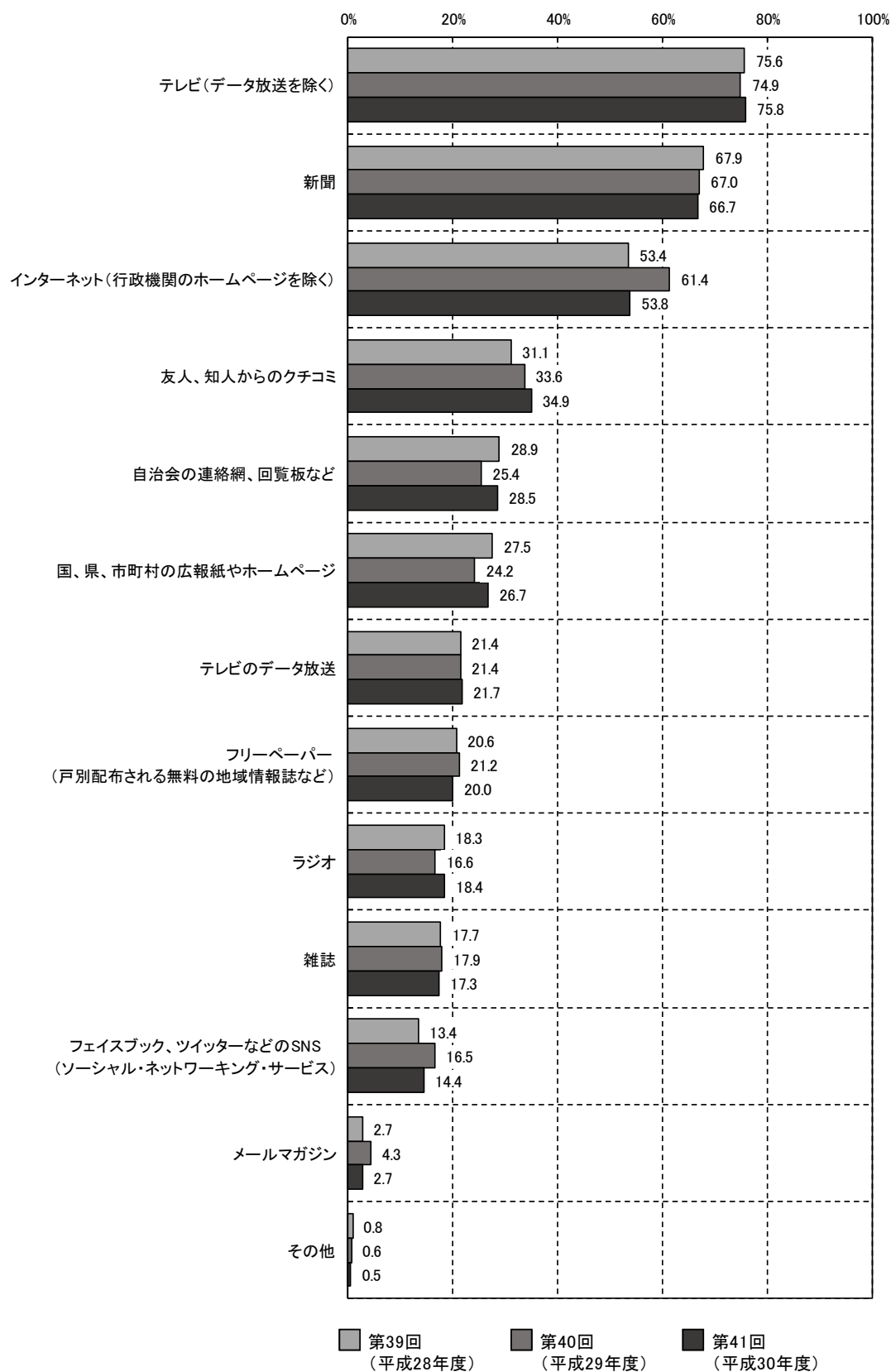
総回答数(N = 5,487)



※ データ放送: リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

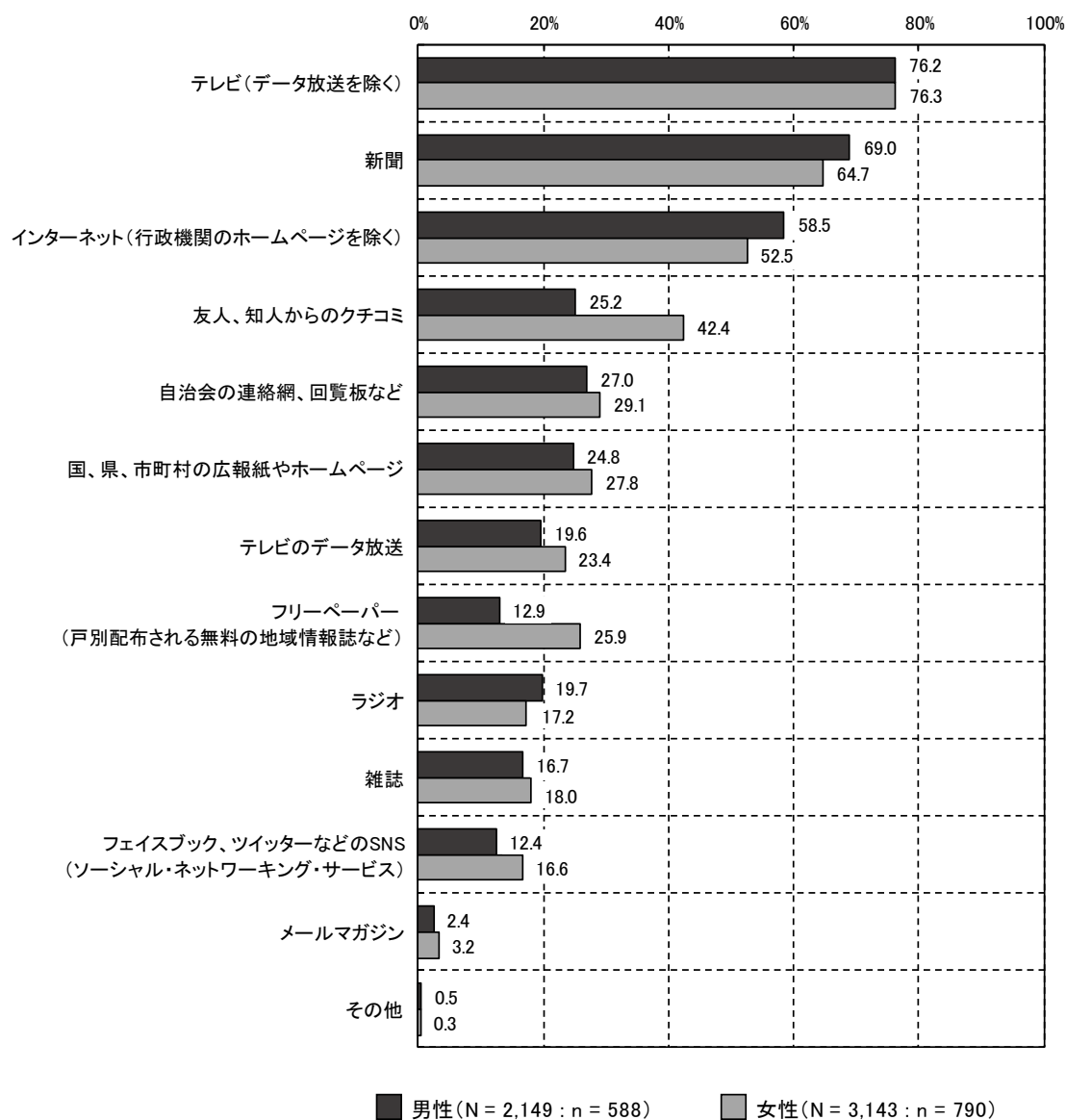
前々回・前回比較（図 5-2）でみると、前々回・前回と同様に「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっており、次いで「新聞」、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」の順となっている。

図 5-2 【前々回・前回比較】生活に必要な情報の入手媒体



性別（図 5-3）でみると、男女ともに「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっており、次いで「新聞」、「インターネット（行政機関のホームページを除く）」の順となっている。差が最も大きいのは「友人、知人からのクチコミ」で、女性が男性より 17.2 ポイント高くなっている。

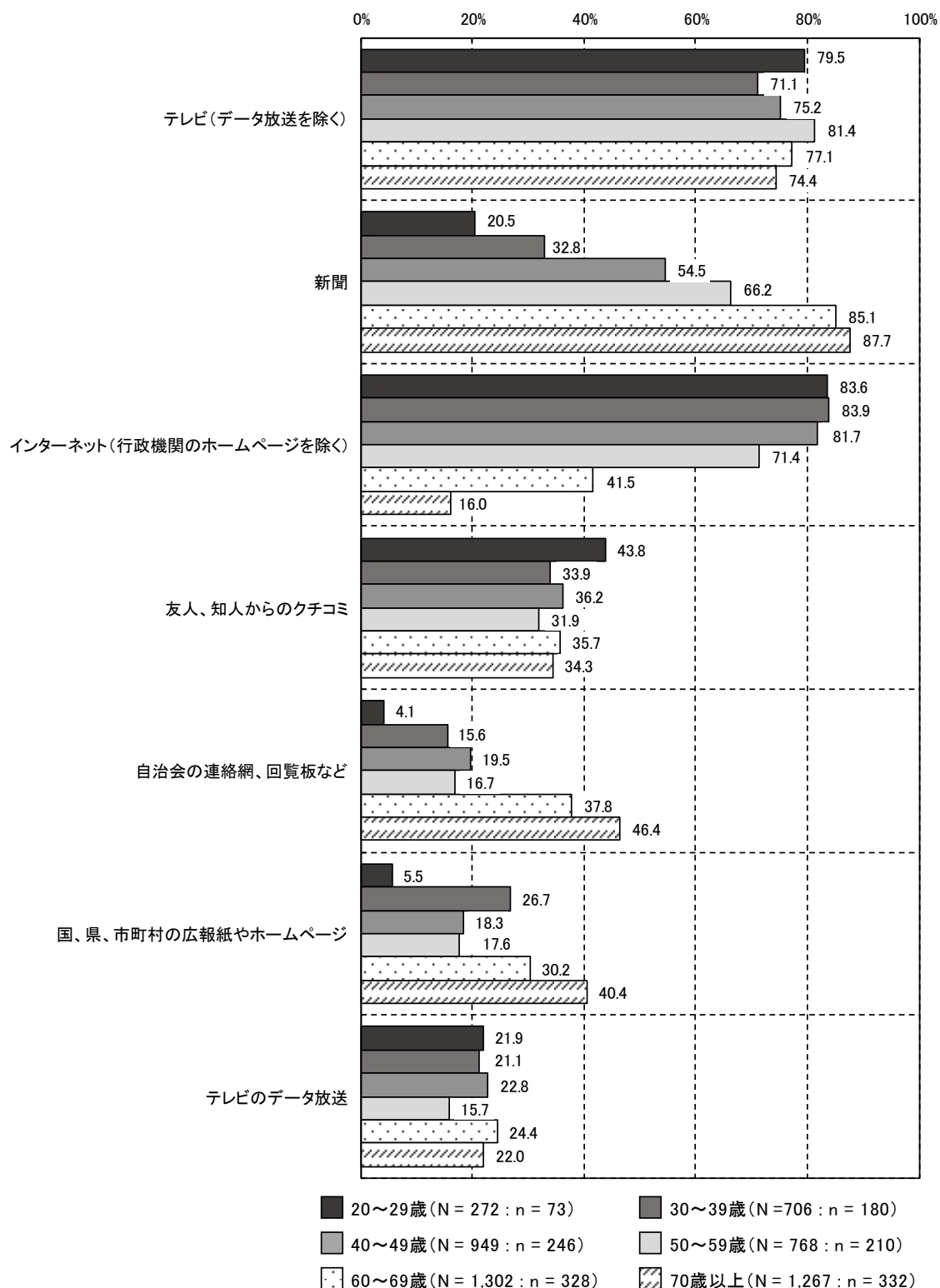
図 5-3 【性別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数 n＝回答者数

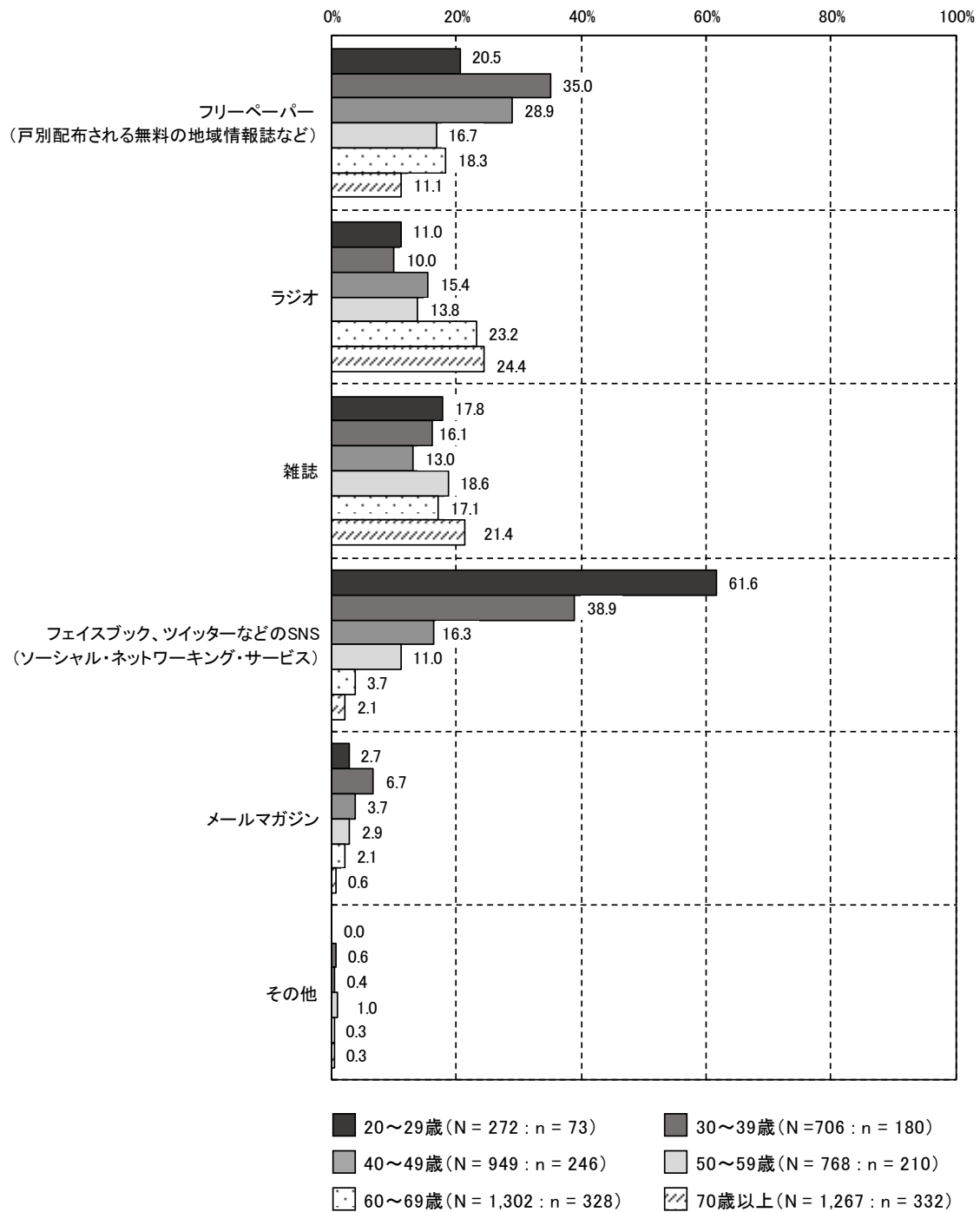
年代別（図 5-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代においては「インターネット（行政機関のホームページを除く）」が最も高く、そのうち 30 歳代が 83.9%と最も高くなっている。50 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」（81.4%）、60 歳代、70 歳以上では「新聞」がそれぞれ最も高く、そのうち 70 歳以上が 87.7%と最も高くなっている。

図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

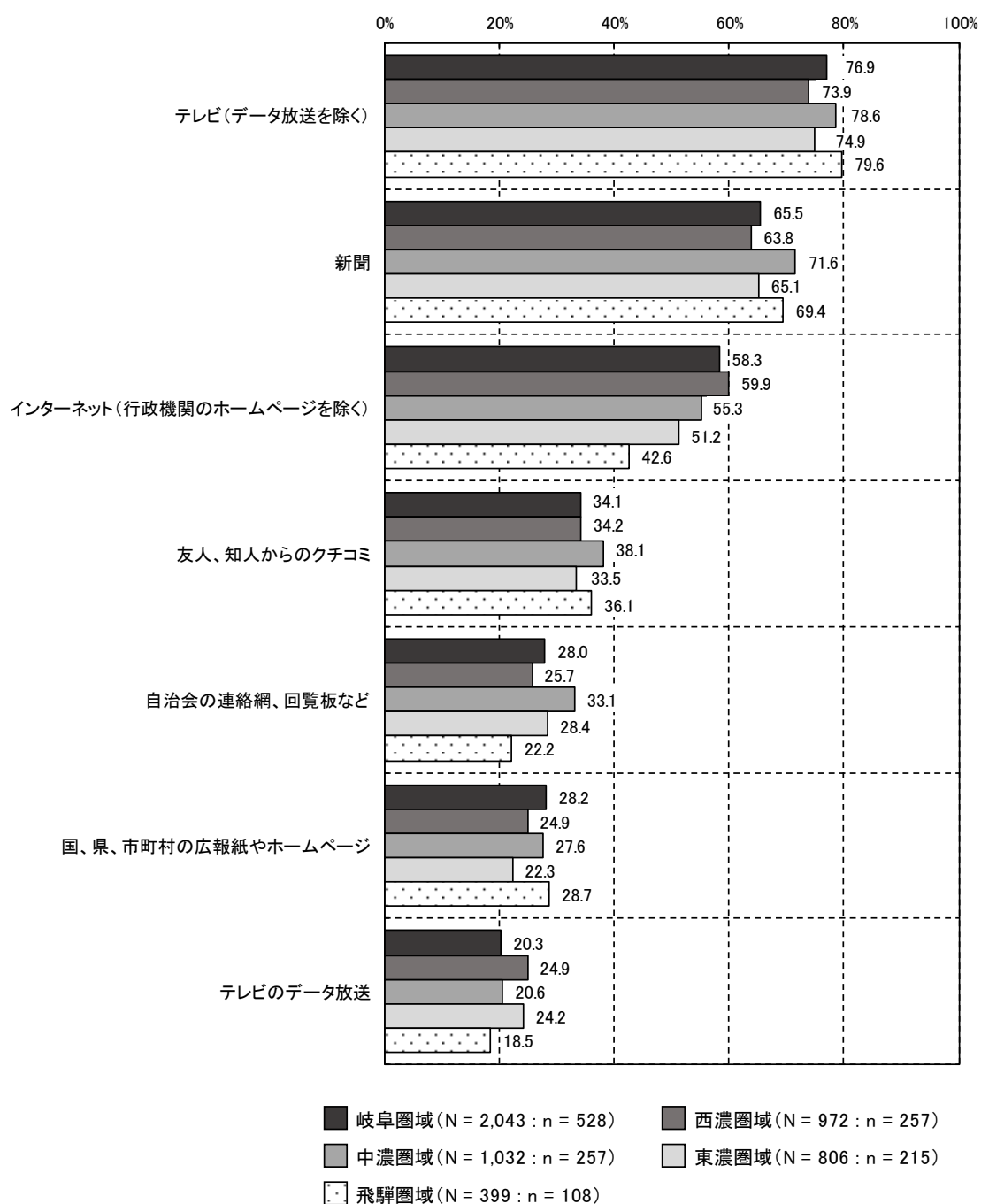
図 5-4 【年代別】 生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

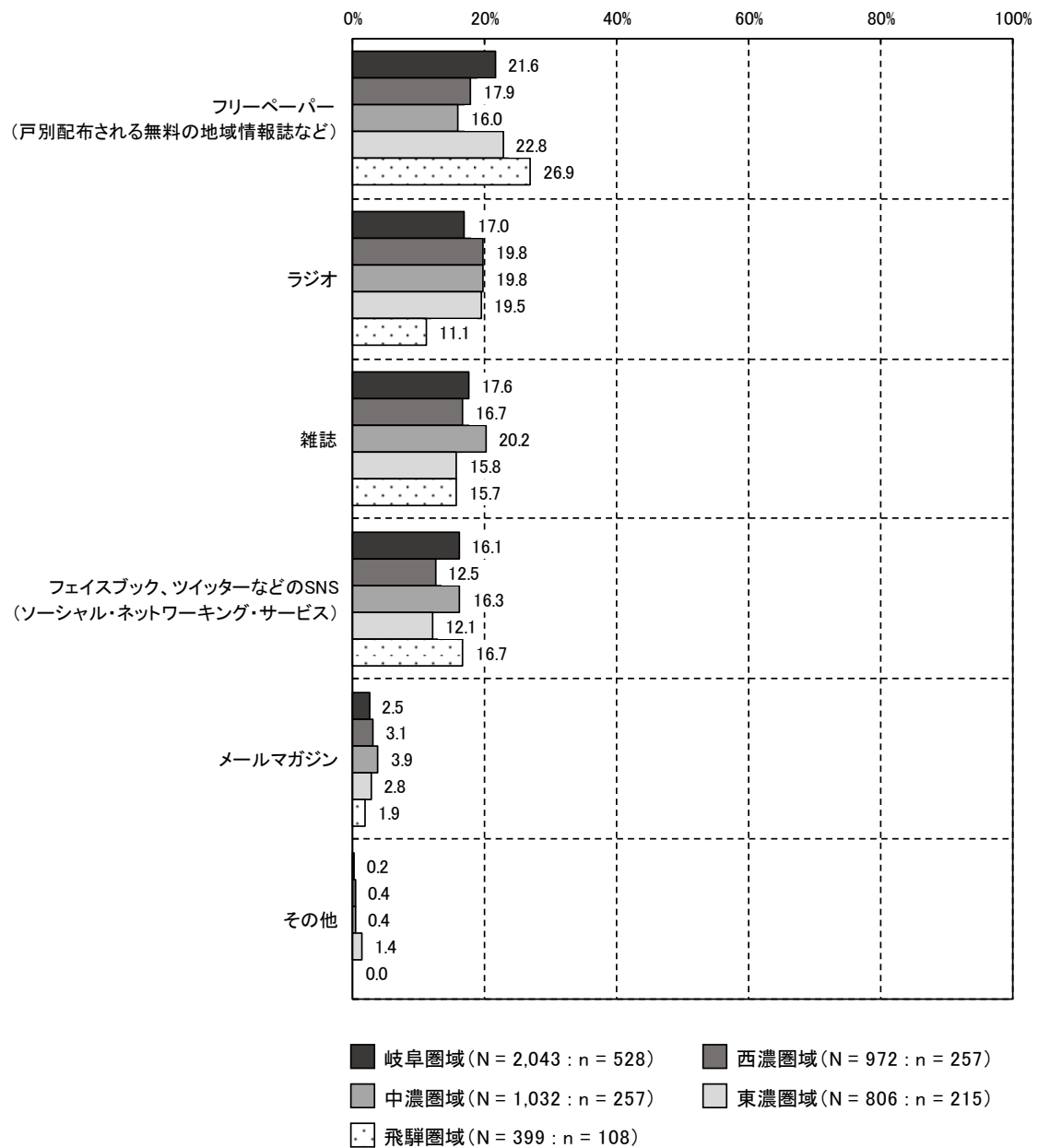
居住圏域別（図 5-5）でみると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 79.6%と最も高くなっている。

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

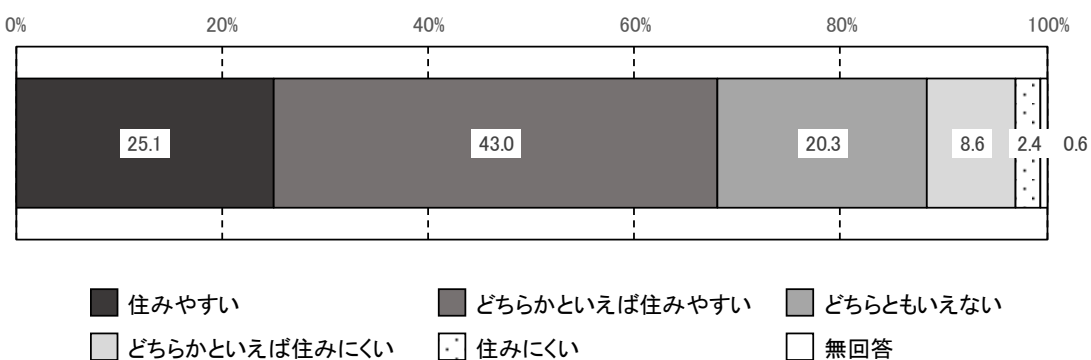
問6 現在住んでいる地域は住みやすいか

問6 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。（1つだけ）

全体（図 6-1）でみると、「どちらかといえば住みやすい」が 43.0%と最も高くなっている。次いで、「住みやすい」（25.1%）、「どちらともいえない」（20.3%）の順となっている。

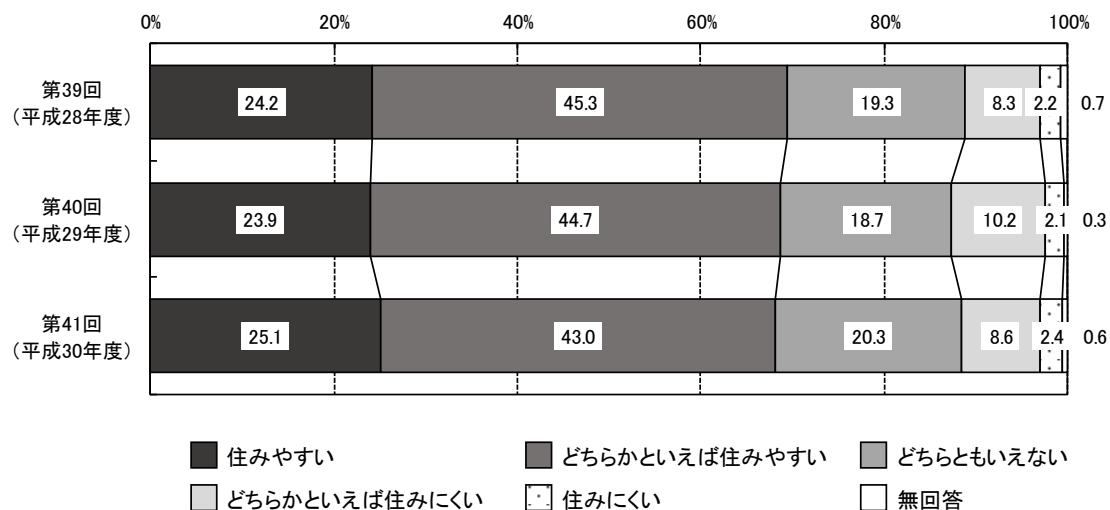
図 6-1 現在住んでいる地域は住みやすいか

回答者数 (n = 1,436)



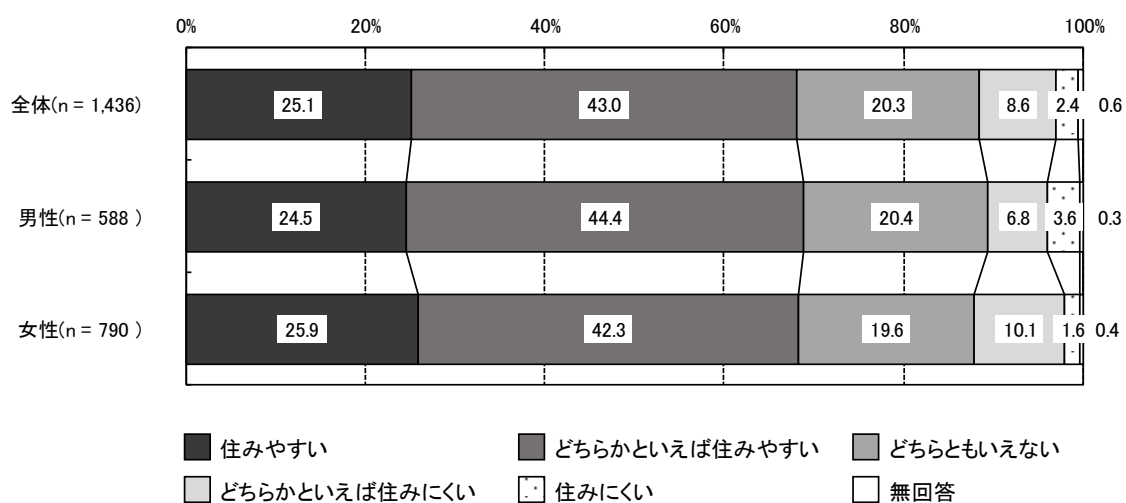
前々回・前回比較（図 6-2）でみると、「住みやすい」は前回に比べて 1.2 ポイント増加している。「どちらかといえば住みにくい」は前回に比べて 1.6 ポイント減少している。

図 6-2 【前々回・前回比較】 現在住んでいる地域は住みやすいか



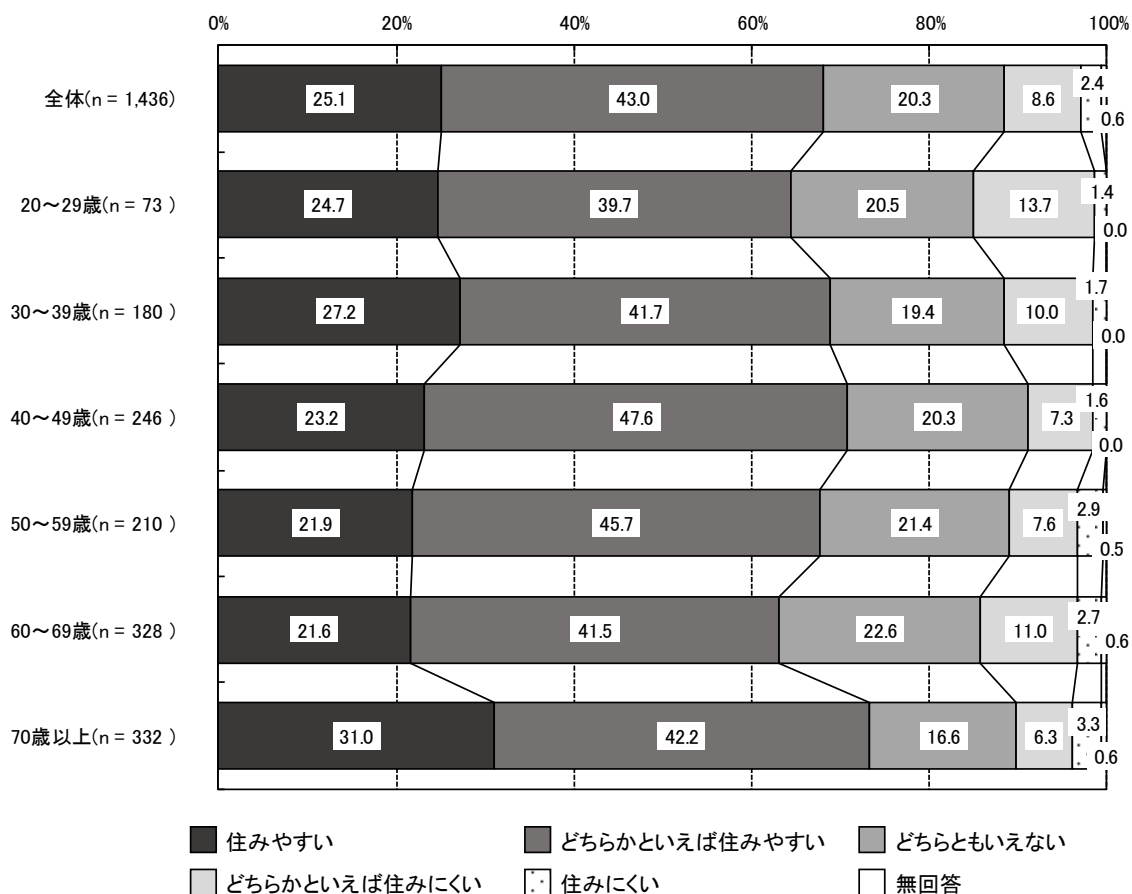
性別（図 6-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 44.4%、女性は 42.3%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



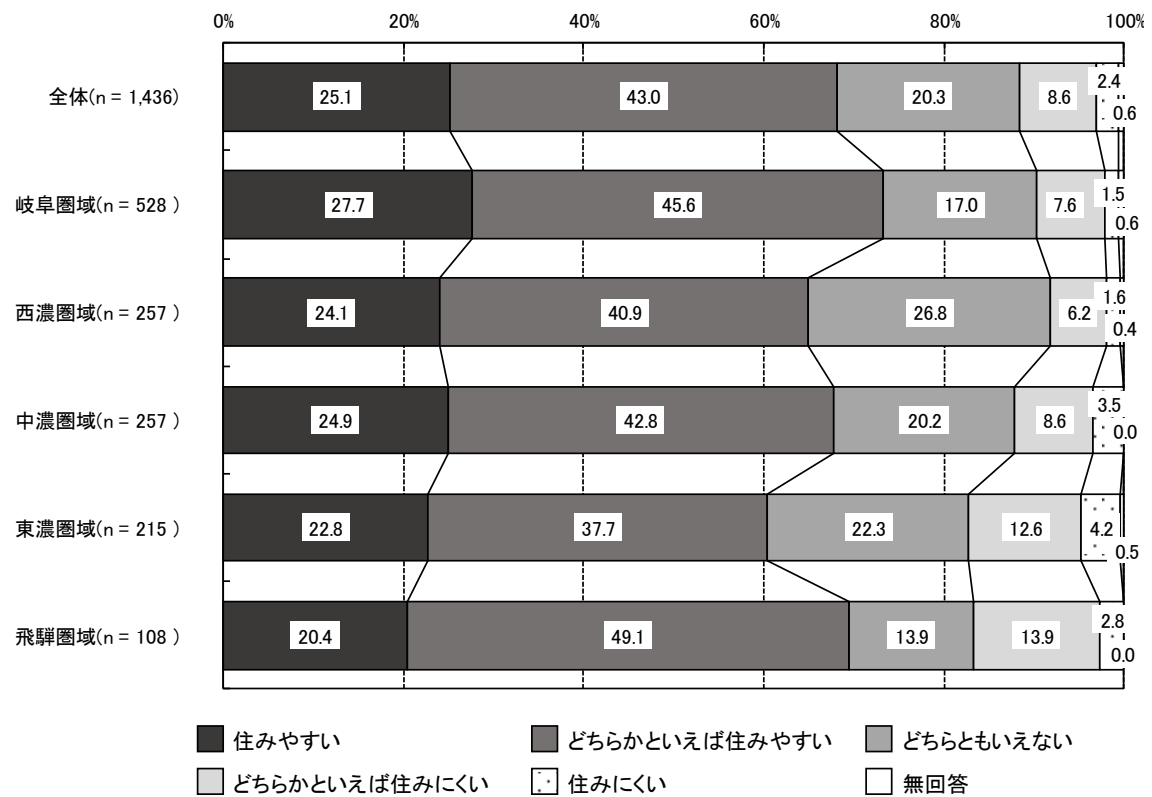
年代別（図 6-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち 40 歳代が 47.6%と最も高くなっている。70 歳以上では「住みやすい」が 31.0%と、他の年代と比較して高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



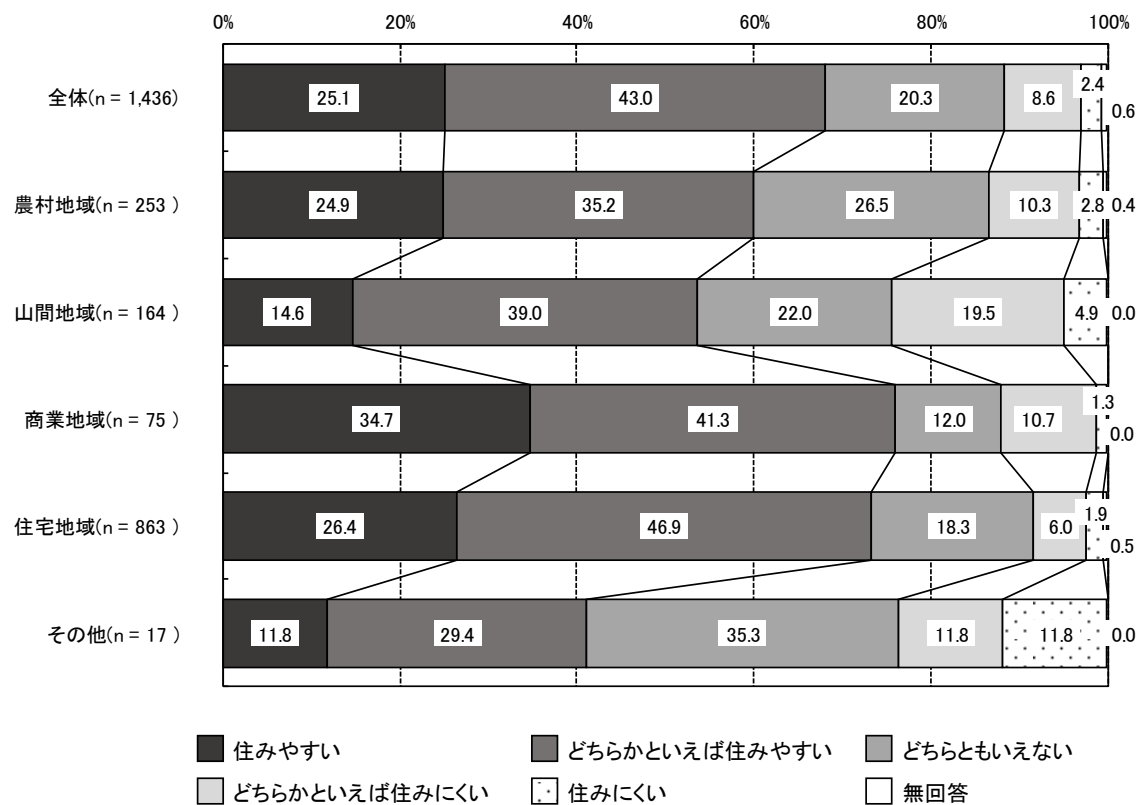
居住圏域別（図 6-5）でみると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 49.1%と最も高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、その他を除くいずれの居住環境においても「どちらかといえは住みやすい」が最も高く、そのうち住宅地域が 46.9%と最も高くなっている。「住みやすい」では商業地域が 34.7%と、他の居住環境と比べて高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



問6-2 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

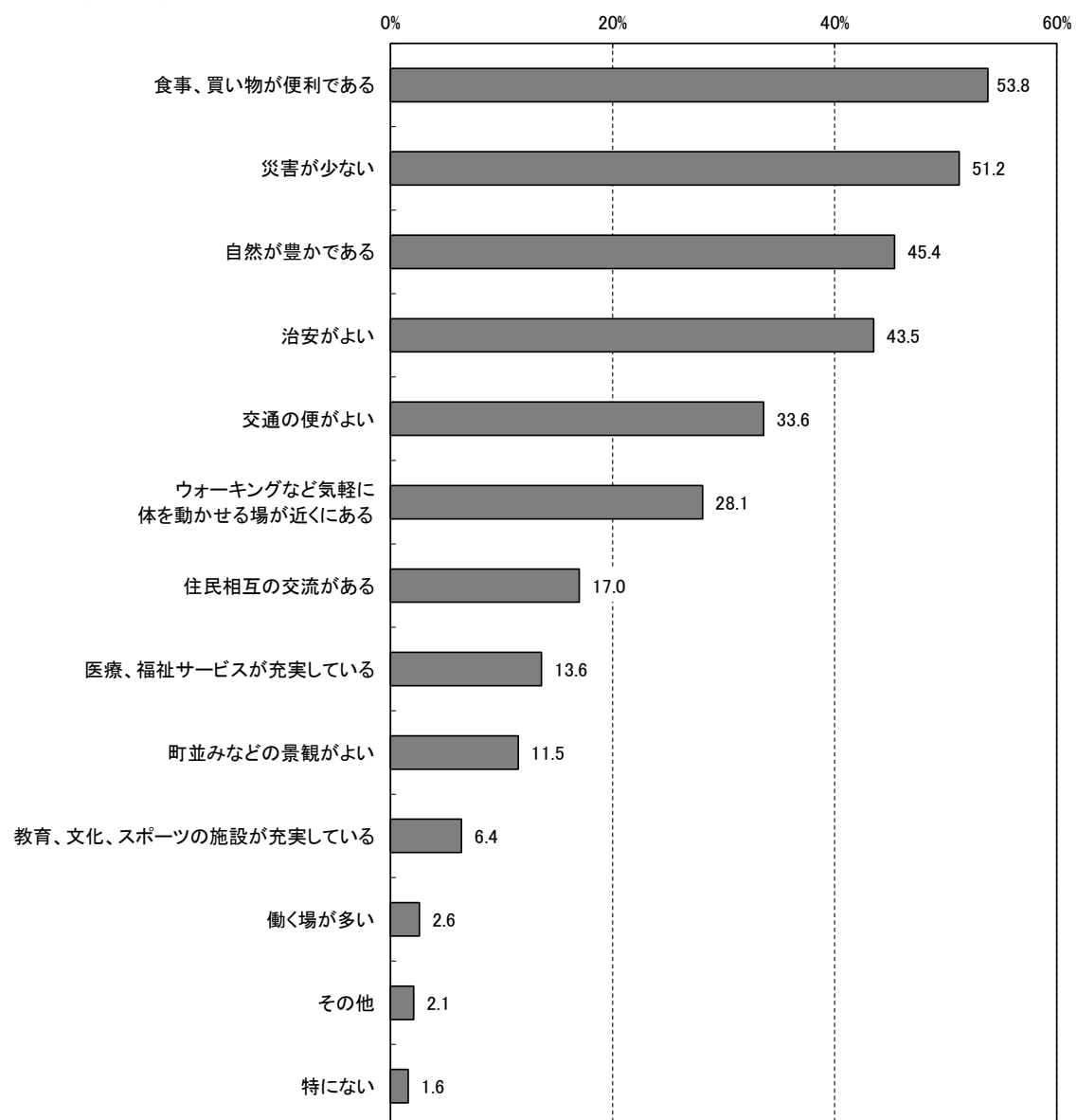
問6-2 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。
現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。
(いくつでも)

全体(図6-2-1)でみると、「食事、買い物が便利である」が53.8%と最も高く、次いで「災害が少ない」(51.2%)、「自然が豊かである」(45.4%)、「治安がよい」(43.5%)、「交通の便がよい」(33.6%)の順となっている。

図6-2-1 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

回答者数(n=979)※

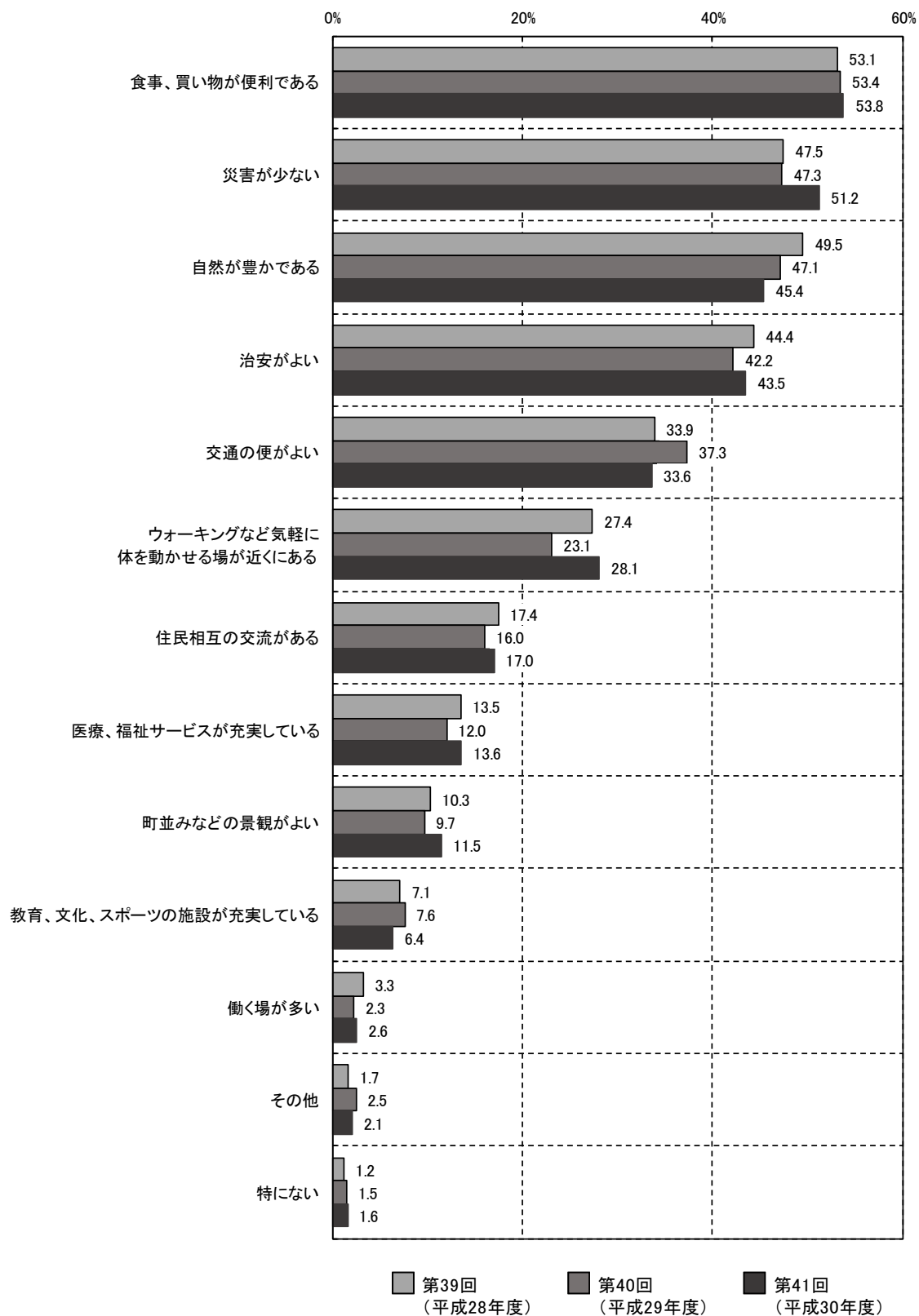
総回答数(N=3,040)



※ 問6で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

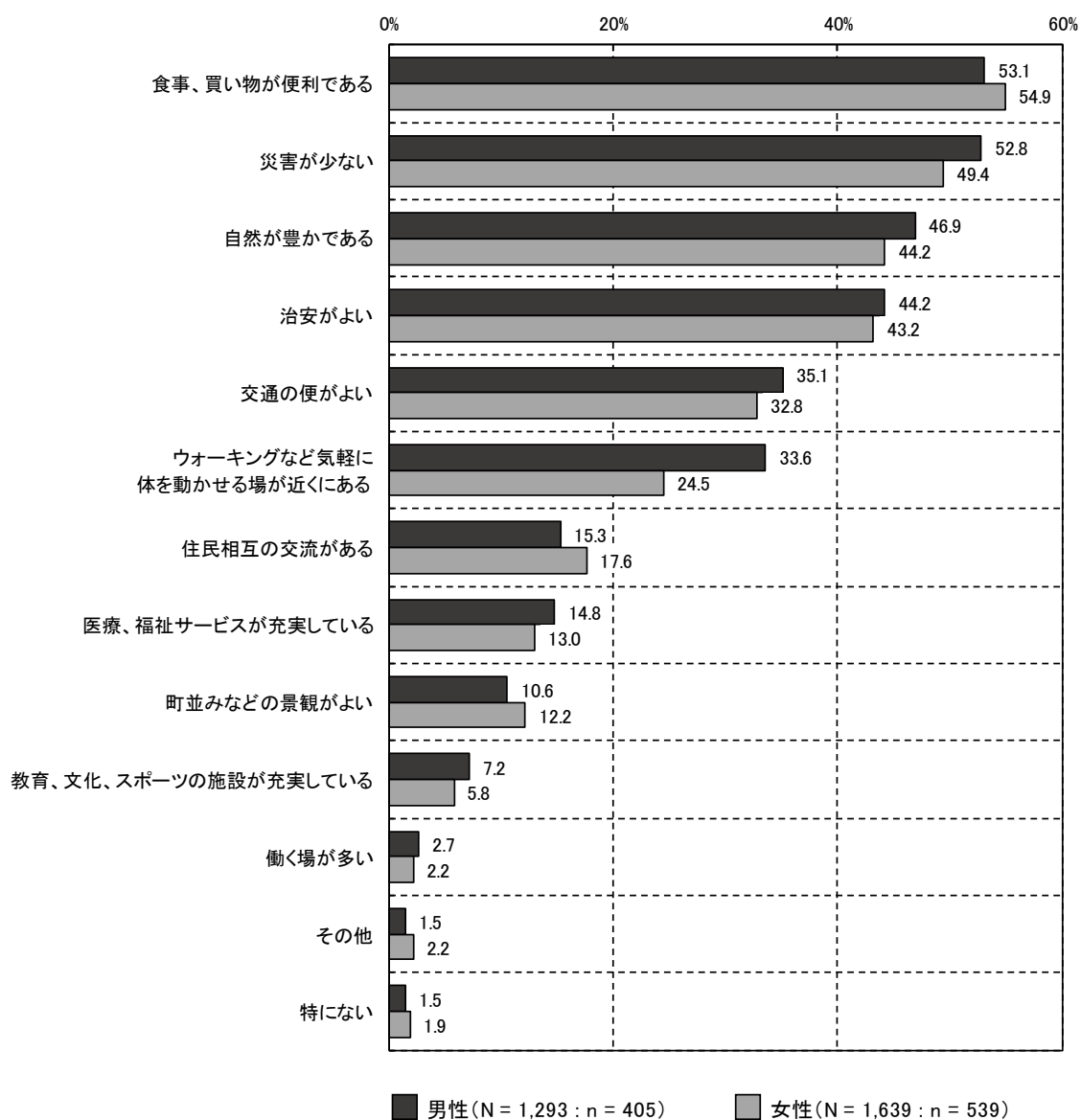
前々回・前回比較（図 6-2-2）でみると、前々回・前回と同様に「食事、買い物が便利である」が最も高くなっている。次いで前回と同様に「災害が少ない」（51.2%）、「自然が豊かである」（45.4%）、「治安がよい」（43.5%）の順となっている。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）でみると、男女ともに「食事、買い物が便利である」が最も高くなっており、男性が 53.1%、女性が 54.9%となっている。次いで「災害が少ない」、「自然が豊かである」の順となっている。「ウォーキングなど気軽に体を動かせる場が近くにある」では、男性が女性より 9.1 ポイント高くなっている。

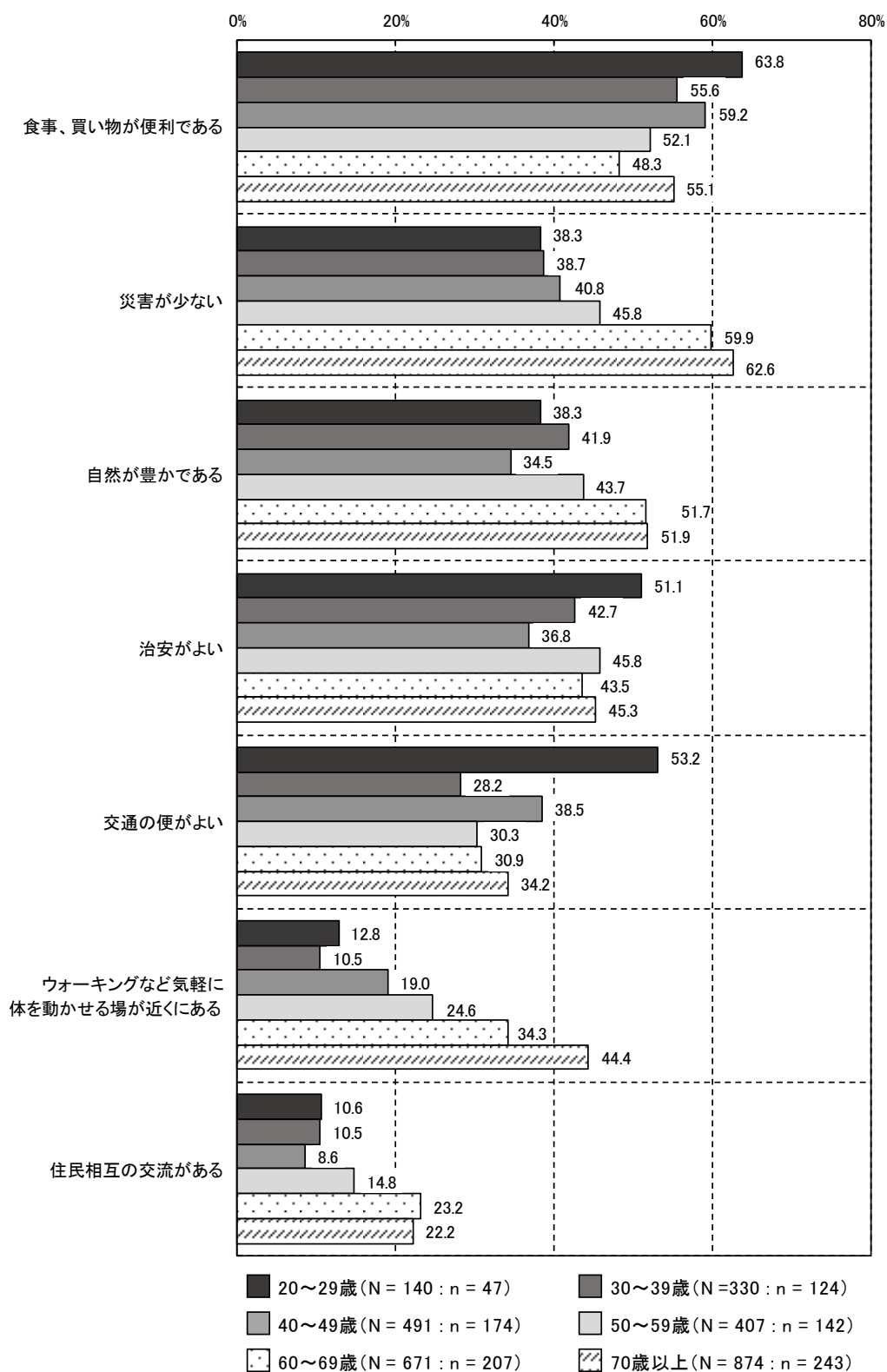
図 6-2-3 【性別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

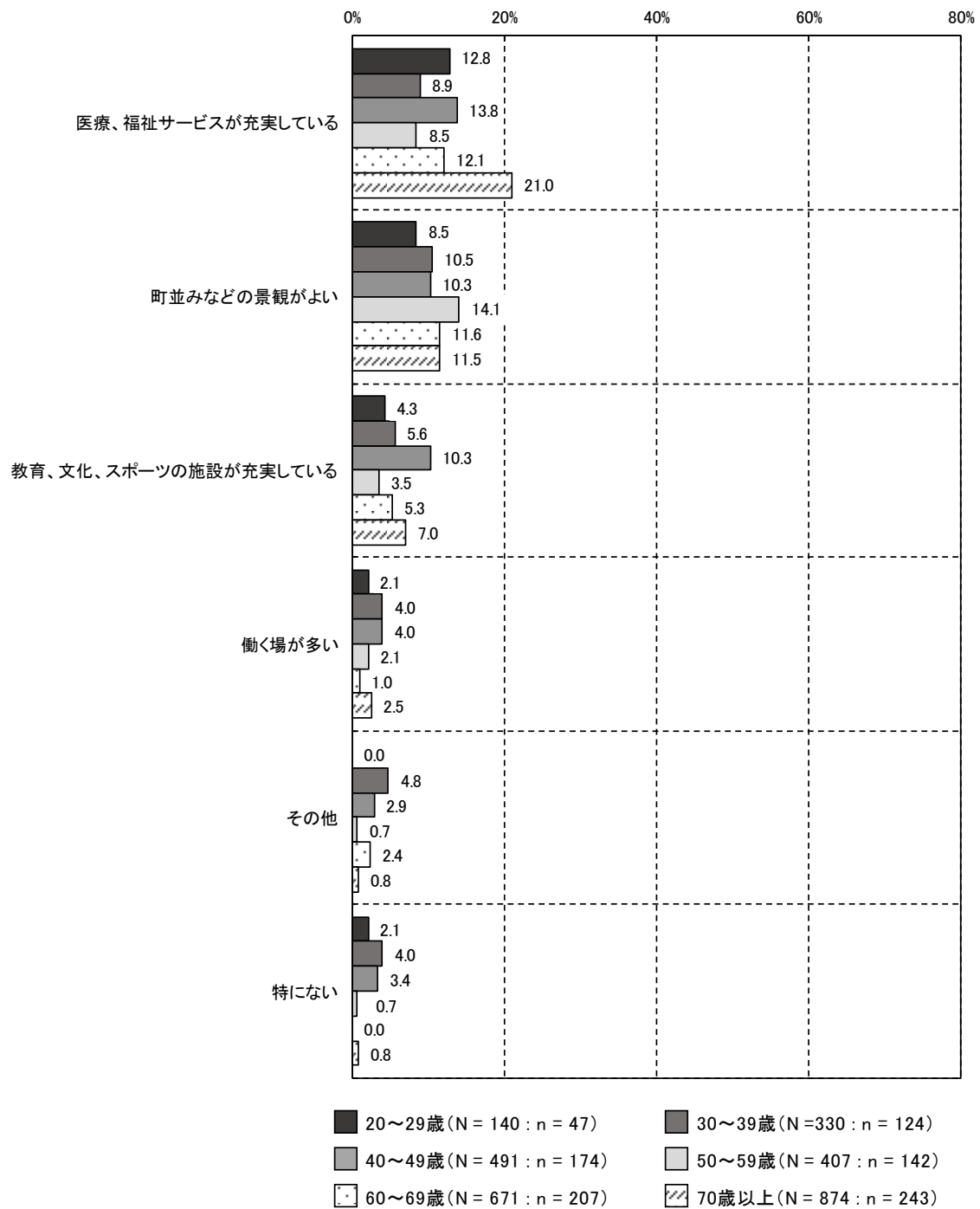
年代別（図 6-2-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代で「食事、買い物が便利である」が最も高く、そのうち 20 歳代が 63.8%と最も高くなっている。60 歳代、70 歳以上では「災害が少ない」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 62.6%と最も高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

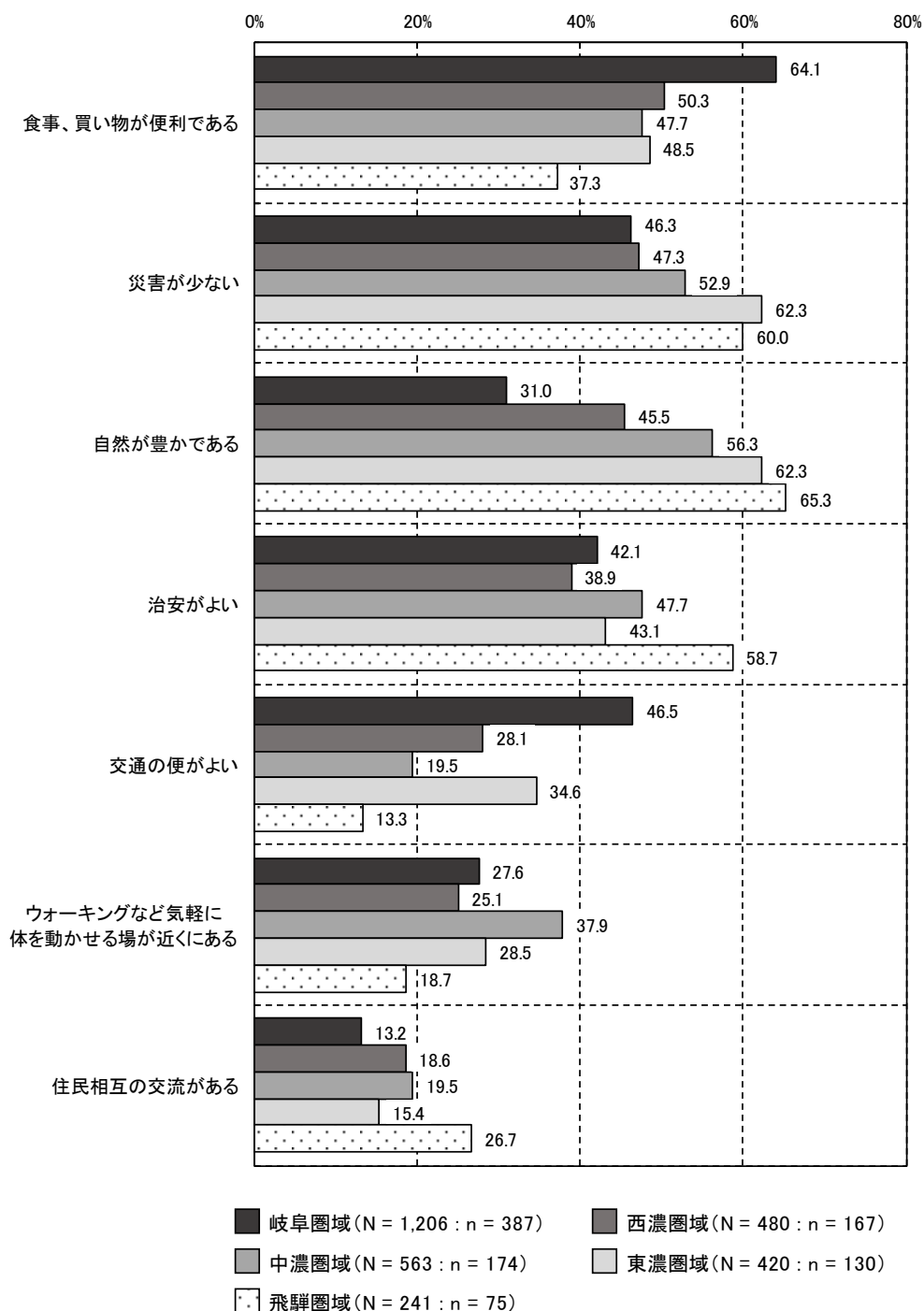
図 6-2-4 【年代別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

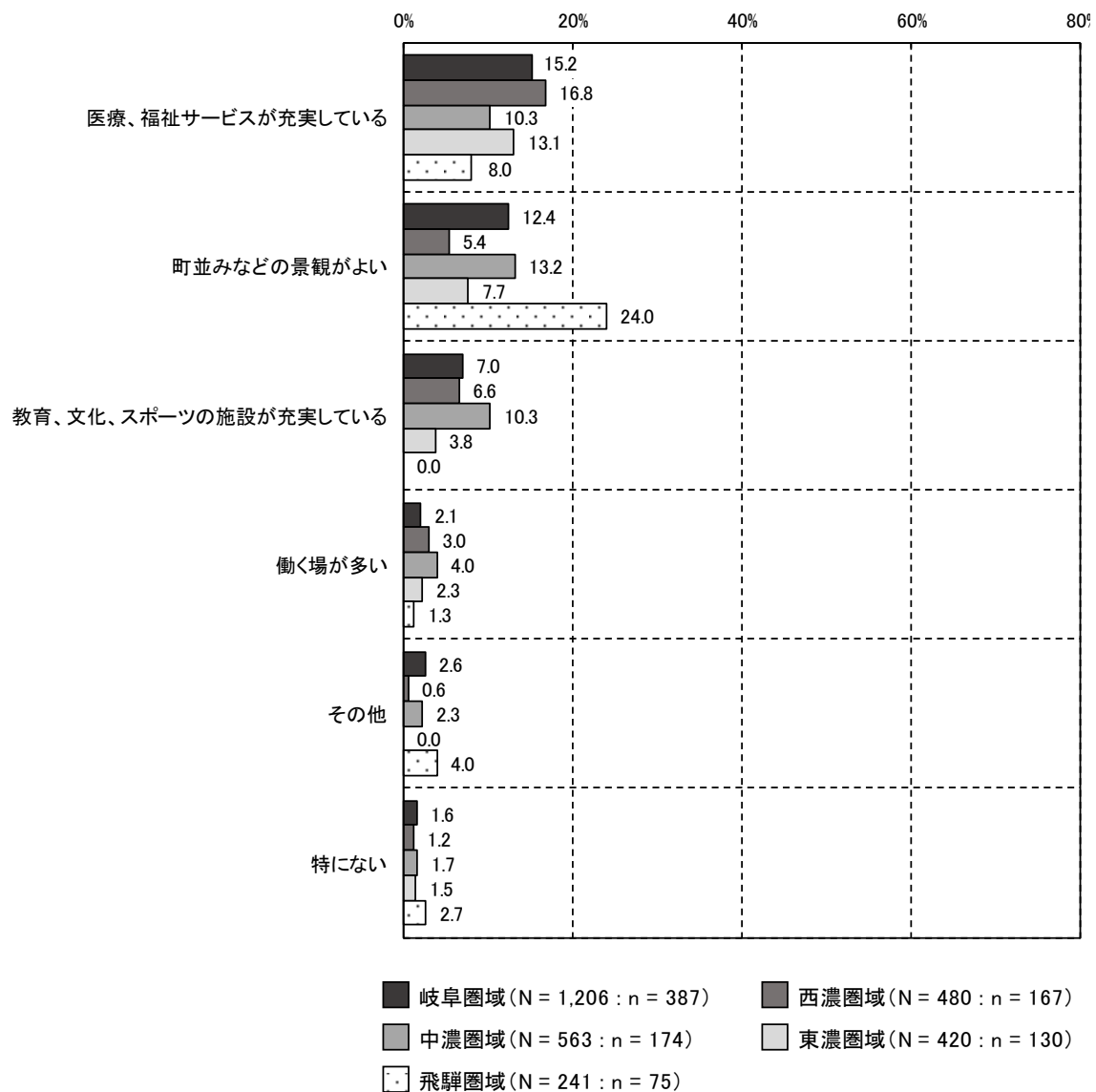
居住圏域別（図 6-2-5）でみると、岐阜圏域、西濃圏域で「食事、買い物が便利である」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 64.1%と最も高くなっている。東濃圏域では「災害が少ない」と「自然が豊かである」が、それぞれ 62.3%と最も高くなっている。中濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 65.3%と最も高くなっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

問6-3 住んでいる地域が住みにくいと感じる点

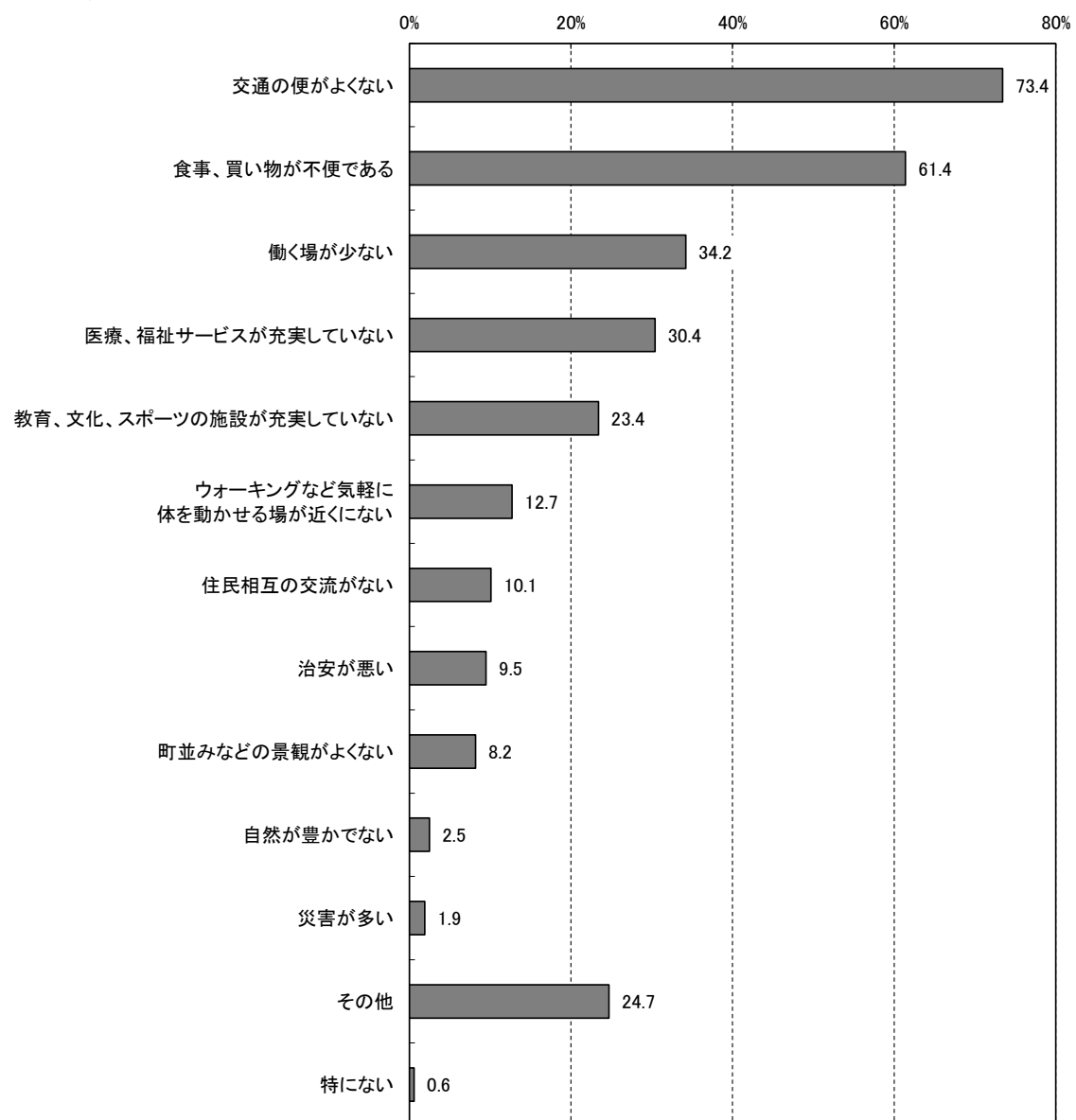
問6-3 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。
現在お住まいの地域が住みにくいと感じるのは、特にどのような点ですか。
(いくつでも)

全体(図6-3-1)でみると、「交通の便がよいくない」が73.4%と最も高く、次いで「食事、買い物が不便である」(61.4%)、「働く場が少ない」(34.2%)の順となっている。

図6-3-1 住んでいる地域が住みにくいと感じる点

回答者数(n = 158)※

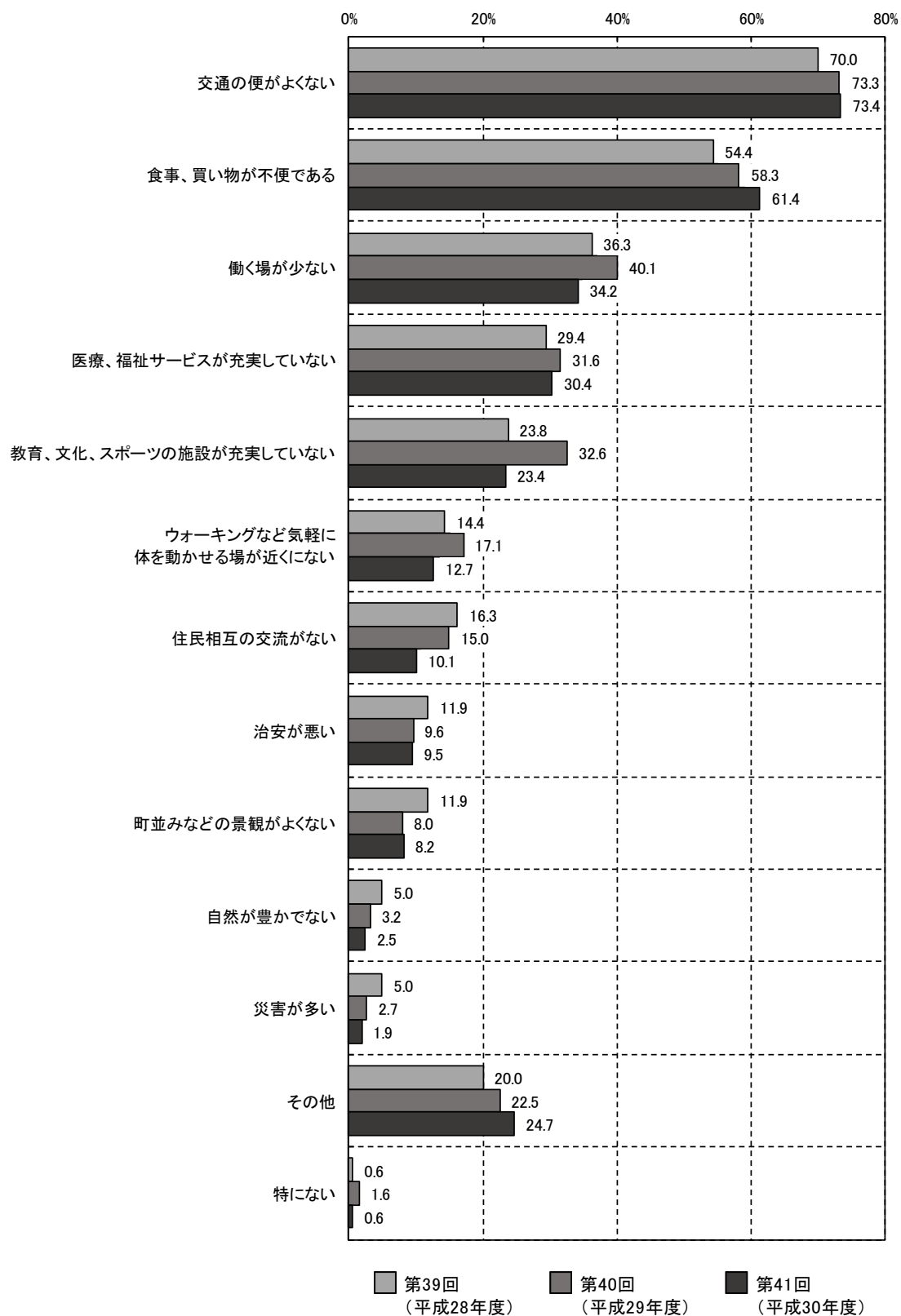
総回答数(N = 463)



※ 問6で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

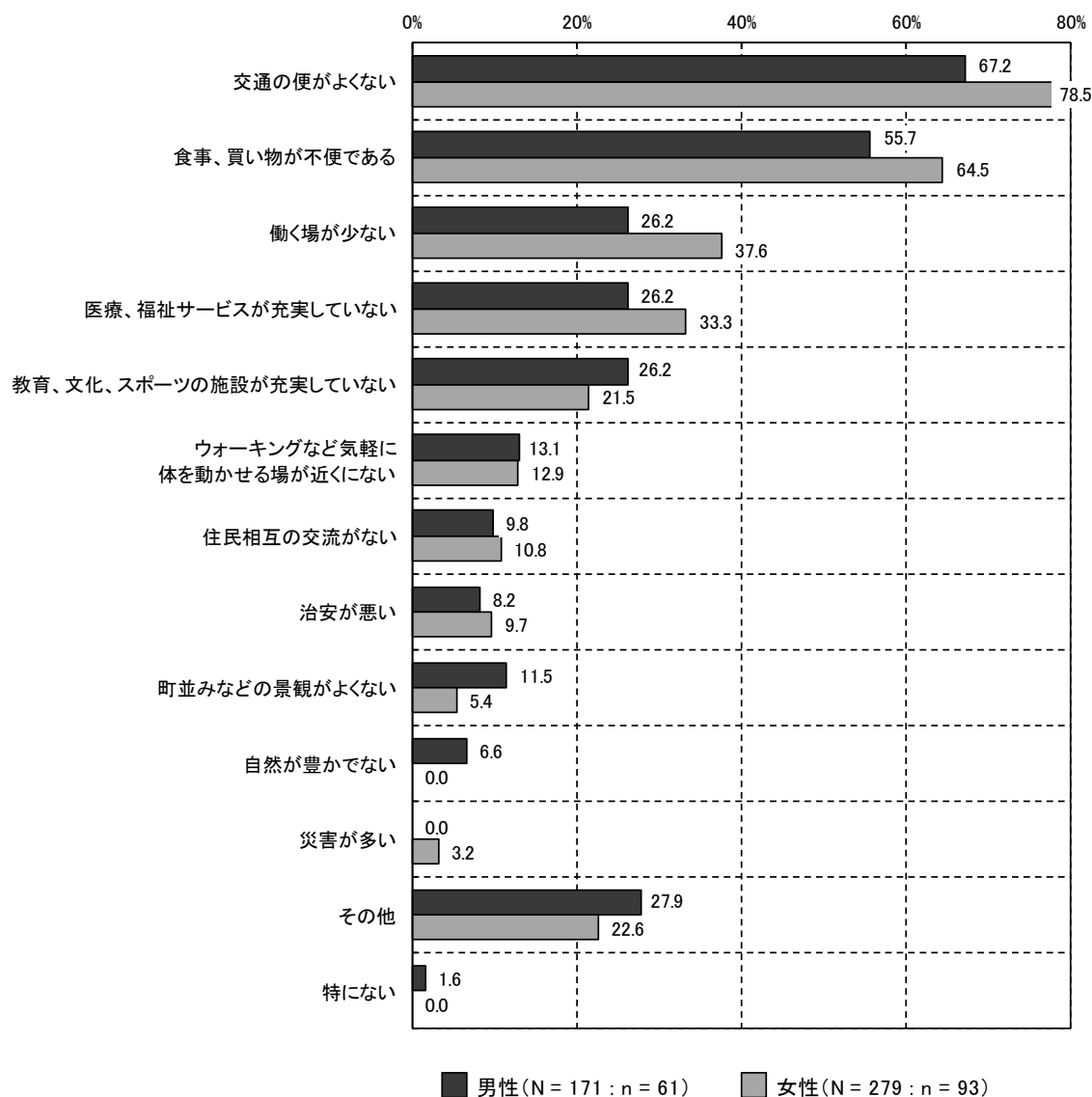
前々回・前回比較（図 6-3-2）でみると、前々回・前回と同様に「交通の便がよいくない」は最も高くなっている。次いで「食事、買い物が不便である」、「働く場が少ない」の順となっている。

図 6-3-2 【前々回・前回比較】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



性別（図 6-3-3）でみると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高くなっており、女性が男性より 11.3 ポイント高くなっている。次いで「食事、買い物が不便である」が高く、女性が男性より 8.8 ポイント高くなっている。

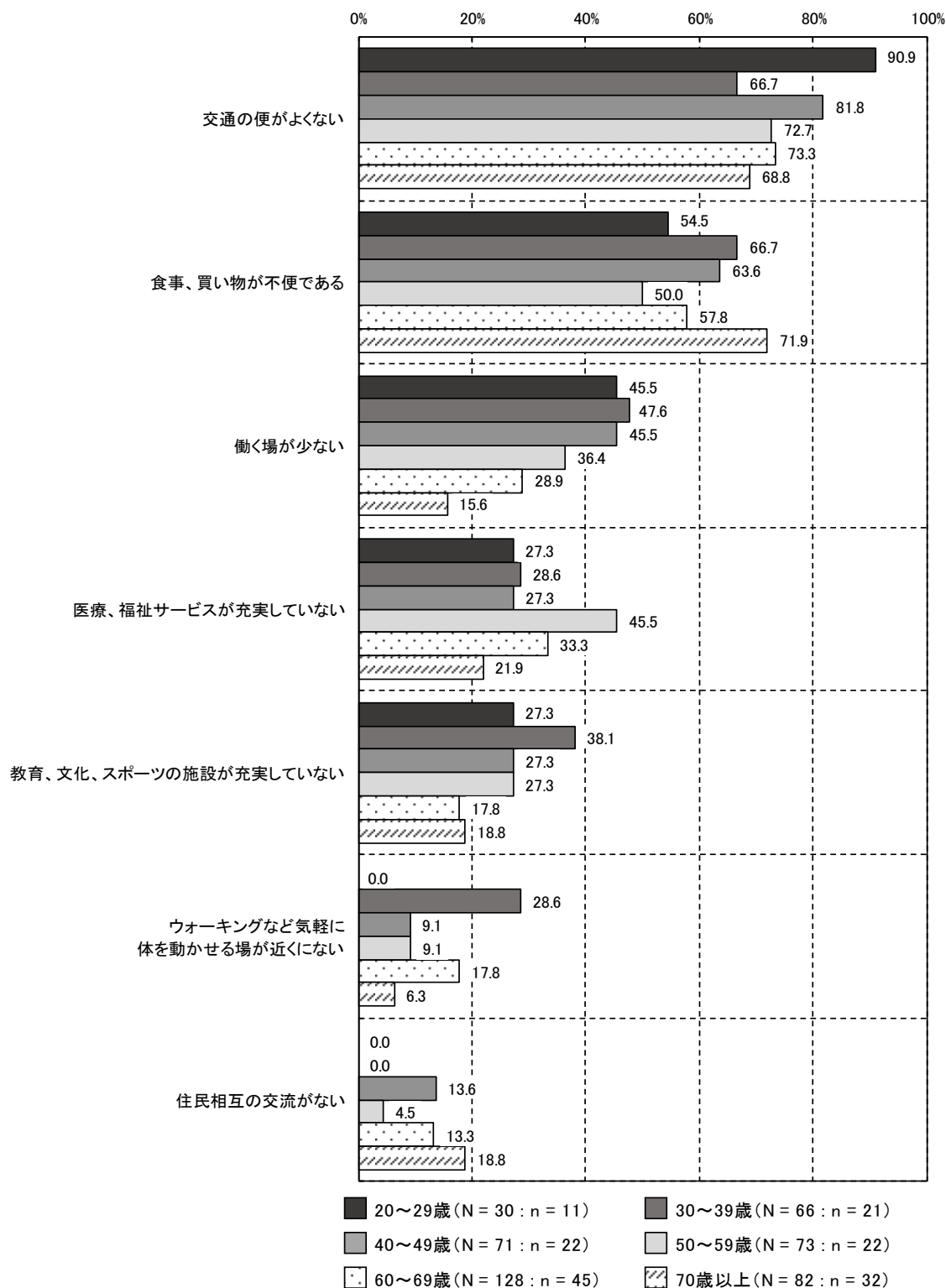
図 6-3-3 【性別】住んでいる地域が住みにくと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

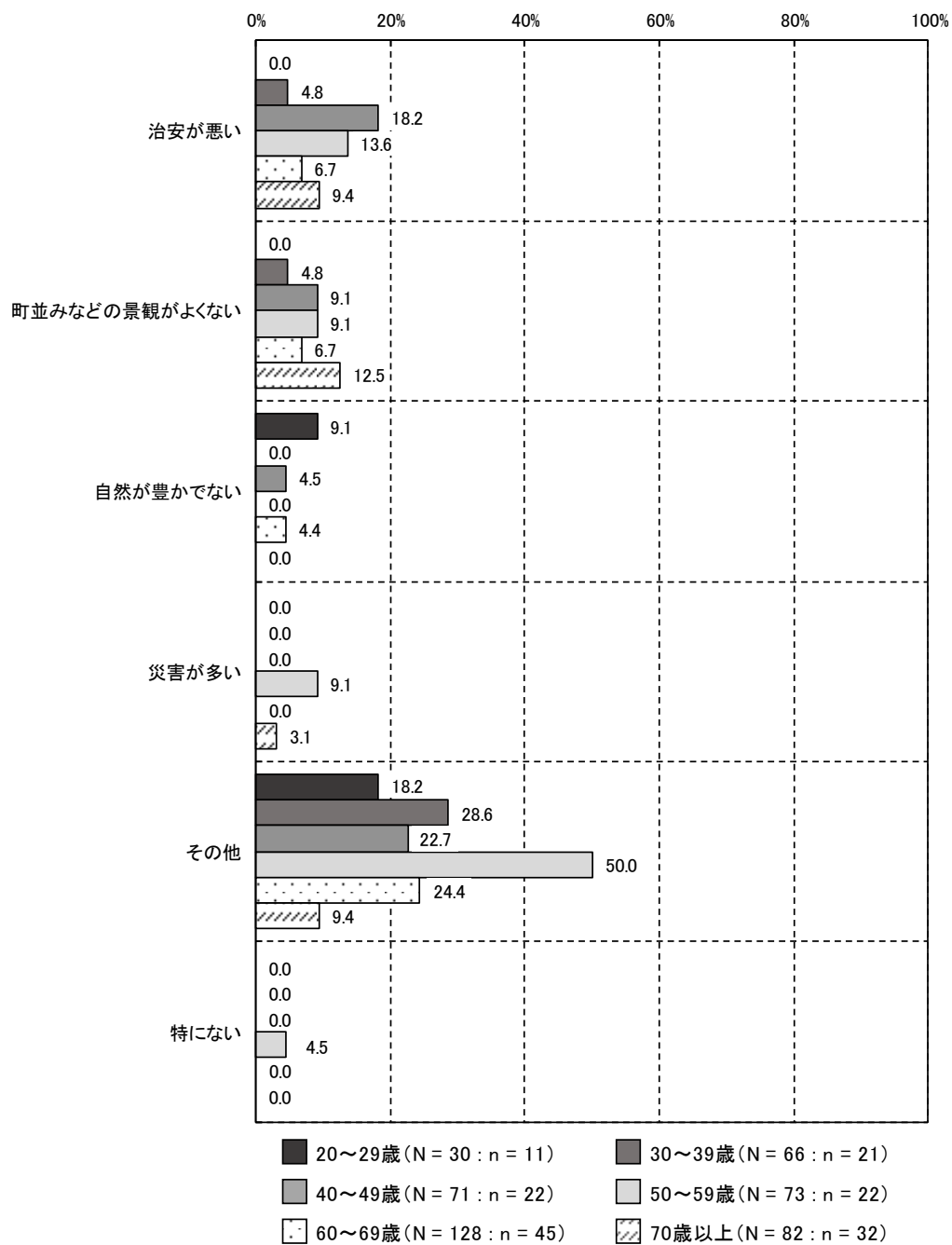
年代別（図 6-3-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても、「交通の便がよ
くない」が最も高く（30 歳代では「食事、買い物が不便である」とともに 66.7%）、その
うち 20 歳代が 90.9%と最も高くなっている。70 歳以上では「食事、買い物が不便である」が
71.9%と最も高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

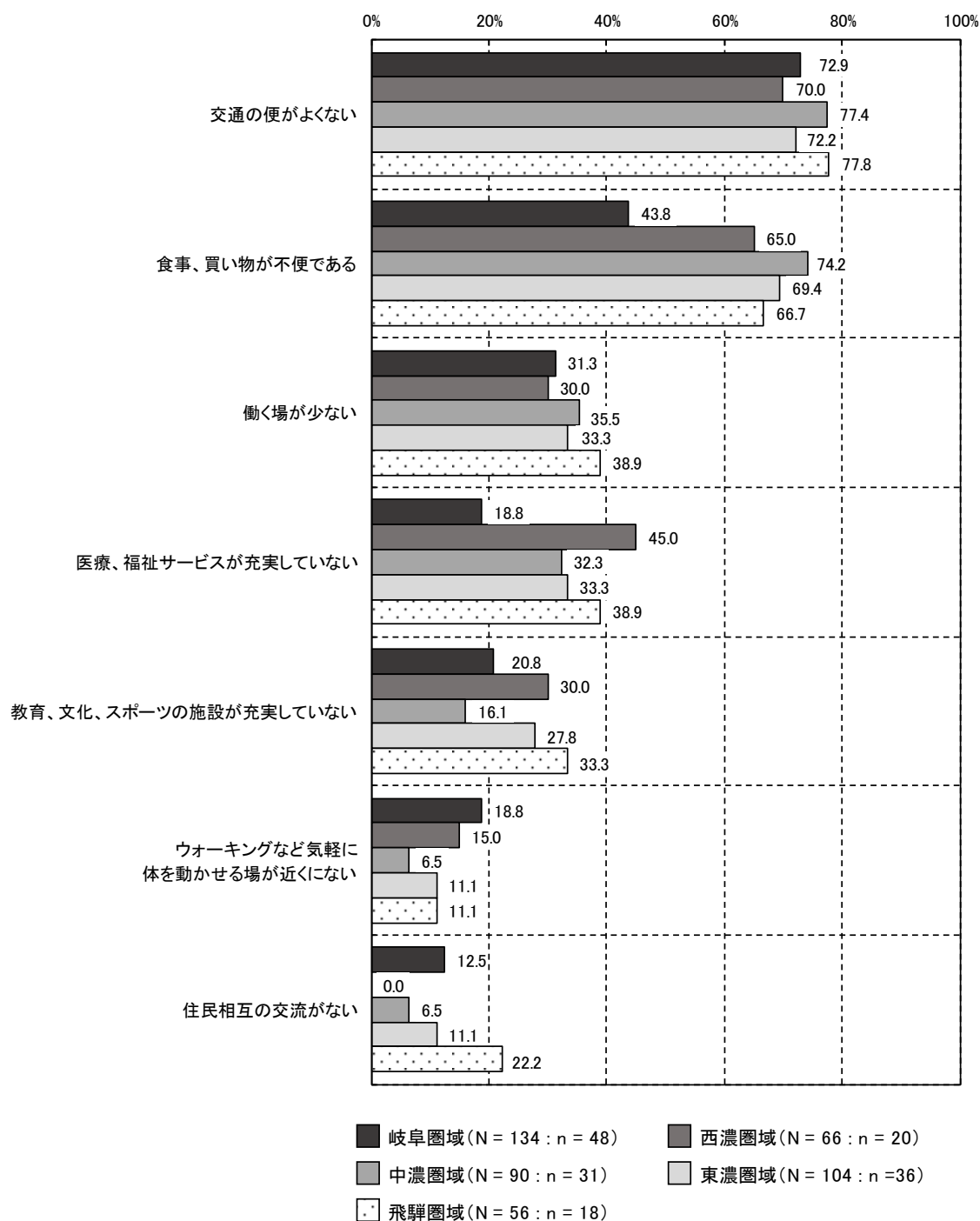
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

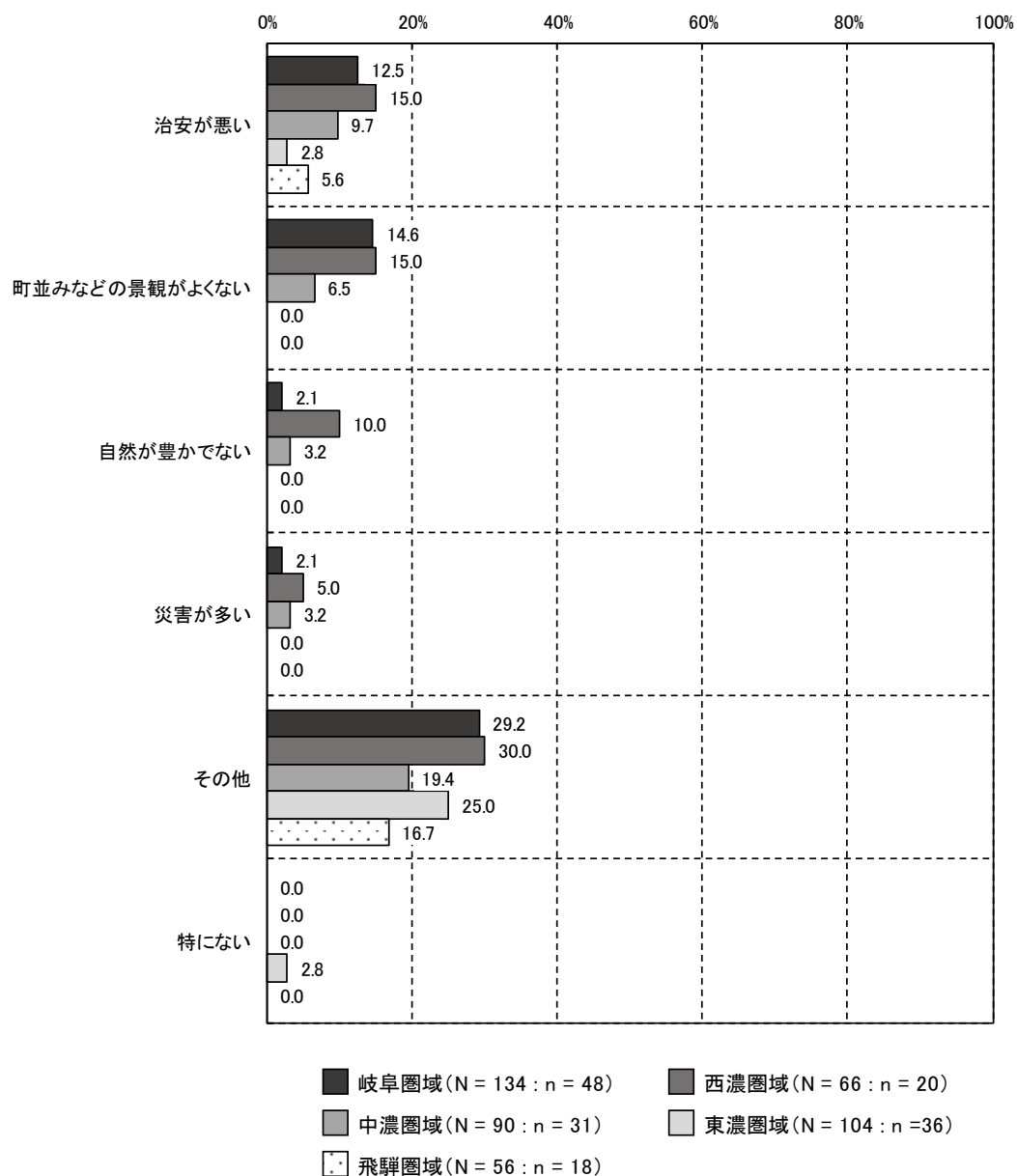
居住圏域別（図 6-3-5）でみると、いずれの居住圏域においても「交通の便がよい」が最も高く、そのうち飛驒圏域が 77.8%と最も高くなっている。岐阜圏域では「食事、買い物に不便である」（43.8%）と、「医療、福祉サービスが充実していない」（18.8%）が、他の居住圏域と比較して低くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

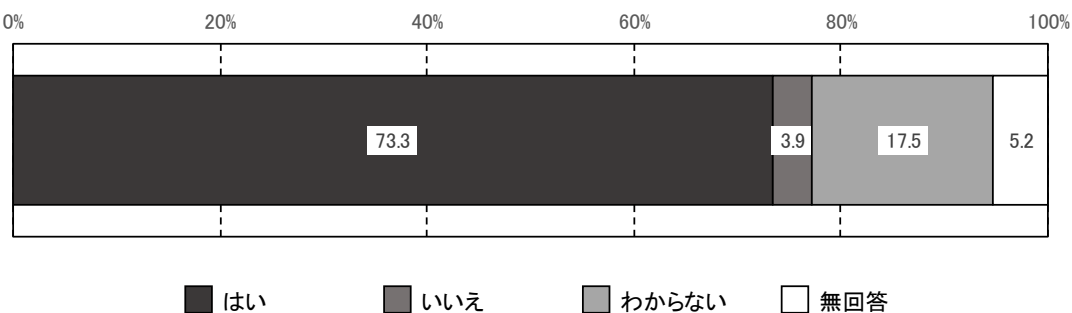
問7 今後も岐阜県に住み続けたいか

問7 あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。（1つだけ）

全体（図7-1）でみると、「はい」が73.3%と最も高くなっている。

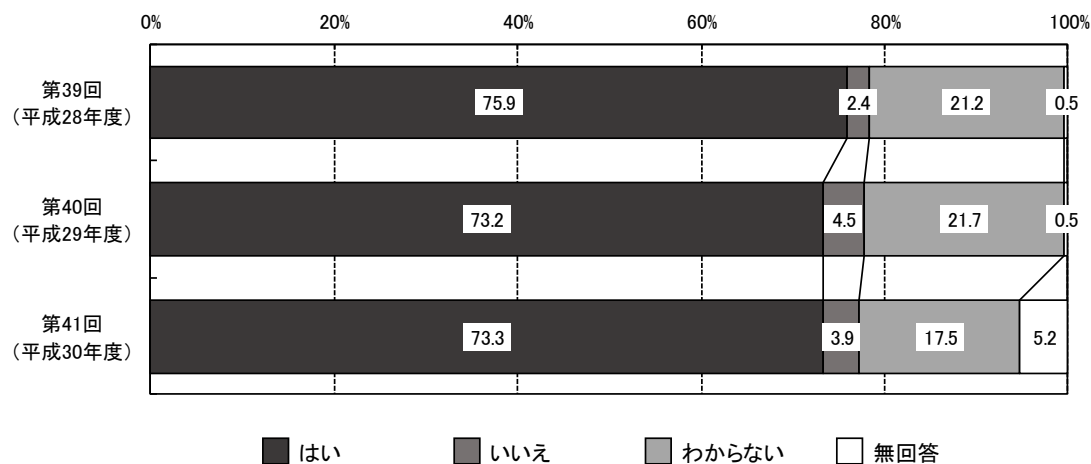
図7-1 今後も岐阜県に住み続けたいか

回答者数(n = 1,436)



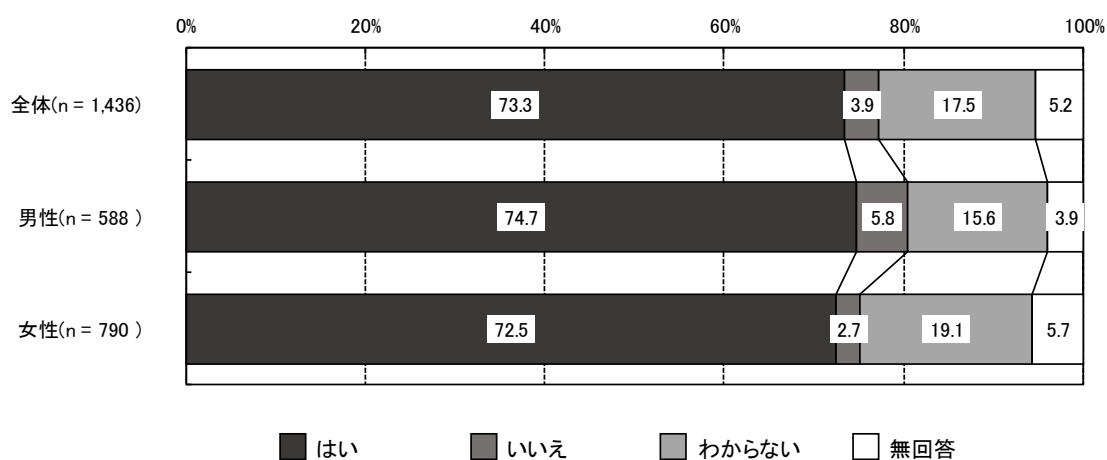
前々回・前回比較（図7-2）でみると、前々回・前回と同様に「はい」が最も高く、前回に比べて0.1ポイント増加している。「いいえ」は0.6ポイント減少している。

図7-2 【前々回・前回比較】 今後も岐阜県に住み続けたいか



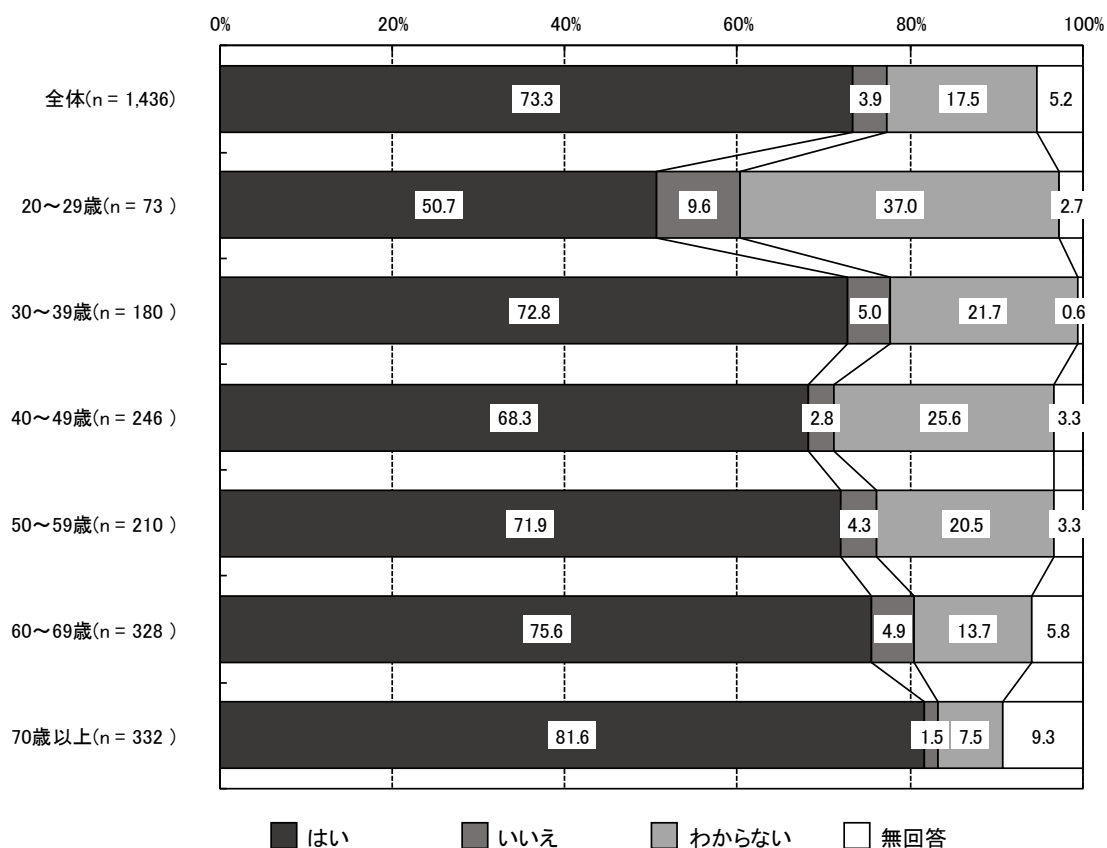
性別（図 7-3）でみると、男女ともに「はい」が最も高くなっており、男性が女性より 2.2 ポイント高くなっている。

図 7-3 【性別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



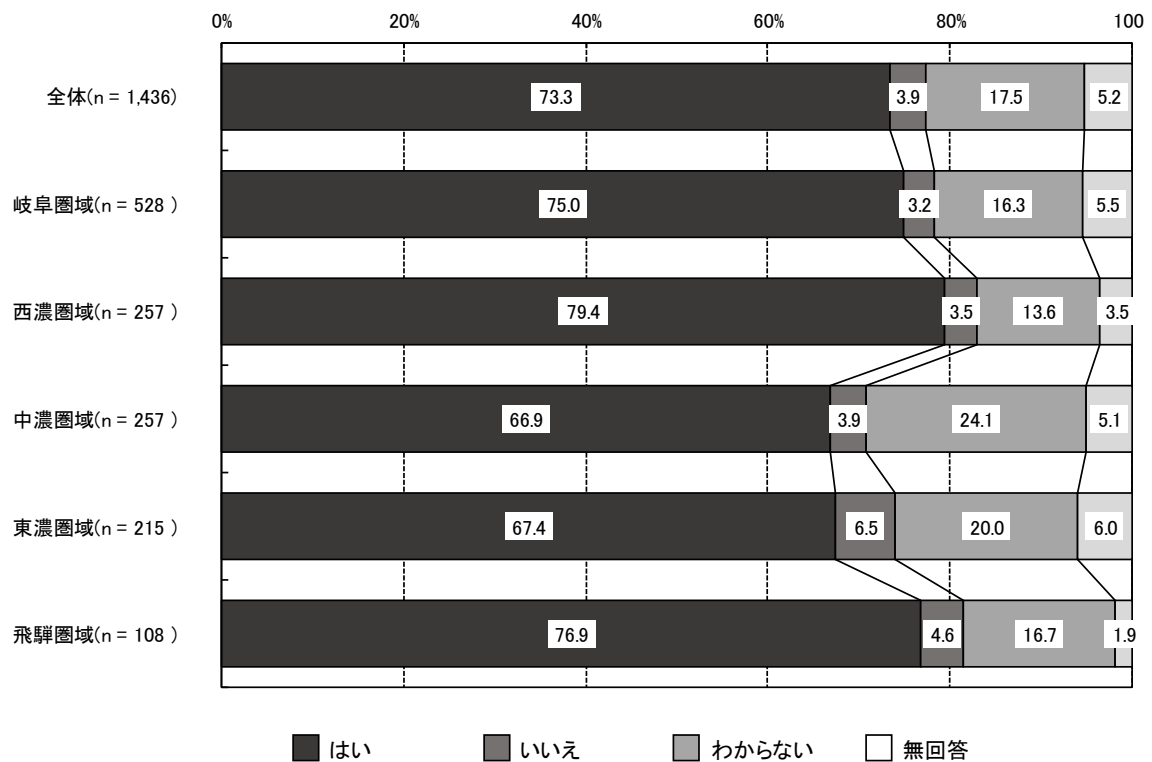
年代別（図 7-4）でみると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 81.6%と最も高くなっている。

図 7-4 【年代別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



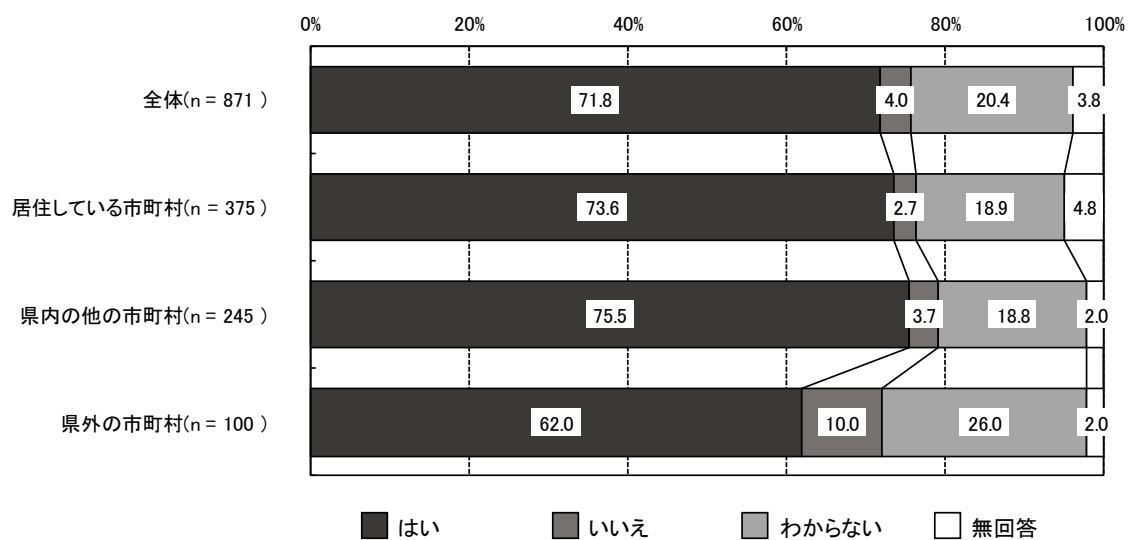
居住圏域別（図 7-5）でみると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち西濃圏域が 79.4%と最も高くなっている。

図 7-5 【居住圏域別】 今後も岐阜県に住みたいか



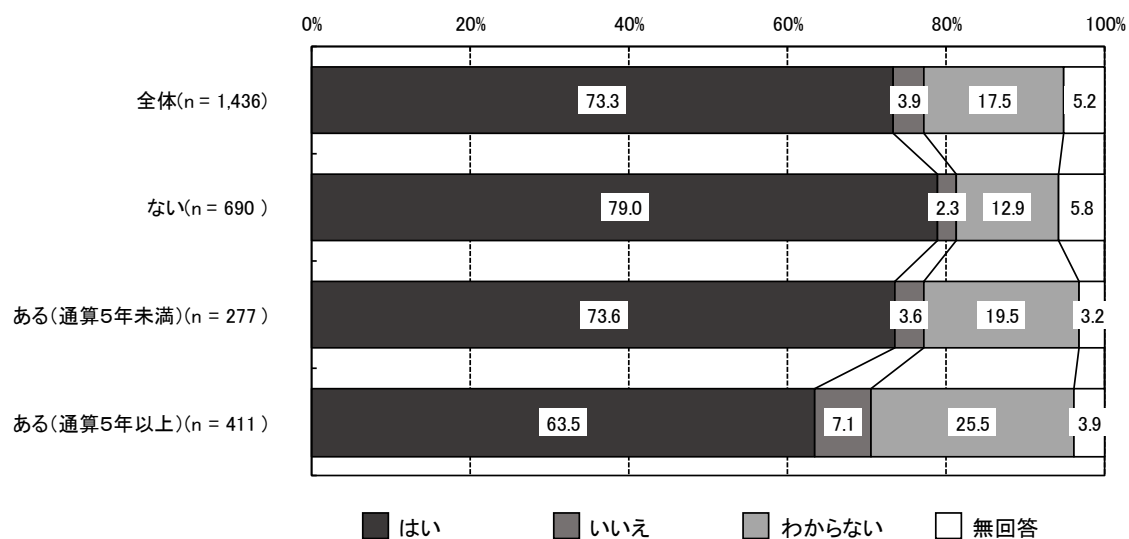
通勤、通学先別（図 7-6）でみると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち県内の他の市町村が 75.5%と最も高くなっている。

図 7-6 【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住みたいか



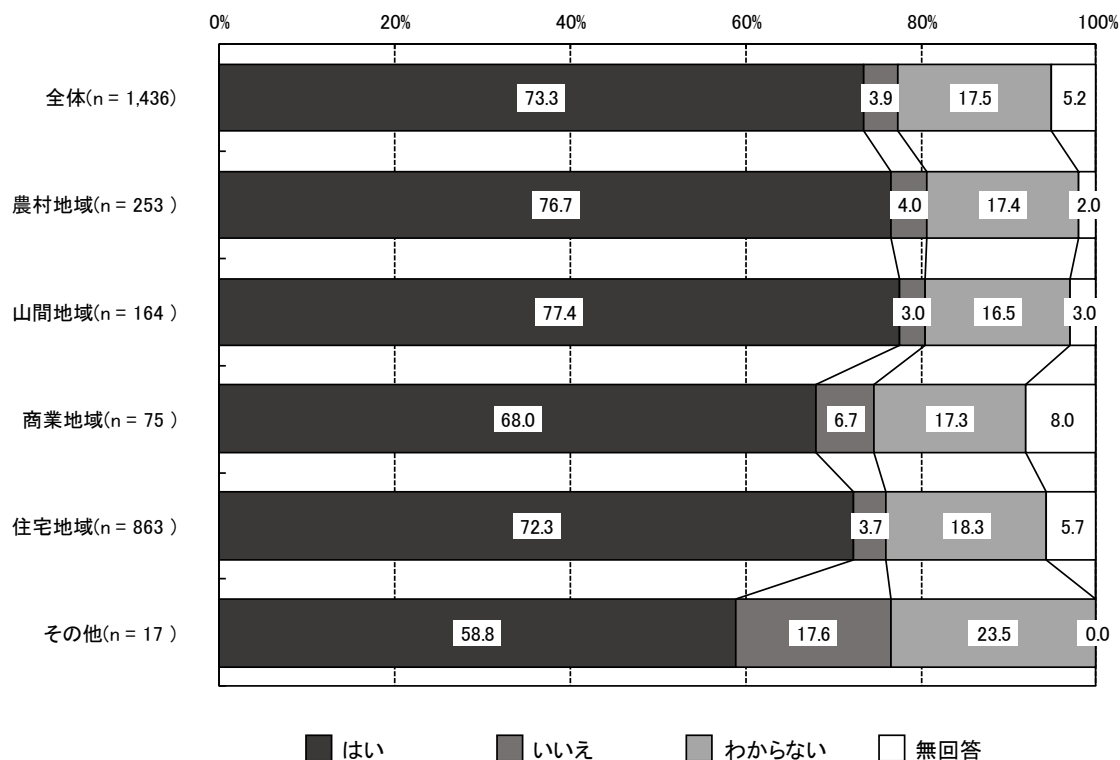
県外居住経験の有無別（図 7-7）でみると、県外居住経験がない人は、ある人と比べて「はい」が 79.0%と高くなっている。

図 7-7 【県外居住経験の有無別】 今後も岐阜県に住みたいか



居住環境別（図 7-8）でみると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高く、そのうち山間地域が 77.4%と最も高くなっている。

図 7-8 【居住環境別】 今後も岐阜県に住みたいか



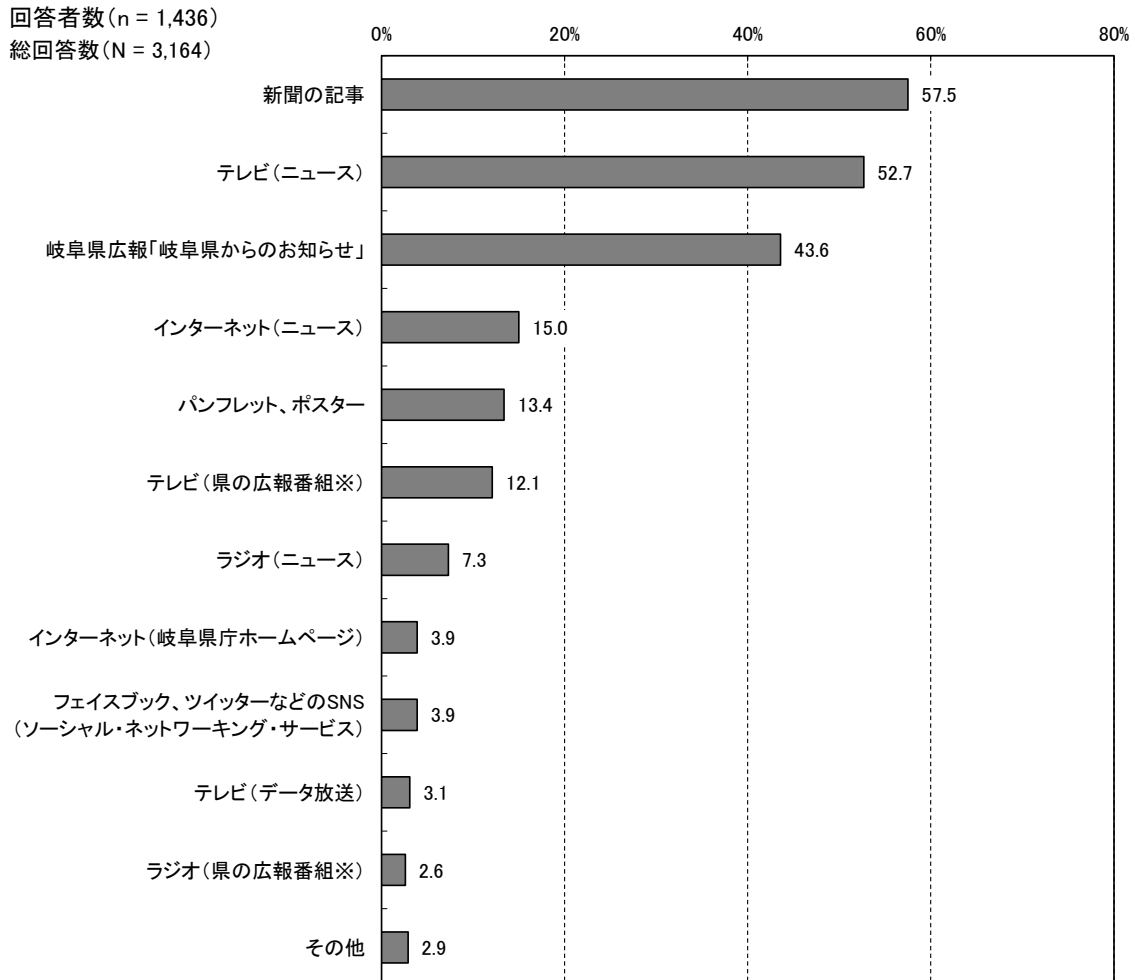
2. 2 県の取り組み全般について

問8 施策や事業についての情報の入手方法

問8 あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。
(いくつでも)

全体（図 8-1）でみると、「新聞の記事」が 57.5%と最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」（52.7%）、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」（43.6%）の順となっている。

図 8-1 施策や事業についての情報の入手方法



※ 県の広報番組：(テレビ)ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県政ほっとライン」「ぎふ県だより」

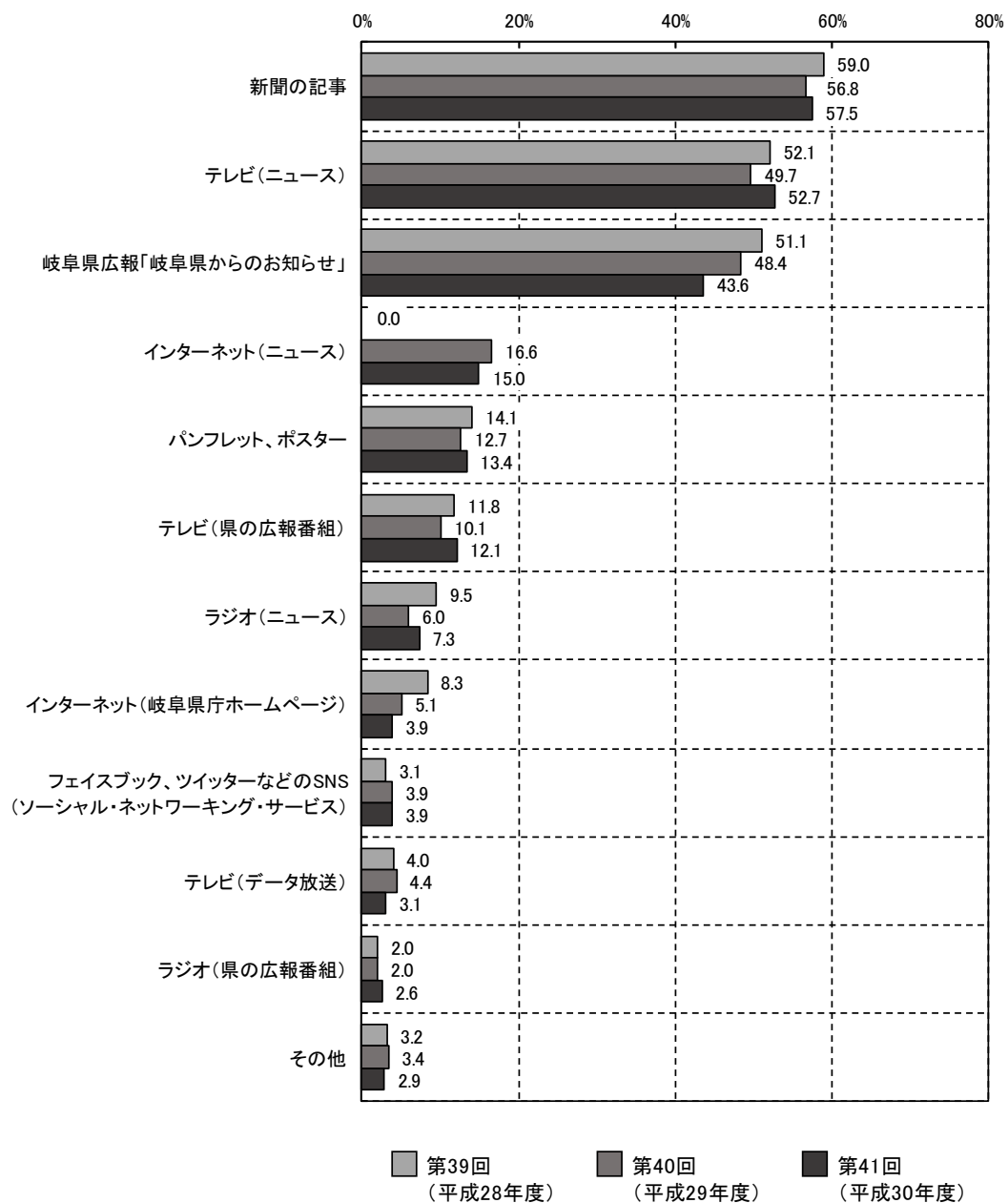
(ラジオ)エフエム岐阜「GIFU インフォメーション」「ギフトピ」

ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県だより」「週刊ぎふタイム」

※ 選択肢、「インターネット(ニュース)」は第 40 回調査より

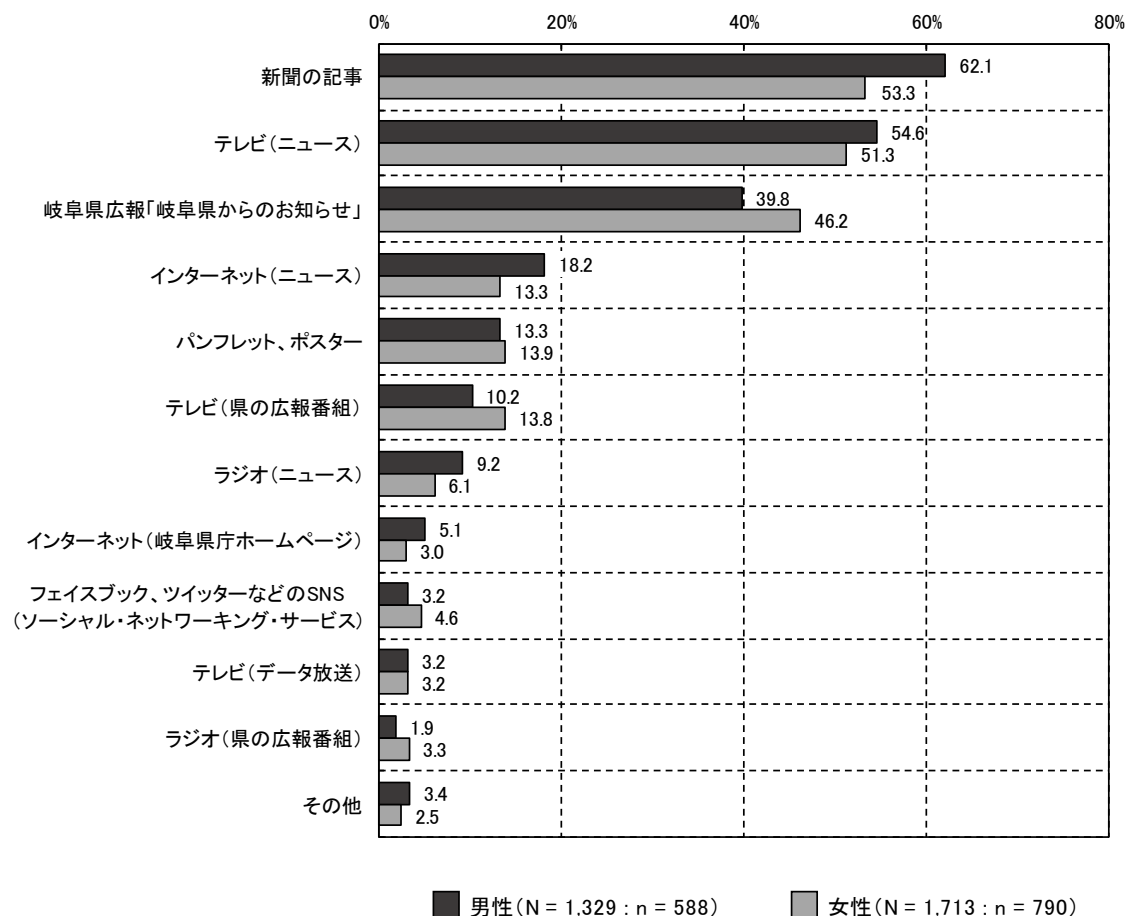
前々回・前回比較（図 8-2）でみると、前々回・前回と同様に「新聞の記事」が最も高く、次いで「テレビ（ニュース）」、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」の順となっている。

図 8-2 【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）でみると、男女ともに「新聞の記事」が最も高く、男性が女性より 8.8 ポイント高くなっている。次いで「テレビ（ニュース）」となっている。女性は「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」が、男性より 6.4 ポイント高くなっている。

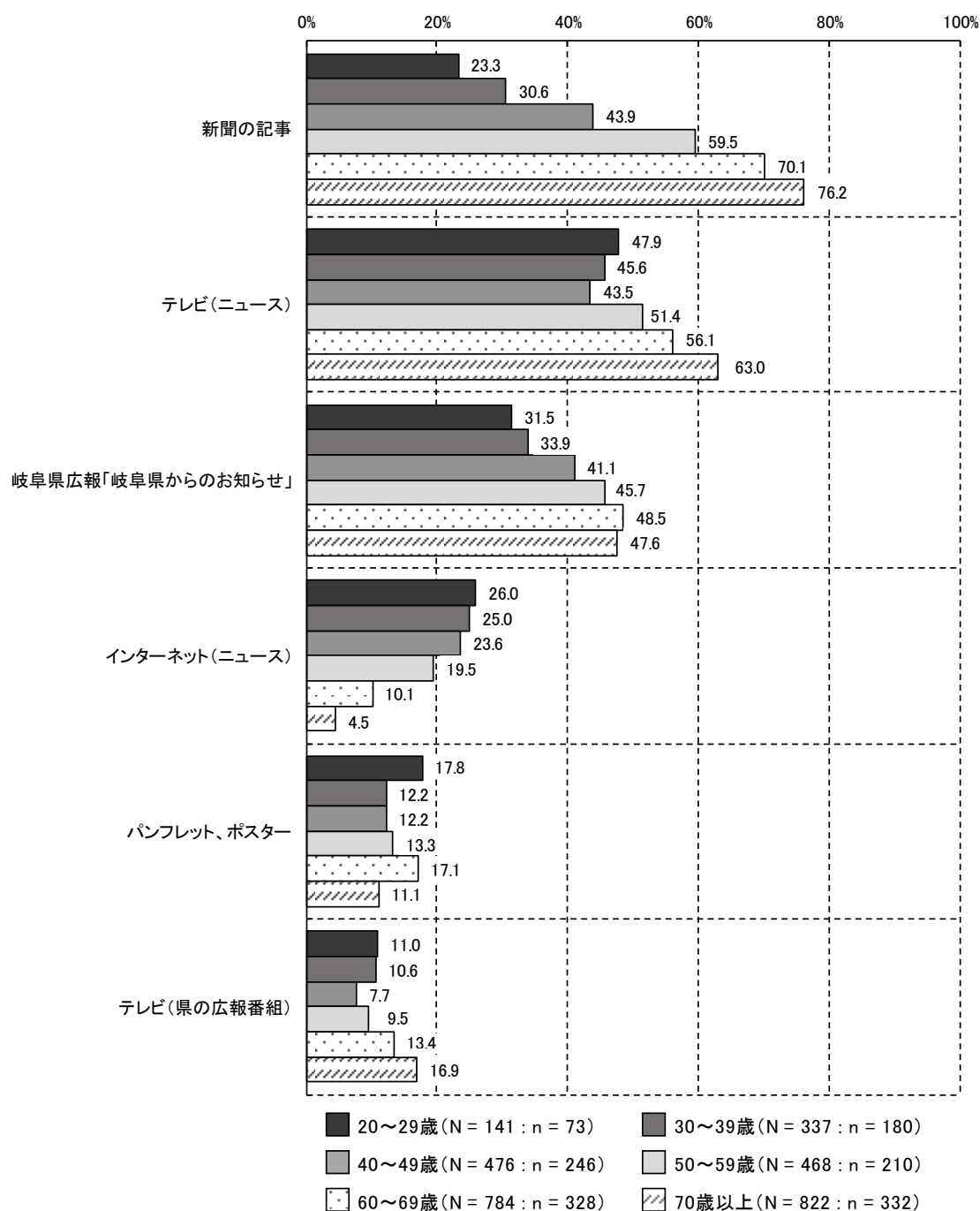
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

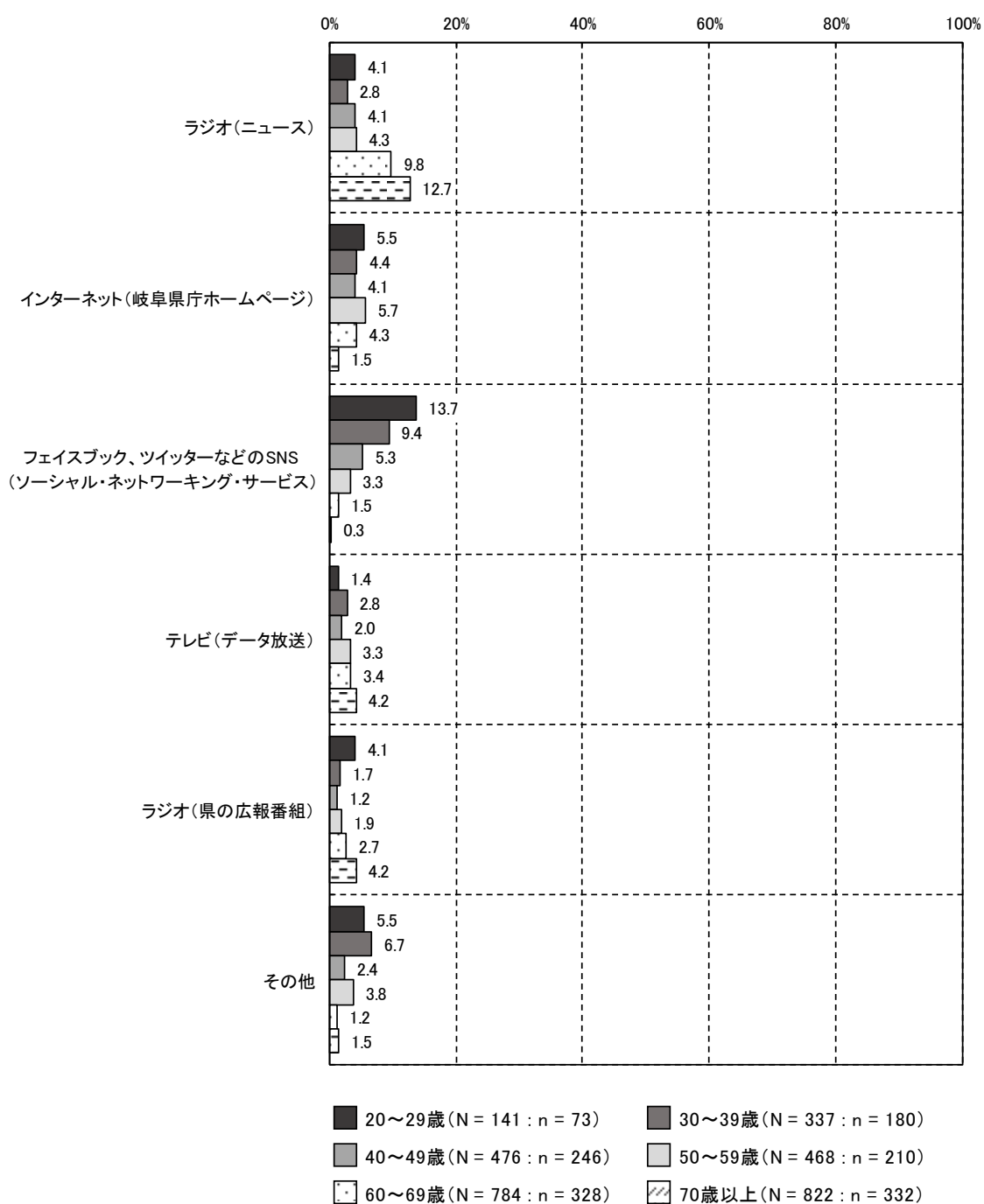
年代別（図 8-4）でみると、20 歳代、30 歳代を除くいずれの年代においても「新聞の記事」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 76.2%と最も高くなっている。20 歳代、30 歳代では「テレビ（ニュース）」が最も高くなっており、そのうち 20 歳代が 47.9%と最も高くなっている。

図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

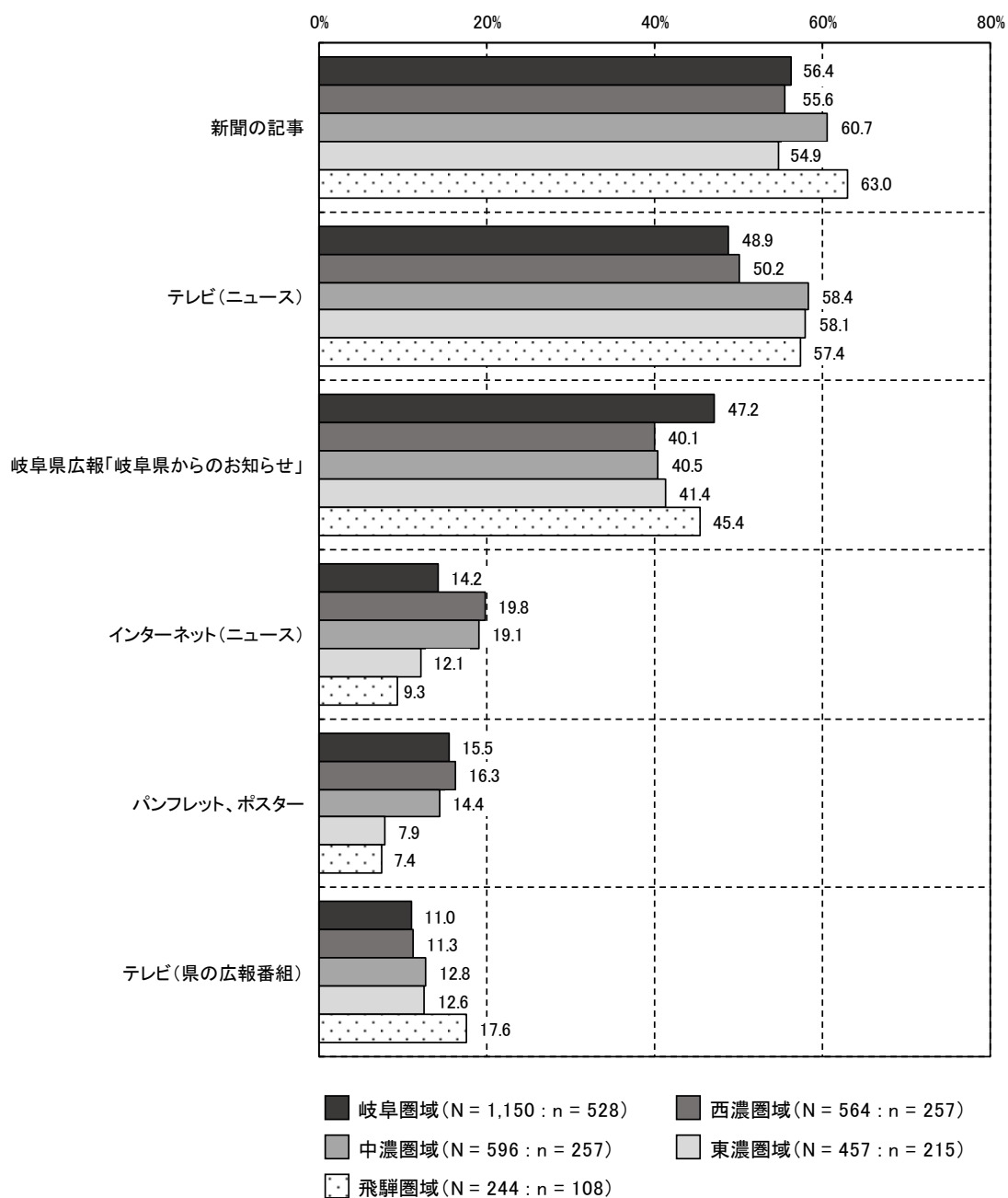
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

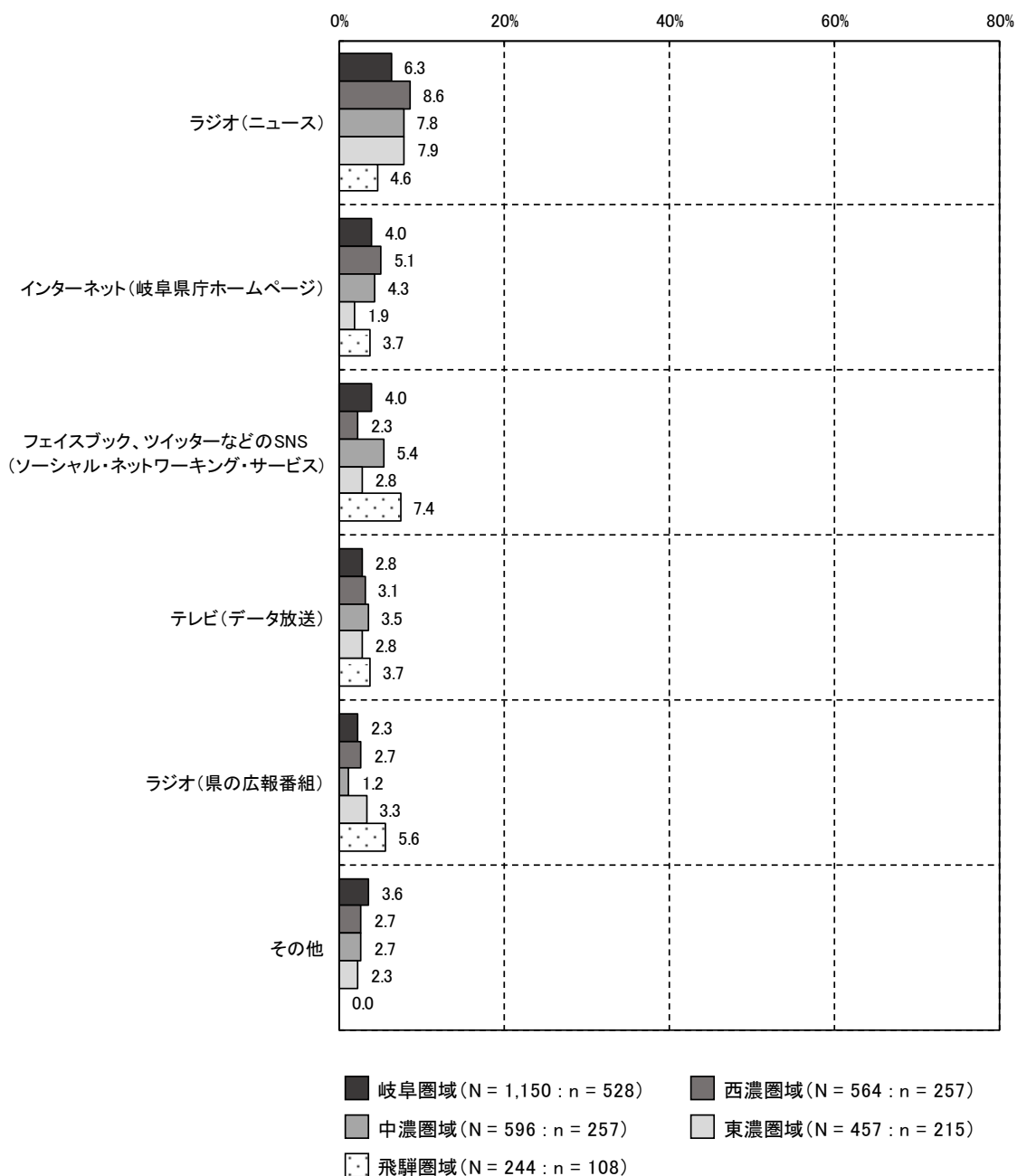
居住圏域別（図 8-5）でみると、東濃圏域を除くいずれの居住圏域においても「新聞の記事」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 63.0%と最も高くなっている。東濃圏域では「テレビ（ニュース）」が 58.1%と最も高くなっている。

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

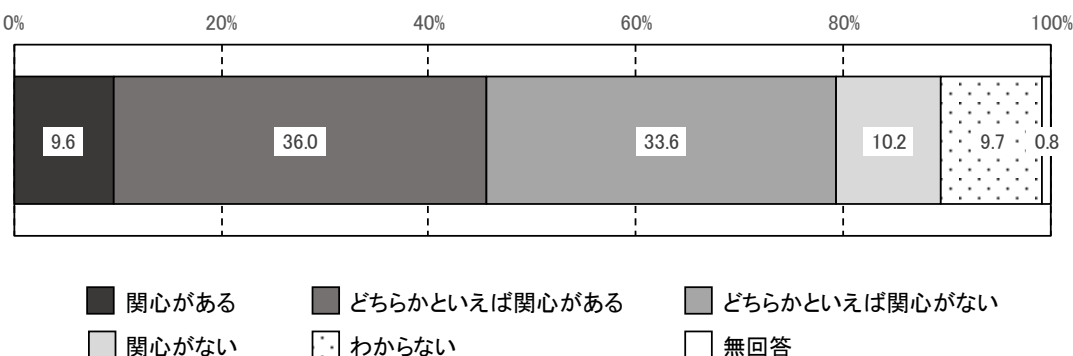
問9 県事業への関心の有無

問9 あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。
(1つだけ)

全体(図9-1)でみると、「どちらかといえば関心がある」が36.0%と最も高く、次いで「どちらかとかえれば関心がない」(33.6%)、「関心がない」(10.2%)の順となっている。

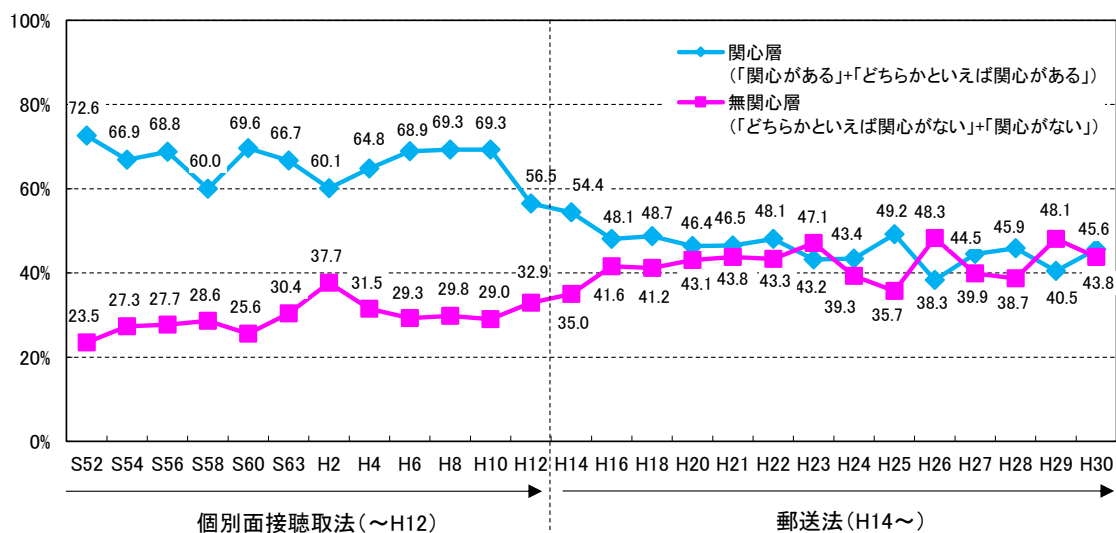
図9-1 県事業への関心の有無

回答者数(n = 1,436)



経年変化(図9-2)でみると、前回に比べて「関心層」(「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」)は5.1ポイント増加し、「無関心層」(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)は4.3ポイント減少しており、「関心層」が「無関心層」を逆転している。

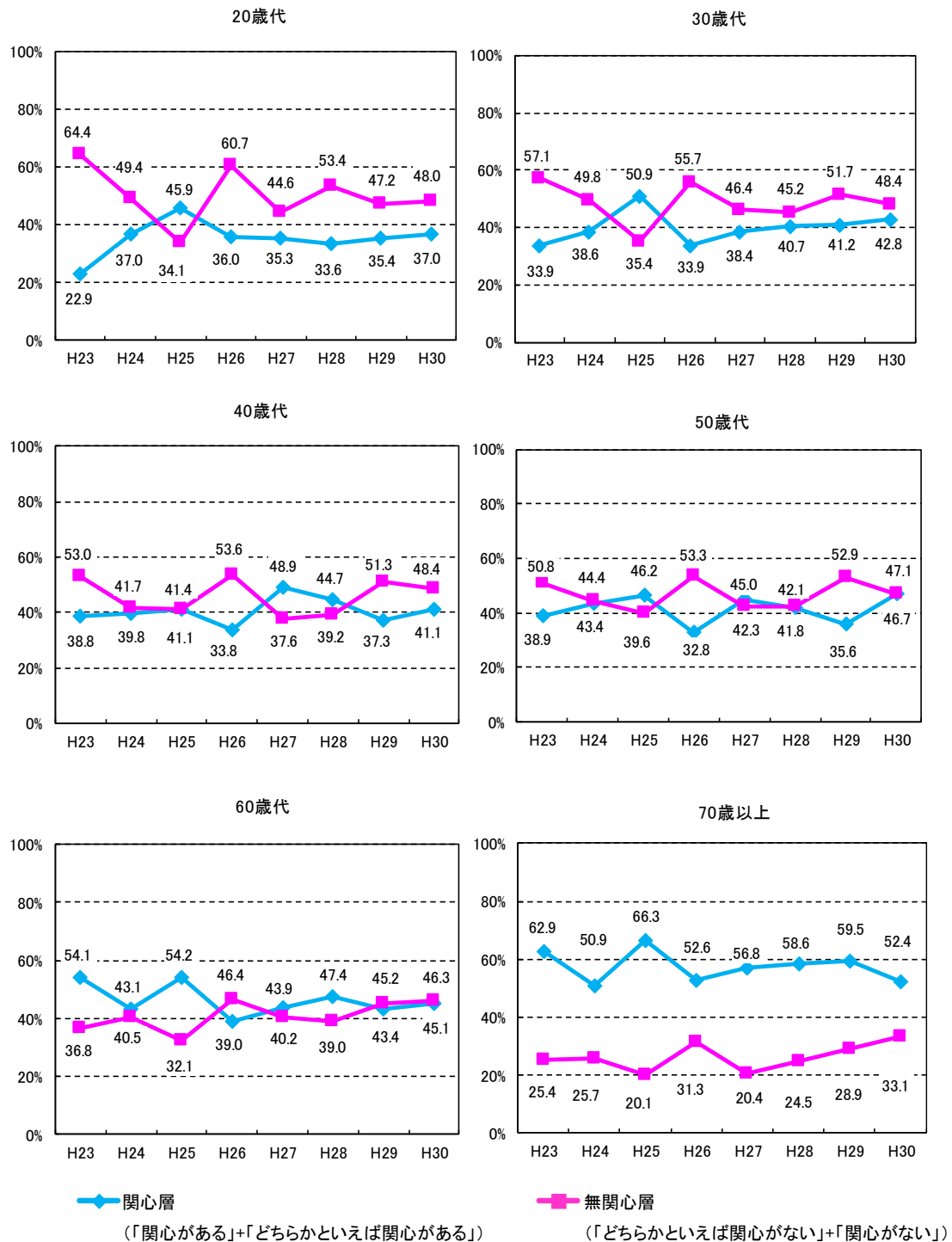
図9-2【経年変化】県事業への関心の有無



※ 調査方法:平成12年度まで個別面接聴取法、平成14年度から郵送法

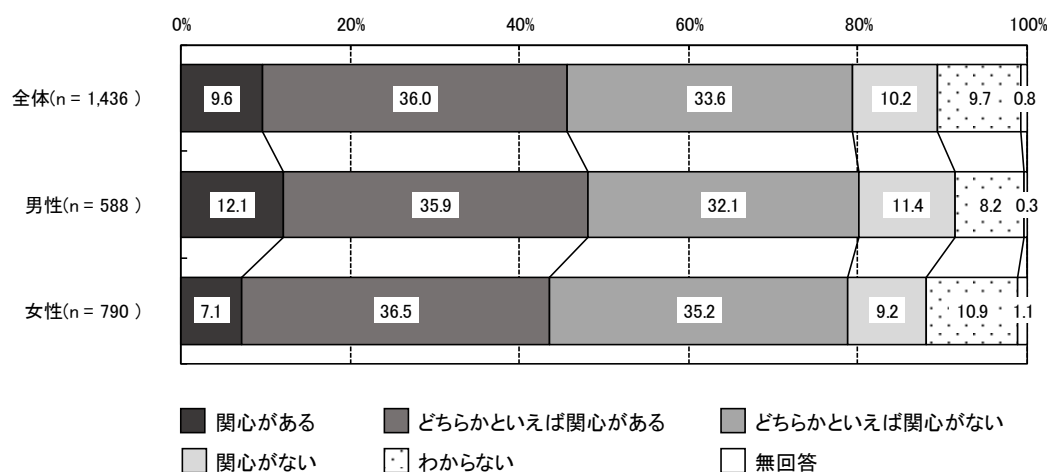
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、前回に比べ、70 歳以上を除いたいずれの年代でも「関心層」が増加した。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっていくが、「関心層」が 7.1 ポイント減少した。

図 9-3 【経年変化(年代別)】 県事業への関心の有無



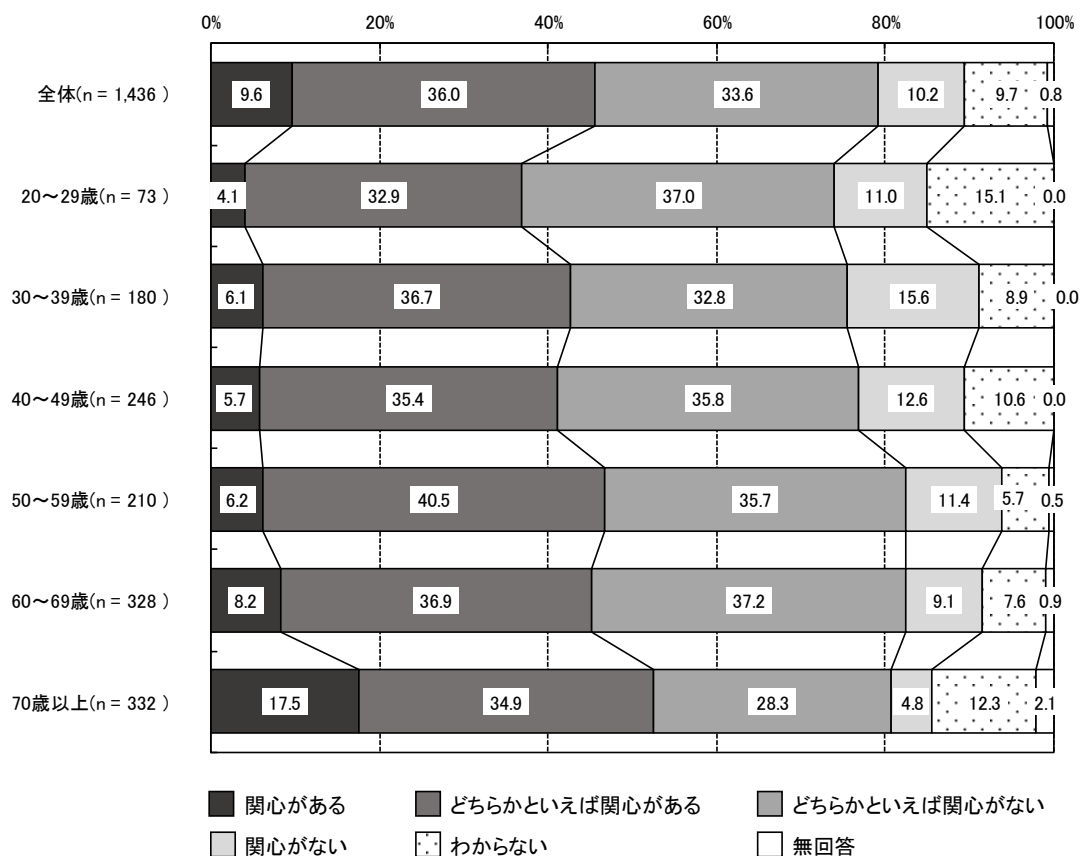
性別（図 9-4）でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっており、次いで「どちらかといえば関心がない」となっている。「関心がある」では、男性が女性より 5 ポイント高くなっている。

図 9-4 【性別】 県事業への関心の有無



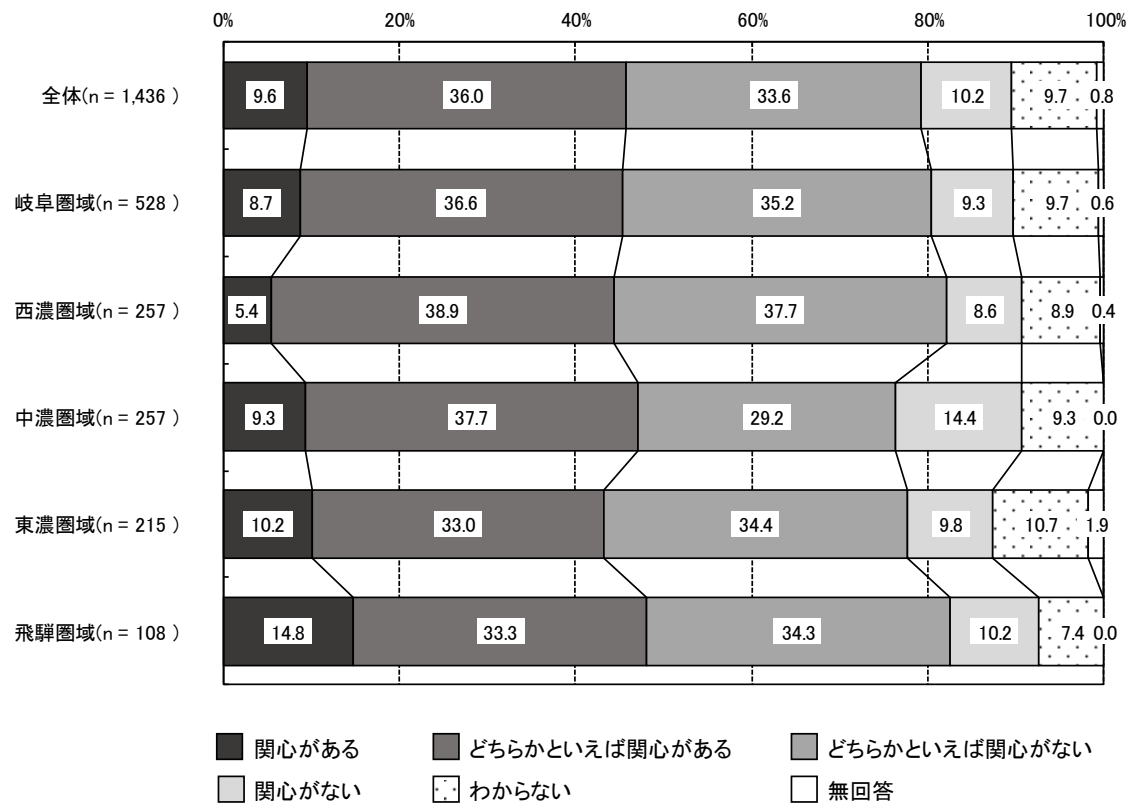
年代別（図 9-5）でみると、30 歳代、50 歳代、70 歳以上で「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち 50 歳代が 40.5%と最も高くなっている。20 歳代、40 歳代、60 歳代では「どちらかといえば関心がない」が最も高く、そのうち 60 歳代が 37.2%と最も高くなっている。「関心がある」では 70 歳以上が 17.5%と他の年代と比べて高くなっている。

図 9-5 【年代別】 県事業への関心の有無



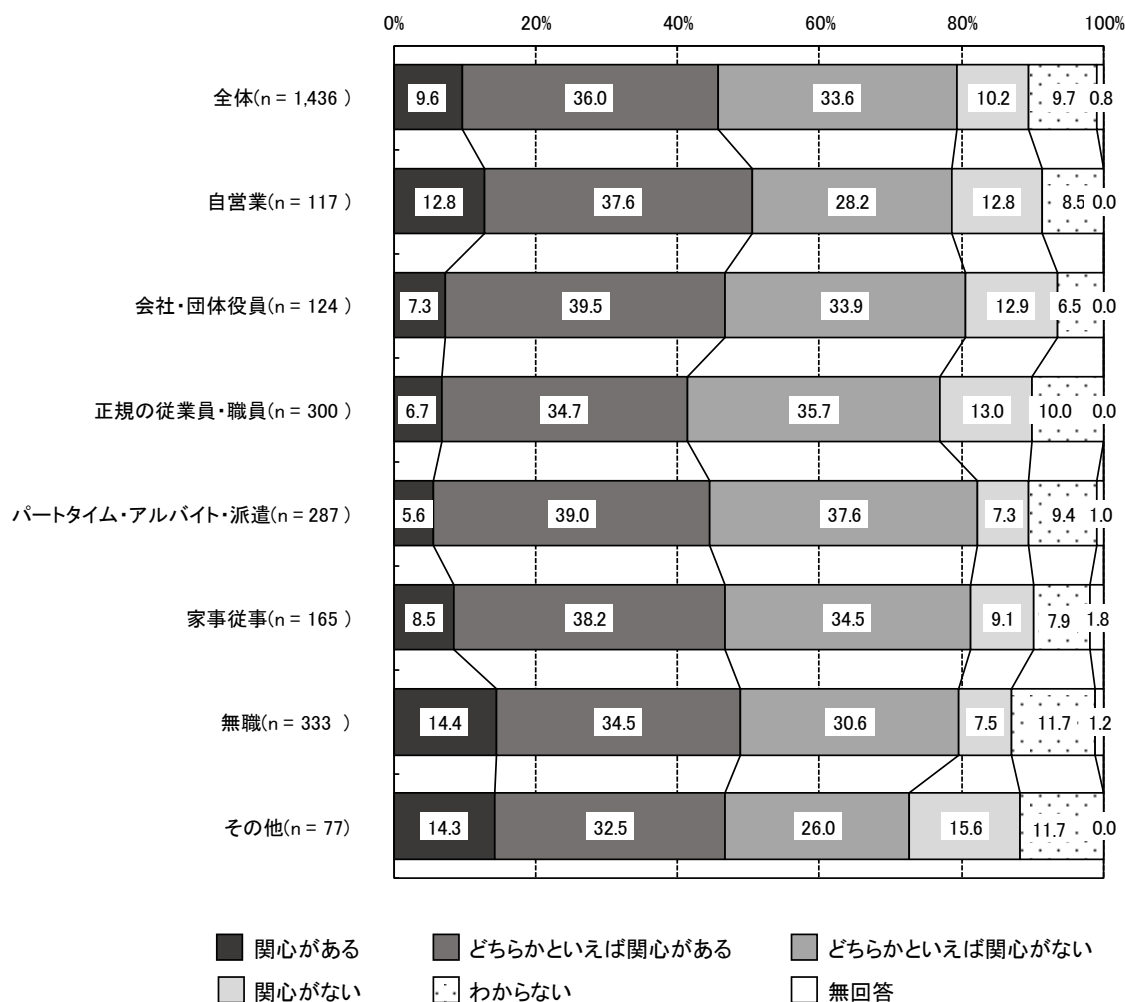
居住圏域別（図 9-6）でみると、岐阜圏域、西濃圏域、中濃圏域においては「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち西濃圏域が 38.9%と最も高くなっている。東濃圏域、飛騨圏域においては、「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-6 【居住圏域別】 県事業への関心の有無



職業別（図 9-7）でみると、正規の従業員・職員を除くいずれの職業においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち会社・団体役員が 39.5%と最も高くなっている。正規の従業員・職員では「どちらかといえば関心がない」が 35.7%と最も高くなっている。

図 9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



※ その他には、自由業、学生を含む

問9-2 県事業に関心がない理由

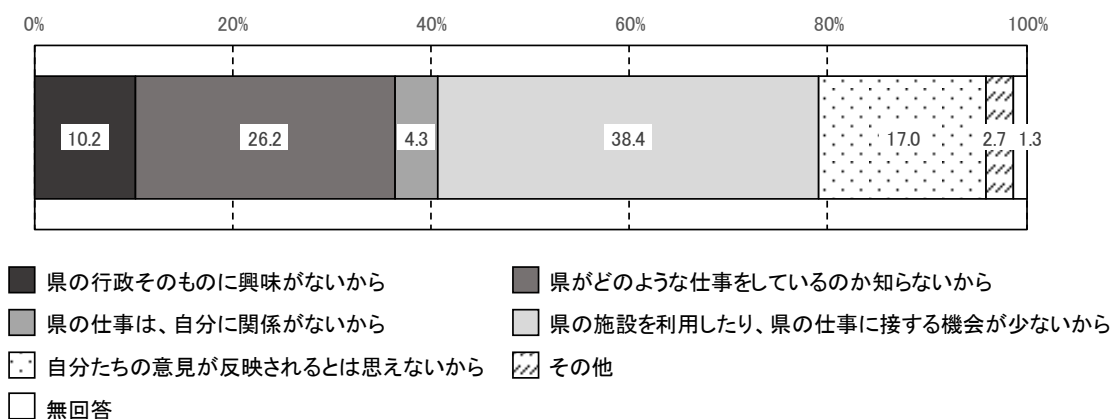
問9-2 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。

あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、どのような理由からですか。（1つだけ）

全体（図9-2-1）でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が38.4%と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」（26.2%）、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」（17.0%）の順となっている。

図9-2-1 県事業に関心がない理由

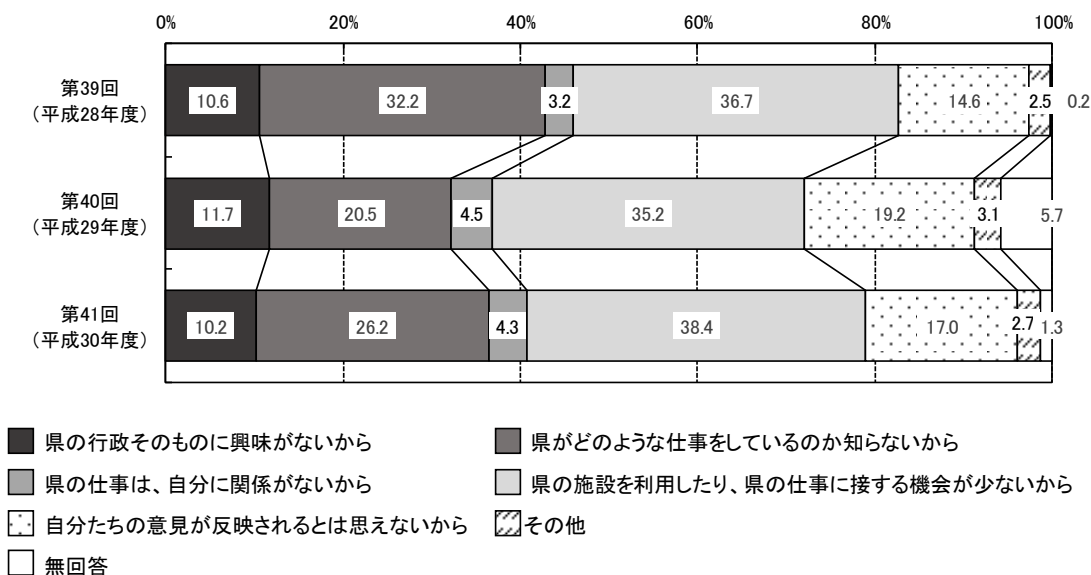
回答者数(n = 630)※



※ 問9で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

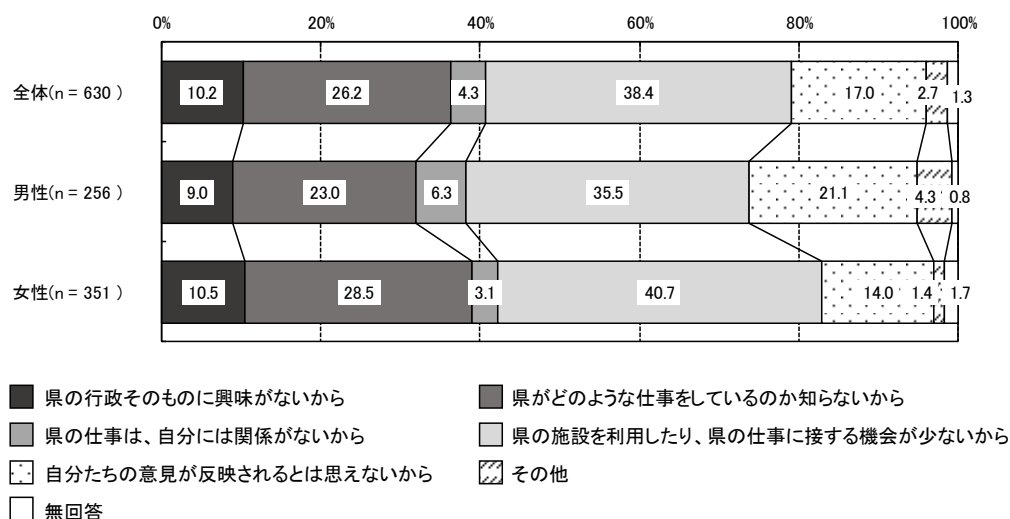
前々回・前回比較（図9-2-2）でみると、前々回・前回と同様に「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が38.4%と最も高くなっている。

図9-2-2 【前々回・前回比較】 県事業に関心がない理由



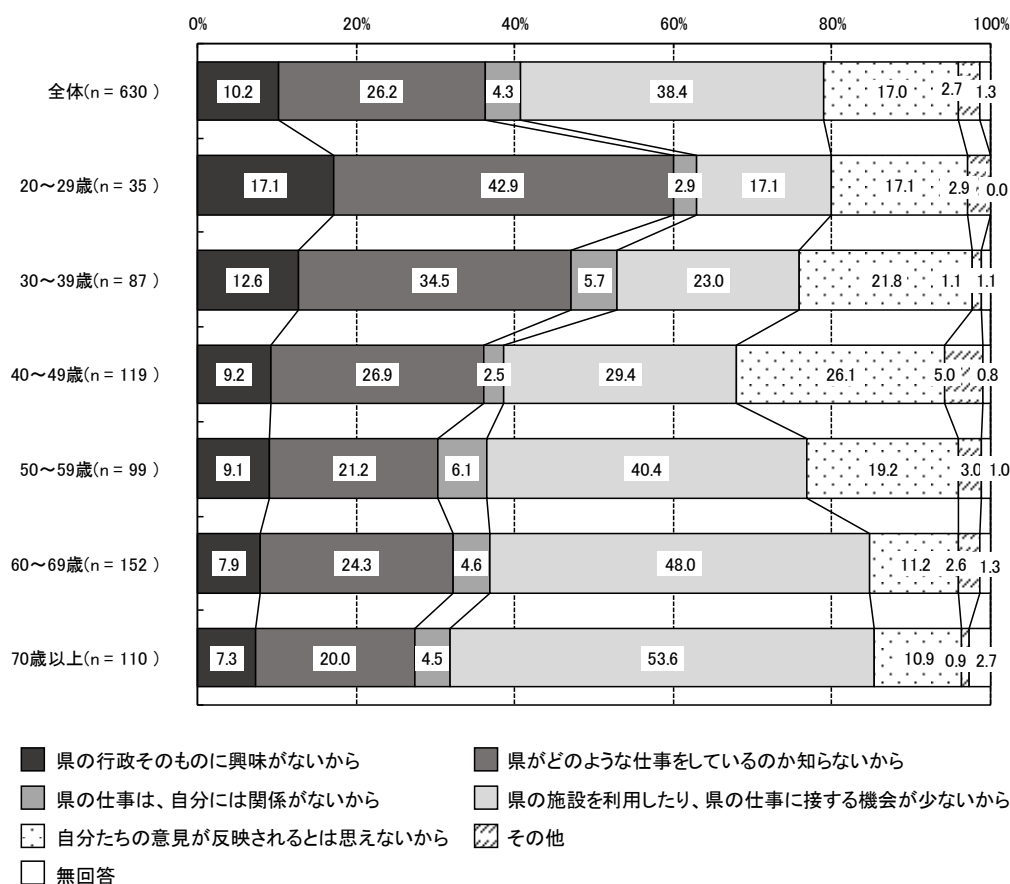
性別（図 9-2-3）でみると、男女ともに「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、女性が男性より 5.2 ポイント高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



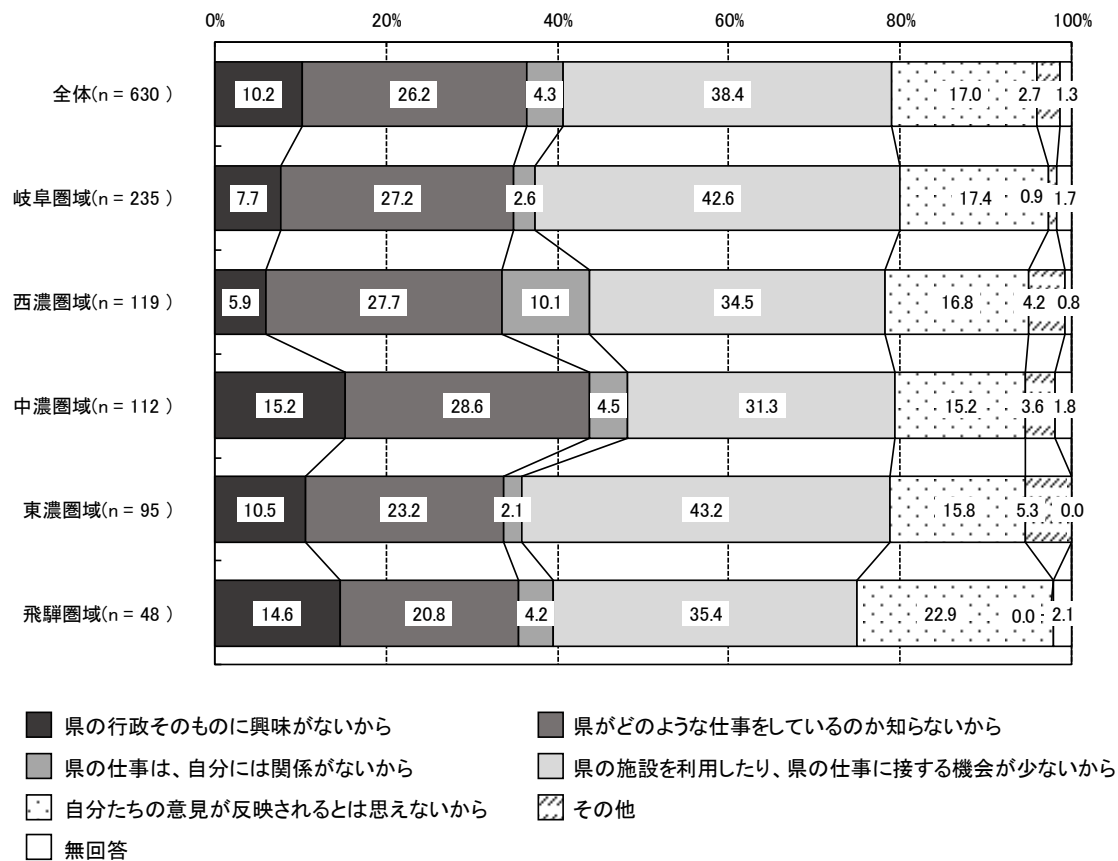
年代別（図 9-2-4）でみると、20 歳代と 30 歳代を除くいずれの年代においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 53.6%と最も高くなっている。20 歳代と 30 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」がそれぞれ最も高く、そのうち 20 歳代が 42.9%と最も高くなっている。

図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



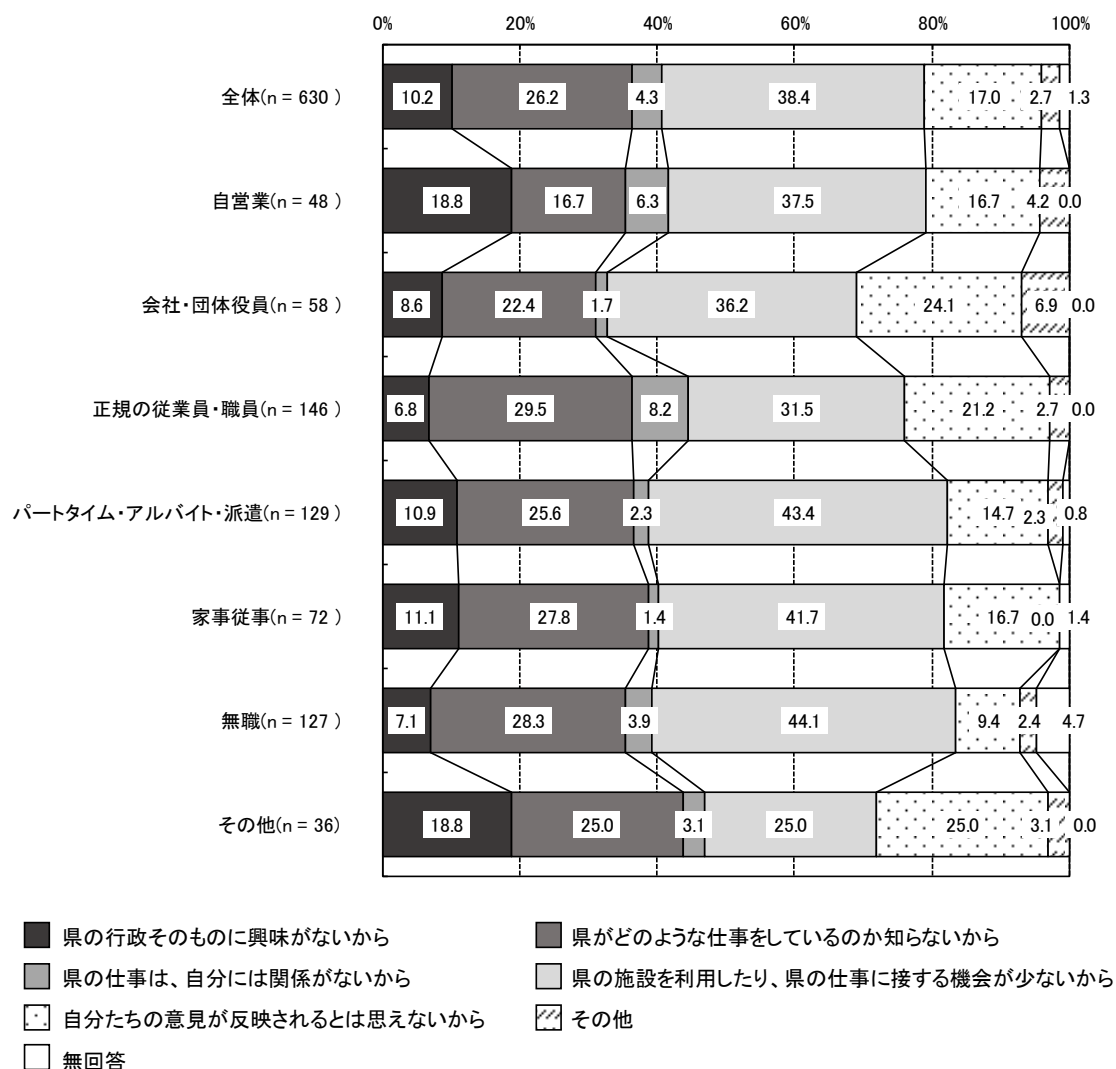
居住圏域別（図 9-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち東濃圏域が 43.2%と最も高くなっている。

図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由



職業別（図 9-2-6）でみると、その他を除くいずれの職業においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち無職が 44.1%と最も高くなっている。

図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由



※ その他には、自由業、学生を含む

問10 県の取り組みでよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

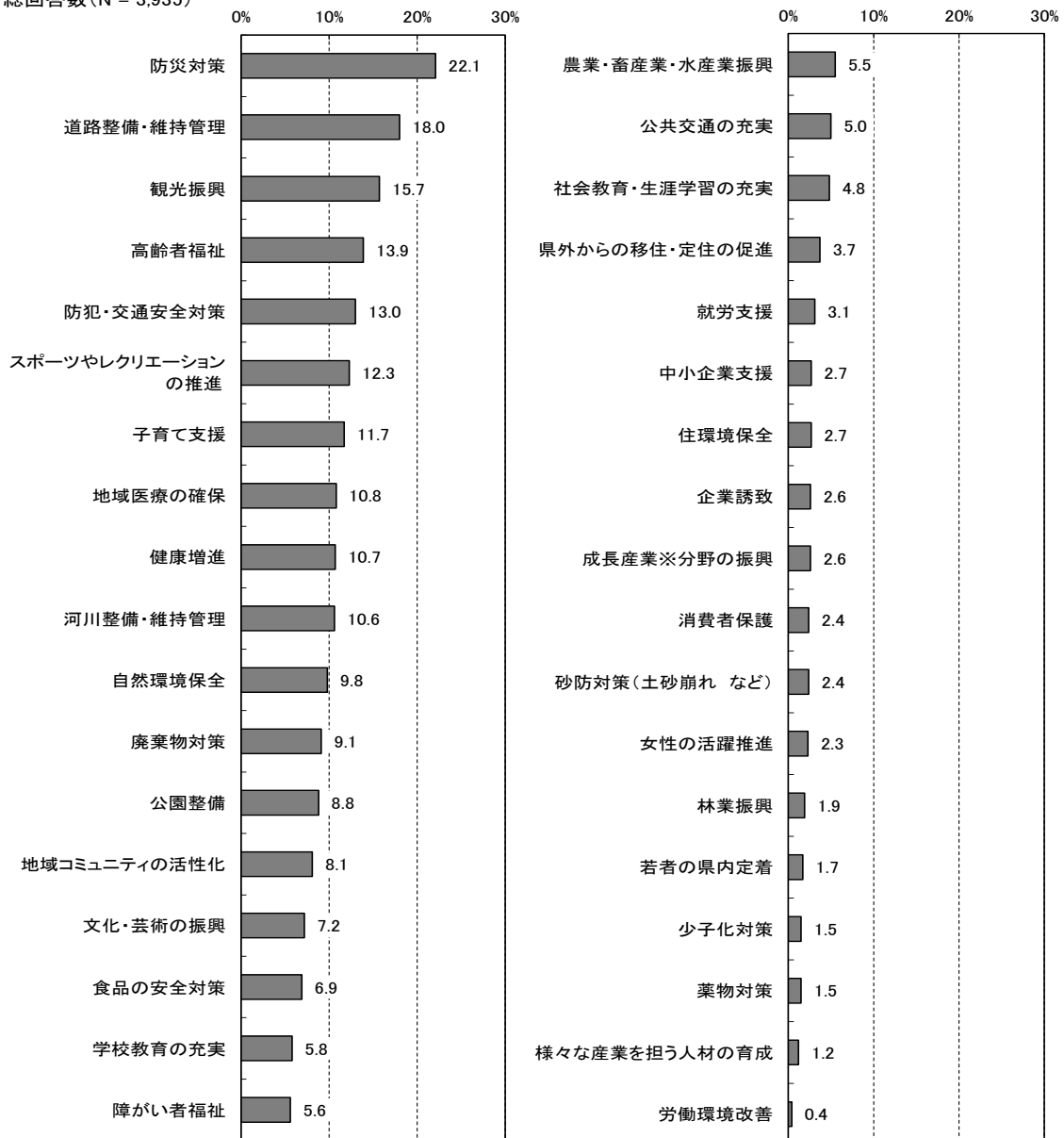
問10 あなたが、県の取り組みについてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。
また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。(それぞれ5つまで)

【県の取り組みでよくやっていると思う分野】

全体（図10-1）でみると、「防災対策」が22.1%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」（18.0%）、「観光振興」（15.7%）の順となっている。

図10-1 県の取り組みでよくやっていると思う分野

回答者数(n = 1,436)
総回答数(N = 3,935)



※ 成長産業: 岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている。(H30年度現在)

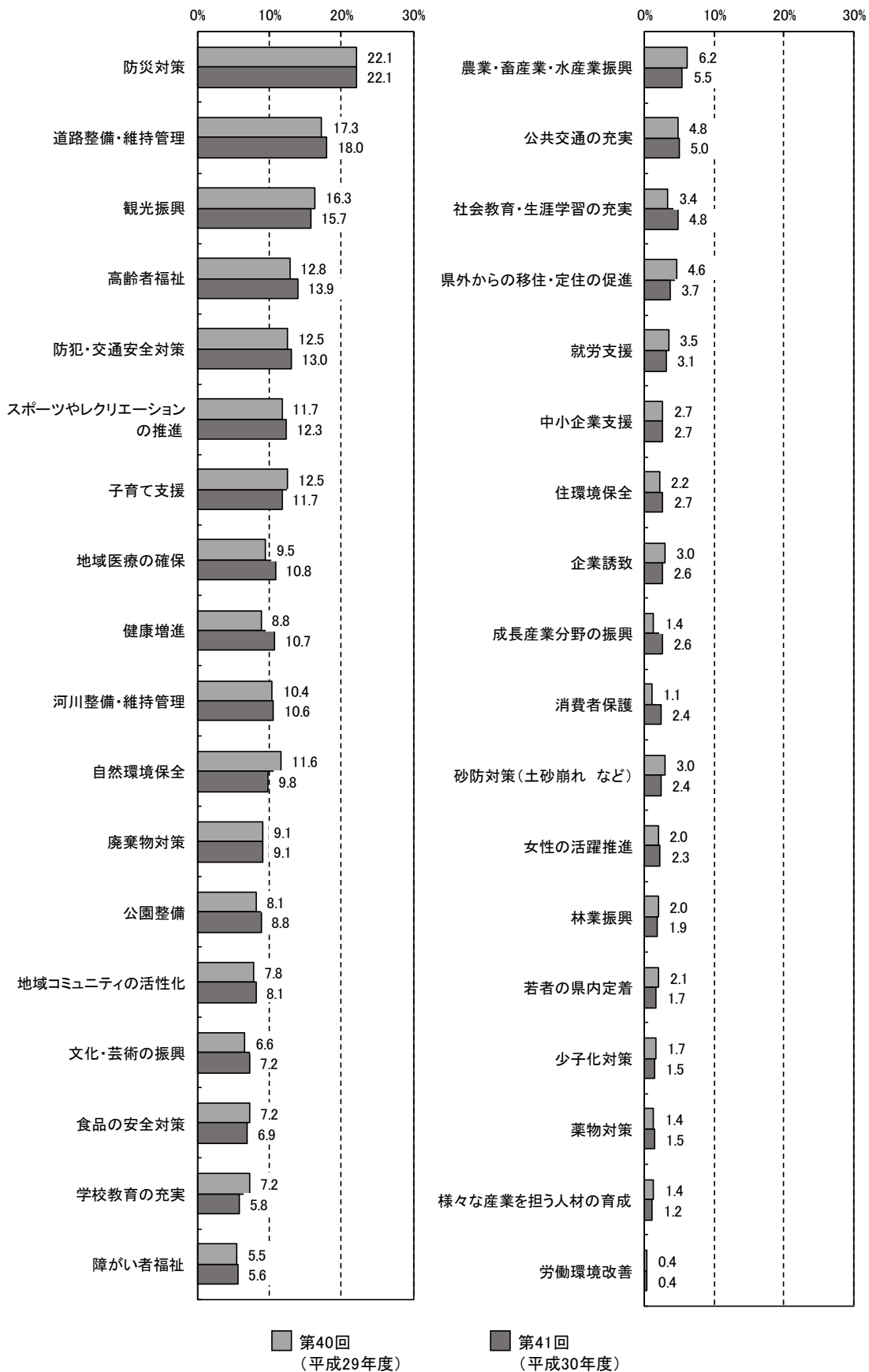
※ 第39回調査では、選択肢が13分野で3つまでの選択であった。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

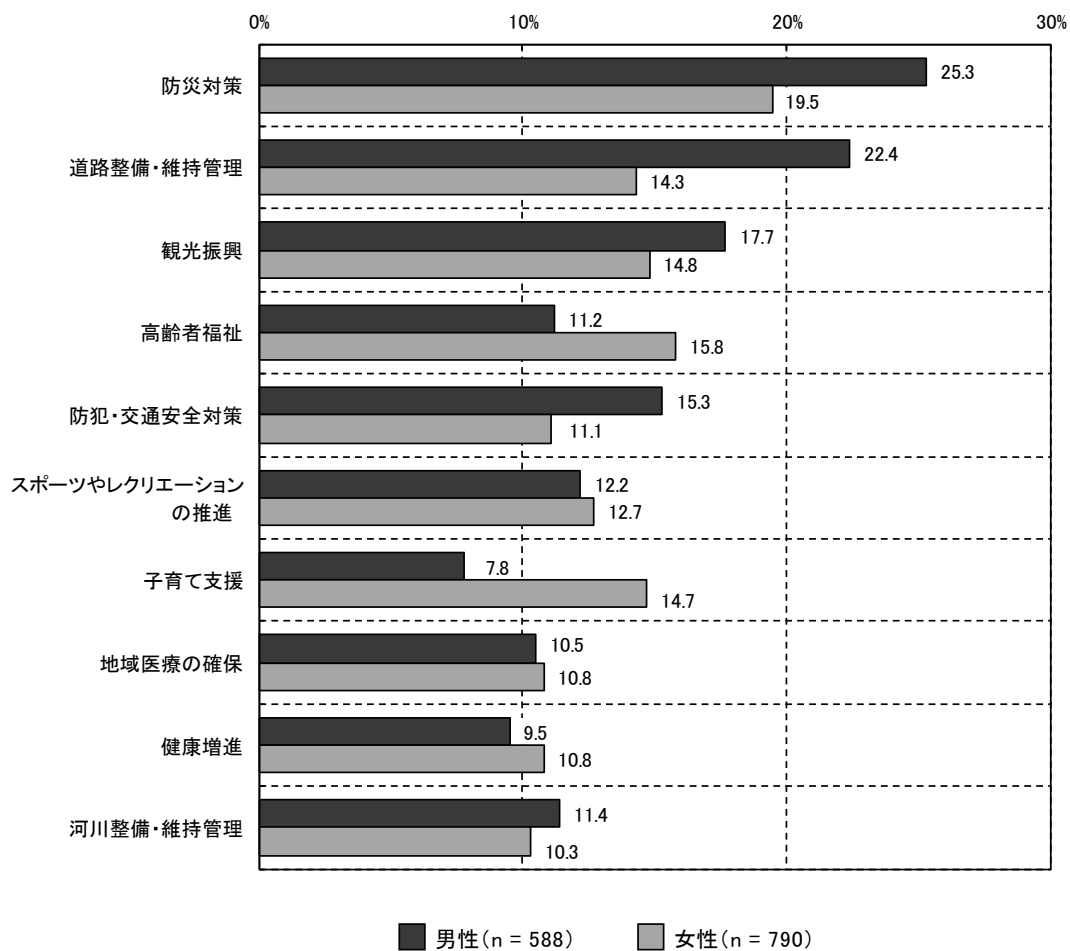
前回比較（図 10-2）でみると、前回と同様に「防災対策」が 22.1%と最も高く、次いで「道路整備・維持管理」（18.0%）、「観光振興」（15.7%）の順となっている。

図 10-2 【前回比較】 県の取り組みでよくやっていると思う分野



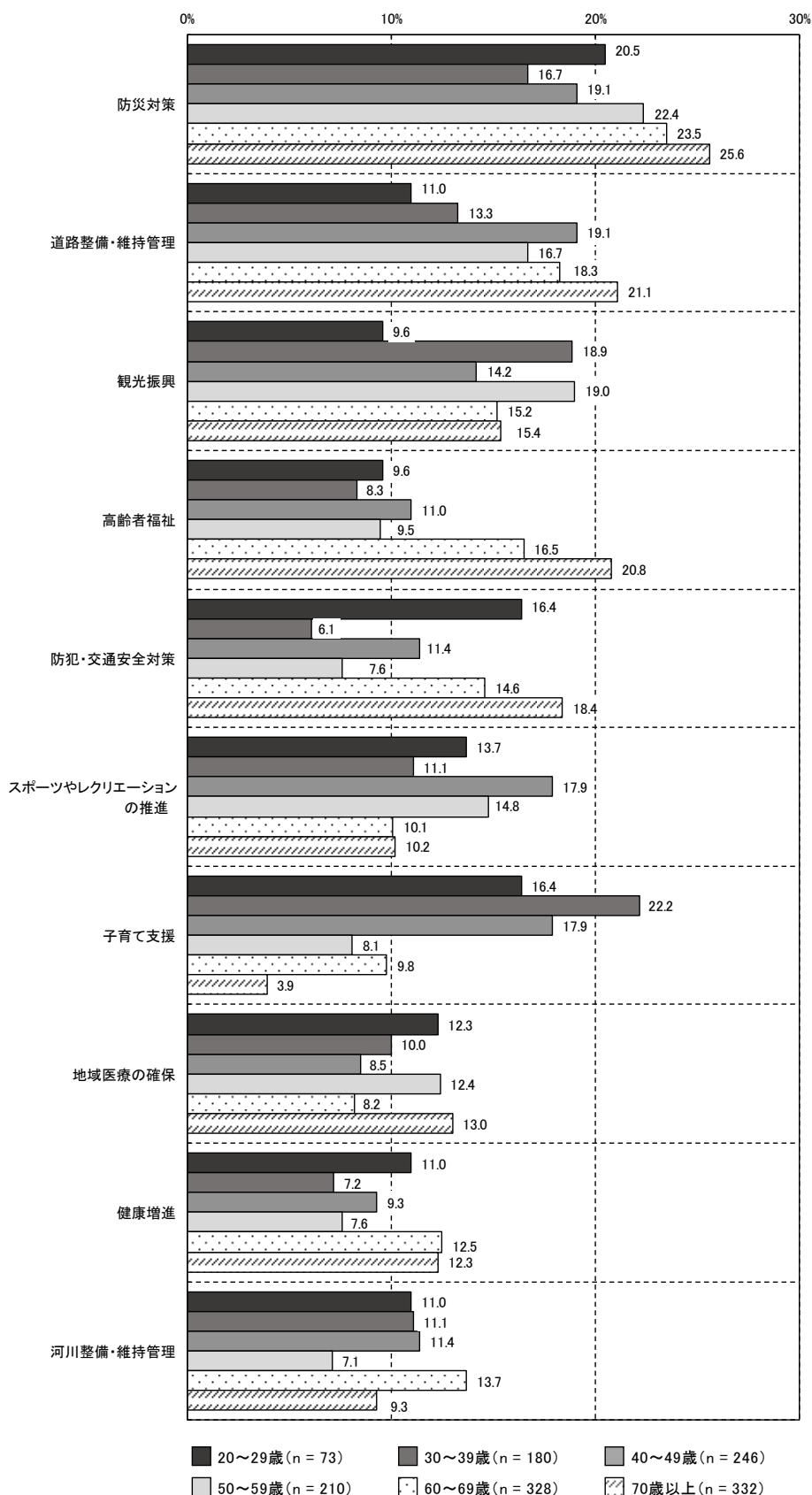
性別（図 10-3）でみると、男女ともに「防災対策」が最も高く、男性が女性より 5.8 ポイント高くなっている。「道路整備・維持管理」では、男性が女性より 8.1 ポイント、「子育て支援」では、女性が男性より 6.9 ポイント、それぞれ高くなっている。

図 10-3 【性別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



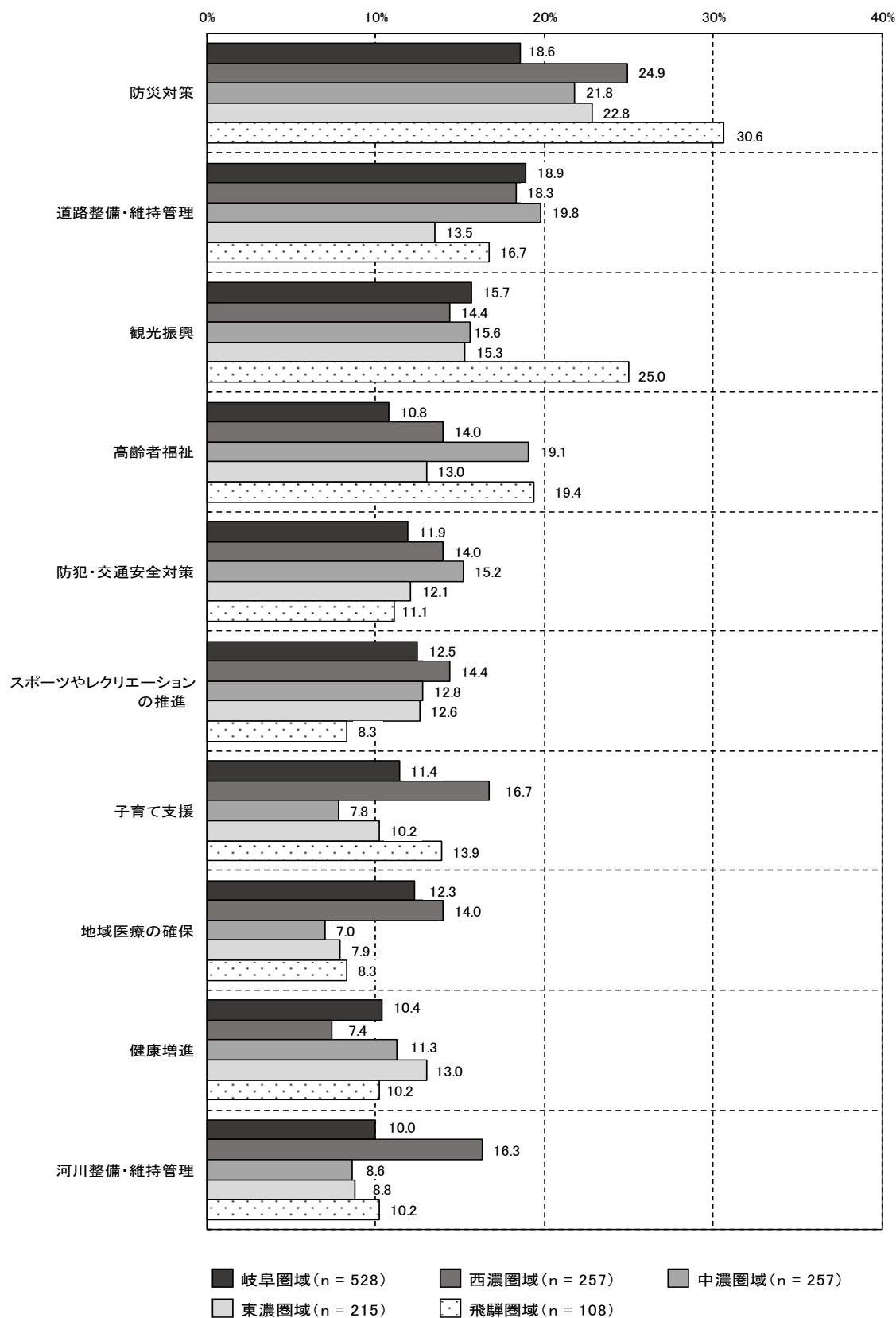
年代別（図 10-4）でみると、30 歳代を除く全ての年代で「防災対策」が最も高く（40 歳代は「防災対策」と「道路整備・維持管理」がともに 19.1%）、そのうち 70 歳以上が 25.6%と最も高くなっている。30 歳代は「子育て支援」が 22.2%と最も高くなっている。

図 10-4 【年代別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



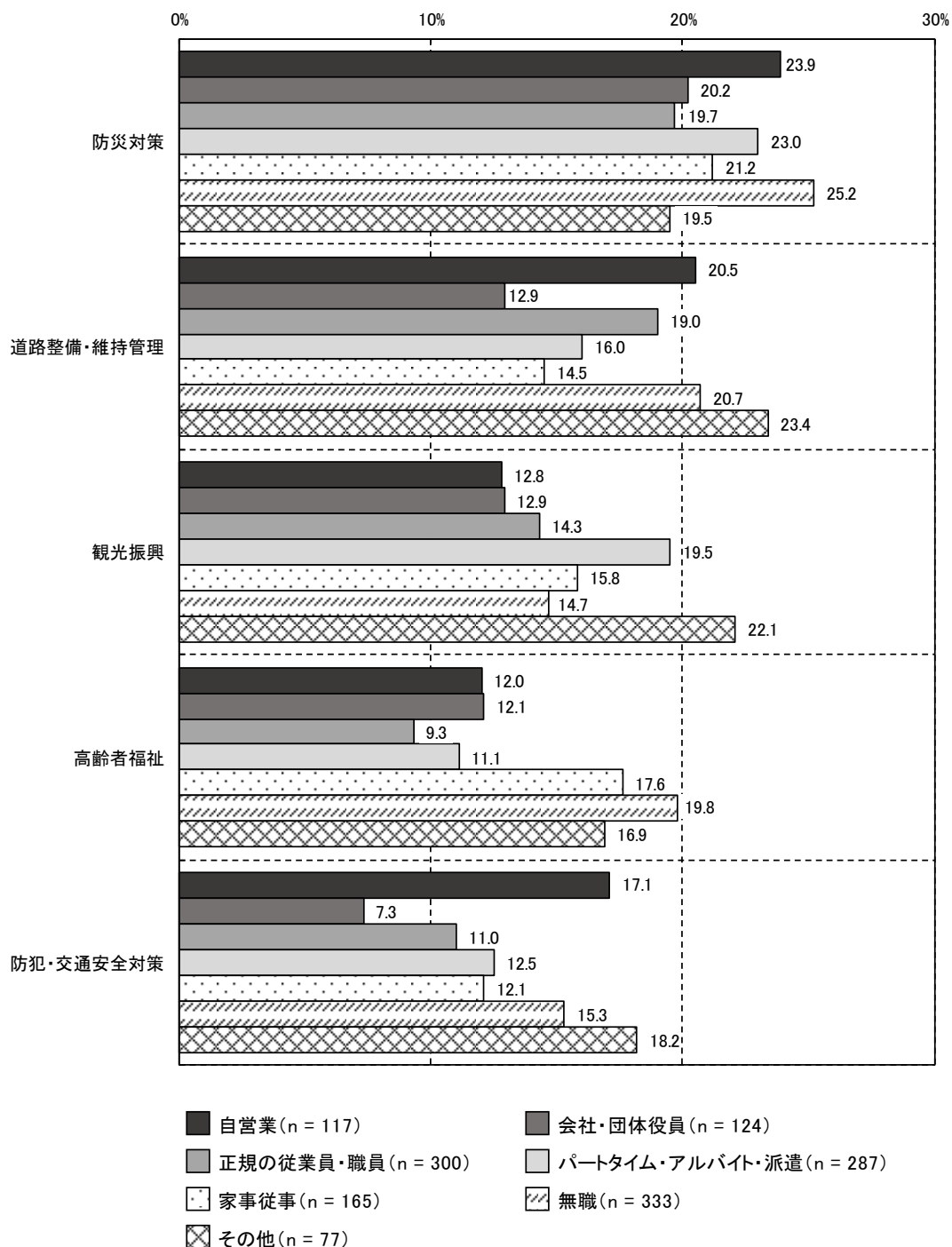
居住圏域別（図 10-5）でみると、岐阜圏域を除くいずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高く、そのうち飛騨圏域が30.6%と最も高くなっている。岐阜圏域では、「道路整備・維持管理」が18.9%と最も高くなっている。

図 10-5 【居住圏域別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



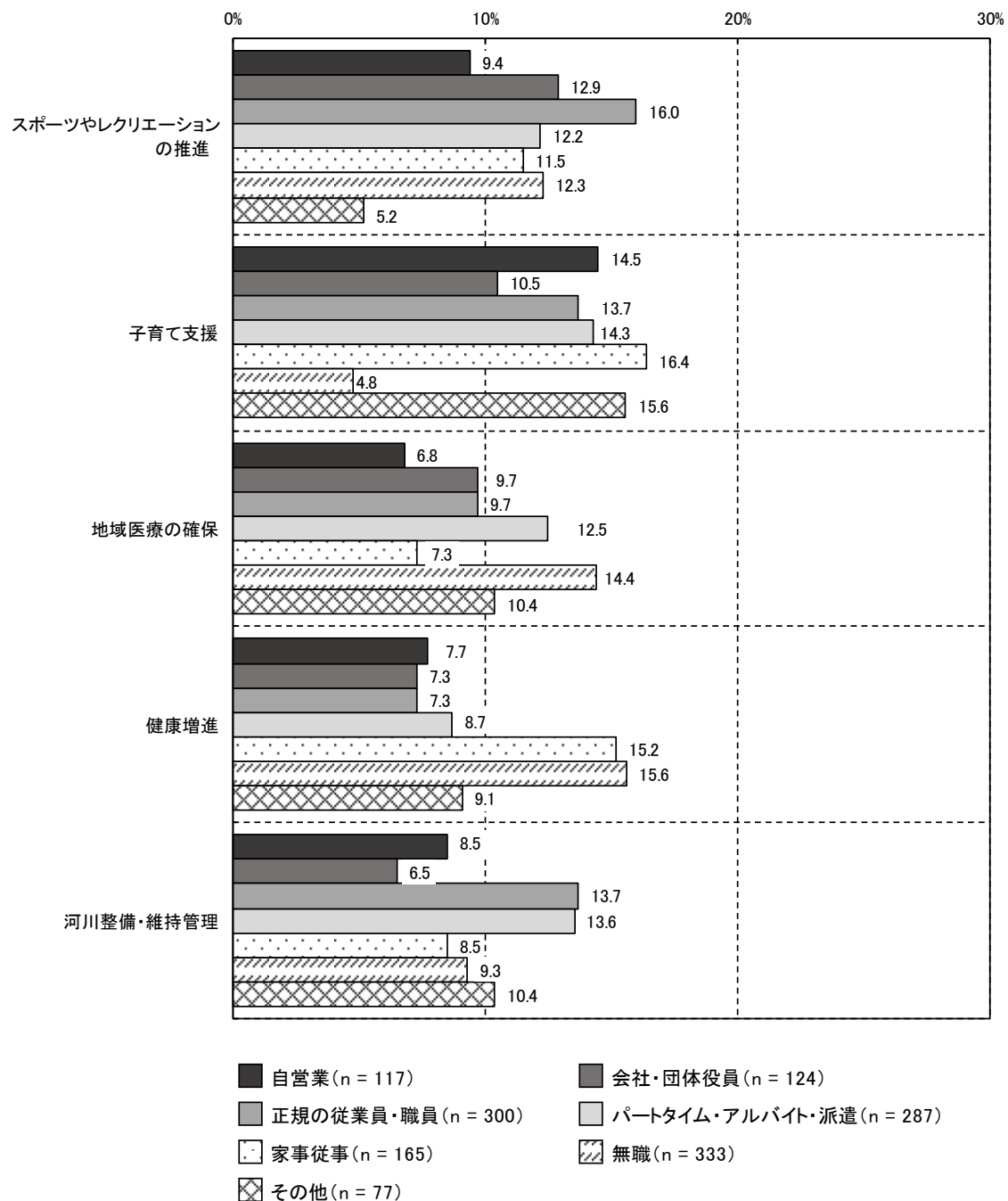
職業別（図 10-6）でみると、その他を除くいずれの職業においても「防災対策」が最も高く、そのうち無職が 25.2%と最も高くなっている。その他では「道路整備・維持管理」が 23.4%と最も高くなっている。

図 10-6 【職業別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-6 【職業別】 県の取り組みでよくやっていると思う分野(上位 10 施策) (続き)



※ その他には、自由業、学生を含む。

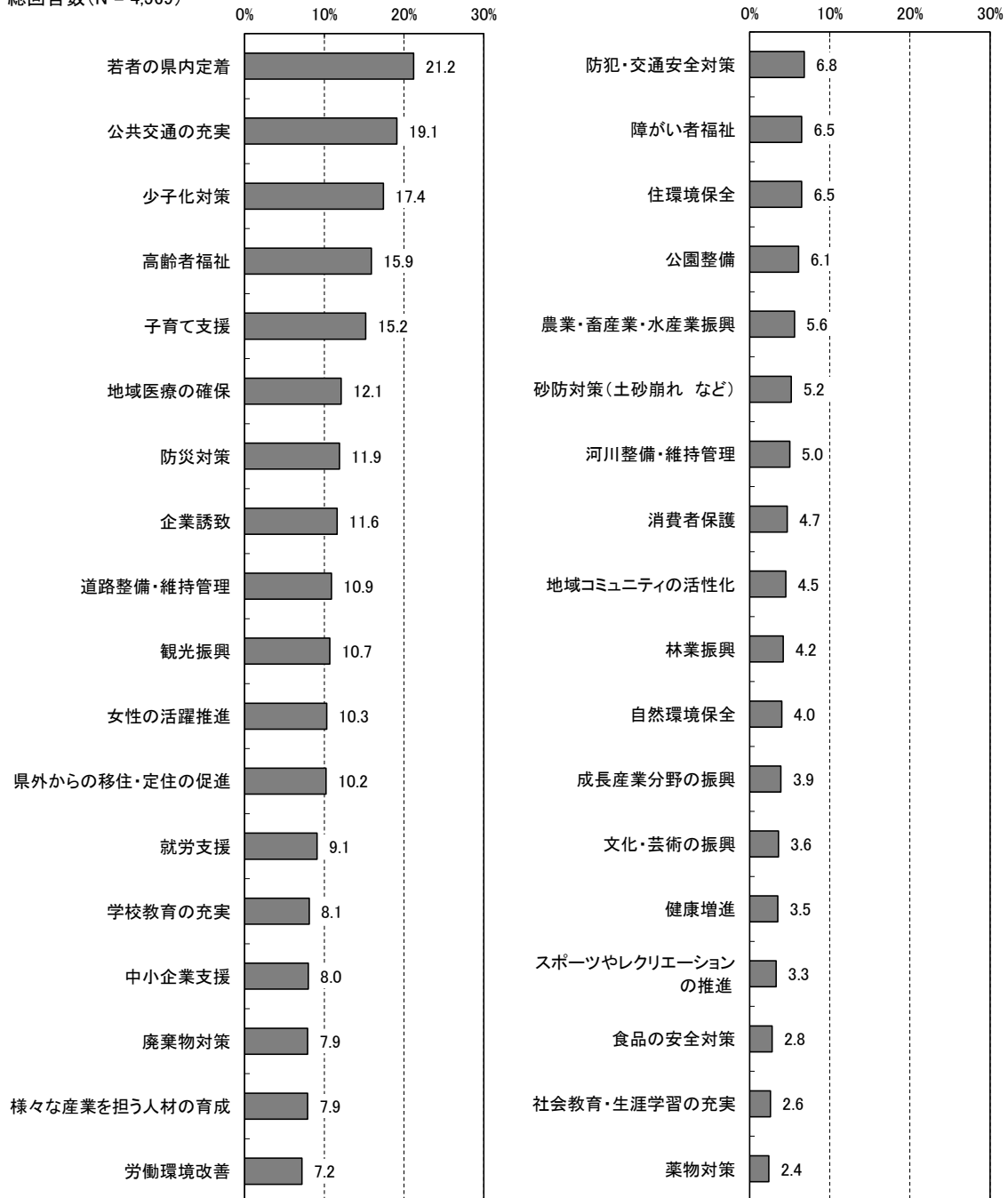
【県の取り組みで努力が足りないと思う分野】

全体（図 10-2-1）でみると、「若者の県内定着」が 21.2%と最も高く、次いで「公共交通の充実」（19.1%）、「少子化対策」（17.4%）の順となっている。

図 10-2-1 県の取り組みで努力が足りないと思う分野

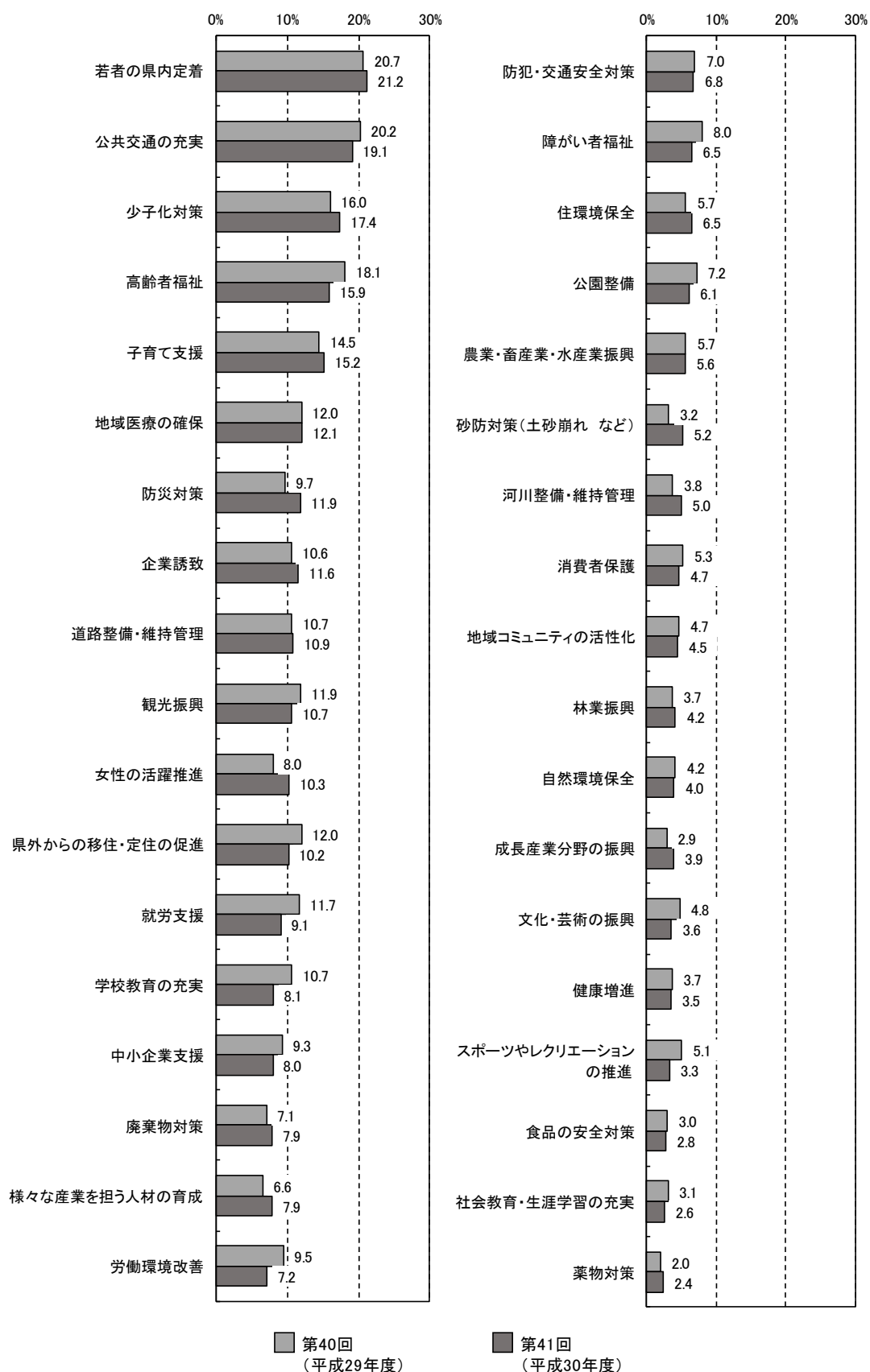
回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 4,569)



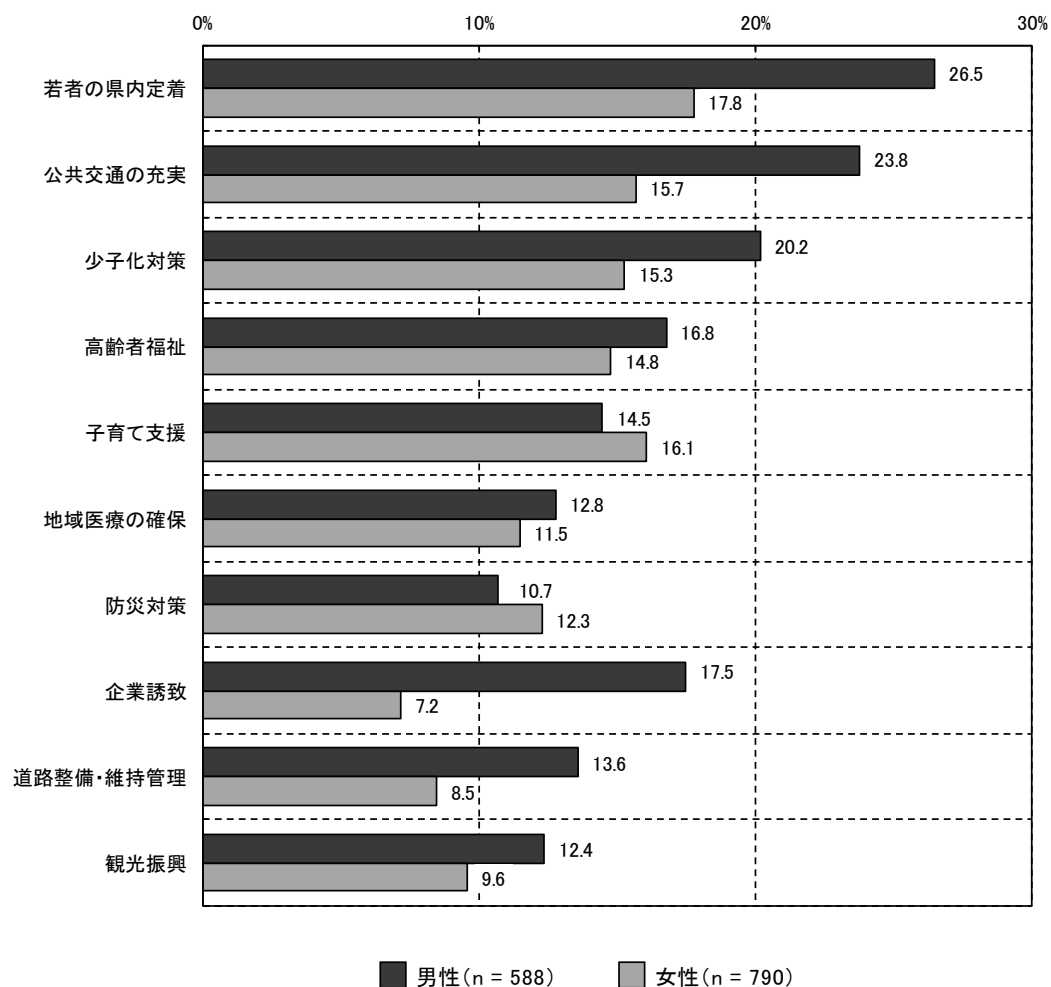
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回と同様に「若者の県内定着」が 21.2%と最も高く、次いで「公共交通の充実」（19.1%）となっている。第 3 位は「少子化対策」（17.4%）で前回の「高齢者福祉」と逆転している。

図 10-2-2 【前回比較】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野



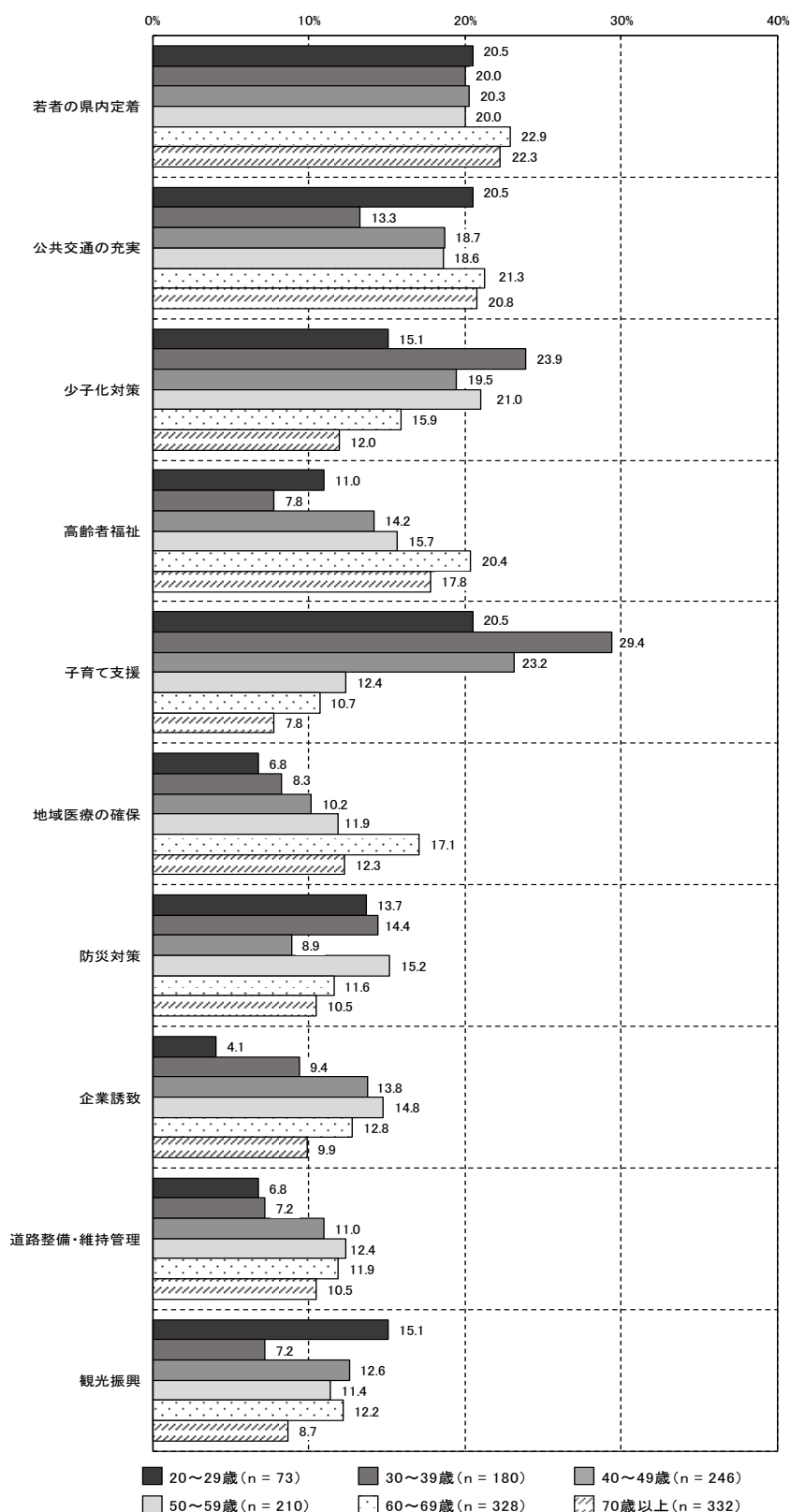
性別（図 10-2-3）でみると、男女ともに「若者の県内定着」が最も高く、男性が女性より 8.7 ポイント高くなっている。「企業誘致」では 10.3 ポイント、「公共交通の充実」では 8.1 ポイント、男性が女性よりそれぞれ高くなっている。

図 10-2-3 【性別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野（上位 10 施策）



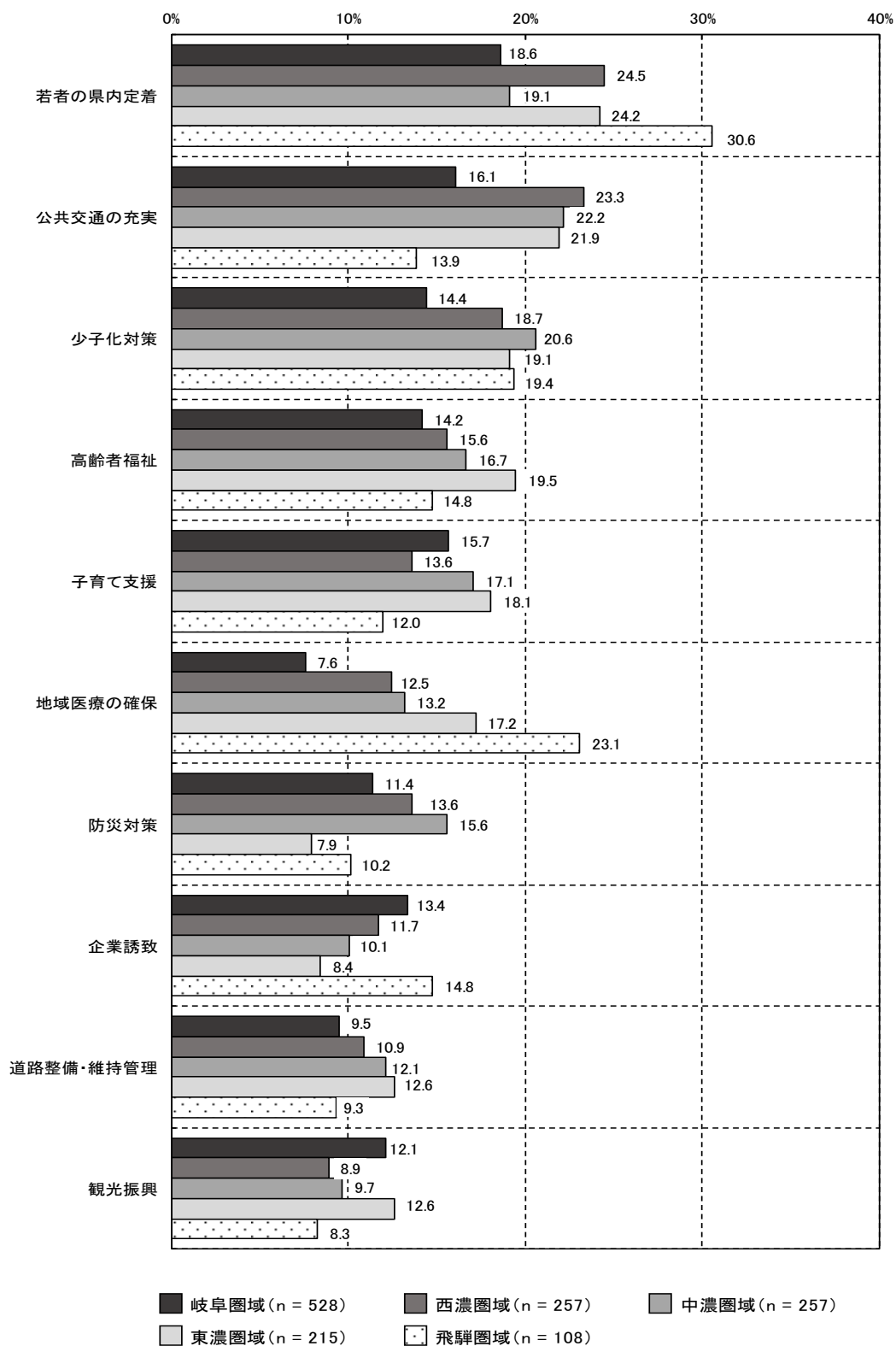
年代別（図 10-2-4）でみると、20 歳代は「若者の県内定着」、「公共交通の充実」、「子育て支援」がそれぞれ 20.5%と最も高くなっている。30 歳代、40 歳代は「子育て支援」、50 歳代は「少子化対策」、60 歳代、70 歳以上は「若者の県内定着」が、それぞれ最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



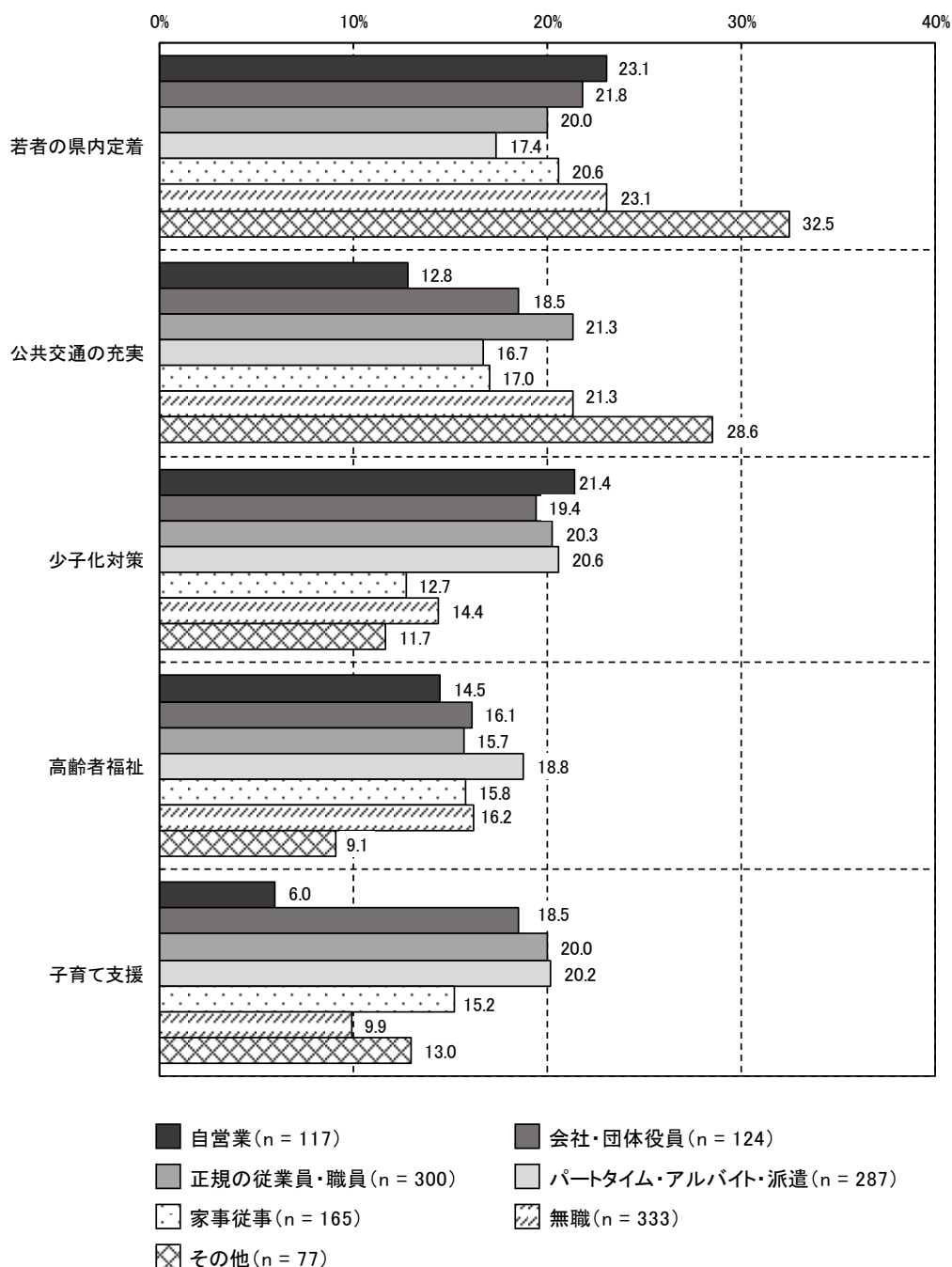
居住圏域別（図 10-2-5）でみると、中濃圏域以外の全ての圏域で「若者の県内定着」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 30.6%と最も高くなっている。中濃圏域では「公共交通の充実」が最も高く、22.2%となっている。

図 10-2-5 【居住圏域別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



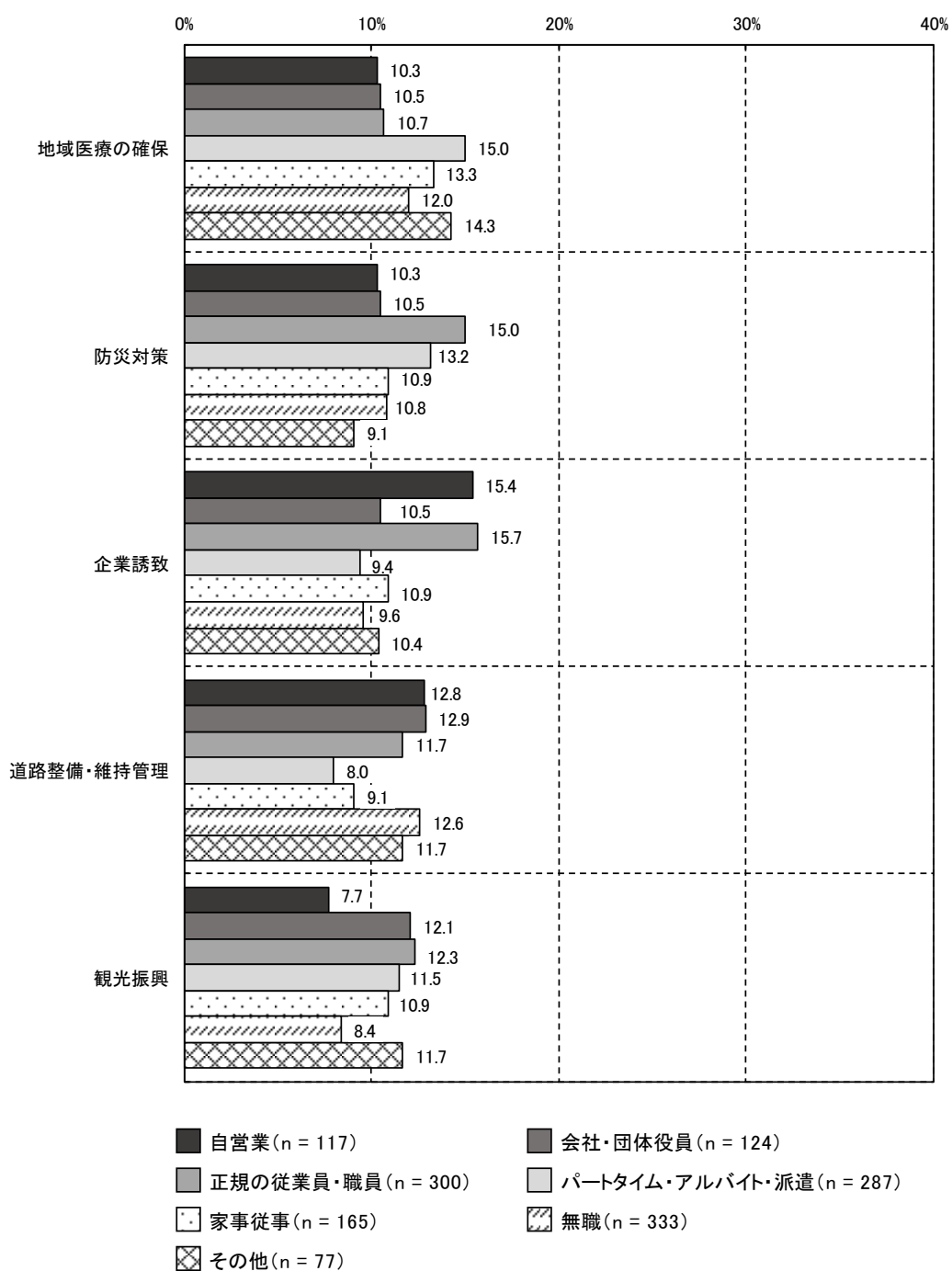
職業別（図 10-2-6）でみると、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣を除くいずれの職業においても「若者の県内定着」が最も高く、そのうち、その他が 32.5%と最も高くなっている。正規の従業員・職員は「公共交通の充実」が最も高く、21.3%となっている。パートタイム・アルバイト・派遣では「少子化対策」が最も高く 20.6%となっている。

図 10-2-6 【職業別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-6 【職業別】 県の取り組みで努力が足りないと思う分野(上位 10 施策) (続き)



※ その他には、自由業、学生を含む。

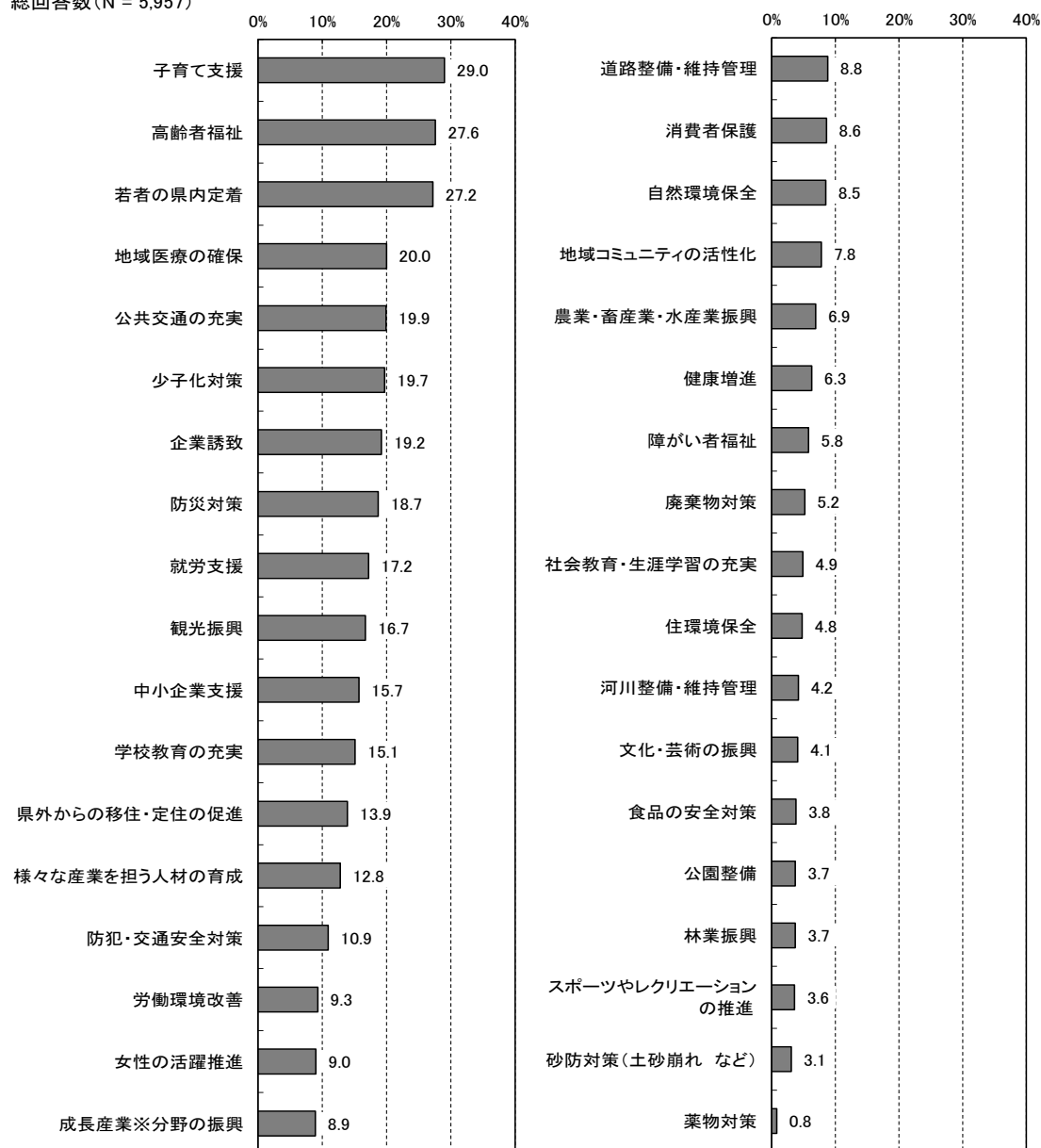
問11 重点的に進めるべきだと思う分野

問11 人口減少が進行する中、国内市場の縮小やグローバルな競争の一層の激化も予想され、いかに人や消費を地域に呼び込み、国内外から所得を得ていくかも大きな課題となっています。あなたは、こうした課題に対応するため、今後、県がどのような分野を重点的に進めるべきだと思いますか。（5つまで）

全体（図11-1）でみると、「子育て支援」が29.0%と最も高く、次いで「高齢者福祉」（27.6%）、「若者の県内定着」（27.2%）の順となっている。

図11-1 重点的に進めるべきだと思う分野

回答者数(n = 1,436)
総回答数(N = 5,957)



※ 成長産業:岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている。(H30年度現在)

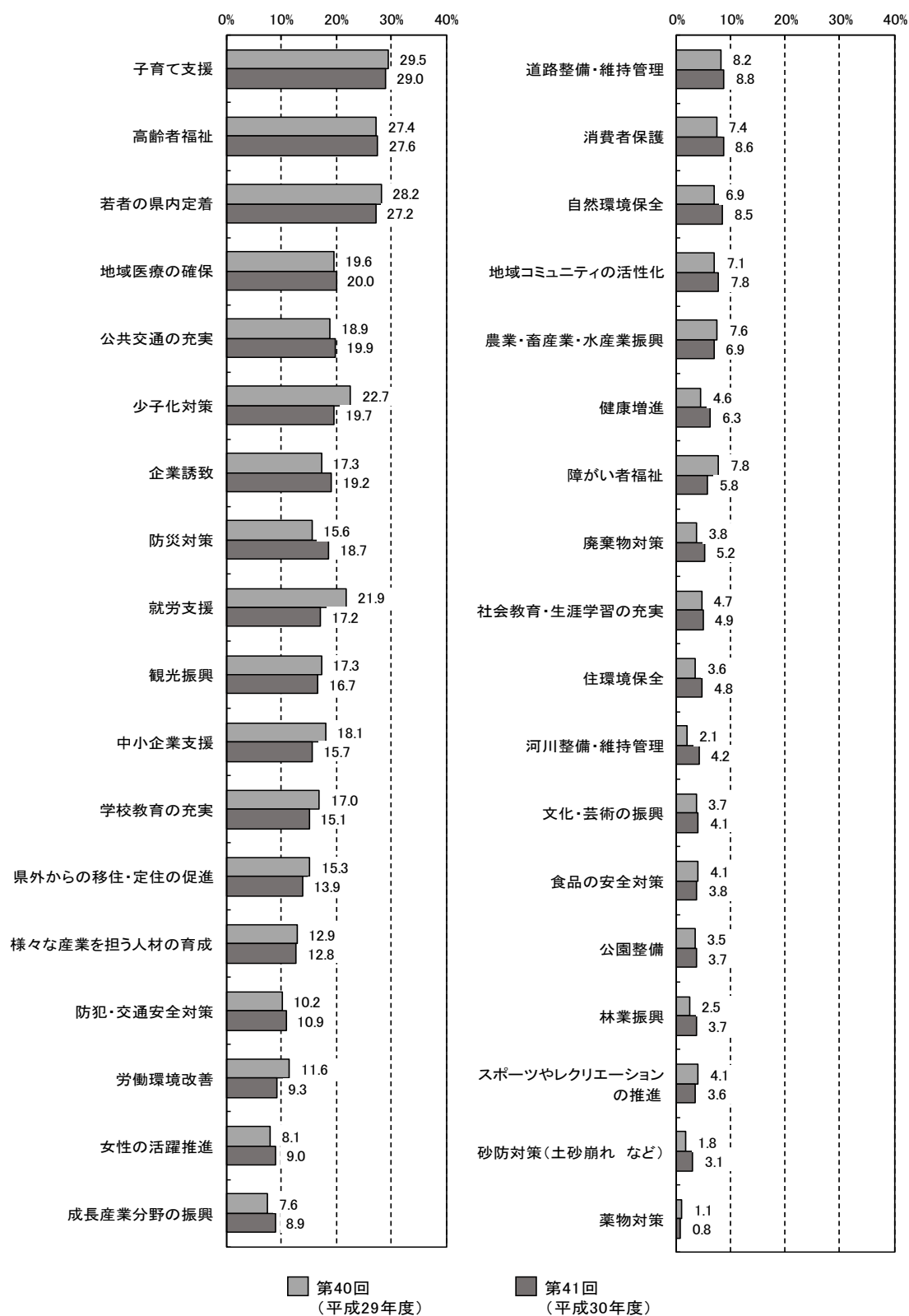
※ 第39回調査では、「特に重要だと思う県の施策」の設問で、選択肢は32施策で5つまでの選択であった。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・住環境保全:騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

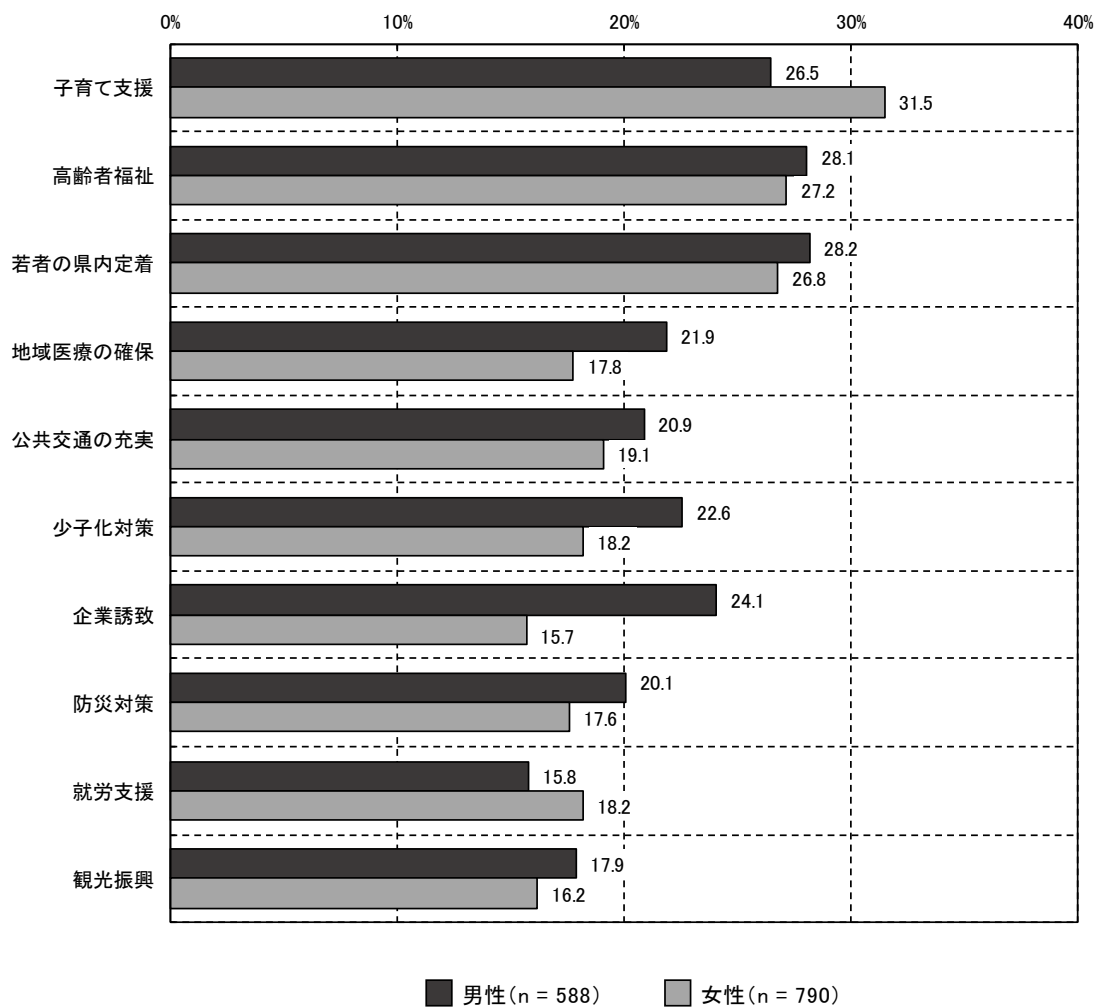
前回比較（図 11-2）でみると、前回と同様に「子育て支援」が 29.0%と最も高く、次いで「高齢者福祉」（27.6%）、「若者の県内定着」（27.2%）の順となっている。前回の「若者の県内定着」、「高齢者福祉」の順と逆転している。

図 11-2 【前回比較】 重点的に進めるべきだと思う分野



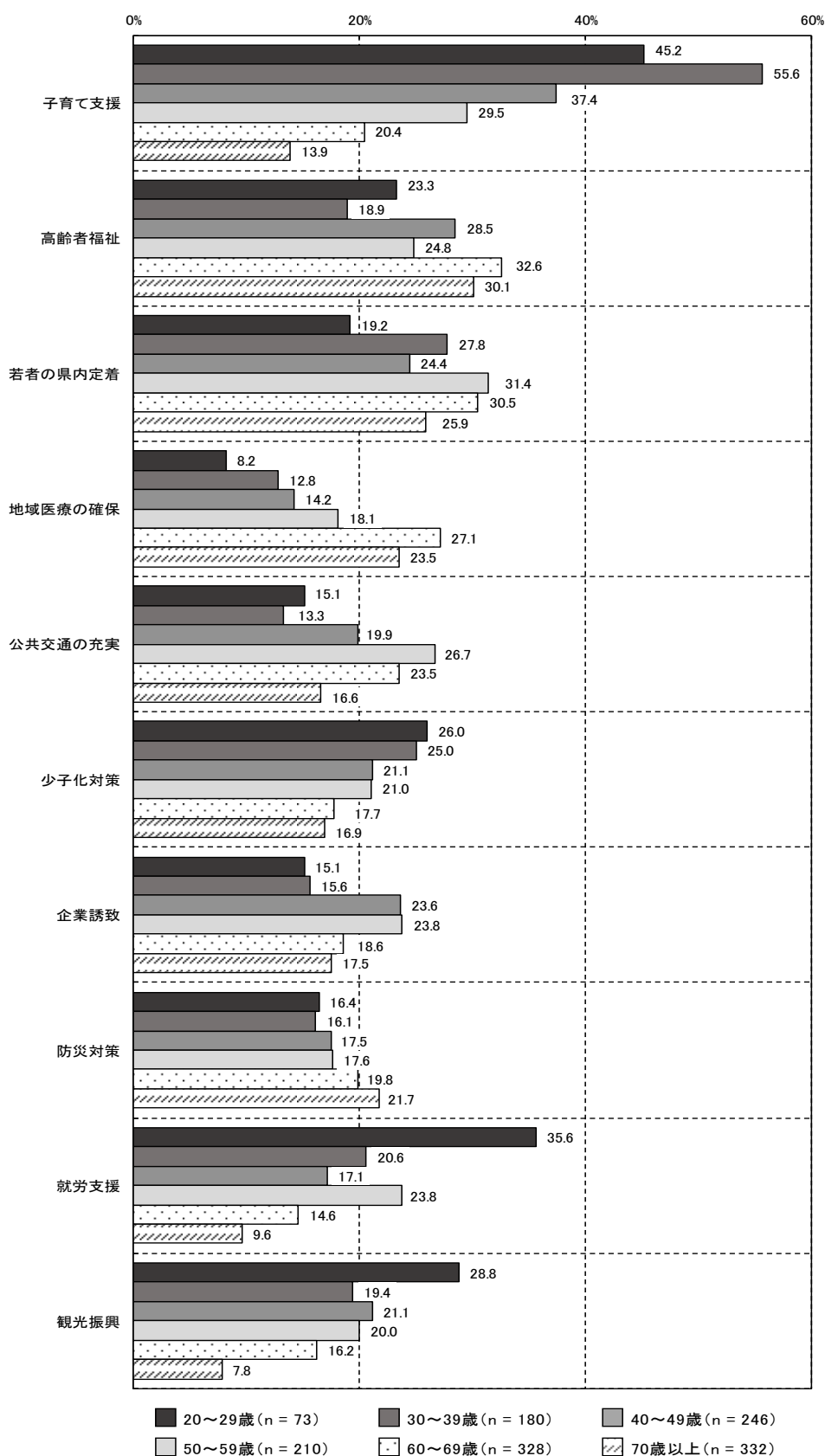
性別（図 11-3）でみると、女性では「子育て支援」が 31.5%と最も高くなっている。男性では「若者の県内定着」が 28.2%と最も高くなっている。「子育て支援」では女性が男性より 5 ポイント高く、「企業誘致」では男性が女性より 8.4 ポイント高くなっている。

図 11-3 【性別】 重点的に進めるとする分野(上位 10 施策)



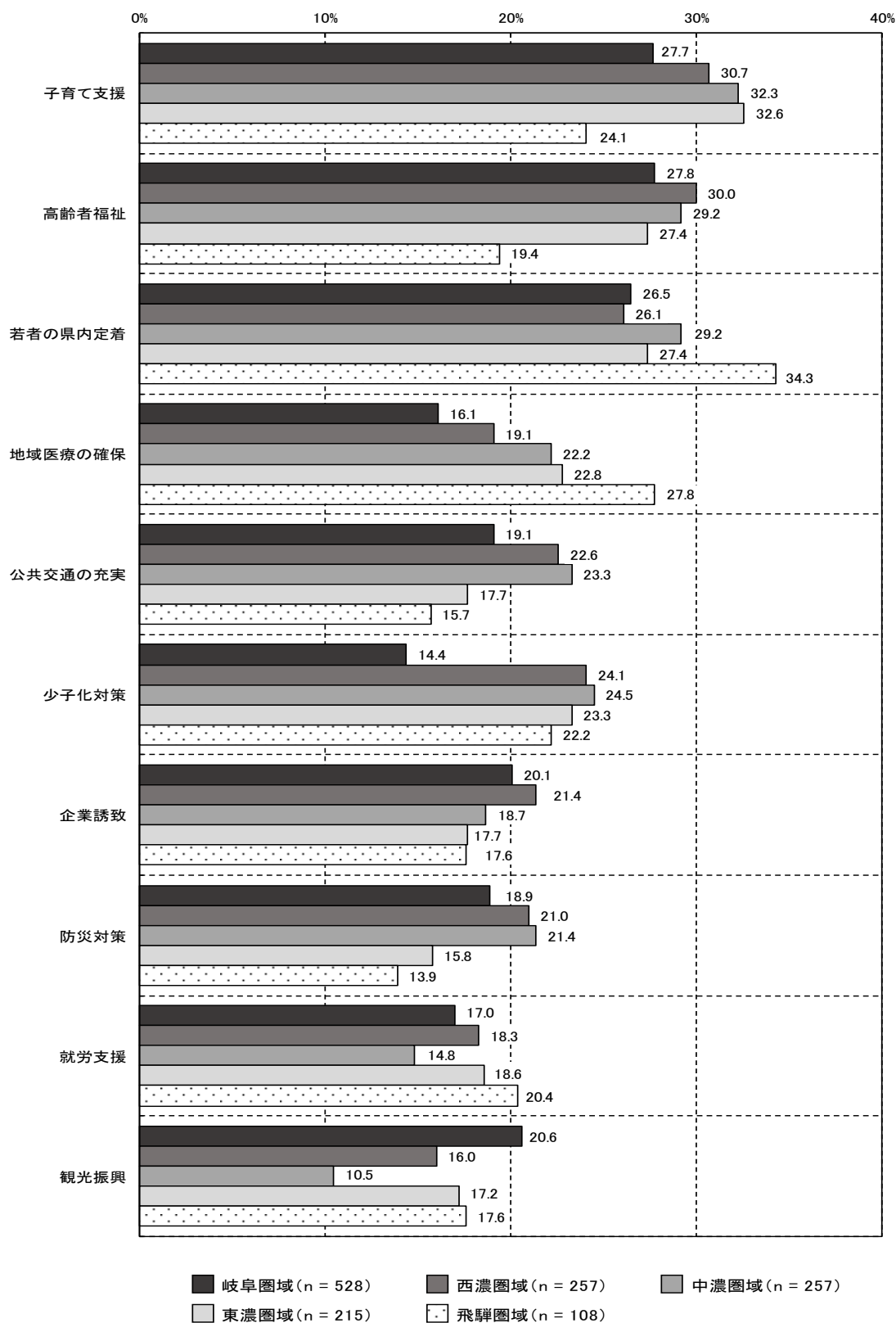
年代別（図 11-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代は「子育て支援」が最も高く、そのうち 30 歳代が 55.6%と最も高くなっている。50 歳代は「若者の県内定着」、60 歳代、70 歳以上は「高齢者福祉」が、それぞれ最も高くなっている。

図 11-4 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



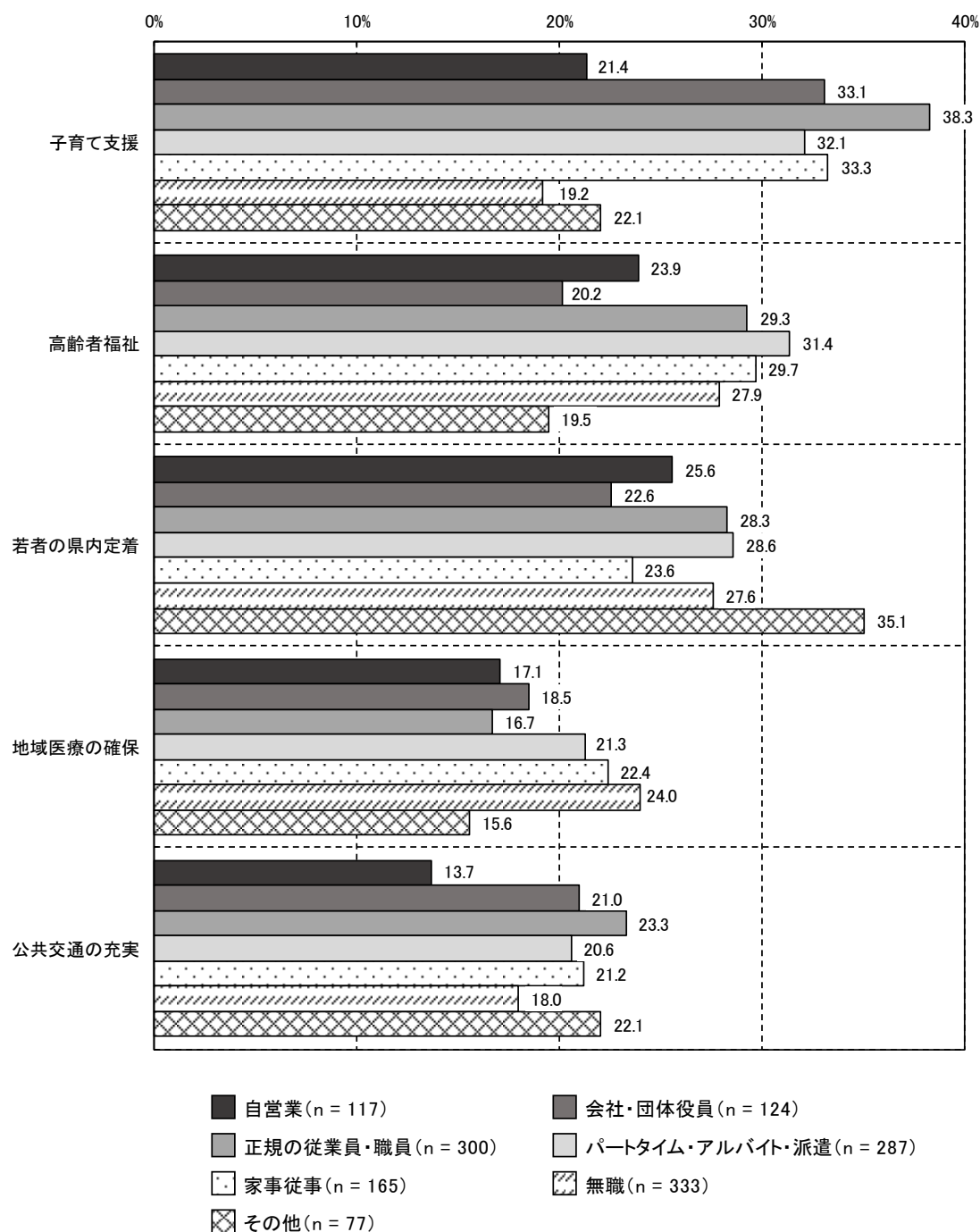
居住圏域別（図 11-5）でみると、西濃圏域、中濃圏域、東濃圏域では「子育て支援」が最も高く、そのうち東濃圏域が 32.6%と最も高くなっている。岐阜圏域では「高齢者福祉」が最も高く、飛騨圏域では「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 11-5 【居住圏域別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



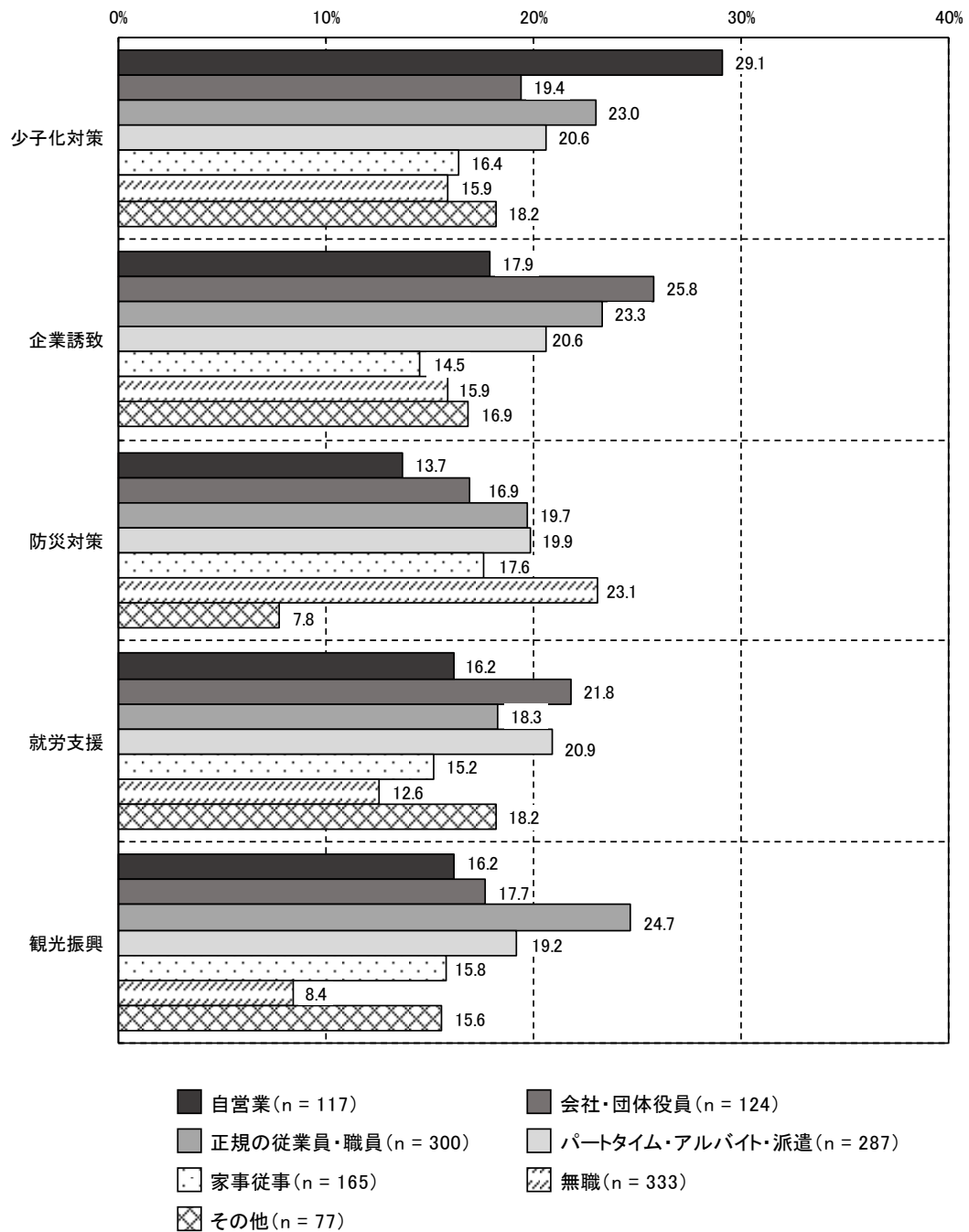
職業別（図 11-6）でみると、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事は「子育て支援」が最も高く、そのうち正規の従業員・職員が 38.3%と最も高くなっている。自営業では「少子化対策」が 29.1%、無職では「高齢者福祉」が 27.9%、その他では「若者の県内定着」が 35.1%と、それぞれ最も高くなっている。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。

問12 人口減少社会への将来不安

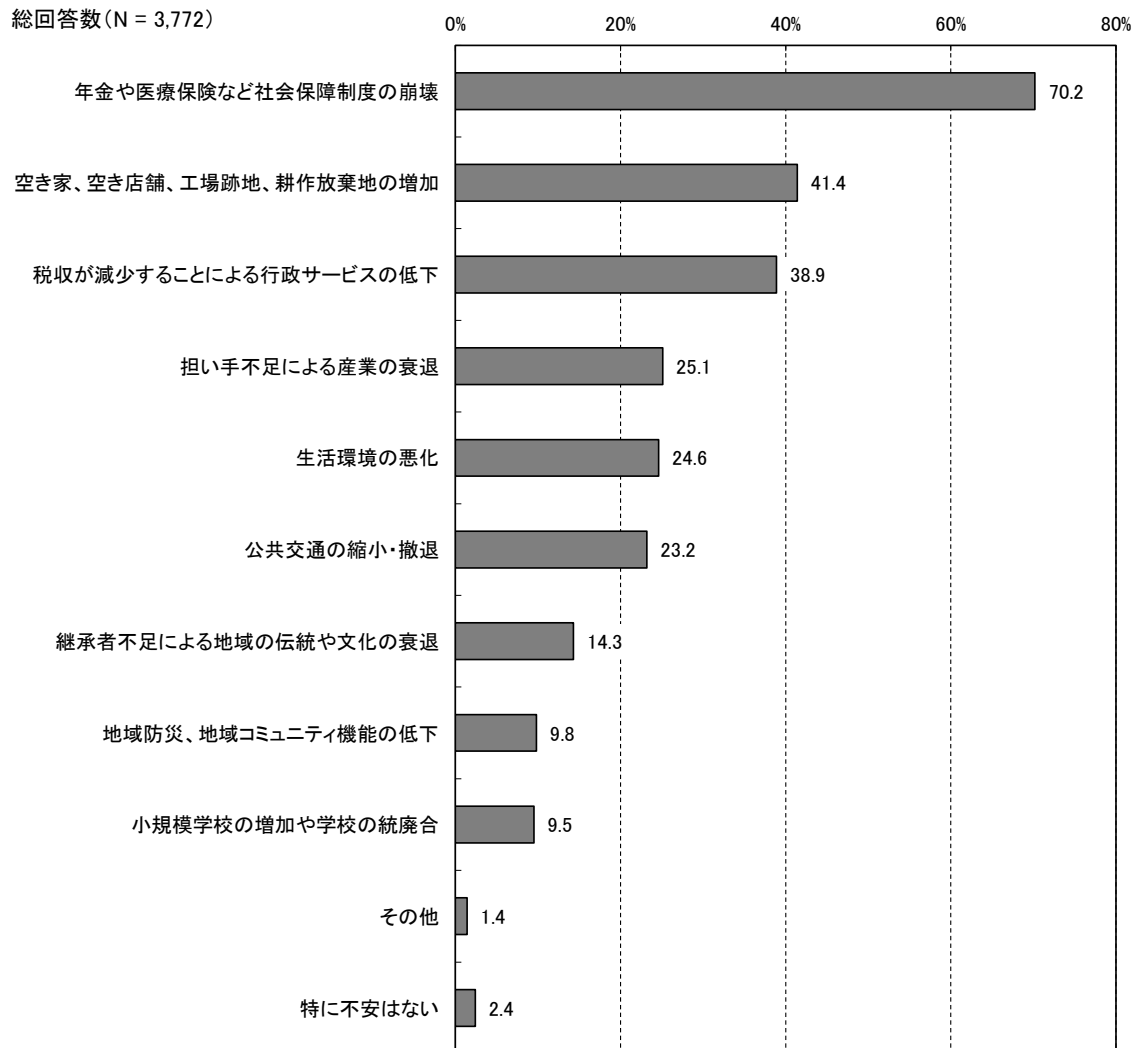
問12 岐阜県の人口は、他の多くの道府県と同様に減少が進行していますが、あなたは、ご自身や地域の将来を考えた場合、特にどのようなことに不安を感じますか。
(3つまで)

全体(図12-1)でみると、「年金や医療保険など社会保障制度の崩壊」が70.2%と最も高く、次いで「空き家、空き店舗、工場跡地、耕作放棄地の増加」(41.4%)、「税収が減少することによる行政サービスの低下」(38.9%)の順となっている。

図12-1 人口減少社会への将来不安

回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 3,772)



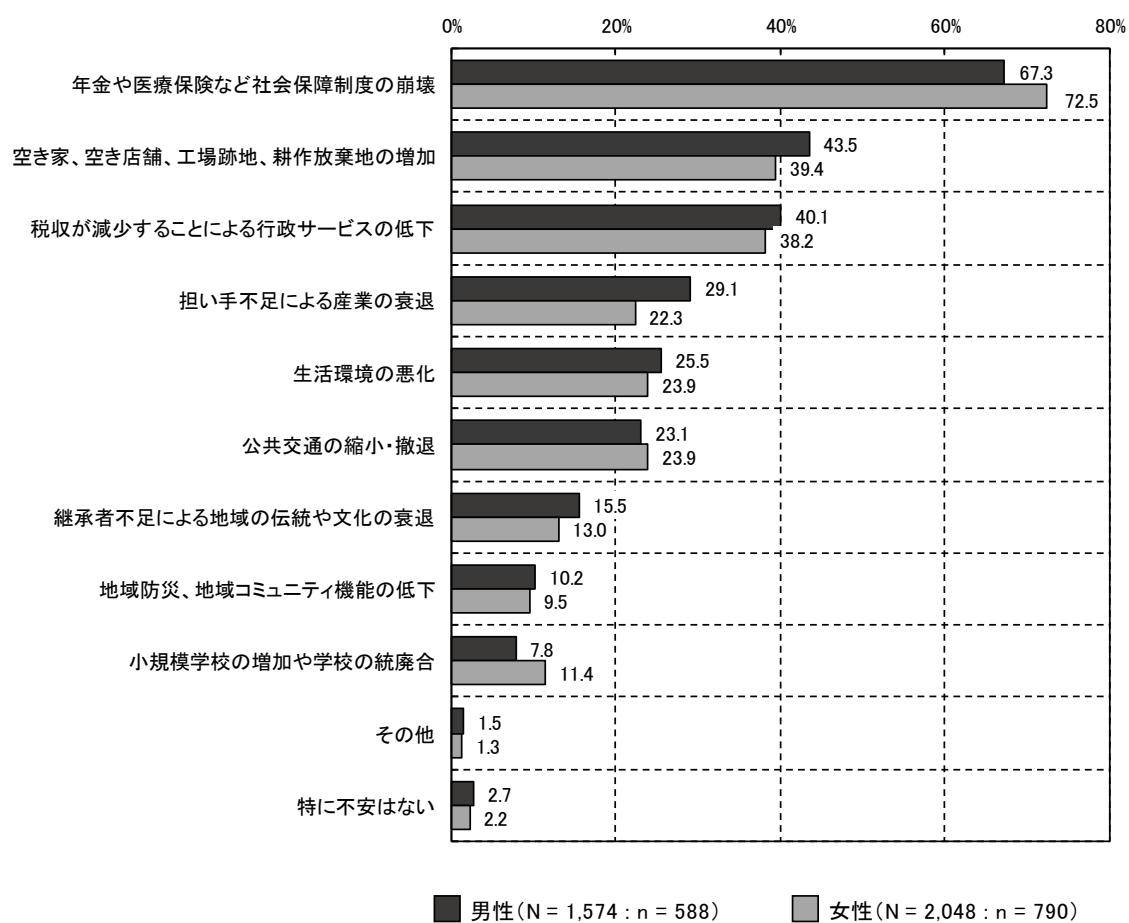
※ 第39・40回調査では、「人口減少社会への将来不安」は聞いていない。

※ 本問における選択肢は、図表の構造上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・税収が減少することによる行政サービスの低下: 福祉サービス、上下水道・道路等の維持・管理など

性別（図 12-2）でみると、男女ともに「年金や医療保険など社会保障制度の崩壊」が最も高く、女性が男性より 5.2 ポイント高くなっている。

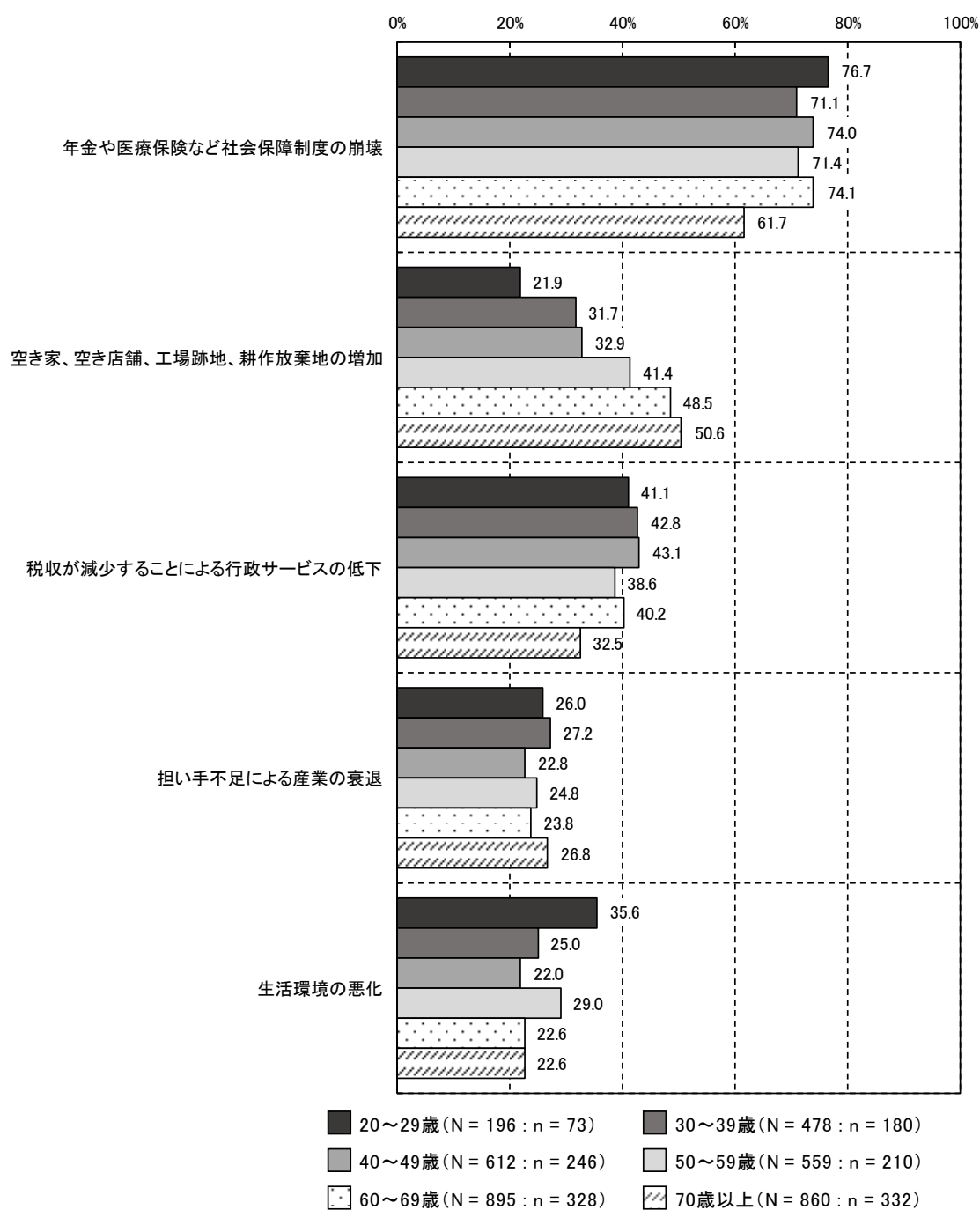
図 12-2 【性別】 人口減少社会への将来不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

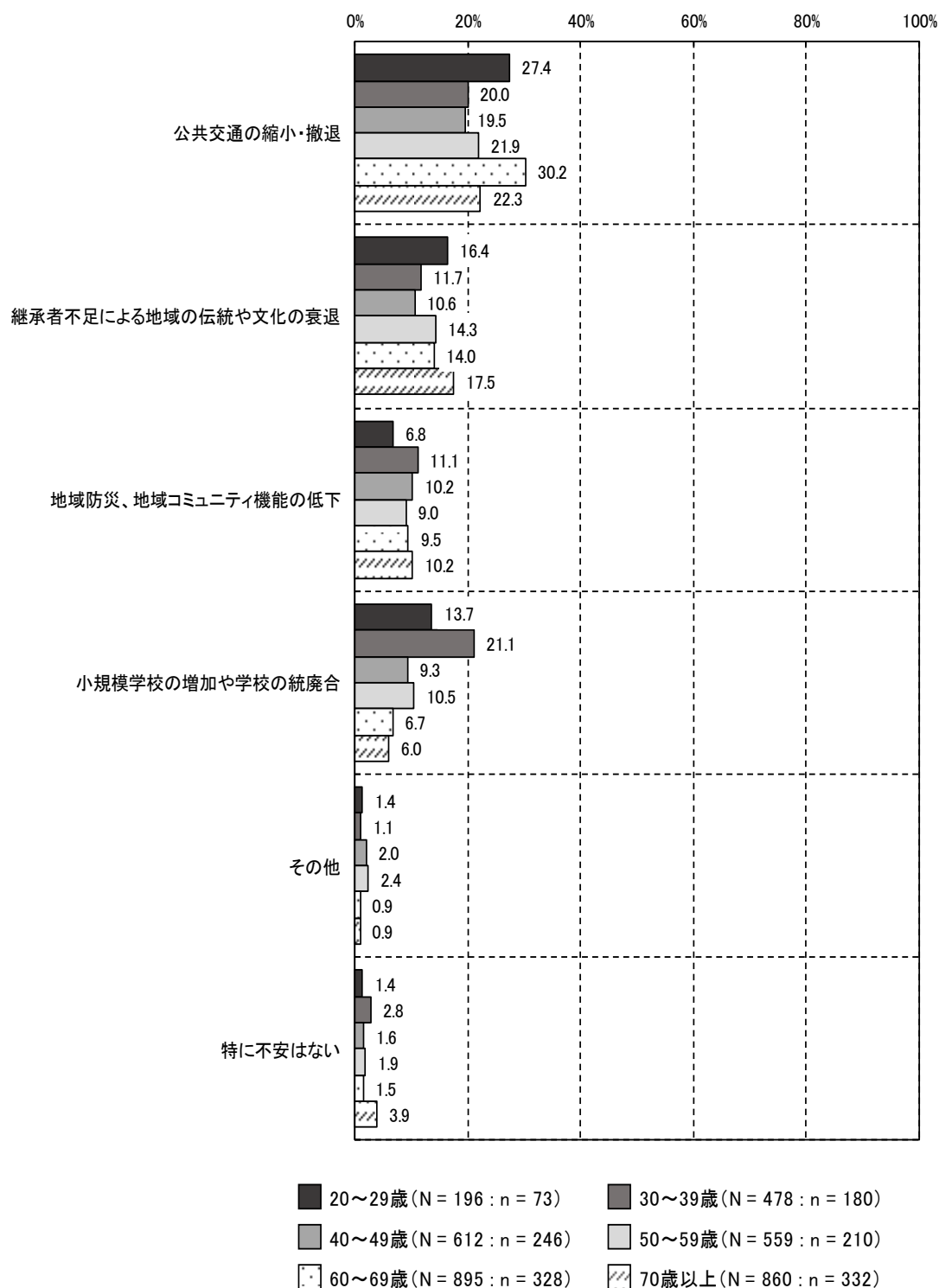
年代別（図 12-3）でみると、いずれの年代においても「年金や医療保険など社会保障制度の崩壊」が最も高く、そのうち 20 歳代が 76.7%と最も高くなっている。

図 12-3 【年代別】 人口減少社会への将来不安



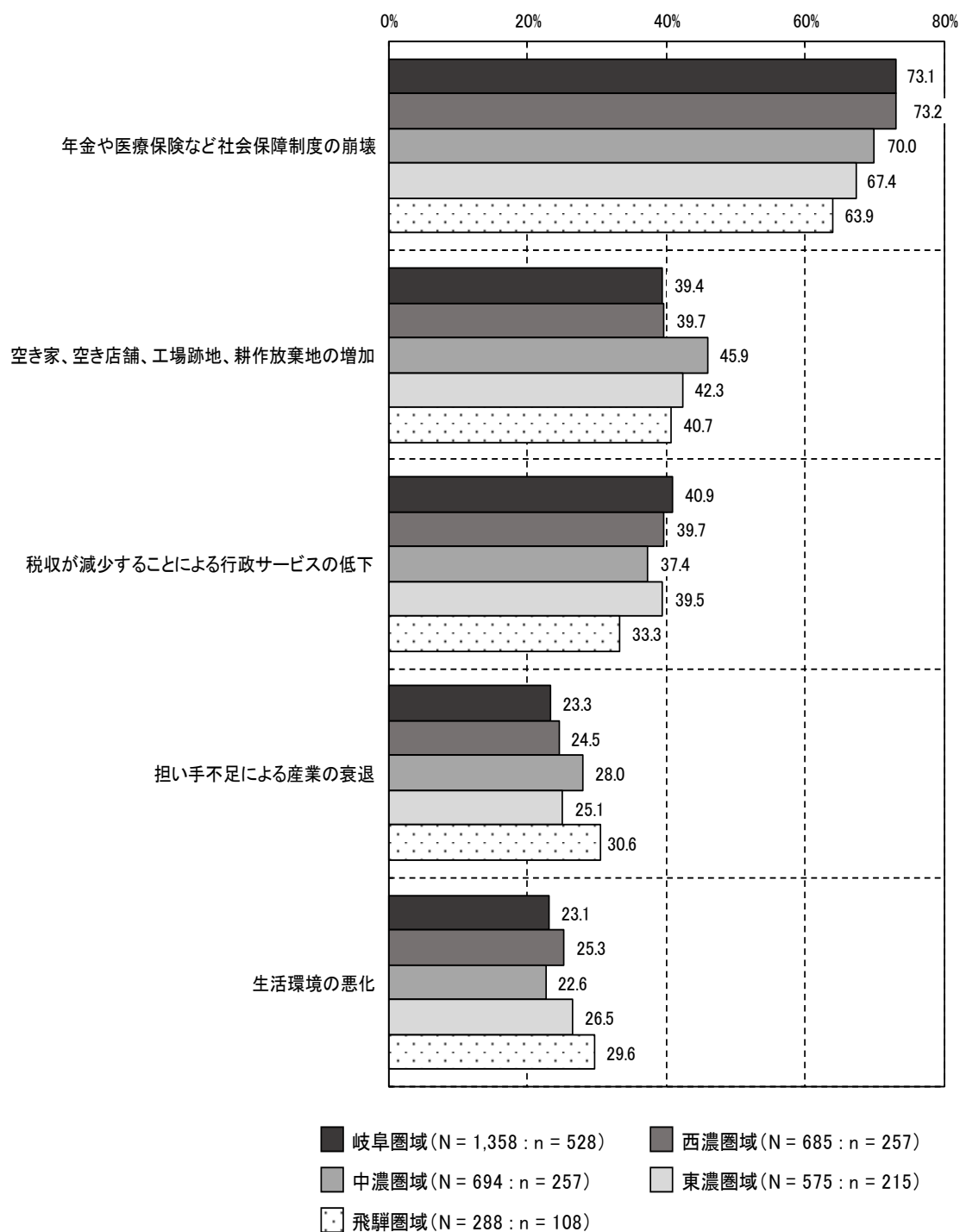
※ N=総回答数 n=回答者数

図 12-3 【年代別】 人口減少社会への将来不安（続き）



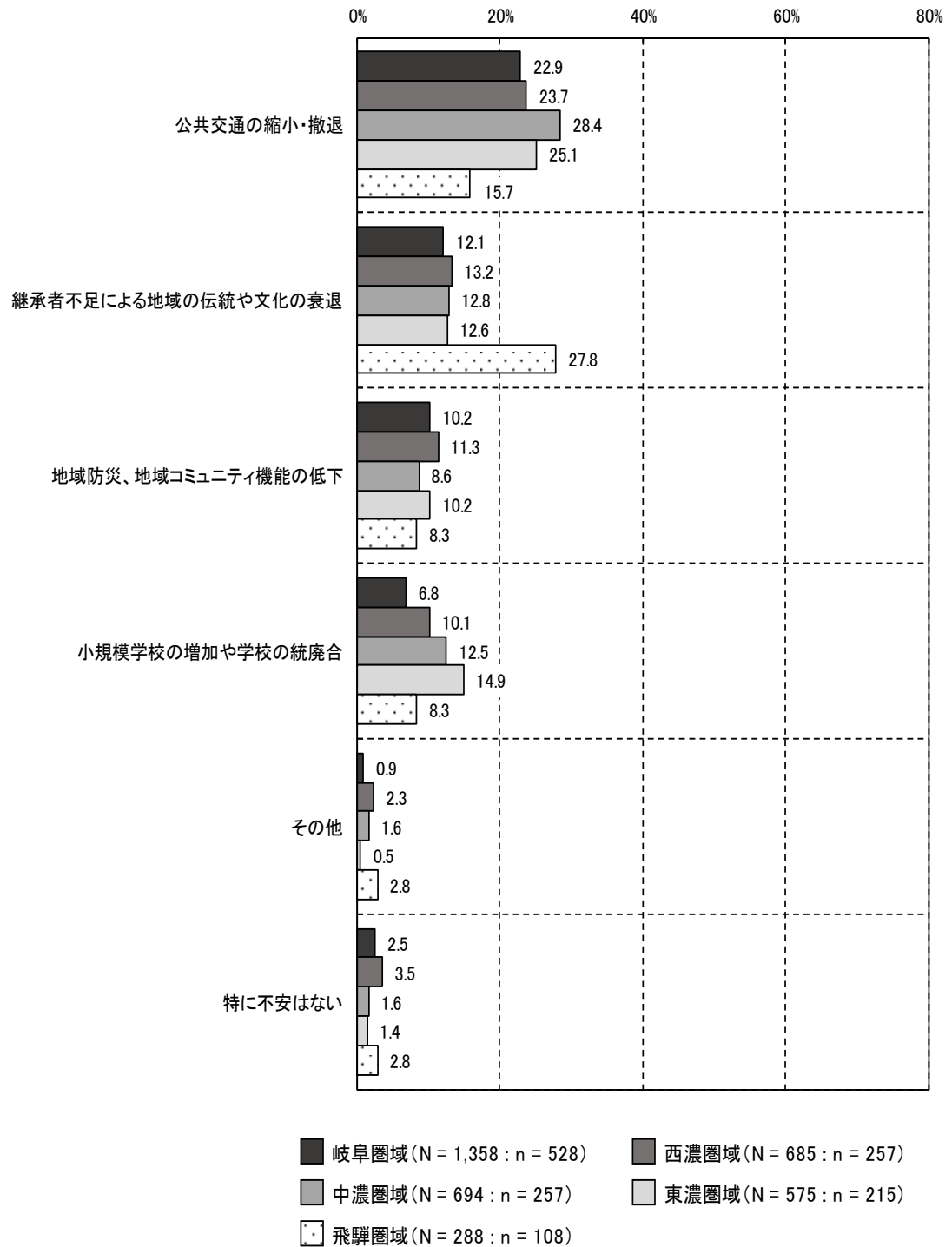
居住圏域別（図 12-4）でみると、いずれの居住圏域においても「年金や医療保険など社会保障制度の崩壊」が最も高く、そのうち西濃圏域が 73.2%と最も高くなっている。

図 12-4 【居住圏域別】 人口減少社会への将来不安



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 12-4 【居住圏域別】 人口減少社会への将来不安（続き）



N＝総回答数 n＝回答者数

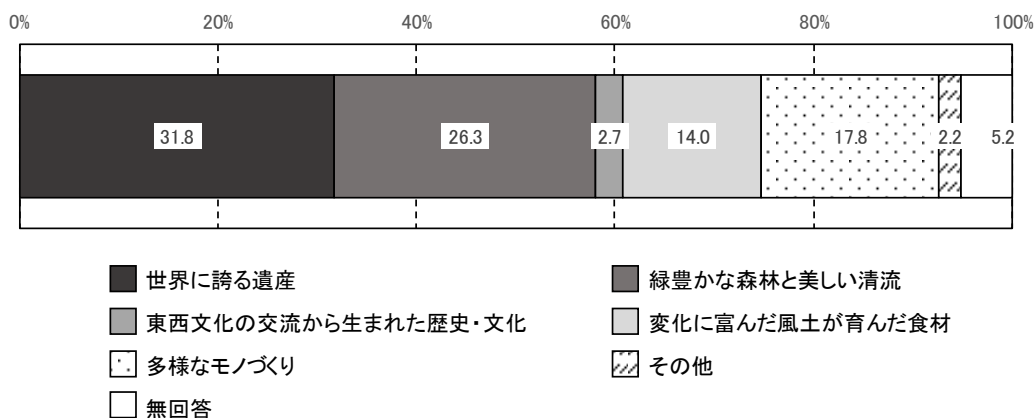
問13 国の内外に誇れるもの

問13 あなたは、人や消費を国の内外から県内に呼び込むために、岐阜県が国の内外に誇れるものは何だと思いますか。（1つだけ）

全体（図13-1）でみると、「世界に誇る遺産」が31.8%と最も高くなっている。次いで、「緑豊かな森林と美しい清流」（26.3%）、「多様なモノづくり」（17.8%）の順となっている。

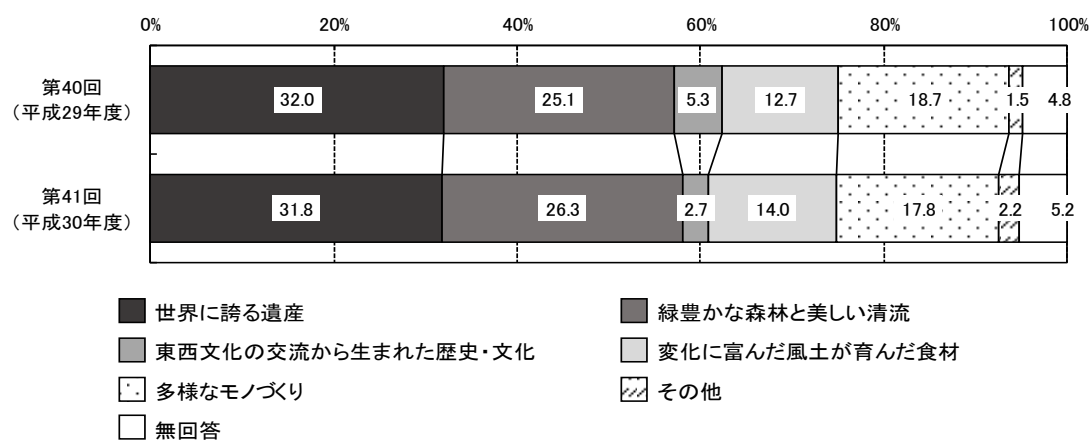
図13-1 国の内外に誇れるもの

回答者数(n = 1,436)



前回比較（図13-2）でみると、前回と同様に「世界に誇る遺産」が31.8%と最も高くなっている。

図13-2 【前回比較】国の内外に誇れるもの



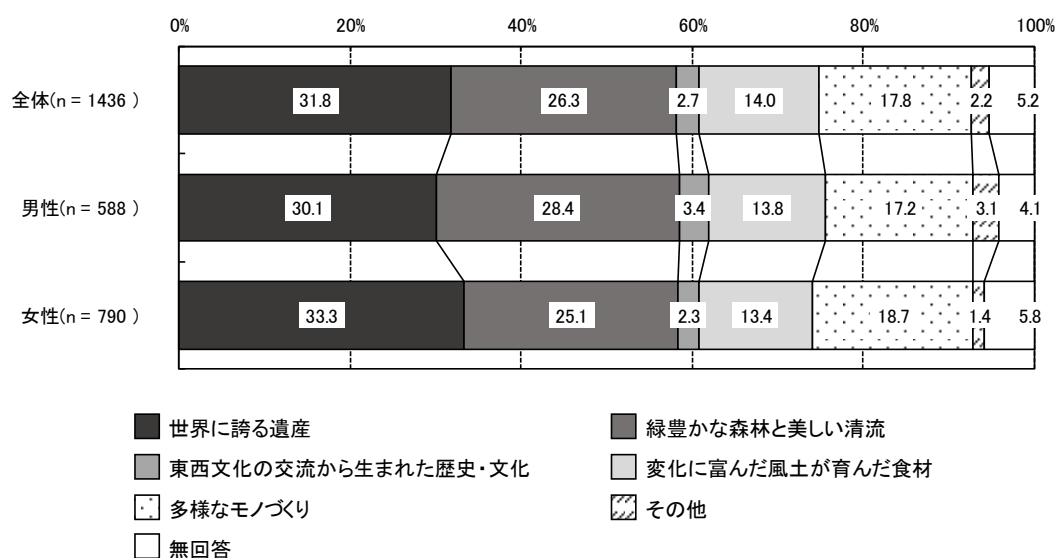
※ 第39回調査では、「国の内外に誇れるもの」は聞いていない。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略しているものがある。

- ・世界に誇る遺産：ユネスコ世界文化遺産「白川郷合掌造り集落」、ユネスコ無形文化遺産「本美濃紙、山・鉾・屋台行事」、世界かんがい施設遺産「曾代用水」、世界農業遺産「清流長良川の鮎」
- ・緑豊かな森林と美しい清流：緑豊かな森林と美しい清流に代表される自然や景観
- ・東西文化の交流から生まれた歴史・文化：古戦場や城跡、伝統的な街並み、地歌舞伎など
- ・変化に富んだ風土が育んだ食材：飛騨牛、鮎、柿、栗、いちご、トマト、米など
- ・多様なモノづくり：木工、和紙、刃物、陶磁器などの地域産業や機械、航空宇宙産業など

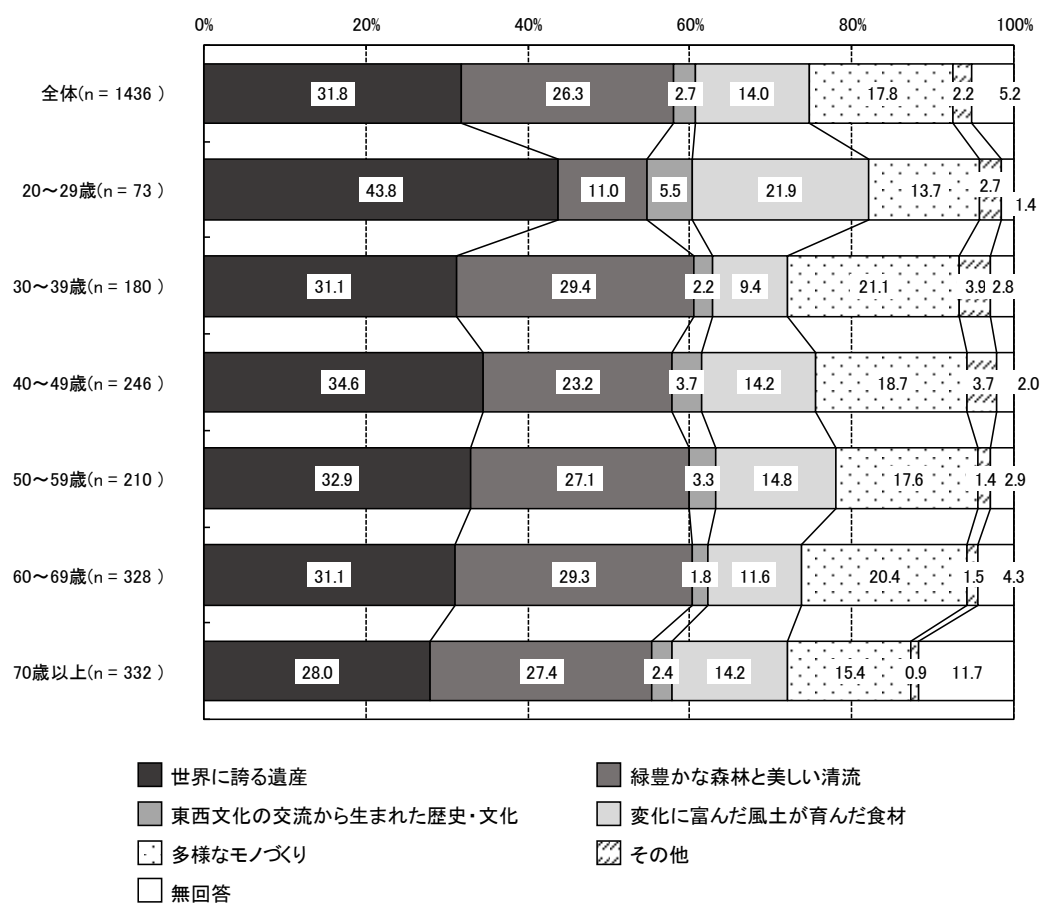
性別（図 13-3）でみると、男女ともに「世界に誇る遺産」が最も高く、女性が男性より3.2ポイント高くなっている。

図 13-3 【性別】 国の内外に誇れるもの



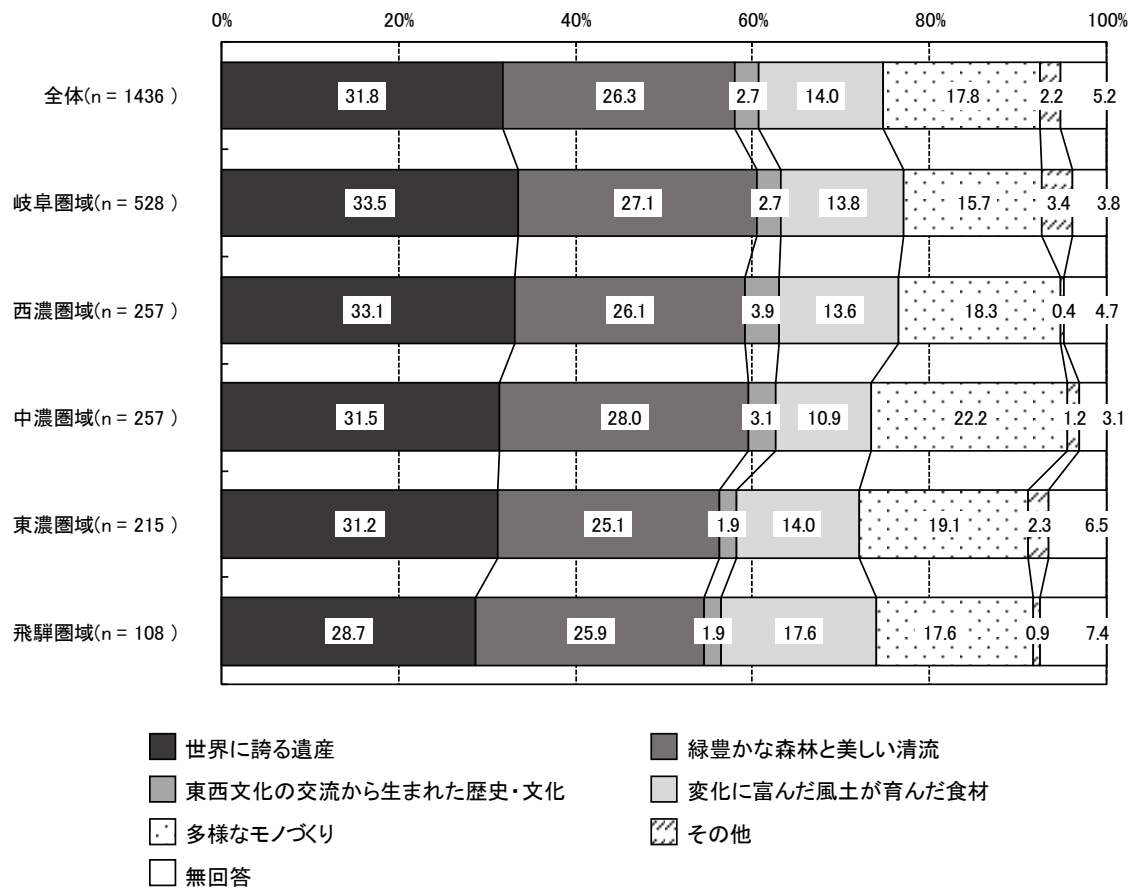
年代別（図 13-4）でみると、いずれの年代においても「世界に誇る遺産」が最も高く、そのうち20歳代が43.8%と最も高くなっている。

図 13-4 【年代別】 国の内外に誇れるもの



居住圏域別（図 13-5）でみると、いずれの居住圏域においても「世界に誇る遺産」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 33.5%と最も高くなっている。

図 13-5 【居住圏域別】 国の内外に誇れるもの



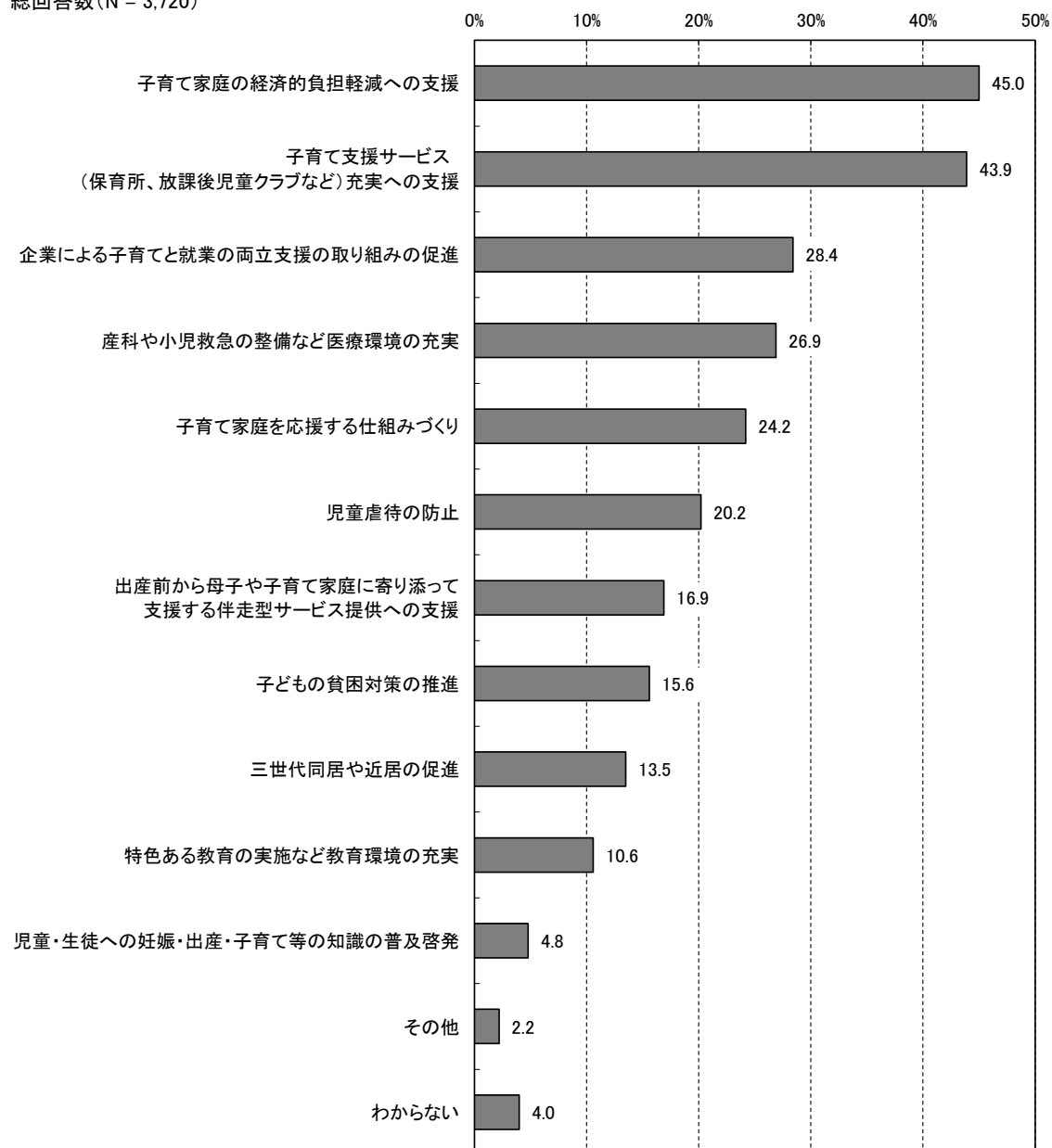
問14 子育て支援への対策

問14 あなたは、子育て支援として、どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。（3つまで）

全体(図14-1)でみると、「子育て家庭の経済的負担軽減への支援」が45.0%と最も高く、次いで「子育て支援サービス（保育所、放課後児童クラブなど）充実への支援」（43.9%）、「企業による子育てと就業の両立支援の取り組みの促進」（28.4%）の順となっている。

図14-1 子育て支援への対策

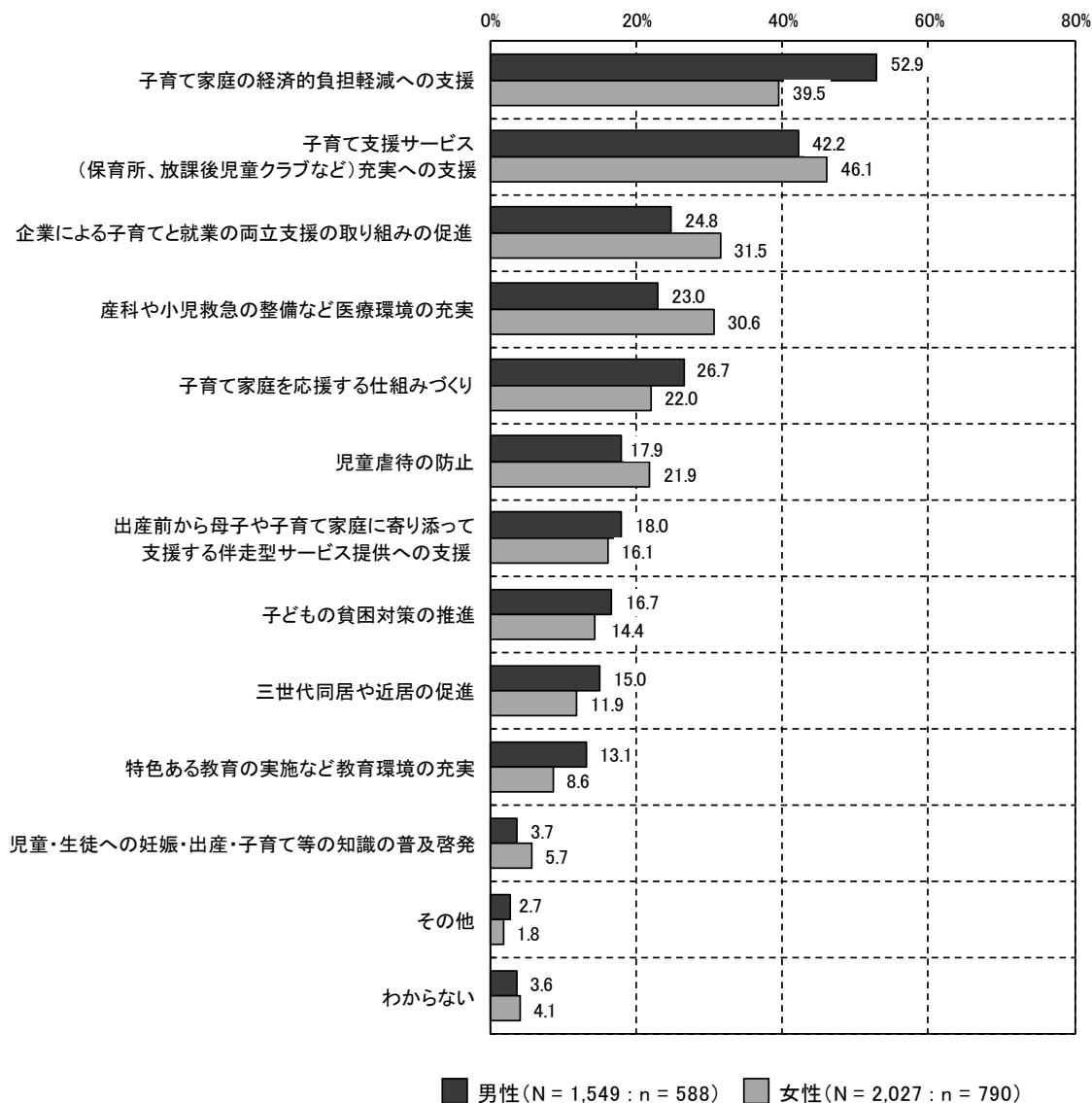
回答者数(n = 1,436)
総回答数(N = 3,720)



※ 第39・40回調査では、「子育て支援への対策」は聞いていない。

性別（図 14-2）でみると、男性では「子育て家庭の経済的負担軽減への支援」が最も高く 52.9%となっており、女性では「子育て支援サービス（保育所、放課後児童クラブなど）充実への支援」が最も高く 46.1%となっている。

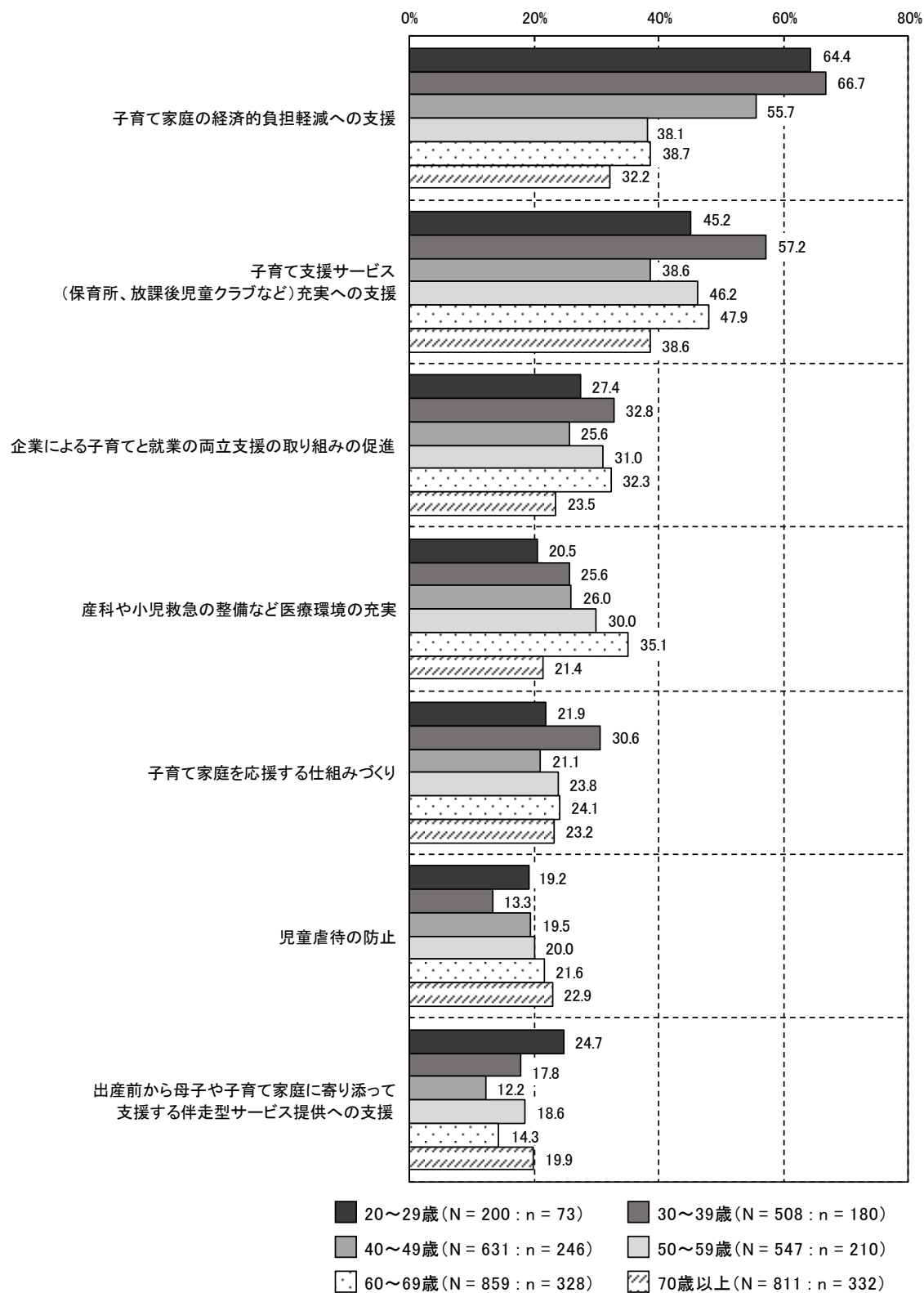
図 14-2 【性別】 子育て支援への対策



※ N＝総回答数 n＝回答者数

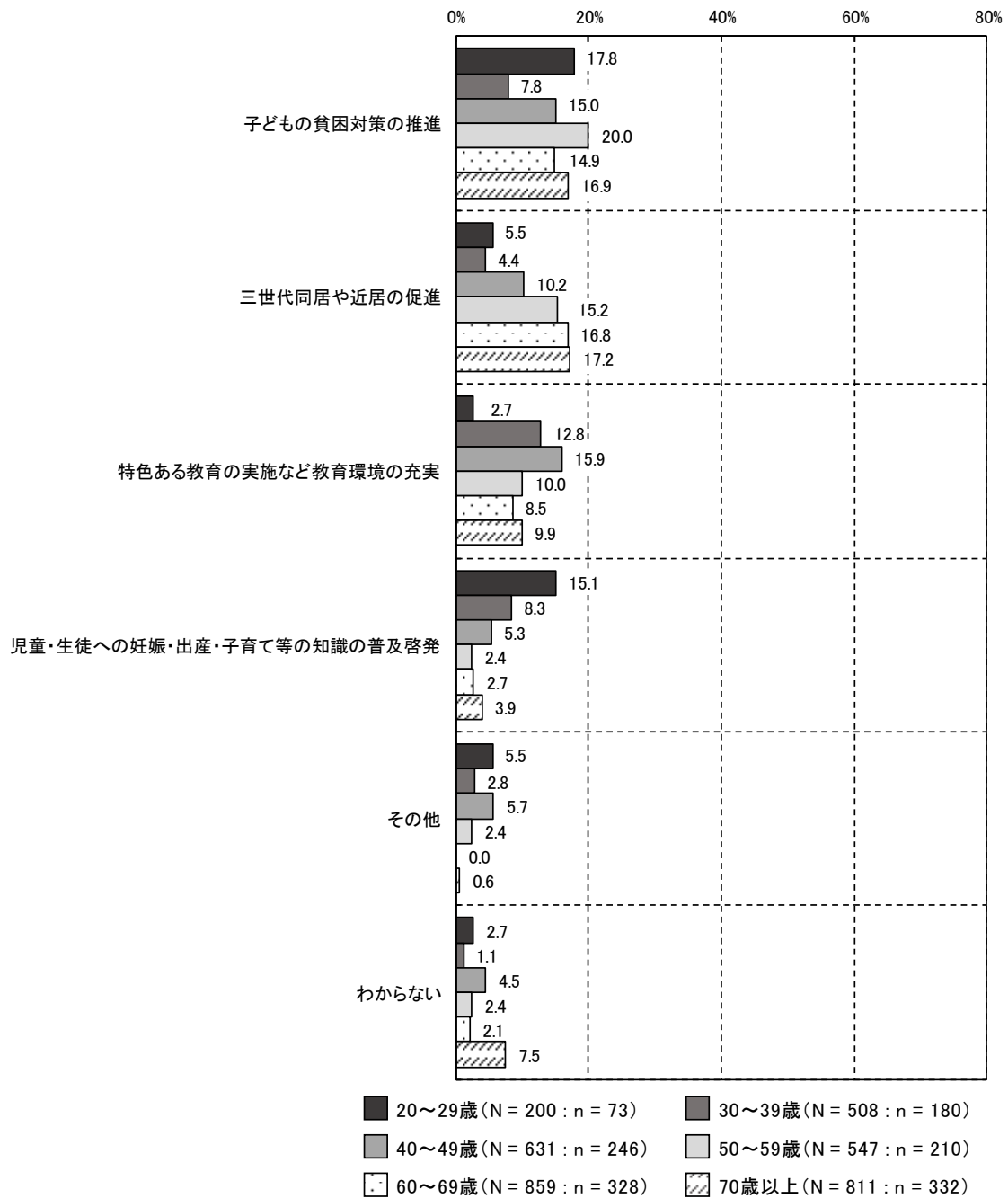
年代別（図 14-3）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「子育て家庭の経済的負担軽減への支援」が最も高く、そのうち 30 歳代が 66.7%と最も高くなっている。50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「子育て支援サービス（保育所、放課後児童クラブなど）充実への支援」が最も高く、そのうち 60 歳代が 47.9%と最も高くなっている。

図 14-3 【年代別】子育て支援への対策



※ N＝総回答数 n＝回答者数

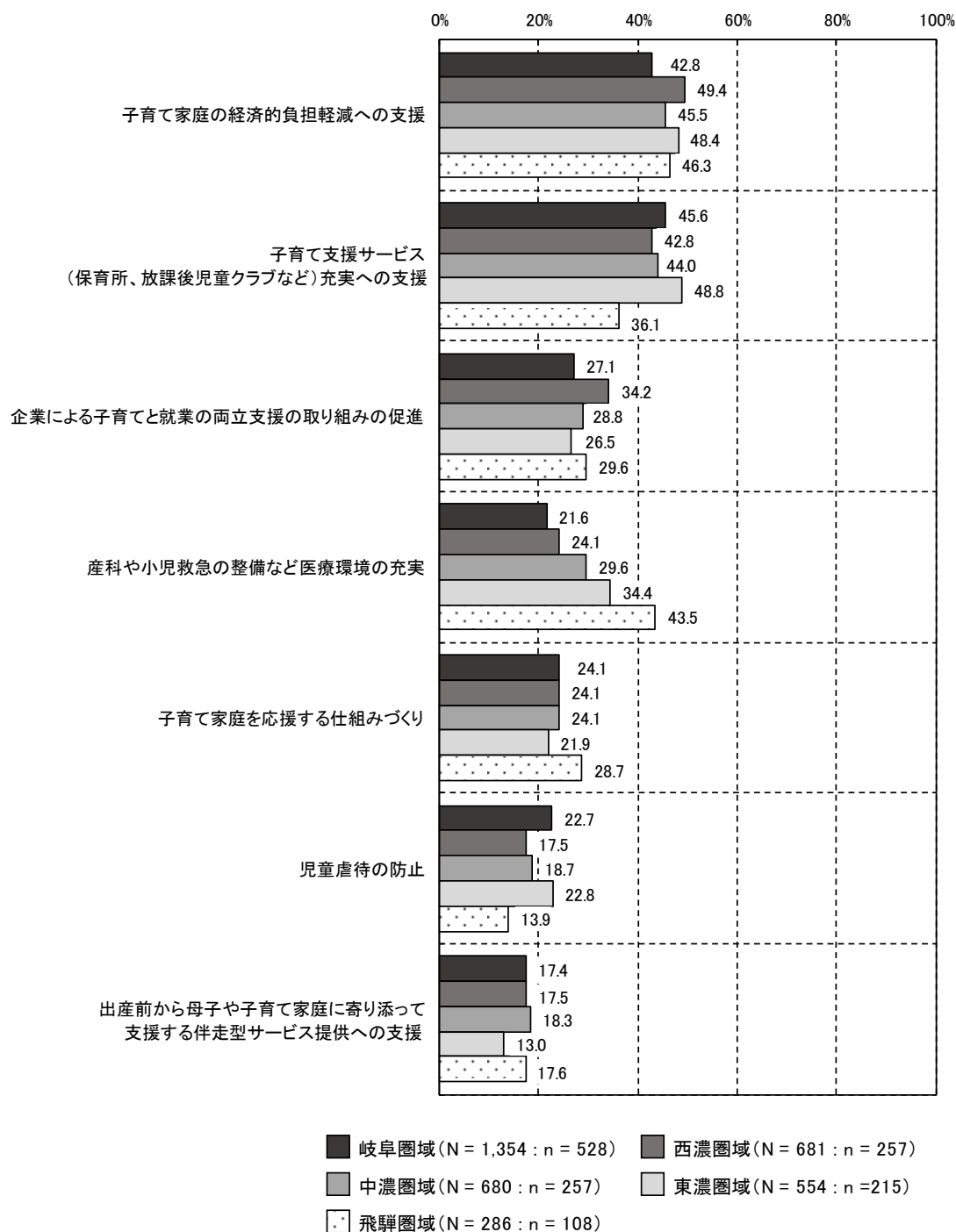
図 14-3 【年代別】子育て支援への対策（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

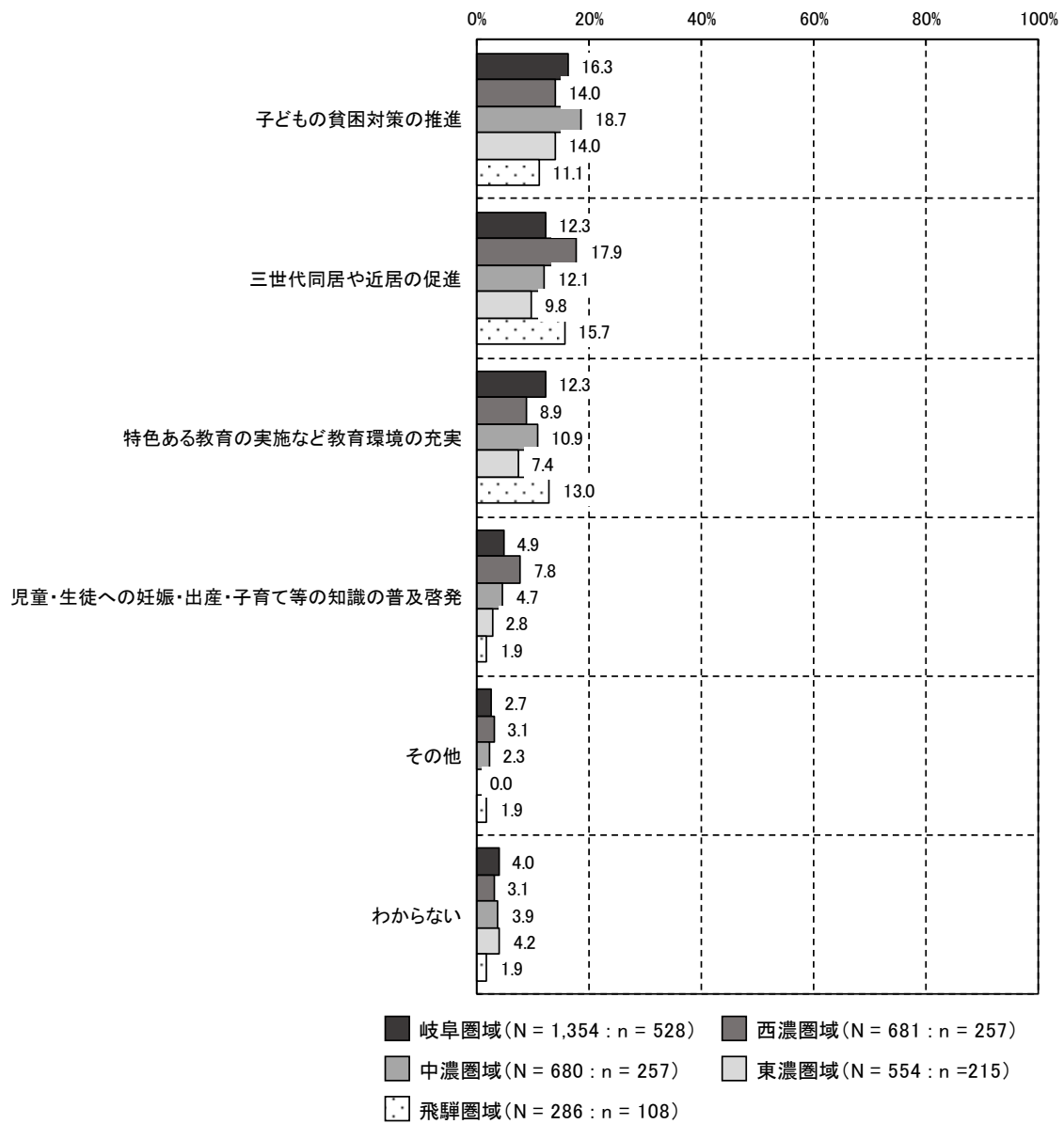
居住圏域別（図 14-4）でみると、西濃圏域、中濃圏域、飛驒圏域では「子育て家庭の経済的負担軽減への支援」が最も高く、そのうち西濃圏域が 49.4%と最も高くなっている。岐阜圏域、東濃圏域では「子育て支援サービス（保育所、放課後児童クラブなど）充実への支援」が最も高く、そのうち東濃圏域が 48.8%と最も高くなっている。

図 14-4 【居住圏域別】 子育て支援への対策



※ N=総回答数 n=回答者数

図 14-4 【居住圏域別】子育て支援への対策（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

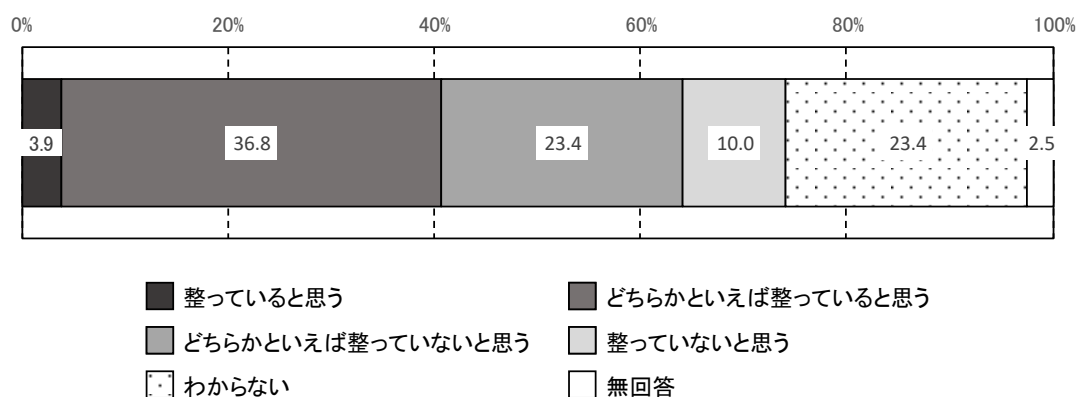
問14-2 地域全体で子育てを支える環境の整備

問14-2 あなたがお住まいの地域では、地域全体で子育てを支える環境が整っていると思いますか。（1つだけ）

全体（図14-2-1）でみると、「どちらかといえば整っていると思う」が36.8%と最も高くなっている。次いで、「どちらかといえば整っていないと思う」「わからない」（ともに23.4%）の順となっている。

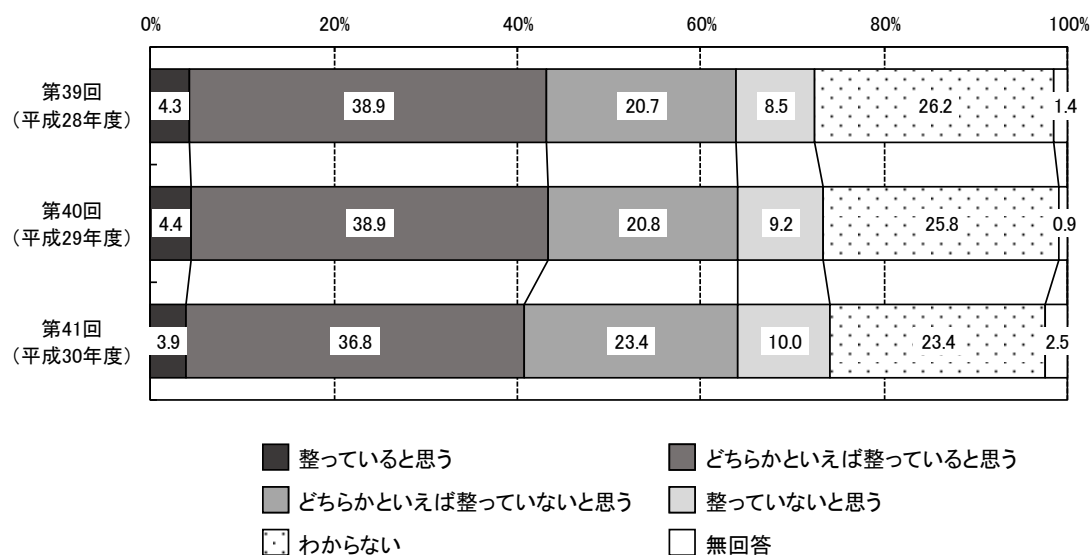
図14-2-1 地域全体で子育てを支える環境の整備

回答者数(n = 1,436)



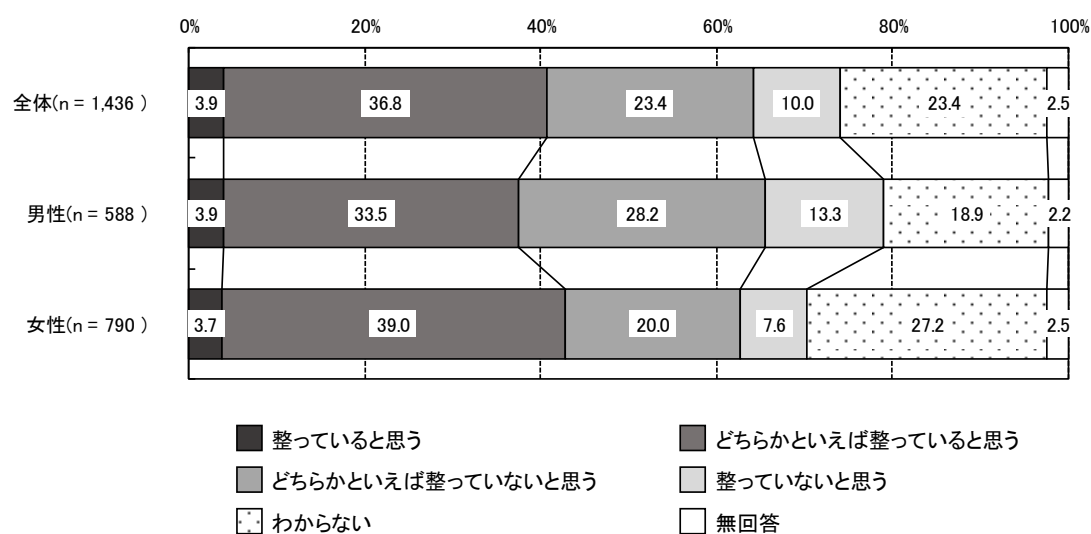
前々回・前回比較（図14-2-2）でみると、前々回・前回と同様に「どちらかといえば整っていると思う」が最も高くなっている。

図14-2-2 【前々回・前回比較】地域全体で子育てを支える環境の整備



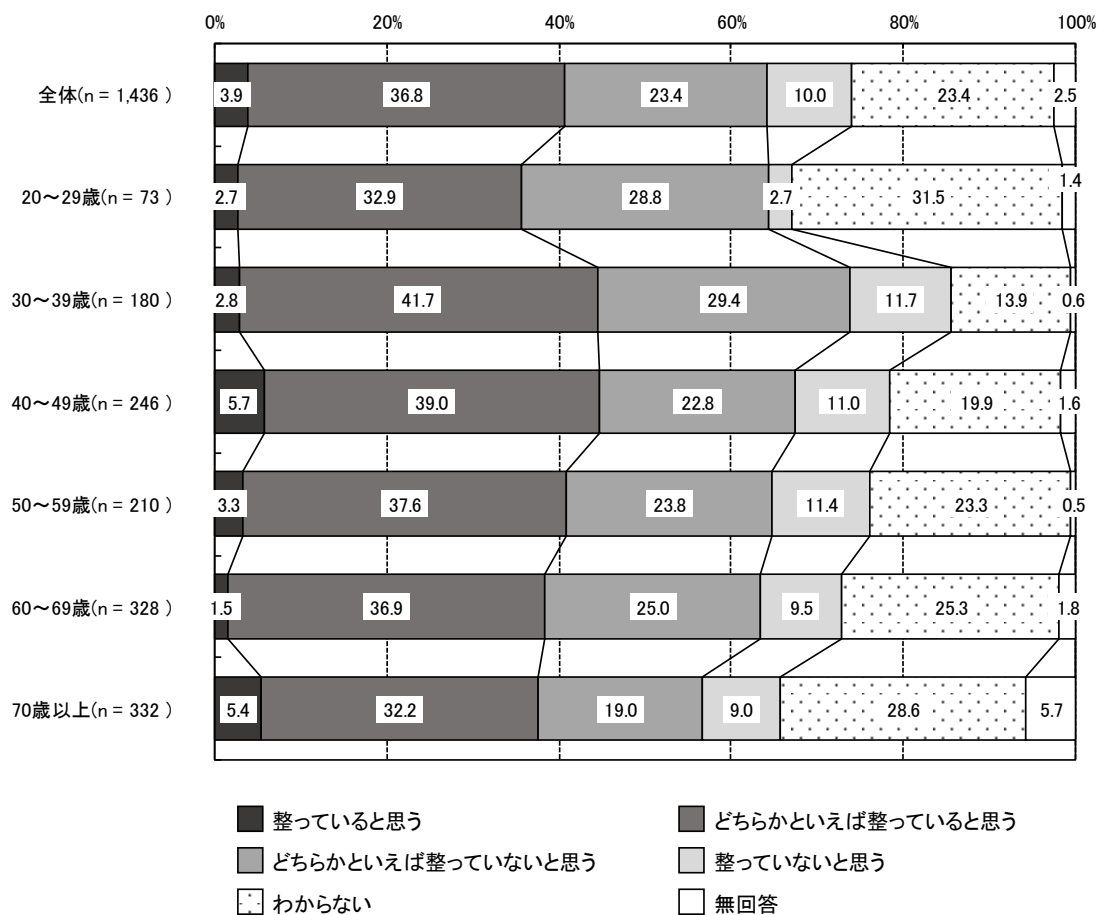
性別（図 14-2-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、女性が男性より 5.5 ポイント高くなっている。

図 14-2-3 【性別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



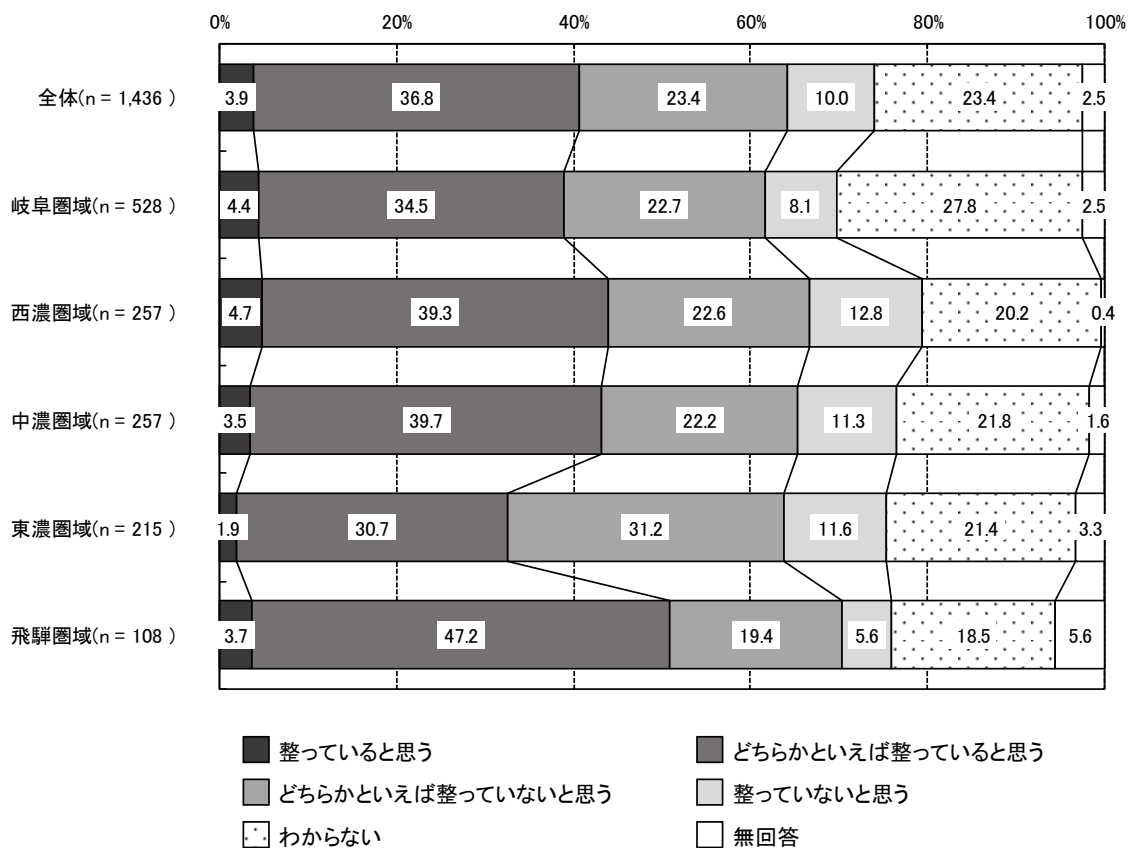
年代別（図 14-2-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、そのうち 30 歳代が 41.7%と最も高くなっている。

図 14-2-4 【年代別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



居住圏域別（図 14-2-5）でみると、東濃圏域を除くいずれの居住圏域においても「どちらかといえば整っていると思う」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 47.2%と最も高くなっている。東濃圏域では「どちらかといえば整っていないと思う」が最も高く、31.2%となっている。

図 14-2-5 【居住圏域別】 地域全体で子育てを支える環境の整備



問15 若者の県内定着への対策

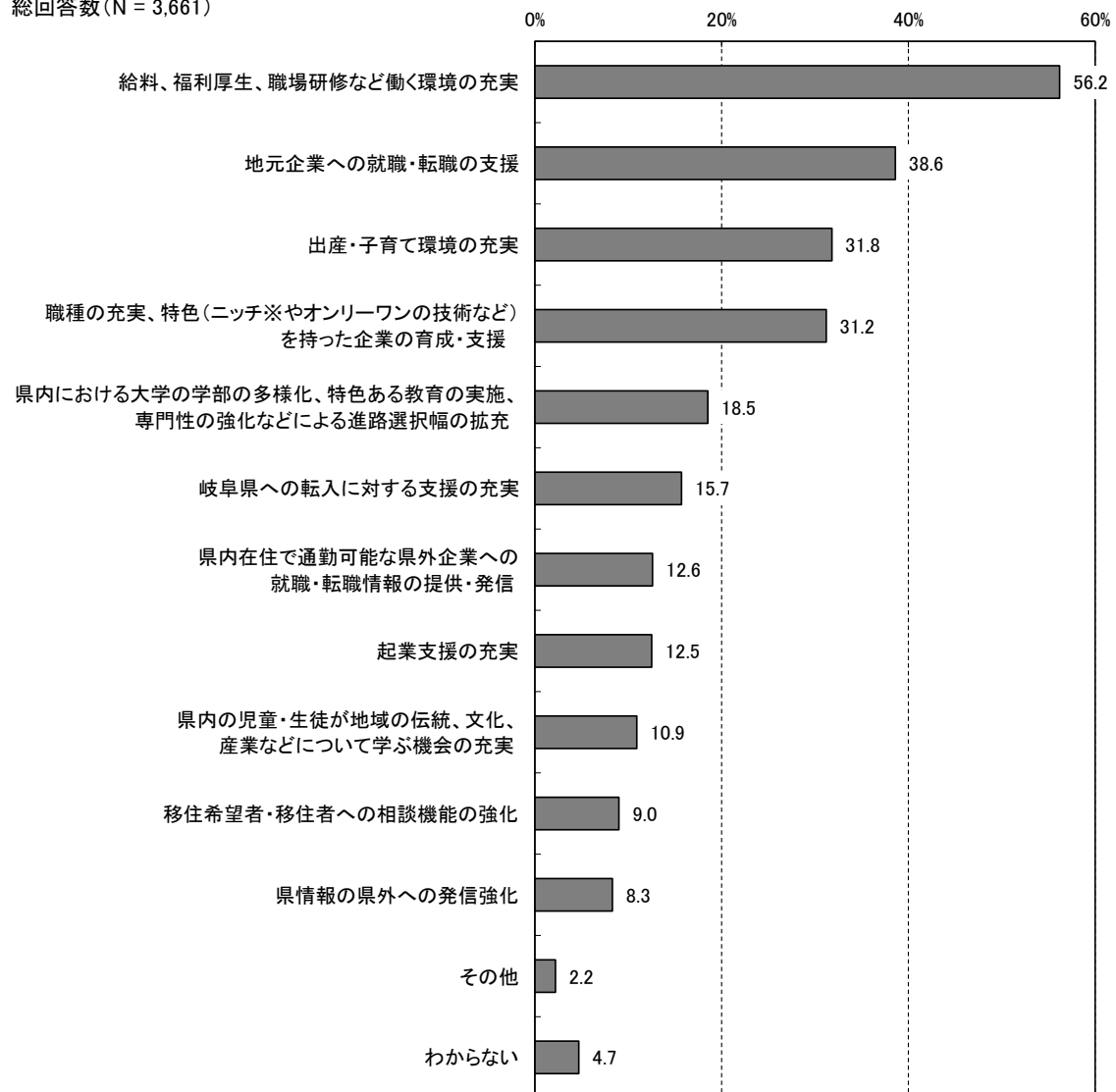
問15 あなたは、若者が県内に定着するために、どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。（3つまで）

全体（図15-1）でみると、「給料、福利厚生、職場研修など働く環境の充実」が56.2%と最も高く、次いで「地元企業への就職・転職の支援」（38.6%）、「出産・子育て環境の充実」（31.8%）の順となっている。

図15-1 若者の県内定着への対策

回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 3,661)

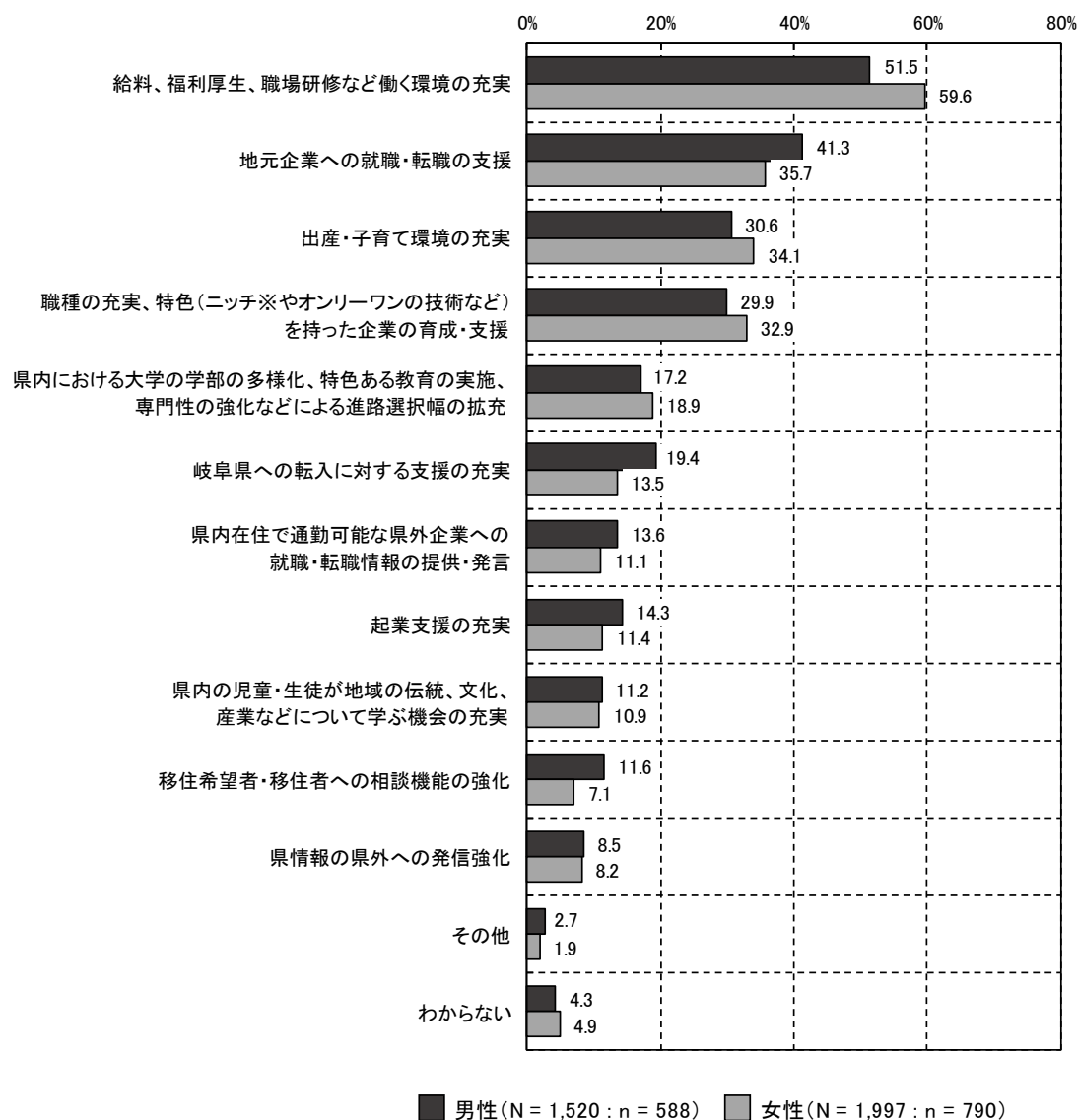


※ ニッチ：潜在的なニーズがありながら、あまり手を付けられずに隙間のようにになっている分野。特定の需要や顧客が見込まれる分野

※ 第39・40回調査では、「若者の県内定着への対策」は聞いていない。

性別（図 15-2）でみると、男女ともに「給料、福利厚生、職場研修など働く環境の充実」が最も高くなっており、女性が男性より 8.1 ポイント高くなっている。「地元企業への就職・転職の支援」では、男性が女性より 5.6 ポイント高くなっている。

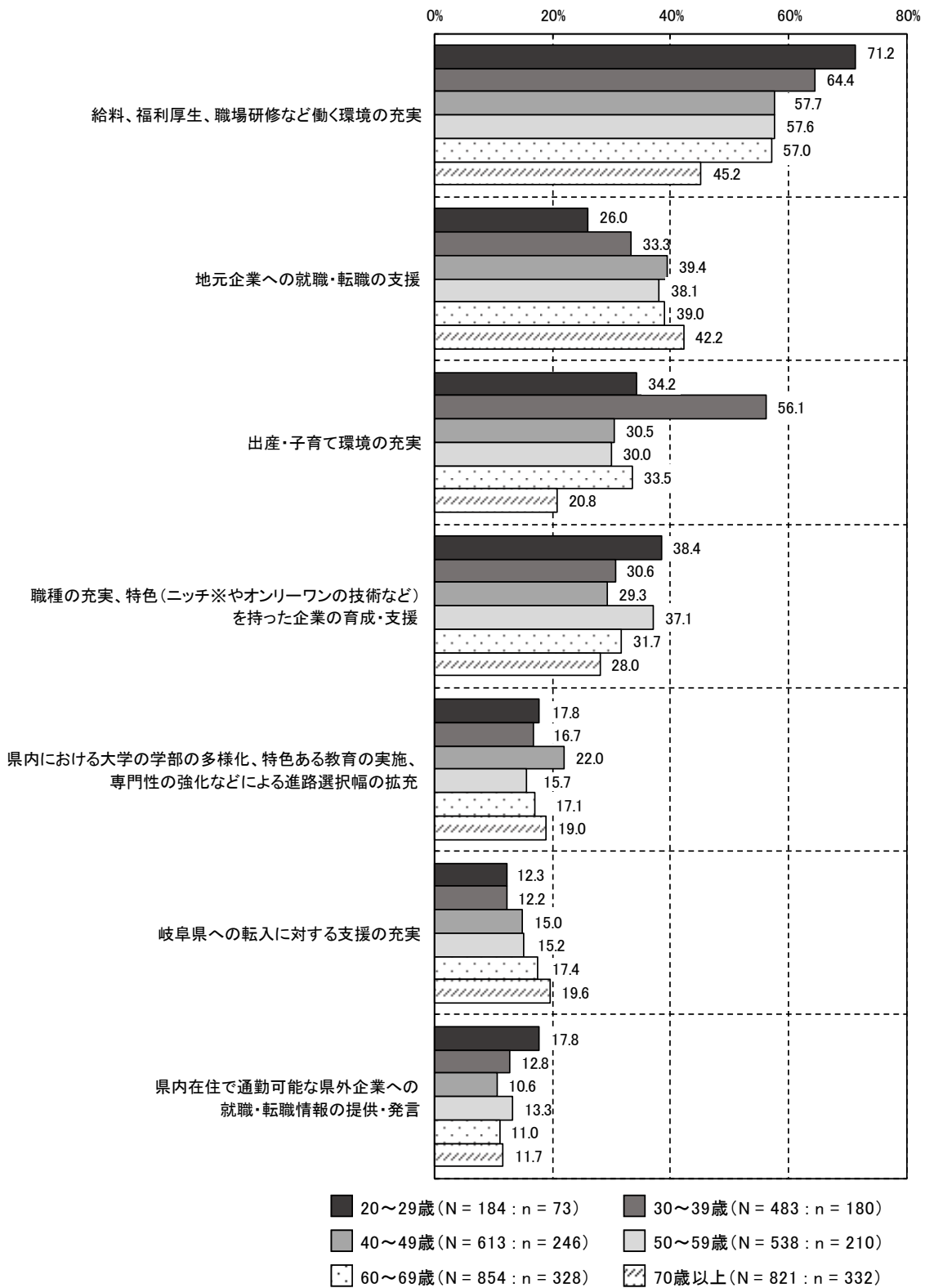
図 15-2 【性別】 若者の県内定着への対策



※ N＝総回答数 n＝回答者数

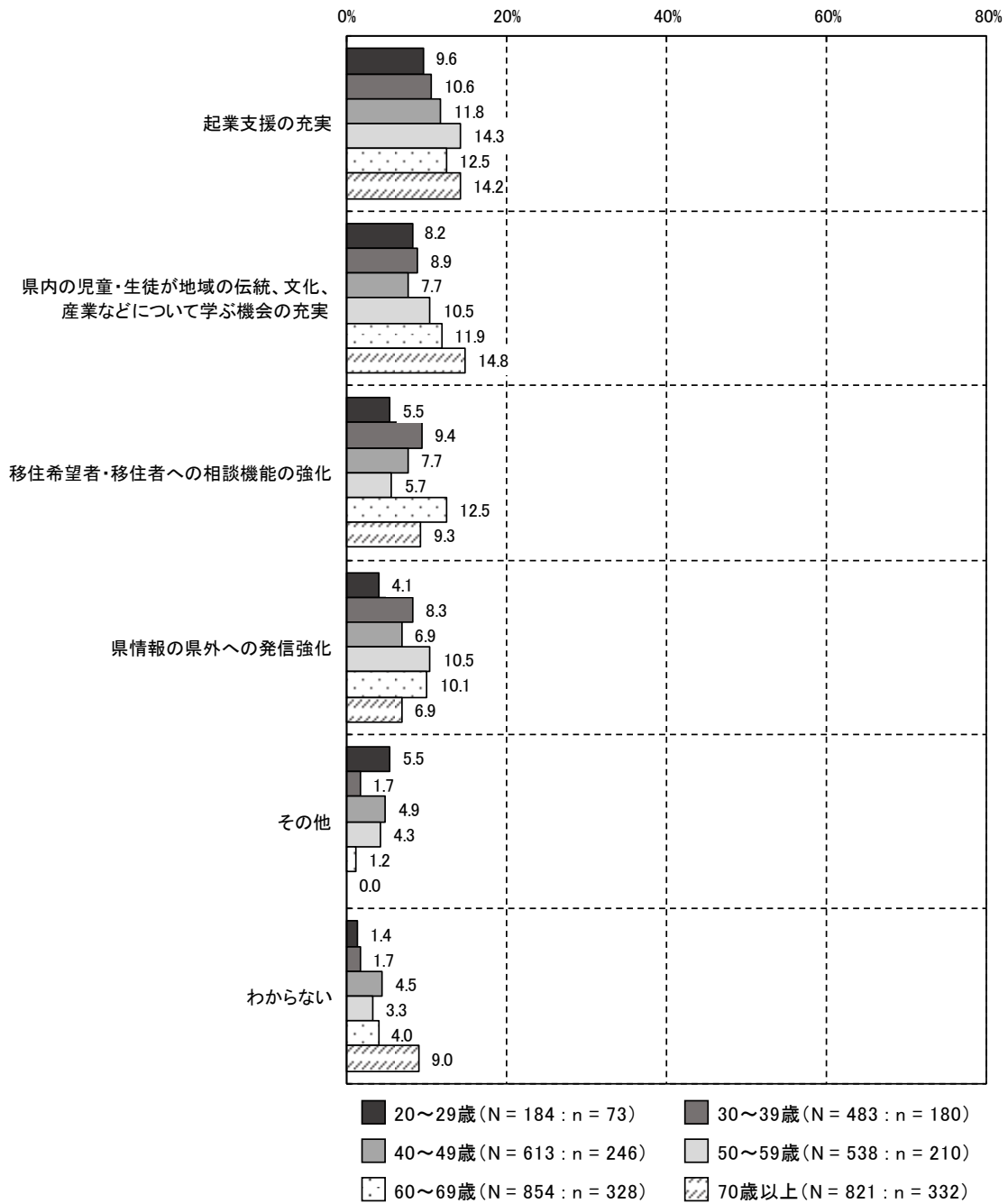
年代別（図 15-3）でみると、いずれの年代においても、「給料、福利厚生、職場研修など働く環境の充実」が最も高く、そのうち 20 歳代が 71.2%と最も高くなっている。

図 15-3 【年代別】若者の県内定着への対策



※ N=総回答数 n=回答者数

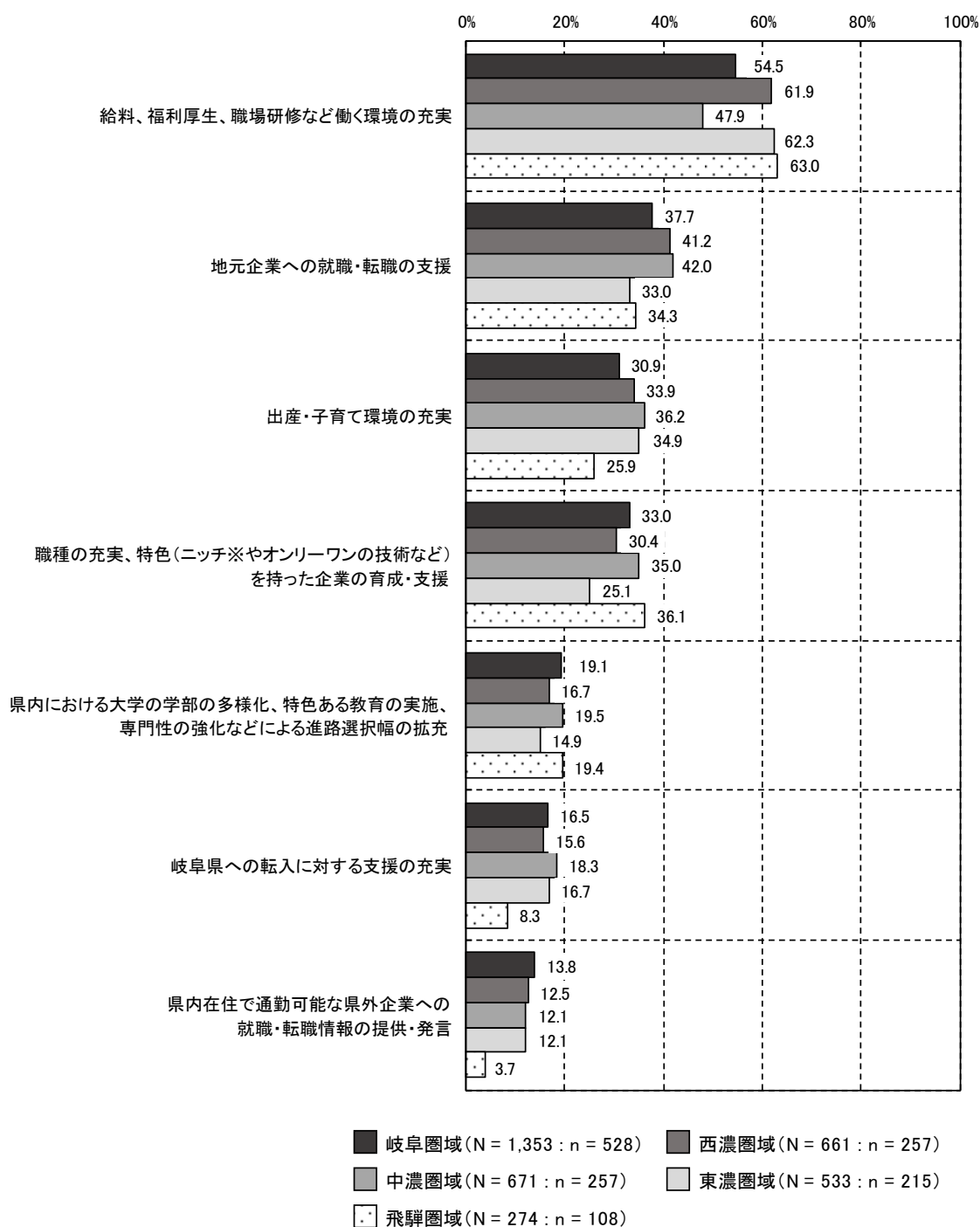
図 15-3 【年代別】若者の県内定着への対策（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

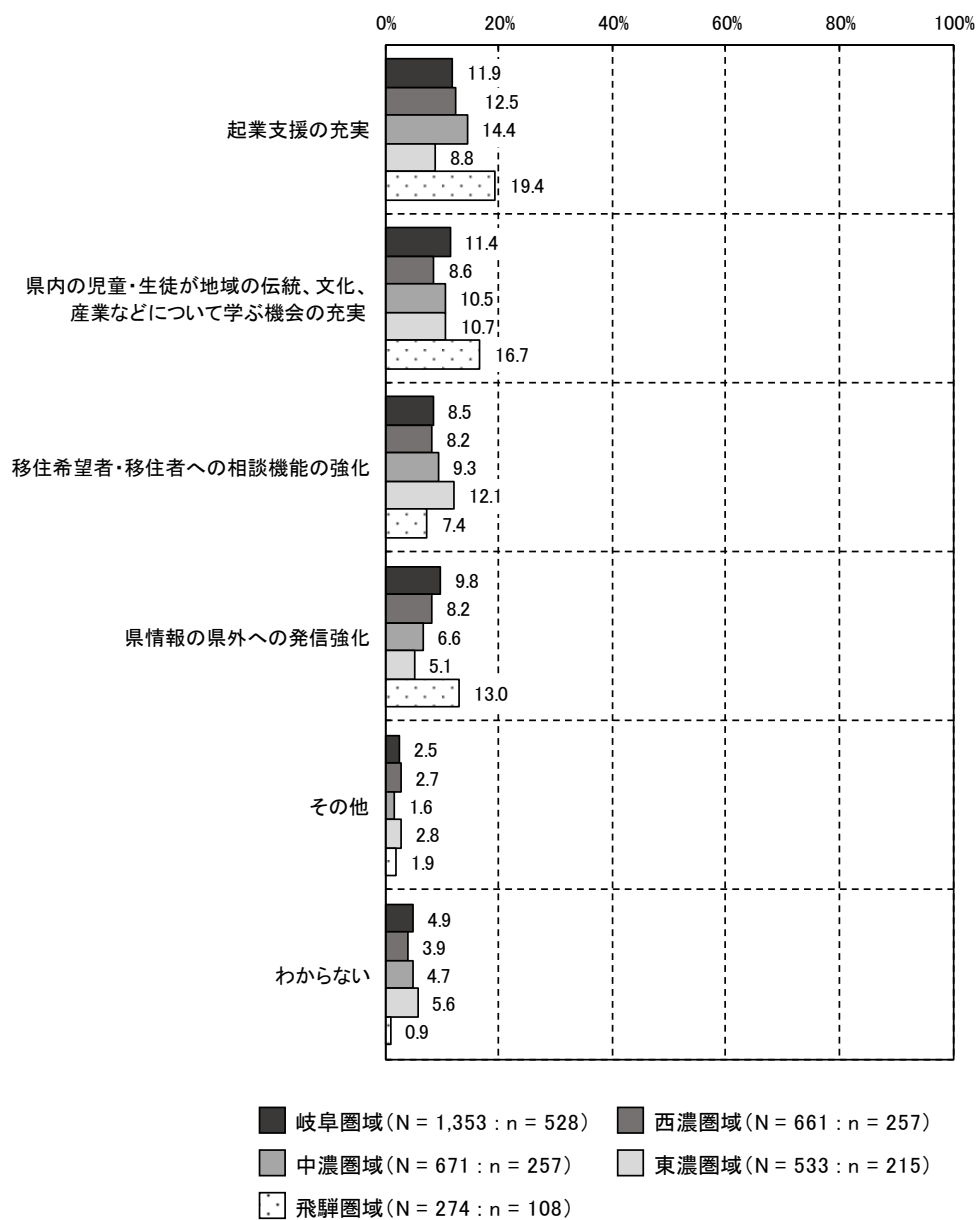
居住圏域別（図 15-4）でみると、いずれの居住圏域においても「給料、福利厚生、職場研修など働く環境の充実」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 63.0%と最も高くなっている。

図 15-4 【居住圏域別】若者の県内定着への対策



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 15-4 【居住圏域別】若者の県内定着への対策（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

2. 3 生活を取り巻くさまざまな課題について

問16 「高齢者」「障がい者」を支える環境の整備

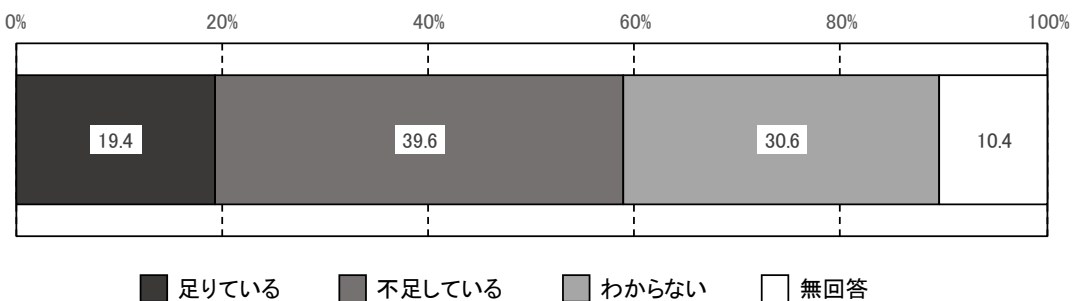
問16 あなたがお住まいの地域では、「高齢者」「障がい者」を支える環境が整っていると思いますか。(それぞれ1つずつ)

【「高齢者」を支える環境の整備】

「高齢者」を支える環境の整備について全体(図16-1)でみると、「不足している」が39.6%と最も高く、次いで「わからない」(30.6%)、「足りている」(19.4%)の順となっている。

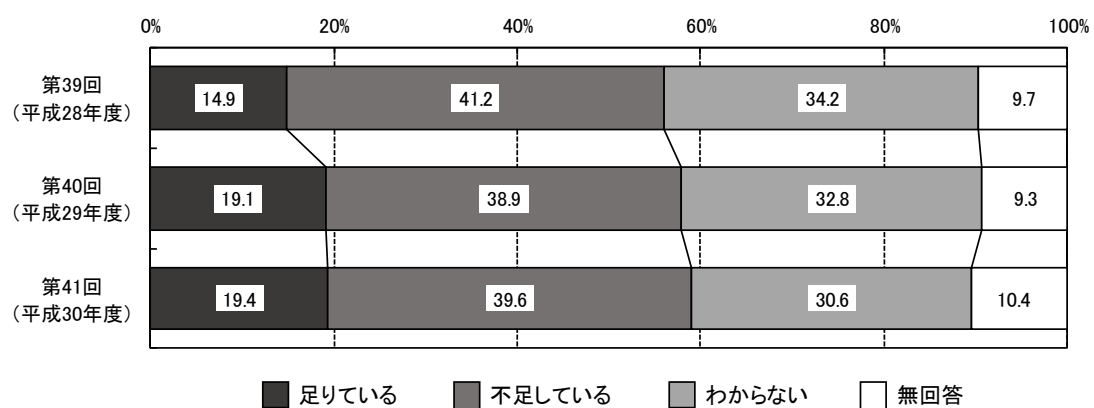
図16-1 「高齢者」を支える環境の整備

回答者数(n = 1,436)



「高齢者」を支える環境の整備について前々回・前回比較(図16-2)でみると、前々回・前回と同様に「不足している」が最も高く、前回に比べて0.7ポイント増加している。

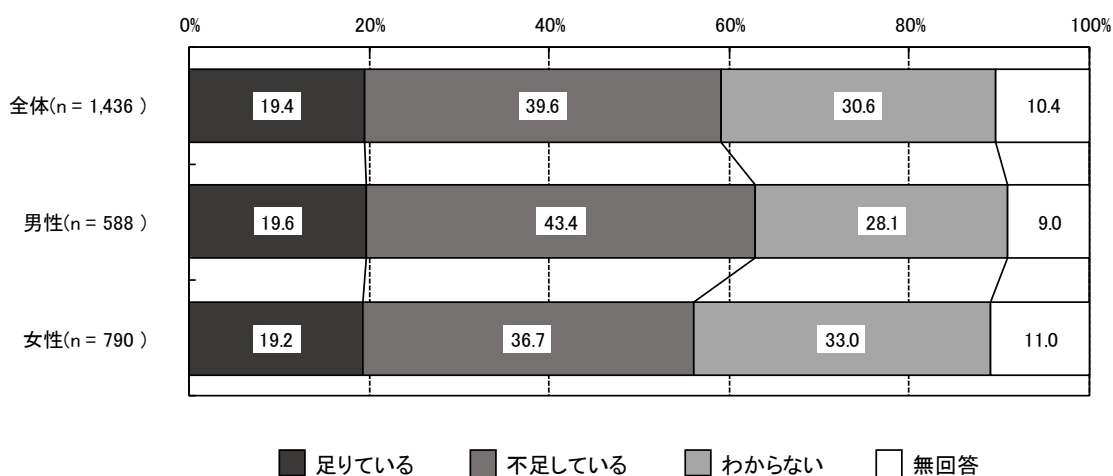
図16-2 【前々回・前回比較】「高齢者」を支える環境の整備



※ 第39・40回調査では、設問は「あなたがお住まいの地域で、「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスは足りていると思いますか。」であった。

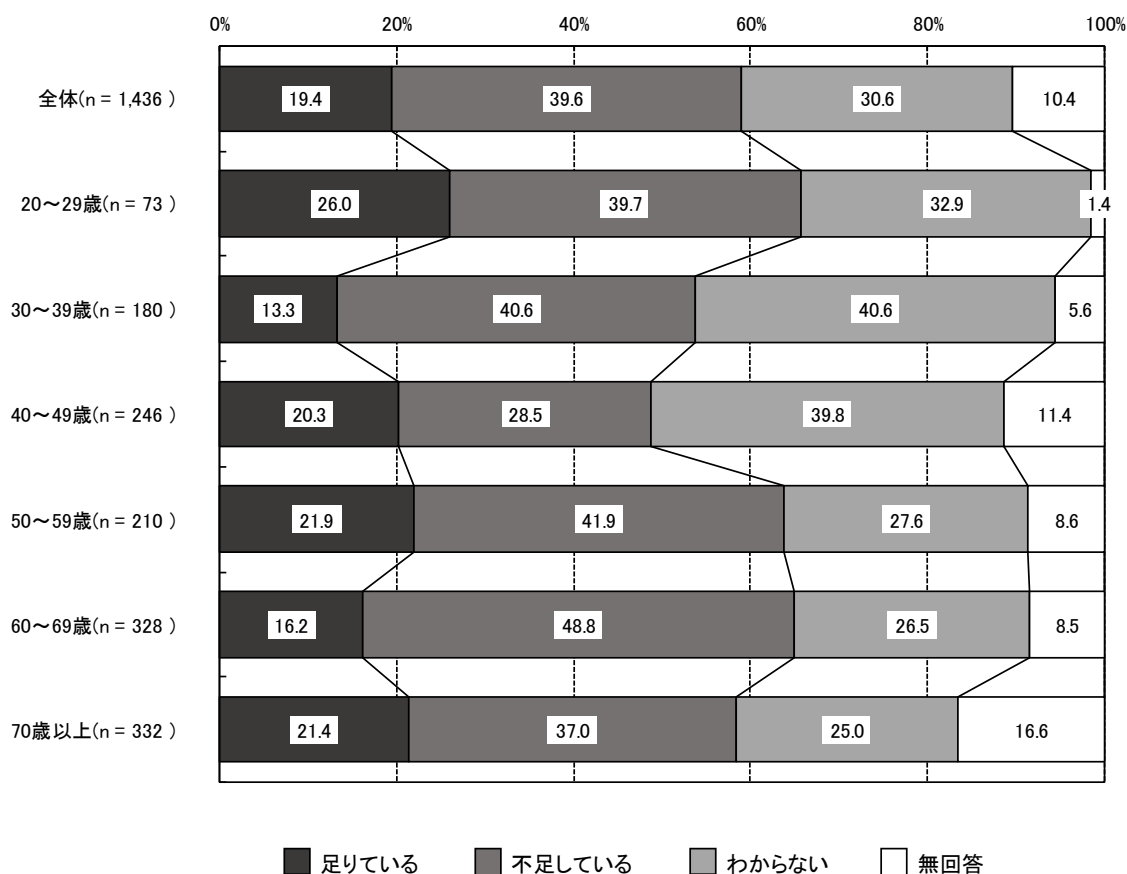
「高齢者」を支える環境の整備について性別（図 16-3）でみると、男女ともに「不足している」が最も高く、男性が女性より 6.7 ポイント高くなっている。

図 16-3 【性別】「高齢者」を支える環境の整備



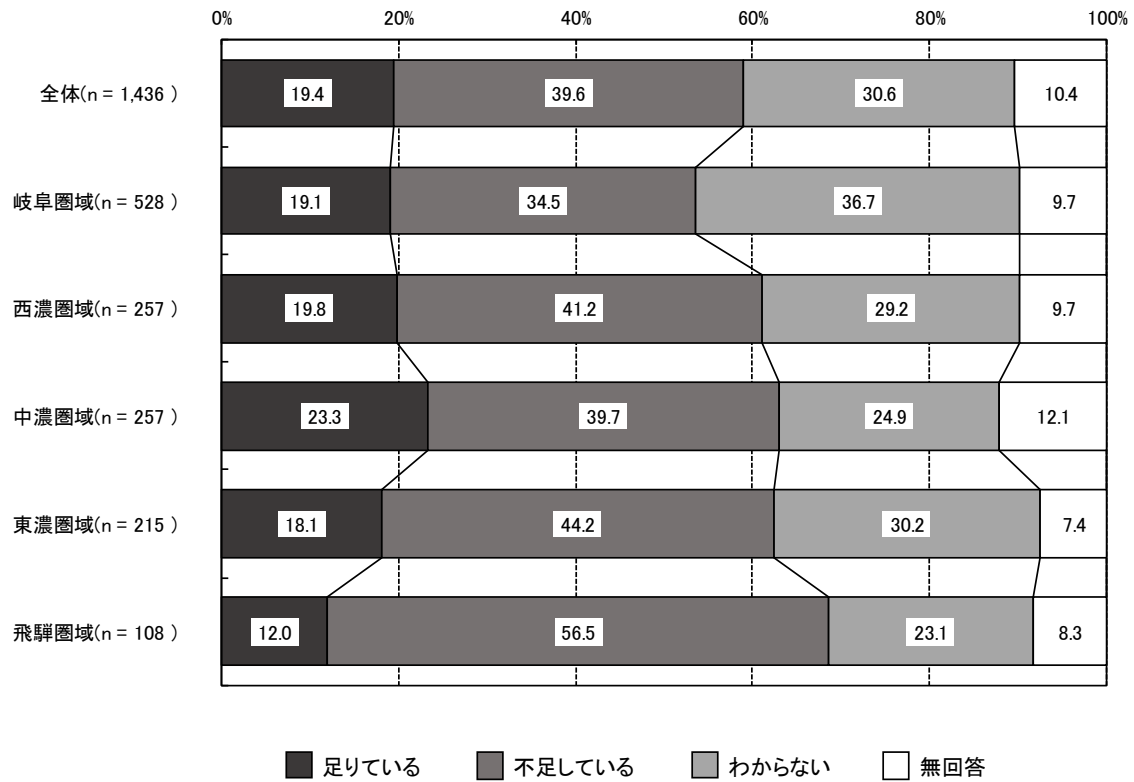
「高齢者」を支える環境の整備について年代別（図 16-4）でみると、40 歳代を除くすべての年代で「不足している」が最も高く、（30 歳代は、「不足している」と「わからない」がともに 40.6%）そのうち 60 歳代が 48.8%と最も高くなっている。40 歳代は「わからない」が 39.8%と最も高くなっている。

図 16-4 【年代別】「高齢者」を支える環境の整備



「高齢者」を支える環境の整備について居住圏域別（図 16-5）でみると、岐阜圏域を除くいずれの居住圏域においても「不足している」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 56.5%と最も高くなっている。岐阜圏域は「わからない」が 36.7%と最も高くなっている。

図 16-5 【居住圏域別】「高齢者」を支える環境の整備

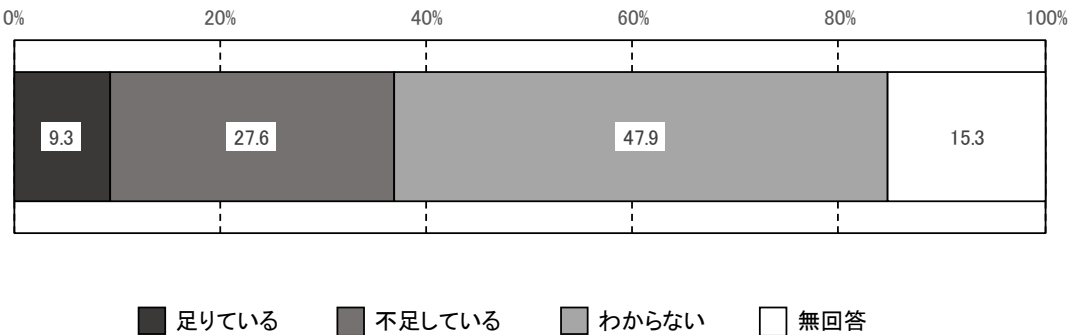


【「障がい者」を支える環境の整備】

「障がい者」を支える環境の整備について全体(図 16-6)でみると、「わからない」が47.9%と最も高く、次いで「不足している」(27.6%)、「足りている」(9.3%)の順となっている。

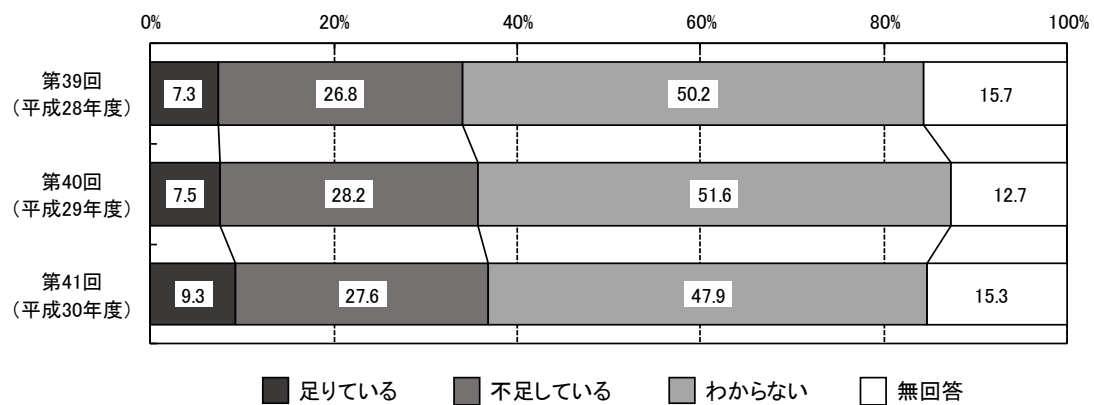
図 16-6 「障がい者」を支える環境の整備

回答者数(n = 1,436)



「障がい者」を支える環境の整備について前々回・前回比較(図 16-7)でみると、前々回・前回と同様に「わからない」が最も高くなっている。また、「足りている」が年々増加している。

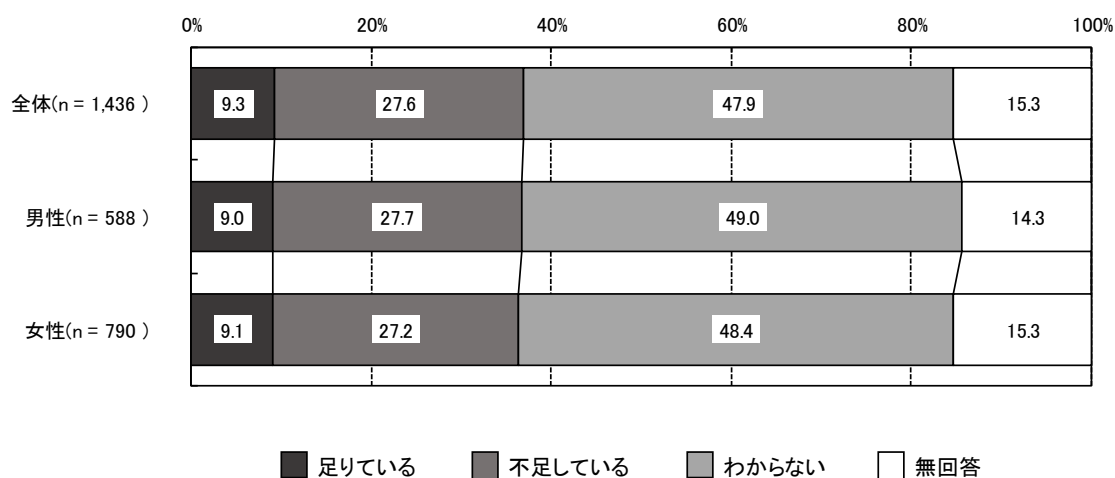
図 16-7 【前々回・前回比較】「障がい者」を支える環境の整備



※ 第39・40回調査では、設問は「あなたがおすまいの地域で、「高齢者」「障がい者」に対する福祉サービスは足りていると思いますか。」であった。

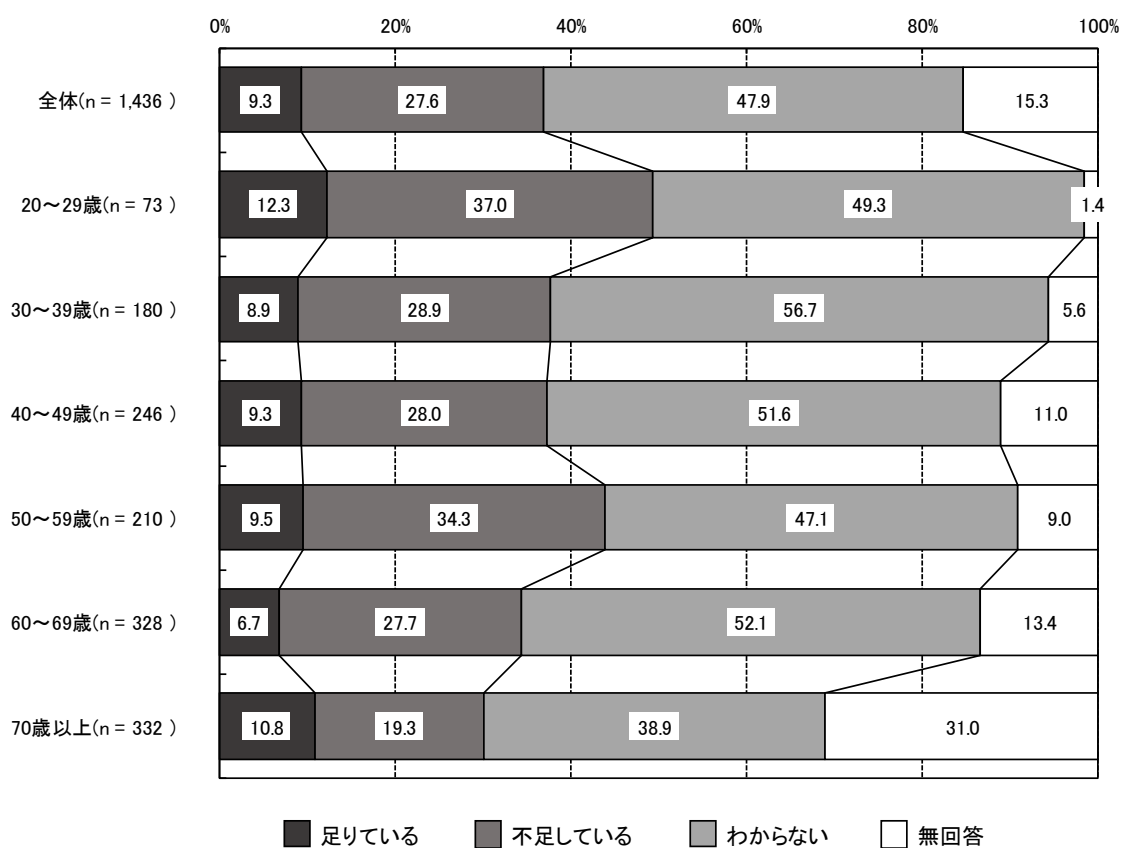
「障がい者」を支える環境の整備について性別（図 16-8）でみると、男女ともに「わからない」が最も高く、男性が 49.0%、女性が 48.4%となっている。

図 16-8 【性別】「障がい者」を支える環境の整備



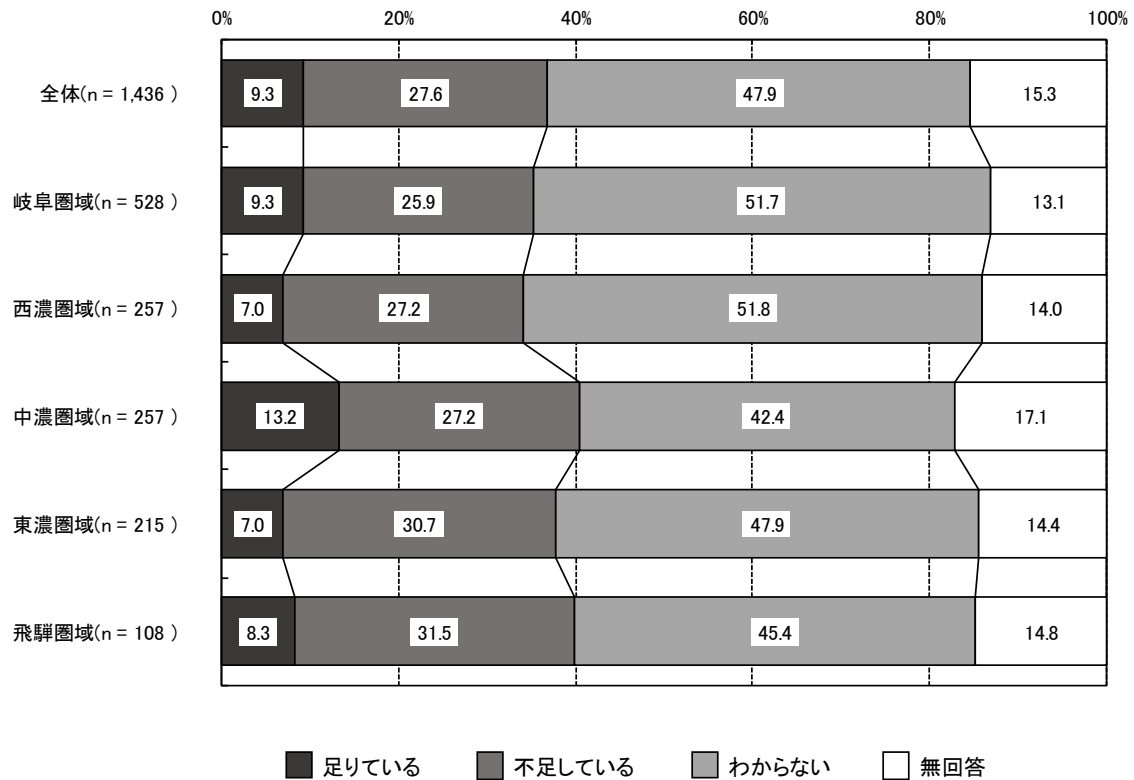
「障がい者」を支える環境の整備について年代別（図 16-9）でみると、いずれの年代においても「わからない」が最も高く、そのうち 30 歳代が 56.7%と最も高くなっている。

図 16-9 【年代別】「障がい者」を支える環境の整備



「障がい者」を支える環境の整備について居住圏域別（図 16-10）で見ると、いずれの居住圏域においても「わからない」が最も高く、そのうち西濃圏域が 51.8%と最も高くなっている。

図 16-10 【居住圏域別】「障がい者」を支える環境の整備



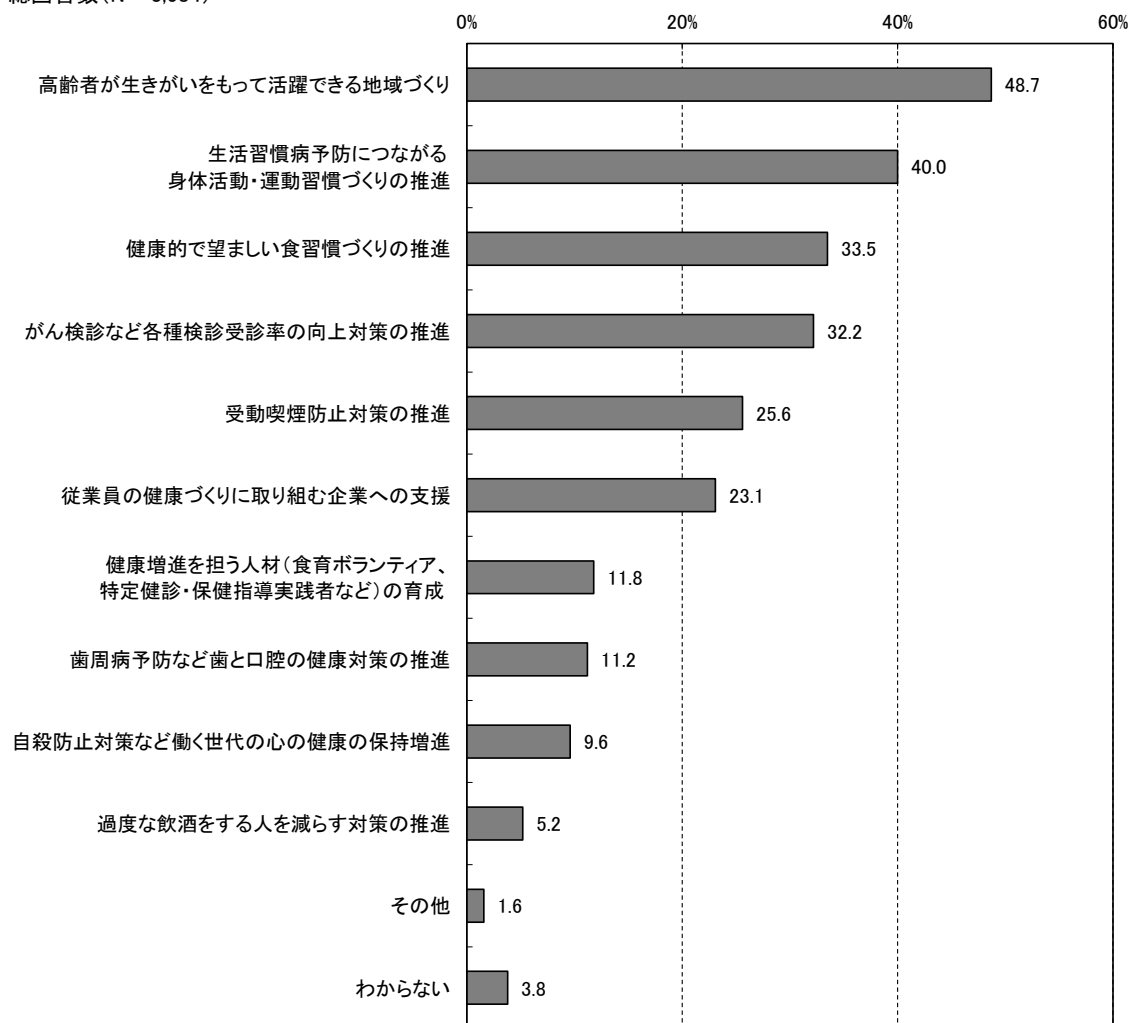
問17 健康づくりへの対策

問17 人生100年時代を迎えた今、あなたは、健康づくりのため、県がどのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。（3つまで）

全体（図17-1）でみると、「高齢者が生きがいをもって活躍できる地域づくり」が48.7%と最も高く、次いで「生活習慣病予防につながる身体活動・運動習慣づくりの推進」（40.0%）、「健康的で望ましい食習慣づくりの推進」（33.5%）の順となっている。

図17-1 健康づくりへの対策

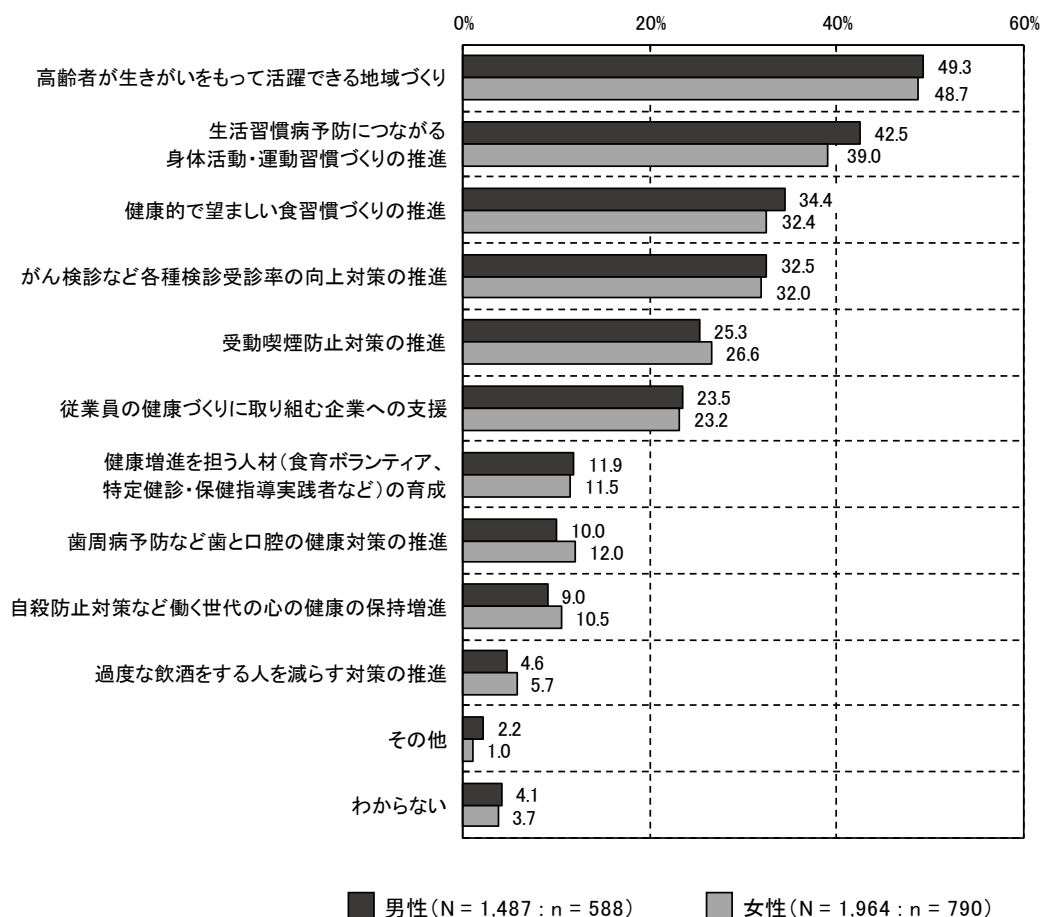
回答者数(n = 1,436)
総回答数(N = 3,584)



※ 第39・40回調査では、「健康づくりへの対策」は聞いていない。

性別（図 17-2）でみると、男女ともに「高齢者が生きがいをもって活躍できる地域づくり」が最も高くなっており、次いで「生活習慣病予防につながる身体活動・運動習慣づくりの推進」、「健康的で望ましい食習慣づくりの推進」の順となっている。

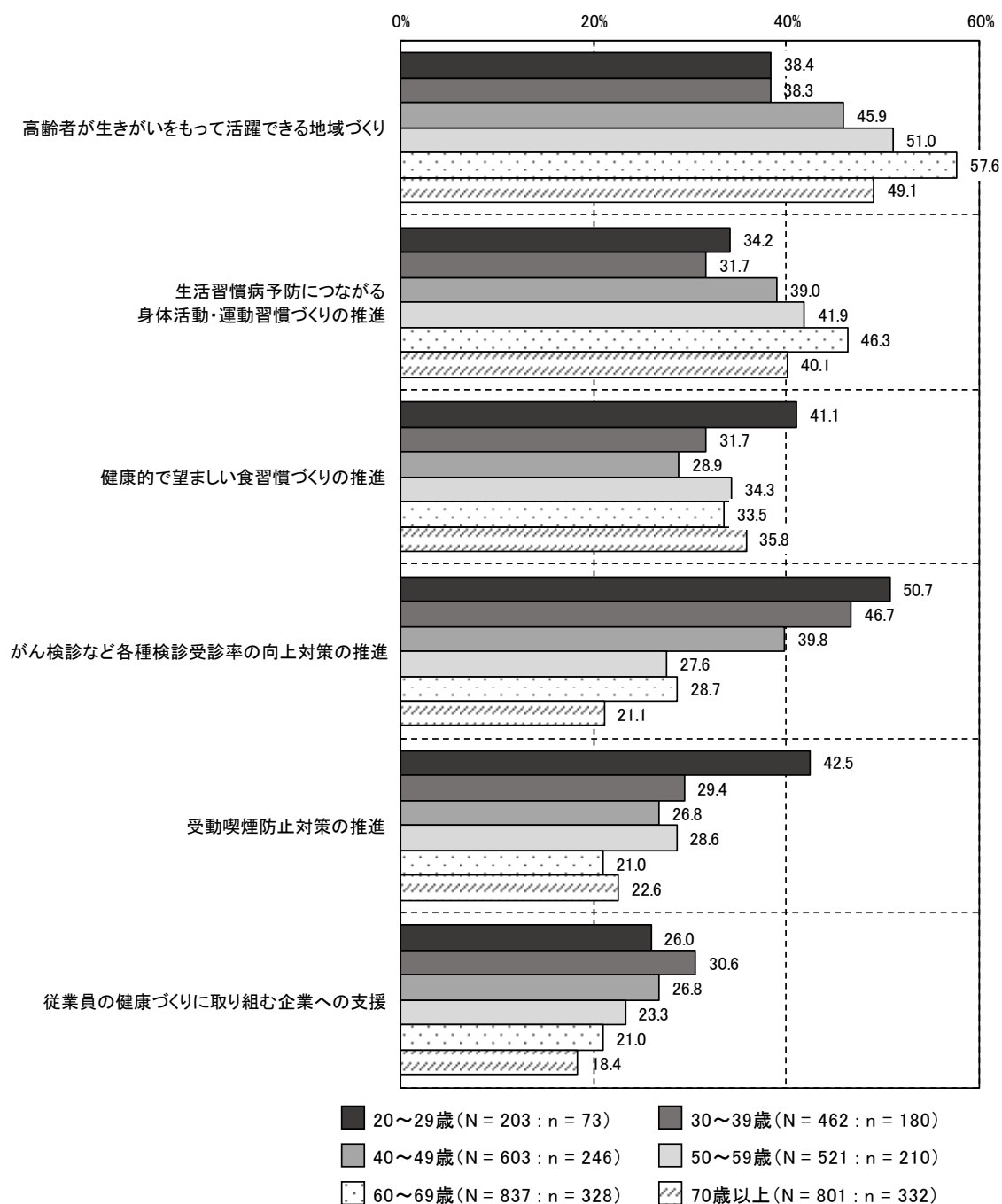
図 17-2 【性別】 健康づくりへの対策



※ N=総回答数 n=回答者数

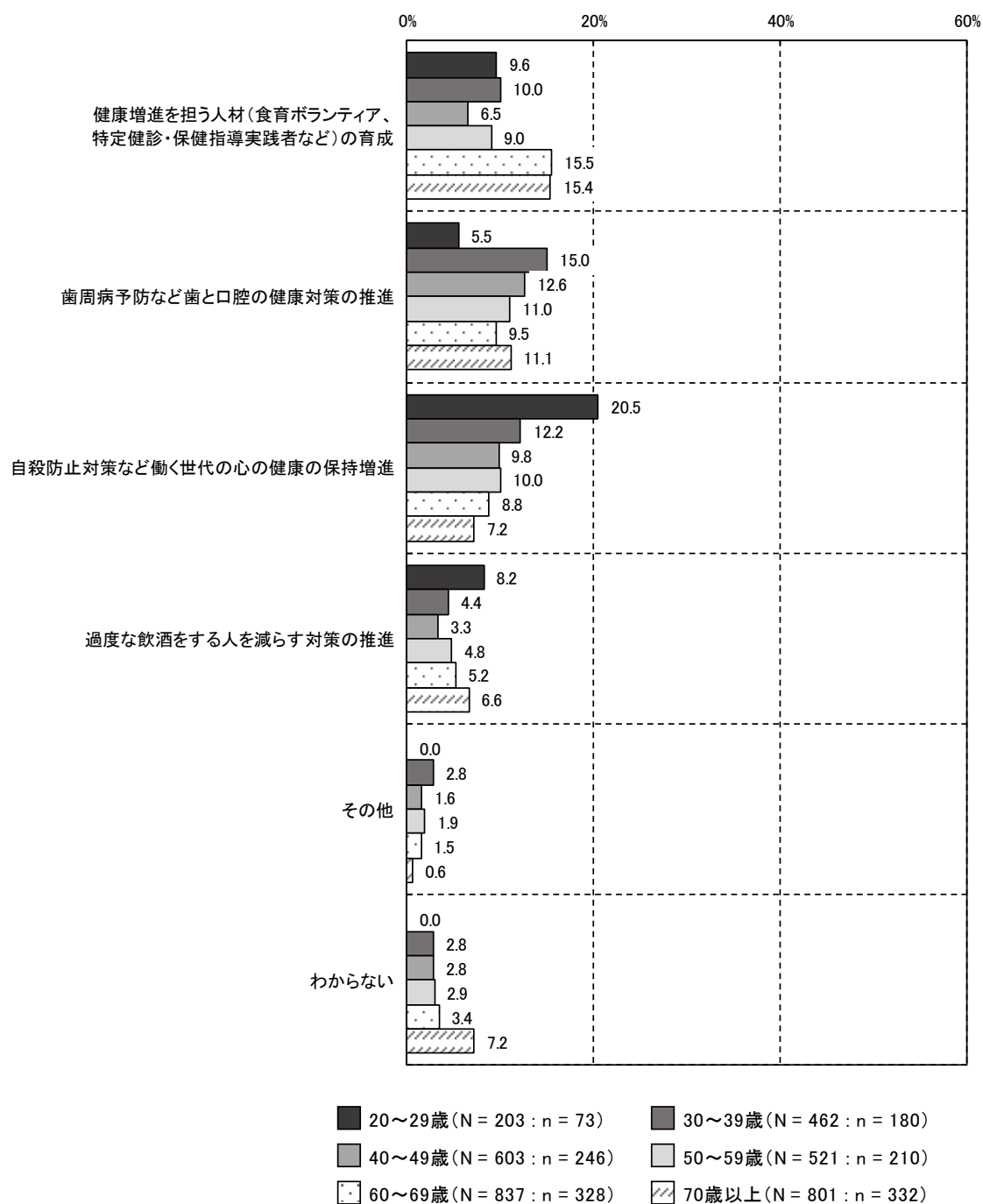
年代別（図 17-3）でみると、20 歳代と 30 歳代を除くいずれの年代においても「高齢者が生きがいをもって活躍できる地域づくり」が最も高く、そのうち 60 歳代が 57.6%と最も高くなっている。20 歳代と 30 歳代では「がん検診など各種検診受診率の向上対策の推進」が最も高くなっており、そのうち 20 歳代が 50.7%と最も高くなっている。

図 17-3 【年代別】健康づくりへの対策



※ N=総回答数 n=回答者数

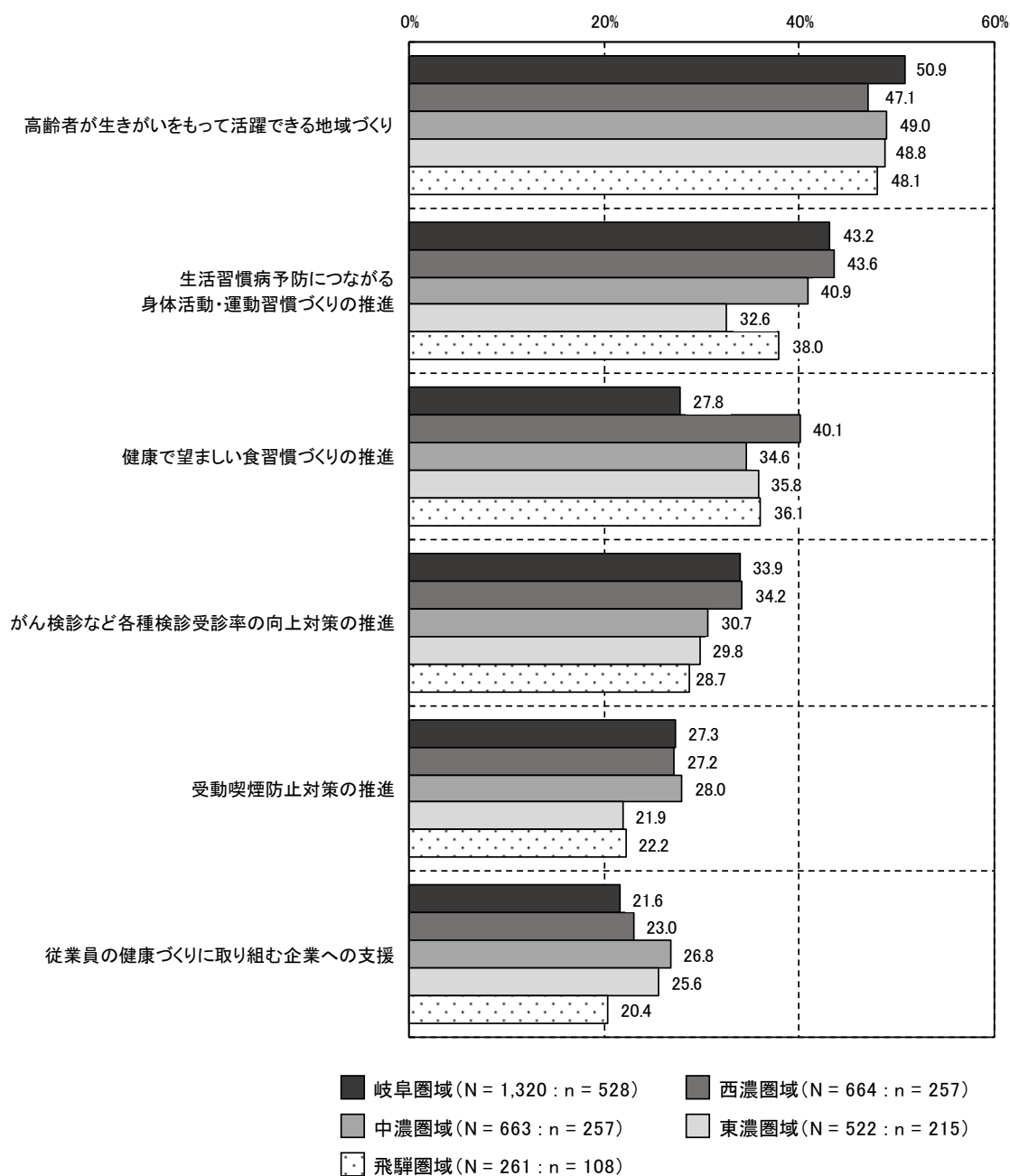
図 17-3 【年代別】健康づくりへの対策（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

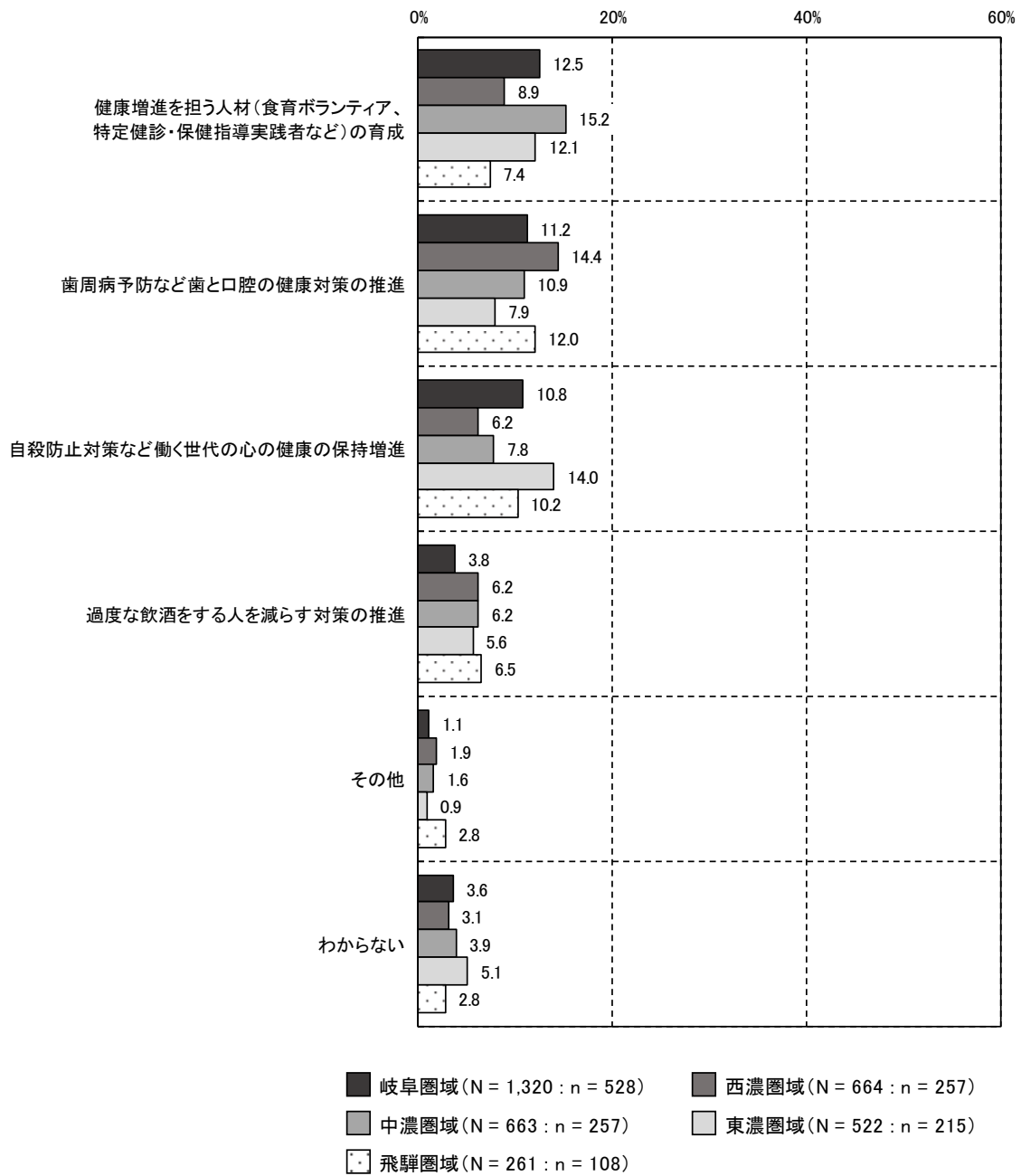
居住圏域別（図 17-4）でみると、いずれの居住圏域においても「高齢者が生きがいをもって活躍できる地域づくり」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 50.9%と最も高くなっている。

図 17-4 【居住圏域別】健康づくりへの対策



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 17-4 【居住圏域別】健康づくりへの対策（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

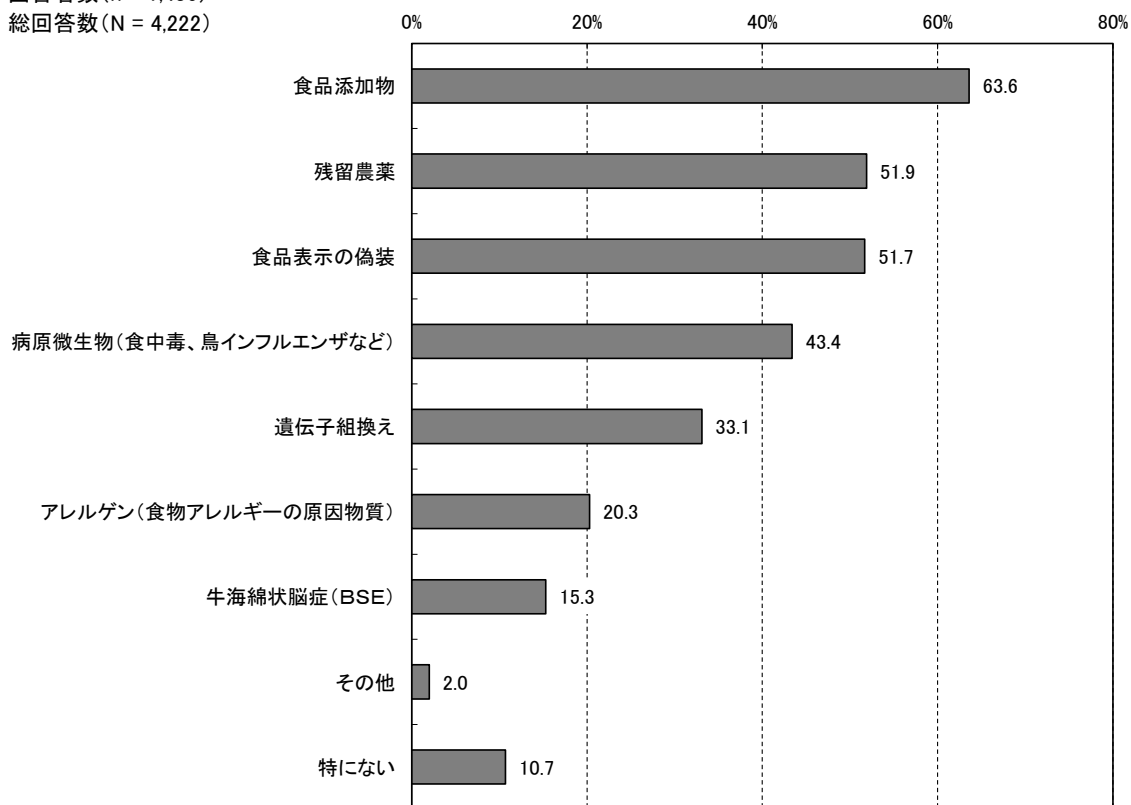
問18 食品の安全性への不安

問18 あなたは、普段食べている食品の安全性について、どのような不安を感じることがありますか。(いくつでも)

全体(図18-1)でみると、「食品添加物」が63.6%と最も高く、次いで「残留農薬」(51.9%)、「食品表示の偽装」(51.7%)の順となっている。

図18-1 食品の安全性への不安

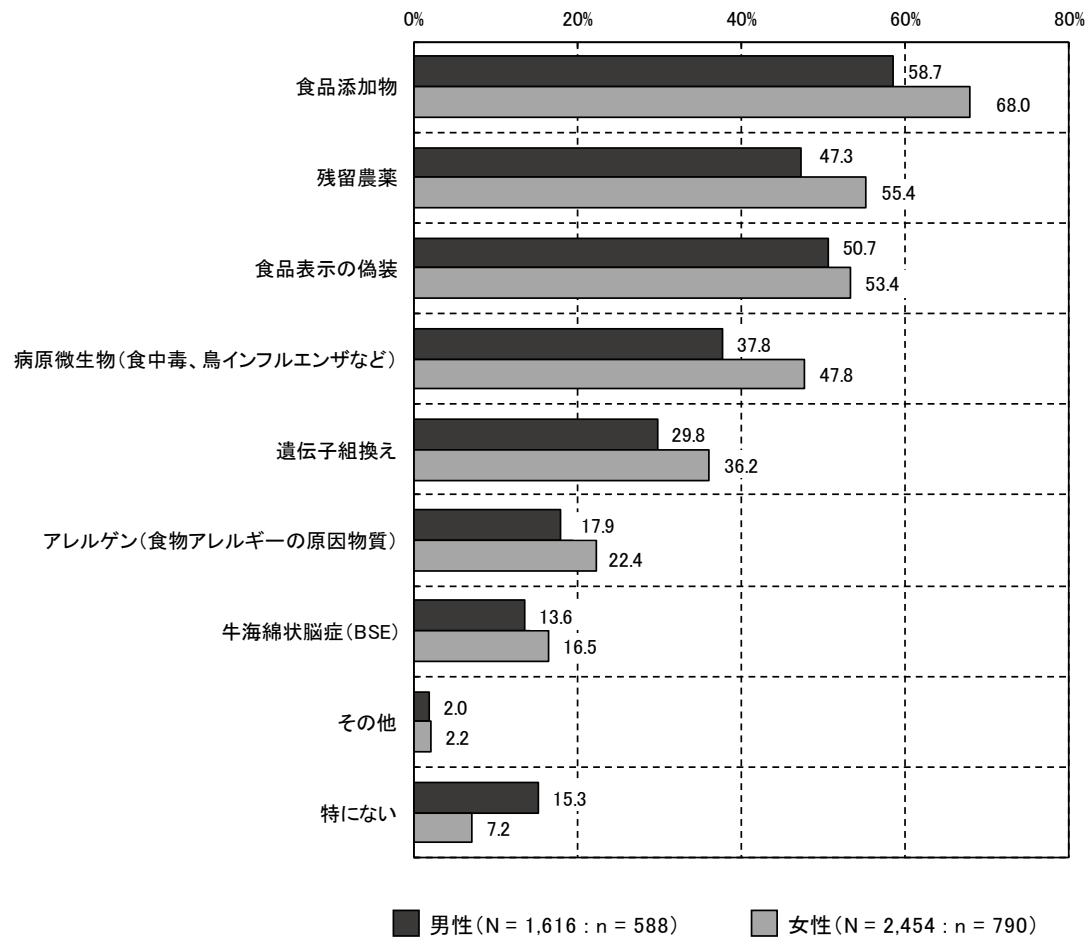
回答者数(n = 1,436)
総回答数(N = 4,222)



※ 第39・40回調査では、「食品の安全性への不安」は聞いていない。

性別(図 18-2)でみると、男女ともに「食品添加物」が最も高くなっており、男性が 58.7%、女性が 68.0%となっている。「病原微生物(食中毒、鳥インフルエンザなど)」では、女性が男性より 10 ポイント高くなっている。

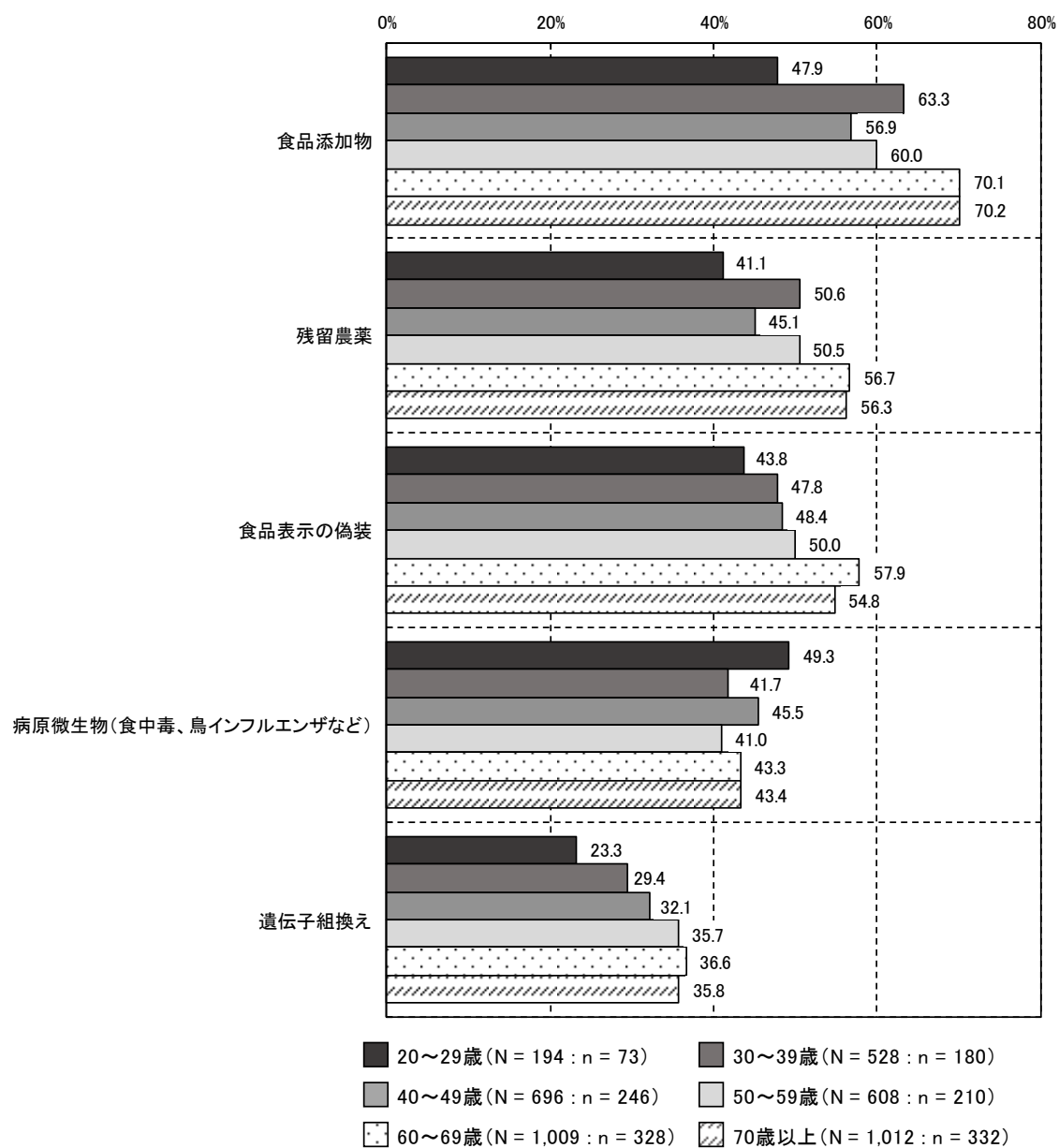
図 18-2 【性別】 食品の安全性への不安



※ N=総回答数 n=回答者数

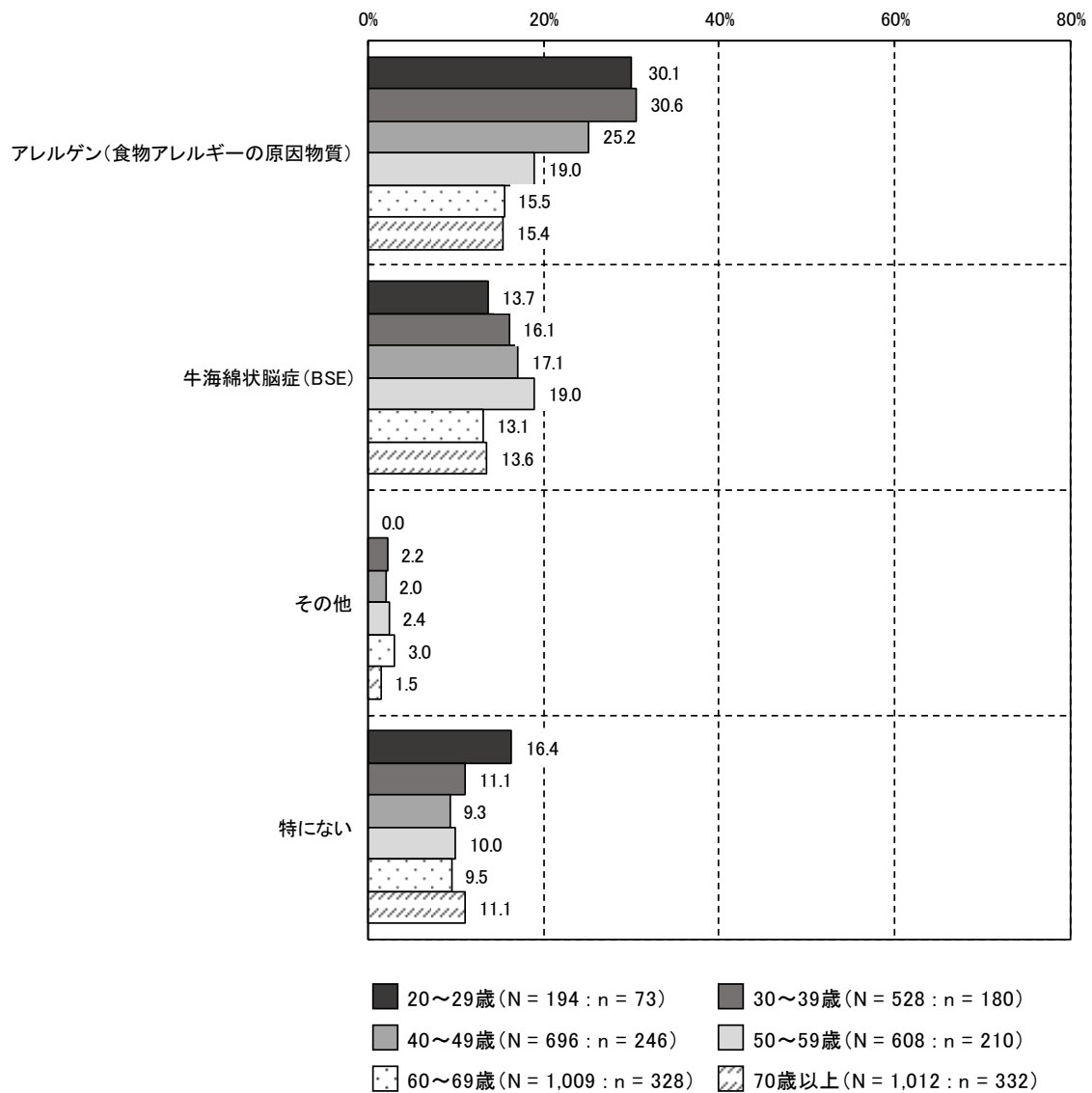
年代別（図 18-3）でみると、20 歳代を除くすべての年代で「食品添加物」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 70.2%と最も高くなっている。20 歳代では「病原微生物（食中毒、鳥インフルエンザなど）」が最も高く 49.3%となっている。

図 18-3 【年代別】 食品の安全性への不安



※ N=総回答数 n=回答者数

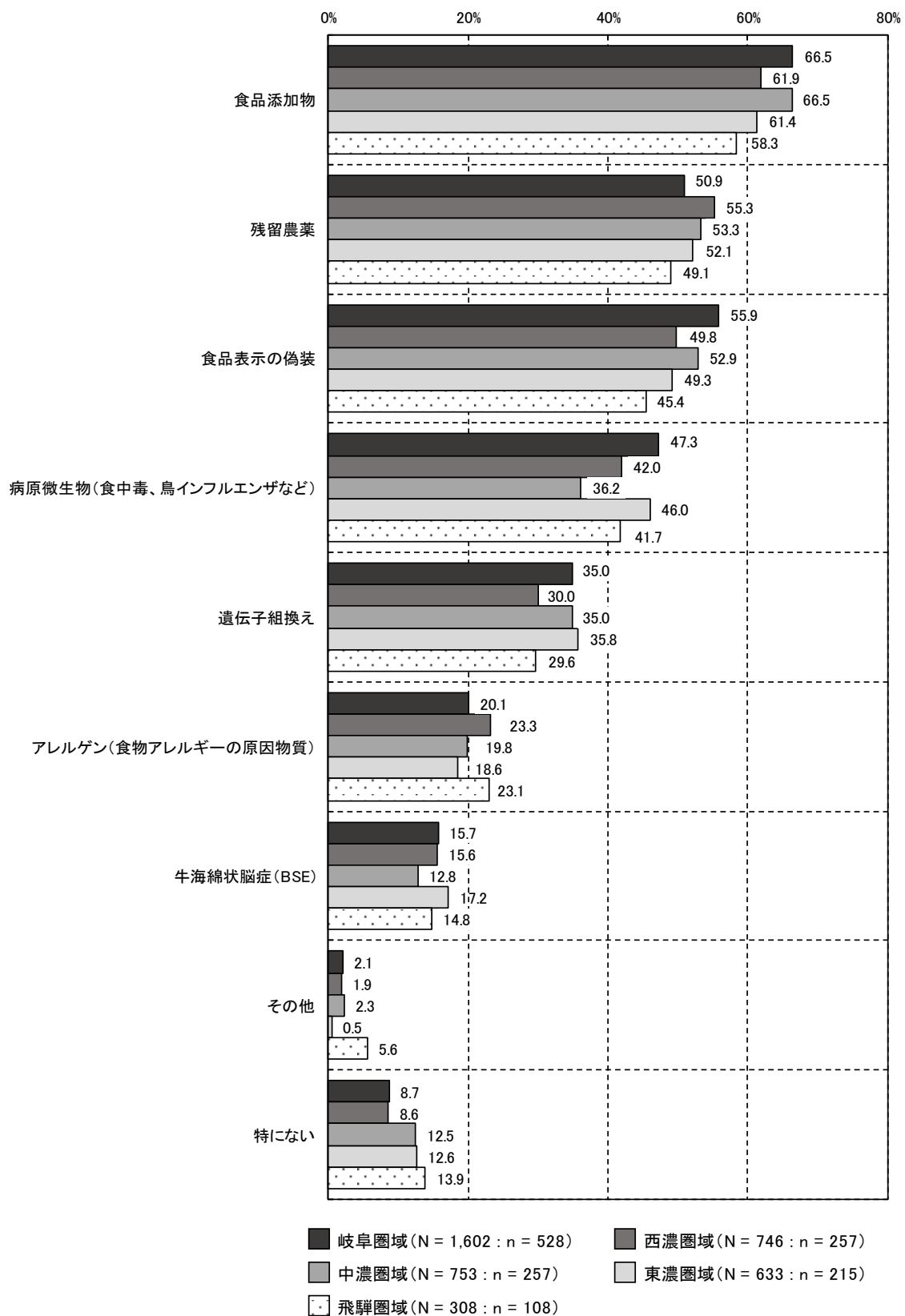
図 18-3 【年代別】 食品の安全性への不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 18-4）でみると、いずれの居住圏域においても「食品添加物」が最も高く、そのうち岐阜圏域と中濃圏域が 66.5%と最も高くなっている。

図 18-4 【居住圏域別】 食品の安全性への不安



※ N=総回答数 n=回答者数

問18-2 食品の安全性への不安に対する県民の取り組み

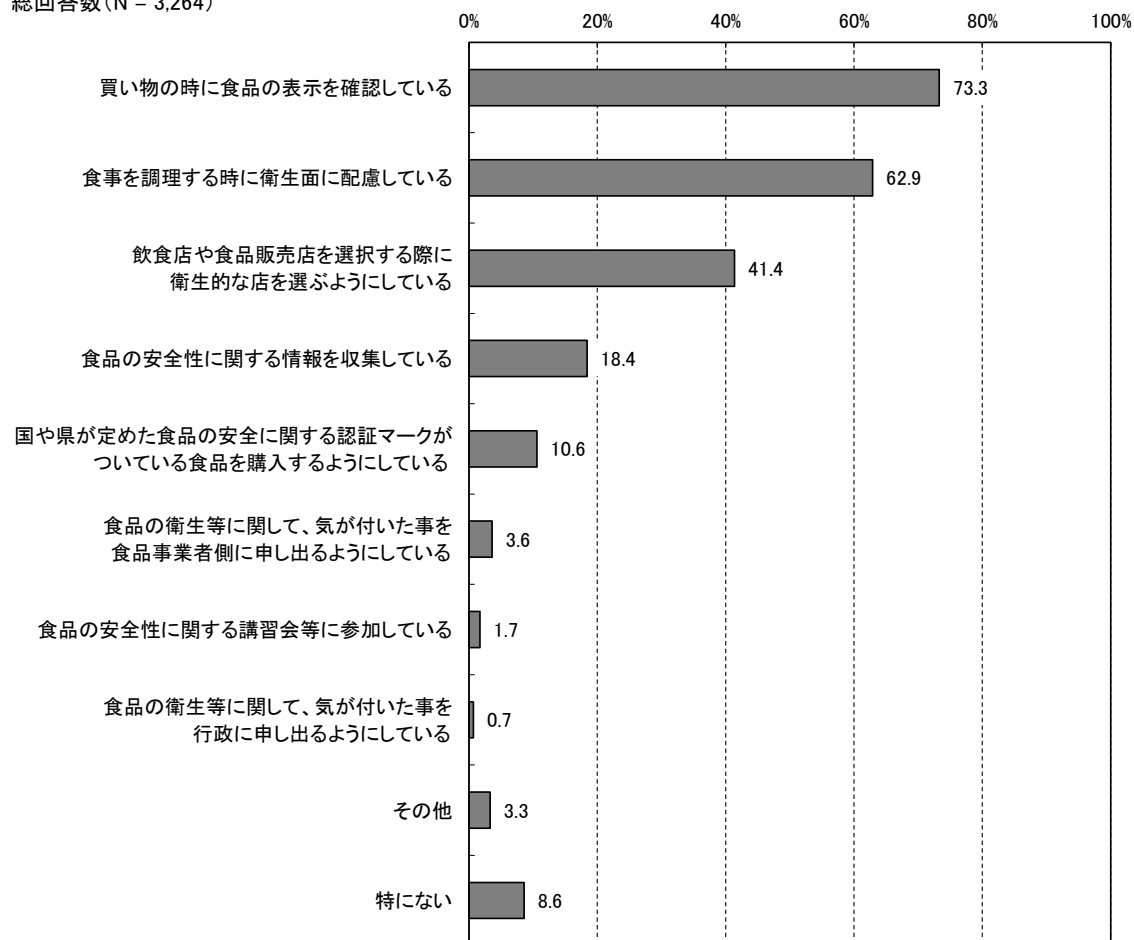
問18-2 あなたは、食品の安全性への不安に対応するため、どのようなことをしていますか。(いくつでも)

全体(図18-2-1)でみると、「買い物の時に食品の表示を確認している」が73.3%と最も高く、次いで「食事を調理する時に衛生面に配慮している」(62.9%)、「飲食店や食品販売店を選択する際に衛生的な店を選ぶようにしている」(41.4%)の順となっている。

図18-2-1 食品の安全性への不安に対する県民の取り組み

回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 3,264)



※ 第39・40回調査では、「食品の安全性への不安に対する県民の取り組み」は聞いていない。

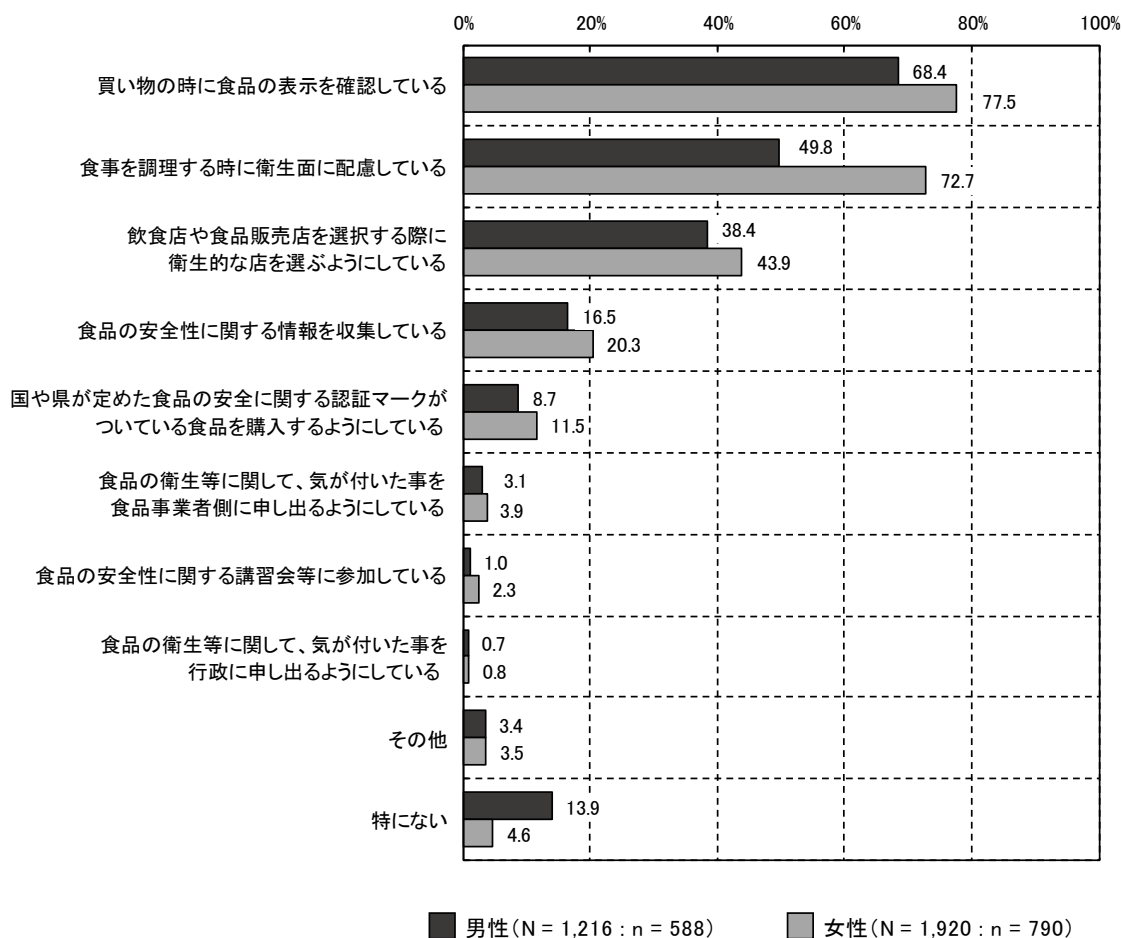
※ 本問における選択肢は、図表の構造上、以下のとおり略して表示しているものがある。

・国や県が定めた食品の安全に関する認証マークがついている食品を購入するようにしている：HACCP※、特定保健用食品など

※ HACCP(ハサップ)：事業者が食中毒菌汚染等の危害要因を把握した上で、原材料の入荷から製品出荷までの全工程の中で、危害要因を除去低減させるために特に重要な工程を管理し、安全性を確保する衛生管理手法

性別（図 18-2-2）でみると、男女ともに「買い物の時に食品の表示を確認している」が最も高くなっており、次いで「食事を調理する時に衛生面に配慮している」、「飲食店や食品販売店を選択する際に衛生的な店を選ぶようにしている」の順となっている。

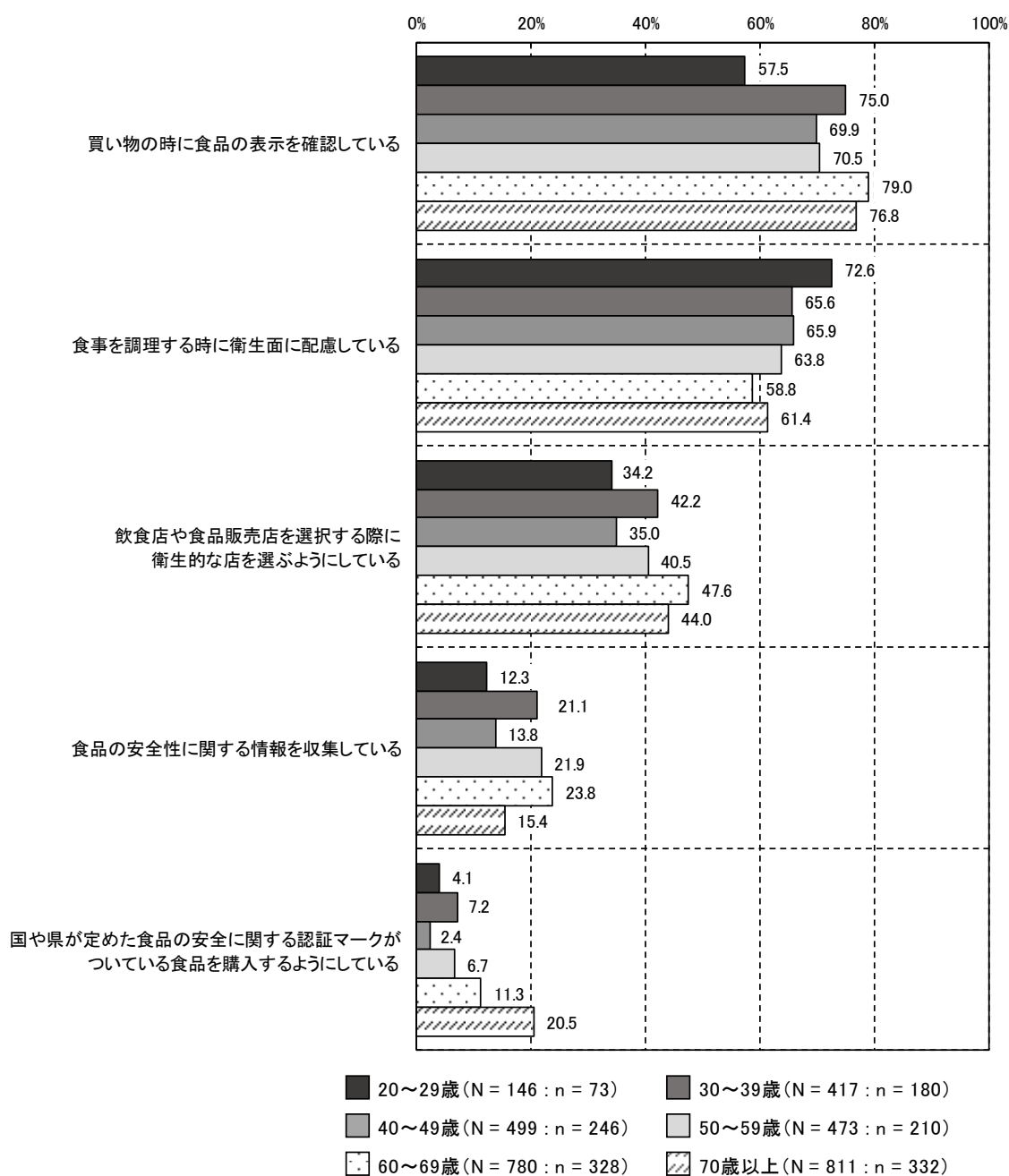
図 18-2-2 【性別】 食品の安全性への不安に対する県民の取り組み



※ N＝総回答数 n＝回答者数

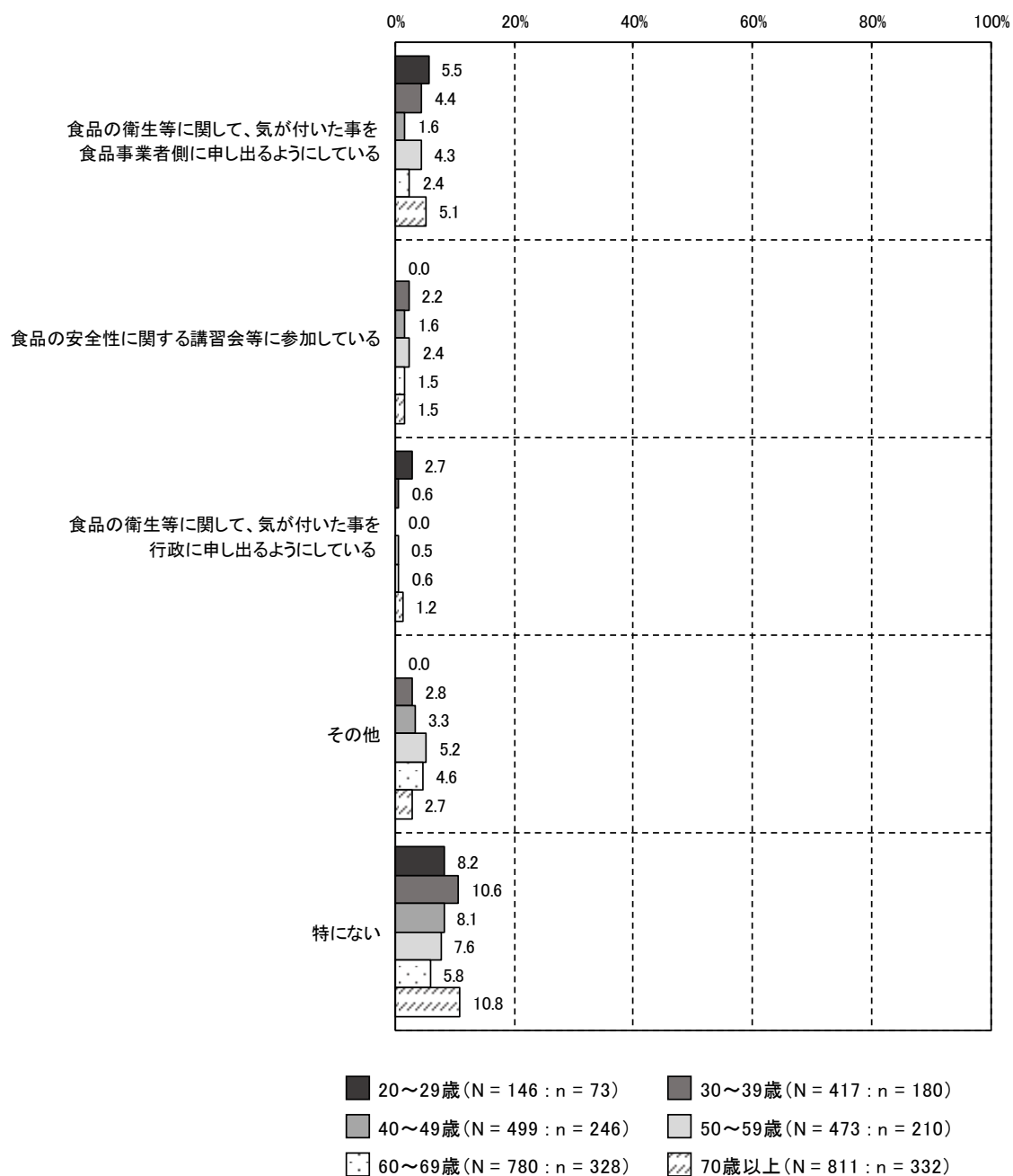
年代別（図 18-2-3）でみると、20 歳代を除くすべての年代で「買い物の時に食品の表示を確認している」が最も高く、そのうち 60 歳代が 79.0%と最も高くなっている。20 歳代では「食事を調理する時に衛生面に配慮している」が 72.6%と最も高くなっている。

図 18-2-3 【年代別】 食品の安全性への不安に対する県民の取り組み



※ N＝総回答数 n＝回答者数

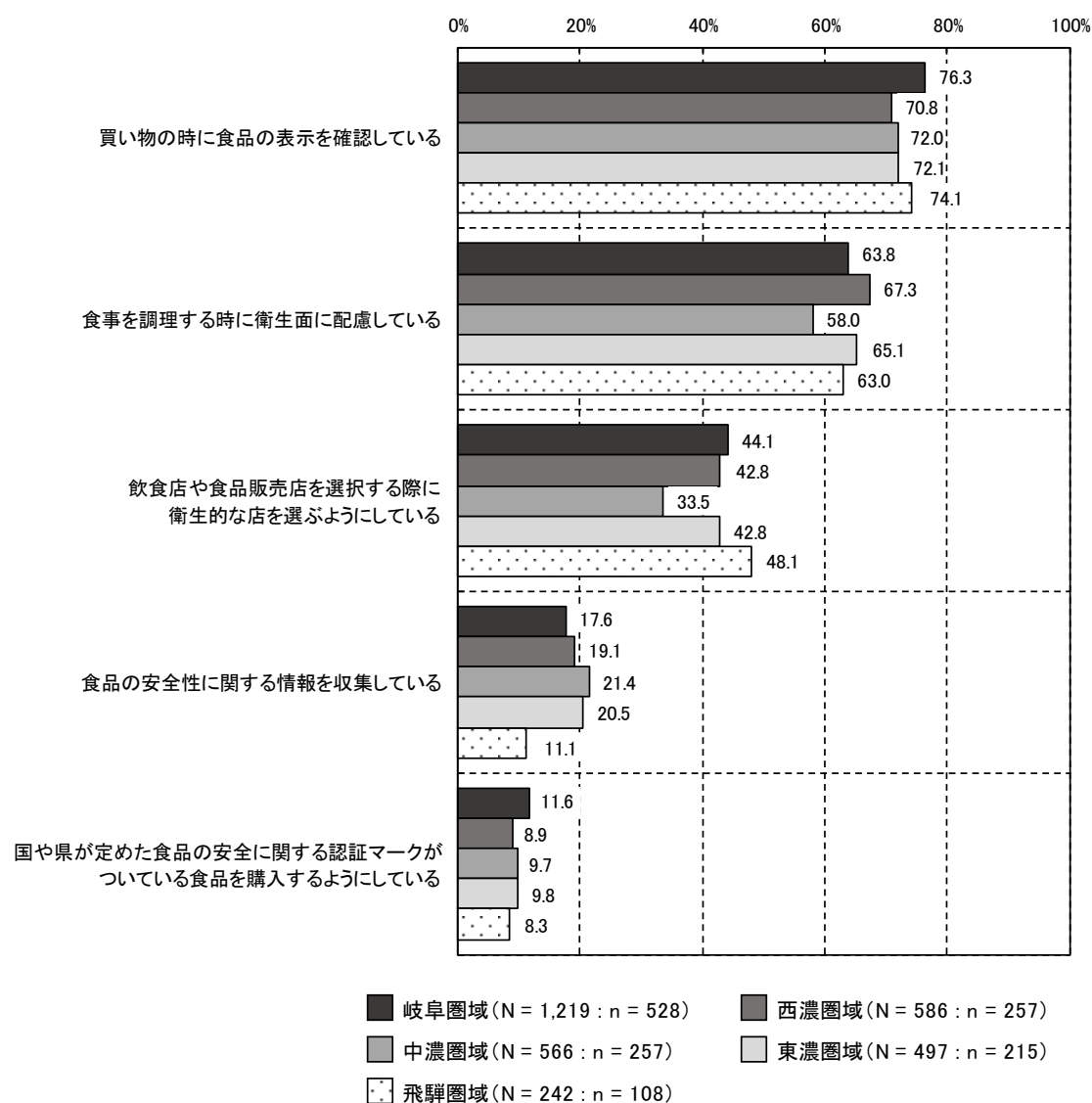
図 18-2-3 【年代別】 食品の安全性への不安に対する県民の取り組み（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

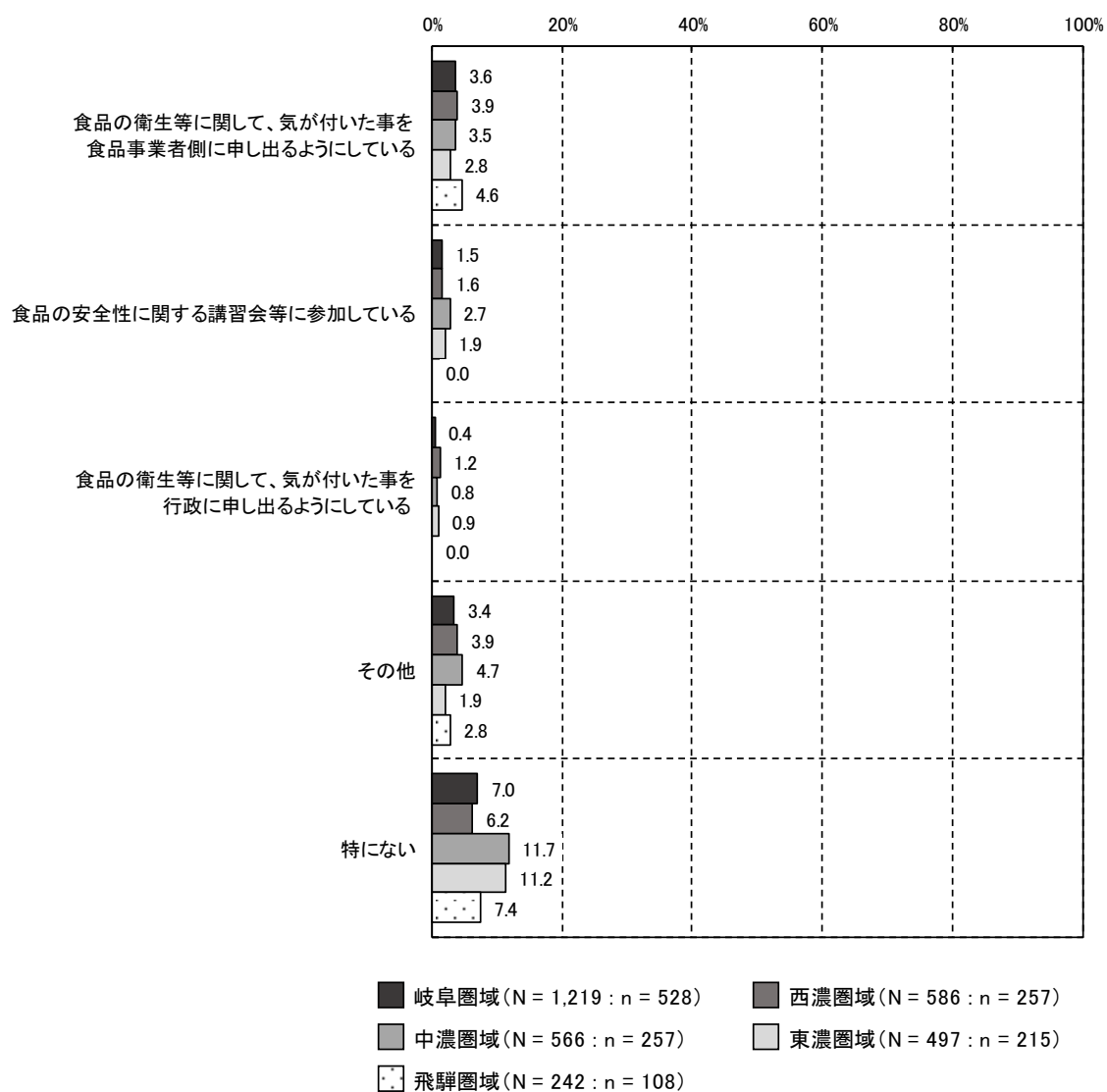
居住圏域別（図 18-2-4）でみると、いずれの居住圏域においても「買い物の時に食品の表示を確認している」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 76.3%と最も高くなっている。

図 18-2-4 【居住圏域別】食品の安全性への不安に対する県民の取り組み



※ N＝総回答数 n＝回答者数

図 18-2-4 【居住圏域別】 食品の安全性への不安に対する県民の取り組み（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

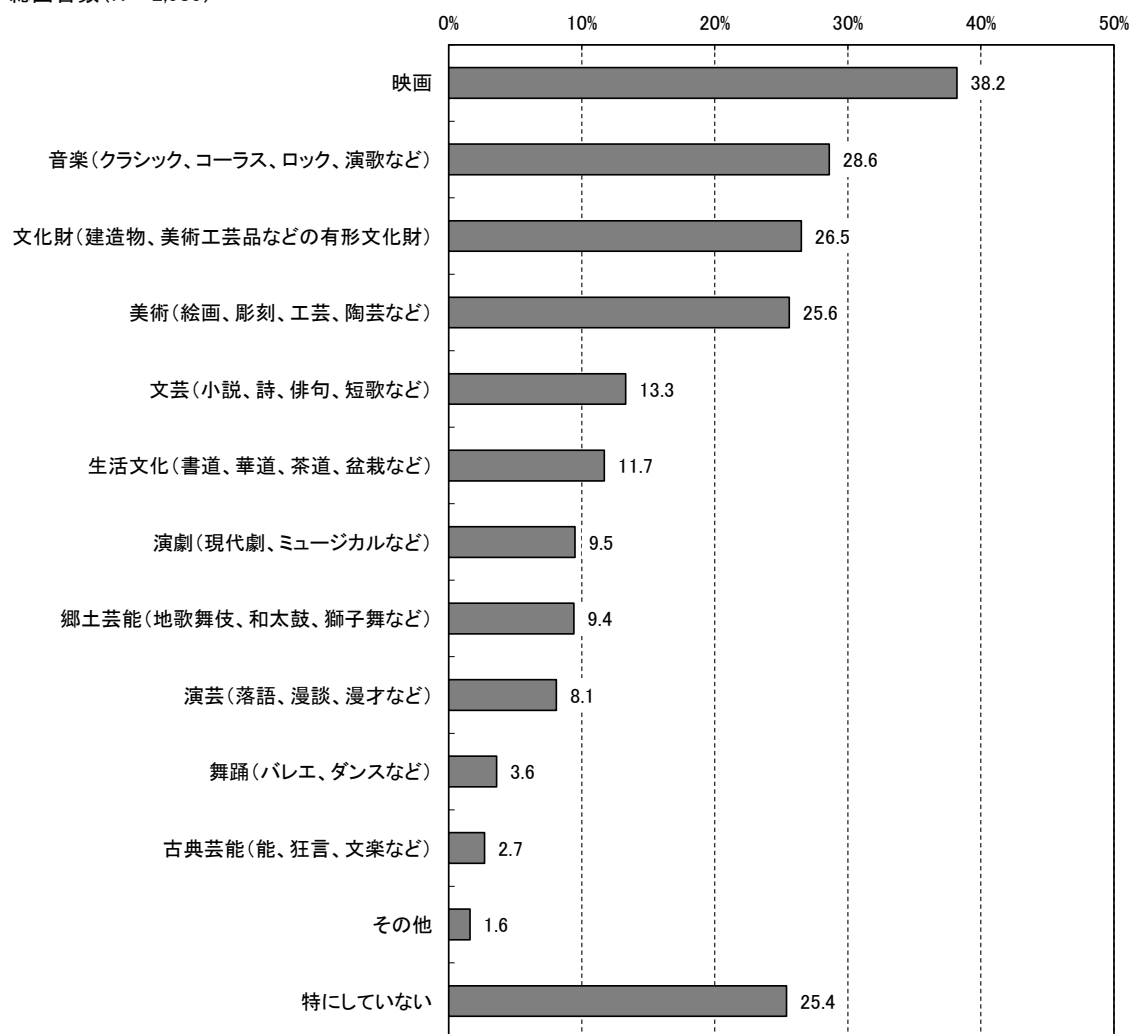
問19 過去1年間の文化活動・文化鑑賞

問19 あなたは、過去1年間にどのような文化活動※や文化鑑賞※をしましたか。
(いくつでも)

全体(図19-1)でみると、「映画」が38.2%と最も高く、次いで「音楽(クラシック、コーラス、ロック、演歌など)」(28.6%)、「文化財(建造物、美術工芸品などの有形文化財)」(26.5%)の順となっている。

図19-1 過去1年間の文化活動・文化鑑賞

回答者数(n = 1,436)
総回答数(N = 2,985)



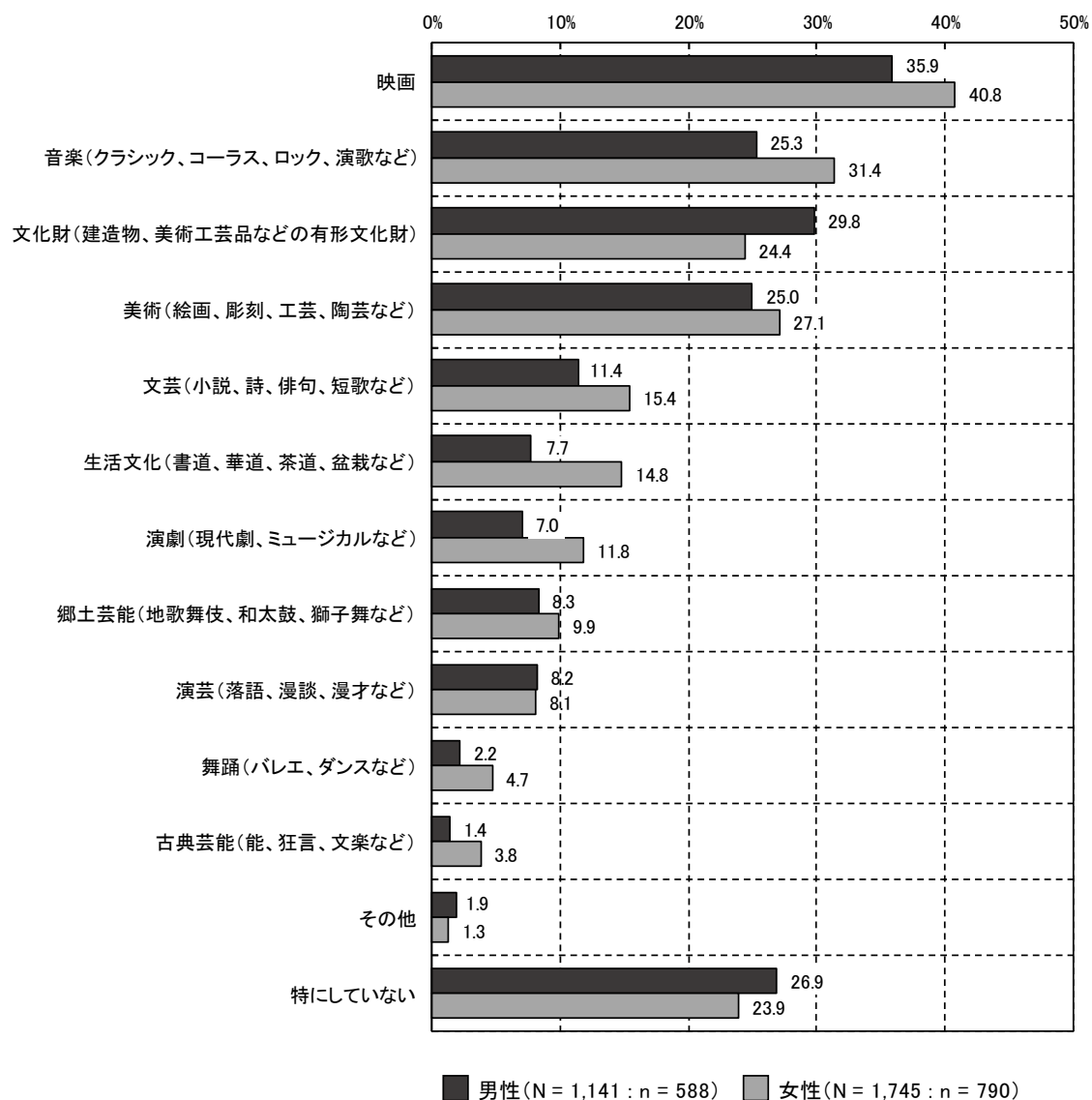
※ 文化活動:趣味や習い事のほか、郷土芸能への参加など自ら行う活動全般

※ 文化鑑賞:展覧会や公演、映画などの鑑賞・聴講のほか、建造物の見学を含む鑑賞全般

※ 第39・40回調査では、「過去1年間の文化活動・文化鑑賞」は聞いていない。

性別（図 19-2）でみると、男女ともに「映画」が最も高く、男性が 35.9%、女性が 40.8% となっている。「音楽（クラシック、コーラス、ロック、演歌など）」では女性が男性より 6.1 ポイント高くなっている。

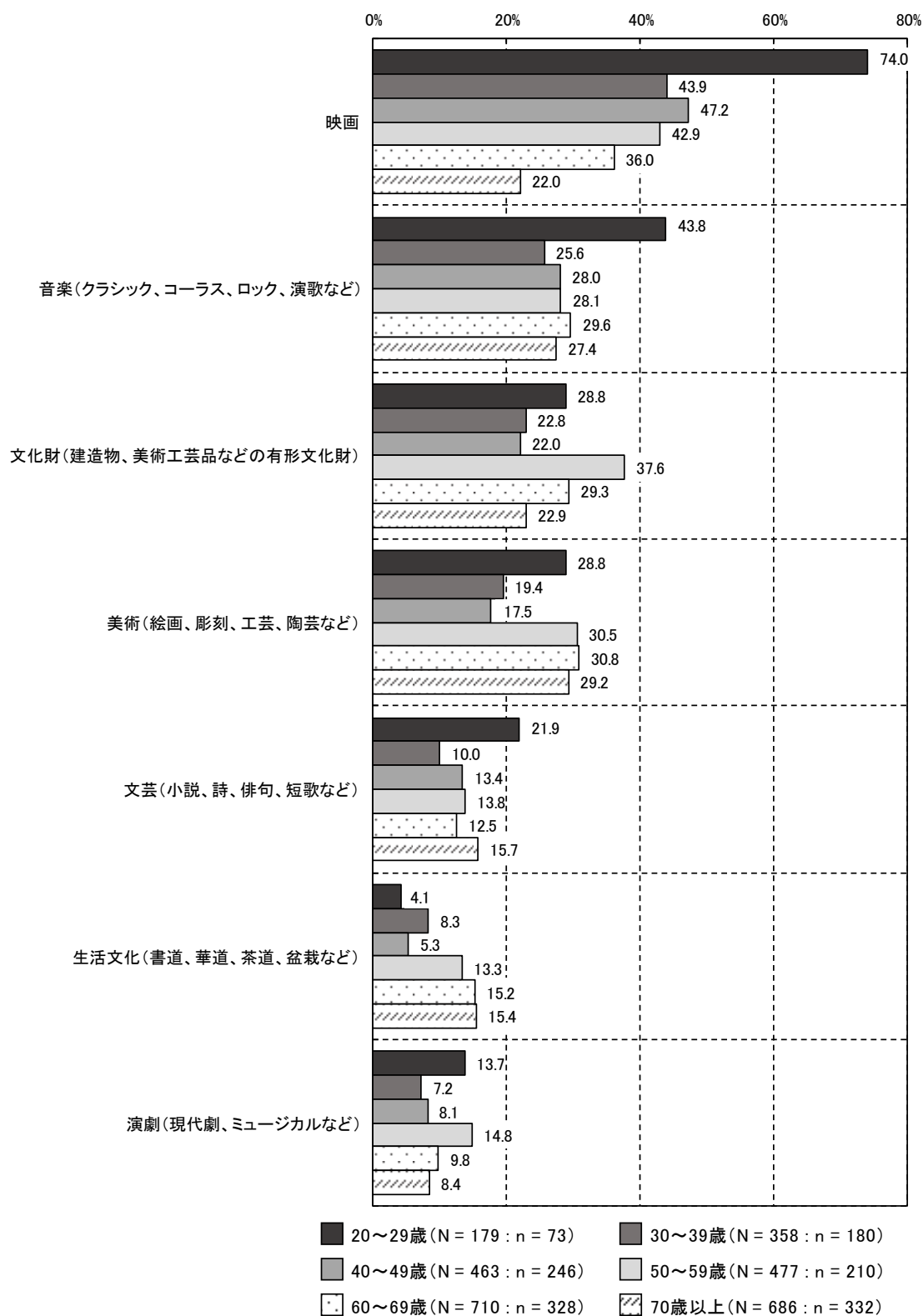
図 19-2 【性別】 過去1年間の文化活動・文化鑑賞



※ N=総回答数 n=回答者数

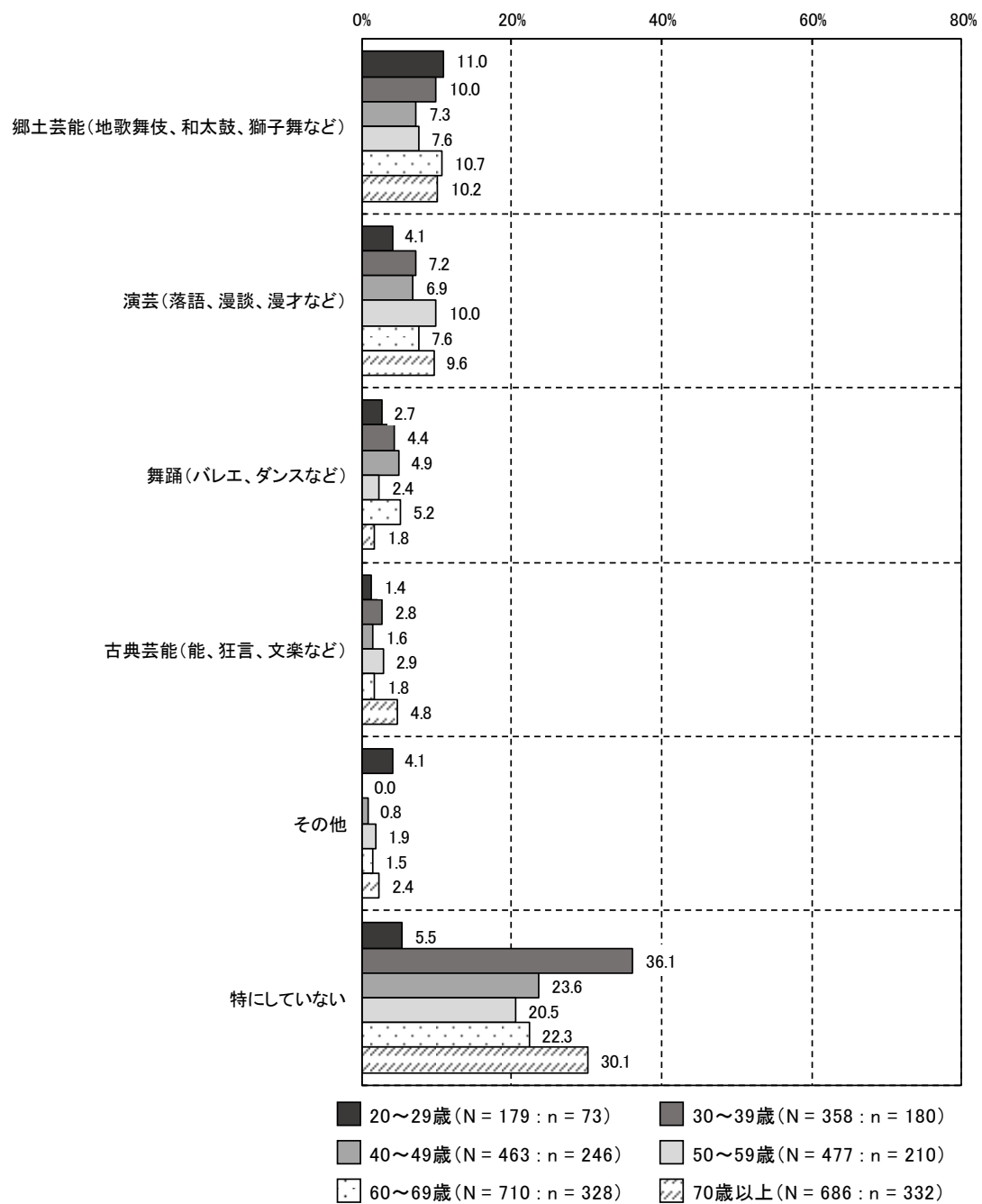
年代別（図 19-3）でみると、70 歳以上を除くすべての年代で「映画」が最も高く、そのうち 20 歳代が 74.0%と最も高くなっている。70 歳以上では「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」が最も高くなっており、29.2%となっている。

図 19-3 【年代別】 過去1年間の文化活動・文化鑑賞



※ N=総回答数 n=回答者数

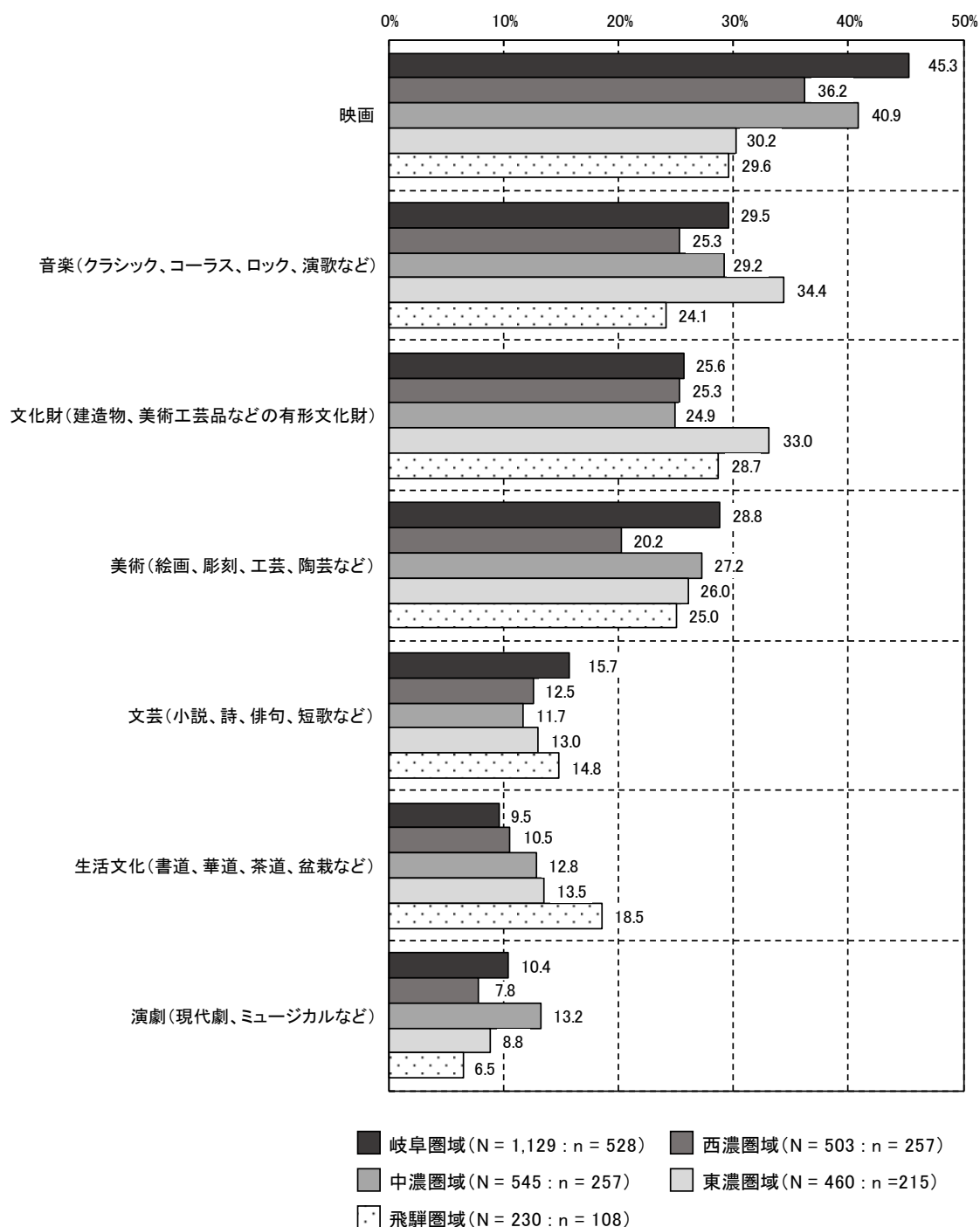
図 19-3 【年代別】 過去1年間の文化活動・文化鑑賞（続き）



※ N＝総回答数 n＝回答者数

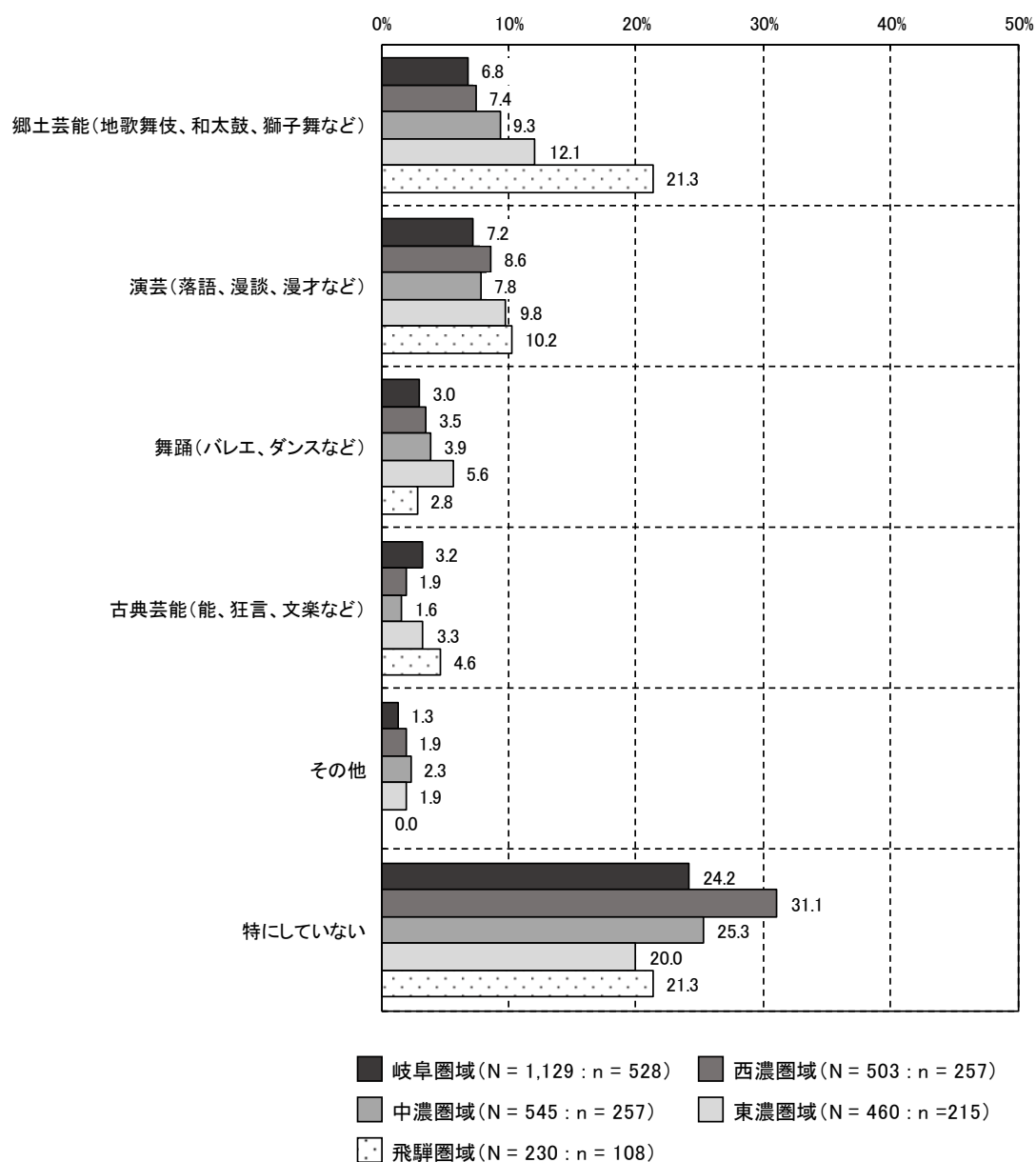
居住圏域別（図 19-4）でみると、東濃圏域を除くすべての圏域で「映画」が最も高くなっており、そのうち岐阜圏域が 45.3%と最も高くなっている。東濃圏域では「音楽（クラシック、コーラス、ロック、演歌など）」が 34.4%と最も高くなっている。

図 19-4 【居住圏域別】 過去1年間の文化活動・文化鑑賞



※ N=総回答数 n=回答者数

図 19-4 【居住圏域別】 過去1年間の文化活動・文化鑑賞（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

問19-2 文化行政に望むこと

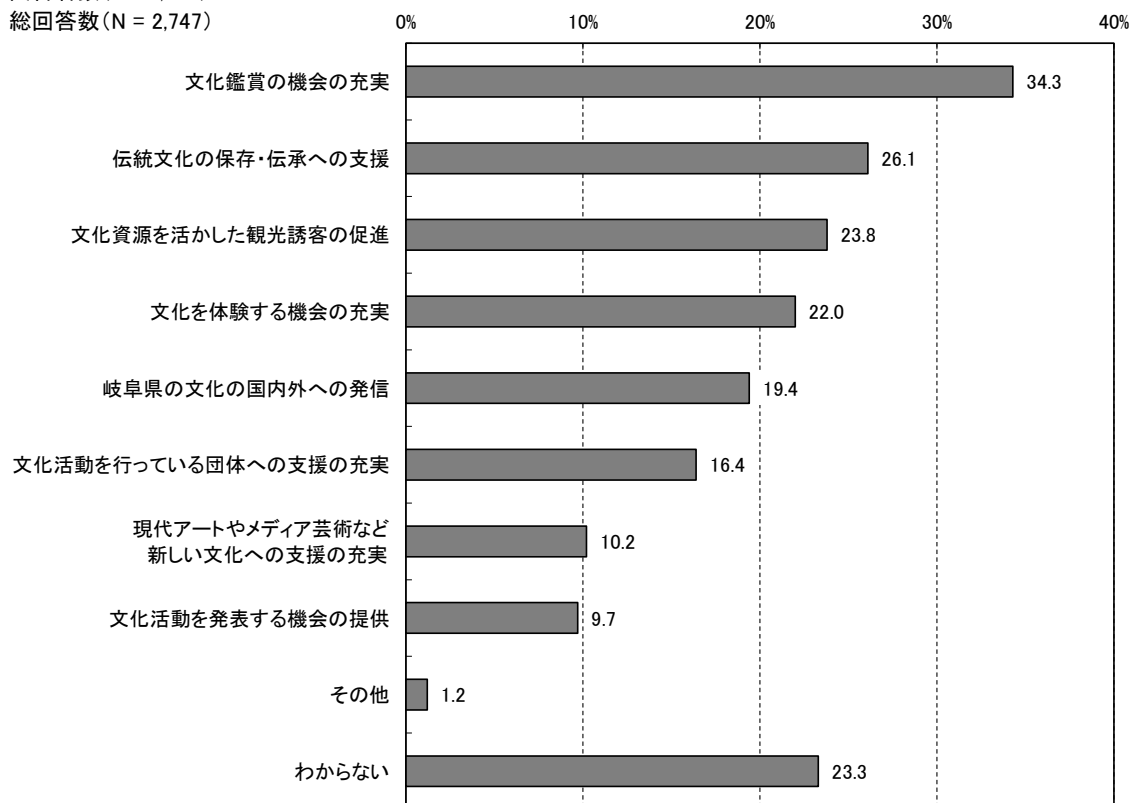
問19-2 あなたは、県の文化行政にどのようなことを望みますか。(3つまで)

全体(図19-2-1)で見ると、「文化鑑賞の機会の充実」が34.3%と最も高く、次いで「伝統文化の保存・伝承への支援」(26.1%)、「文化資源を活かした観光誘客の促進」(23.8%)の順となっている。

図19-2-1 文化行政に望むこと

回答者数(n = 1,436)

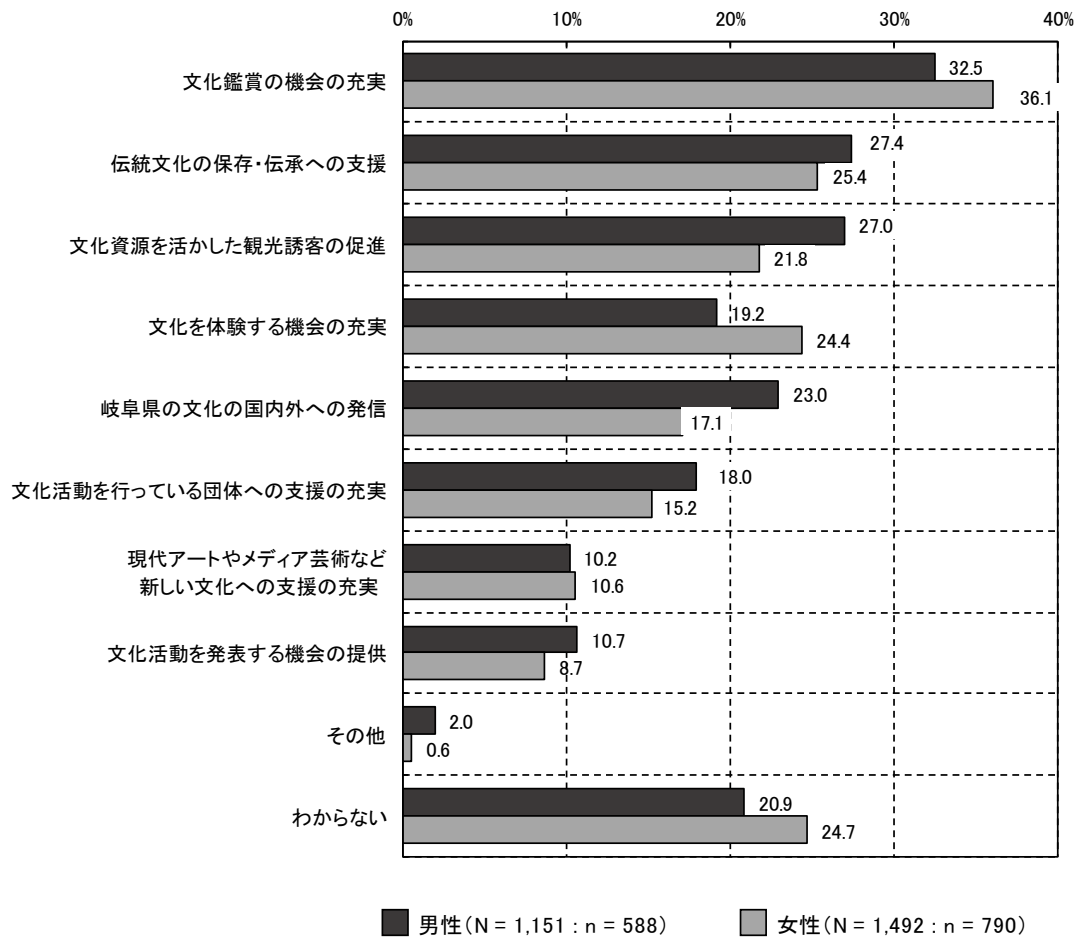
総回答数(N = 2,747)



※ 第39・40回調査では、「文化行政に望むこと」は聞いていない。

性別（図 19-2-2）でみると、男女ともに「文化鑑賞の機会の充実」が最も高くなっており、次いで「伝統文化の保存・伝承への支援」となっている。

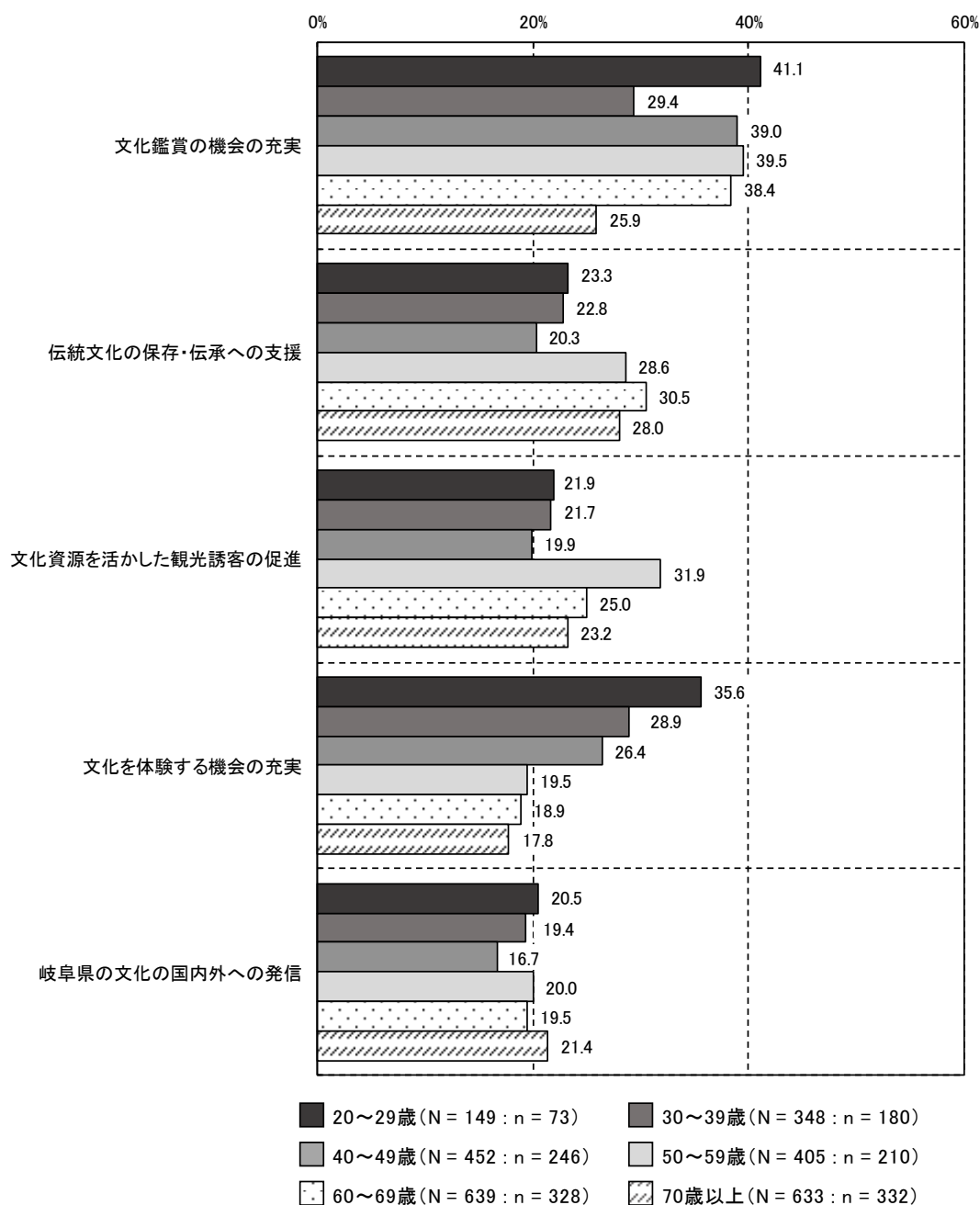
図 19-2-2 【性別】文化行政に望むこと



※ N=総回答数 n=回答者数

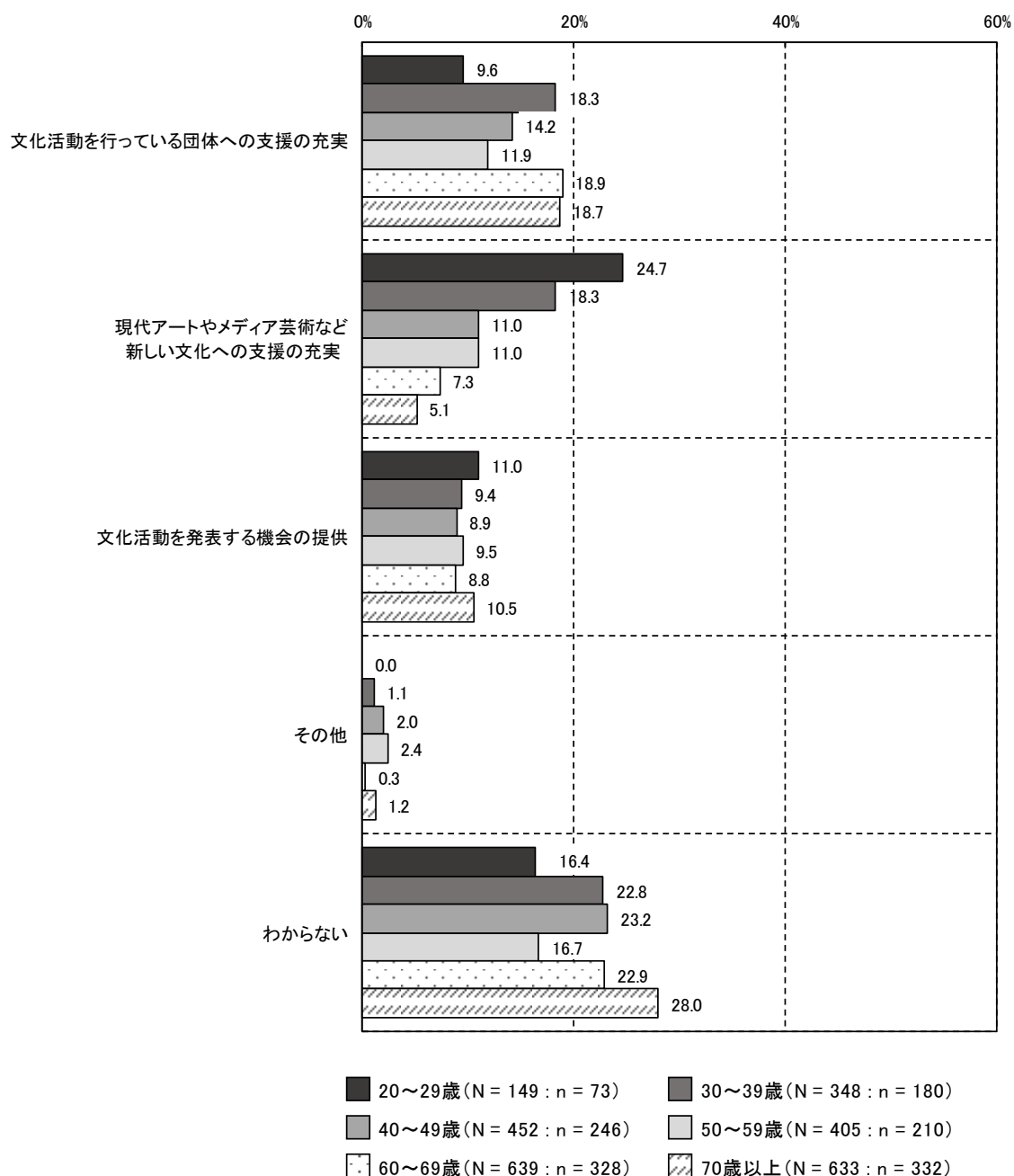
年代別（図 19-2-3）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「文化鑑賞の機会の充実」が最も高く、そのうち 20 歳代が 41.1%と最も高くなっている。70 歳以上では「伝統文化の保存・伝承への支援」が「わからない」とともに最も高くなっており、28.0%となっている。

図 19-2-3 【年代別】文化行政に望むこと



※ N＝総回答数 n＝回答者数

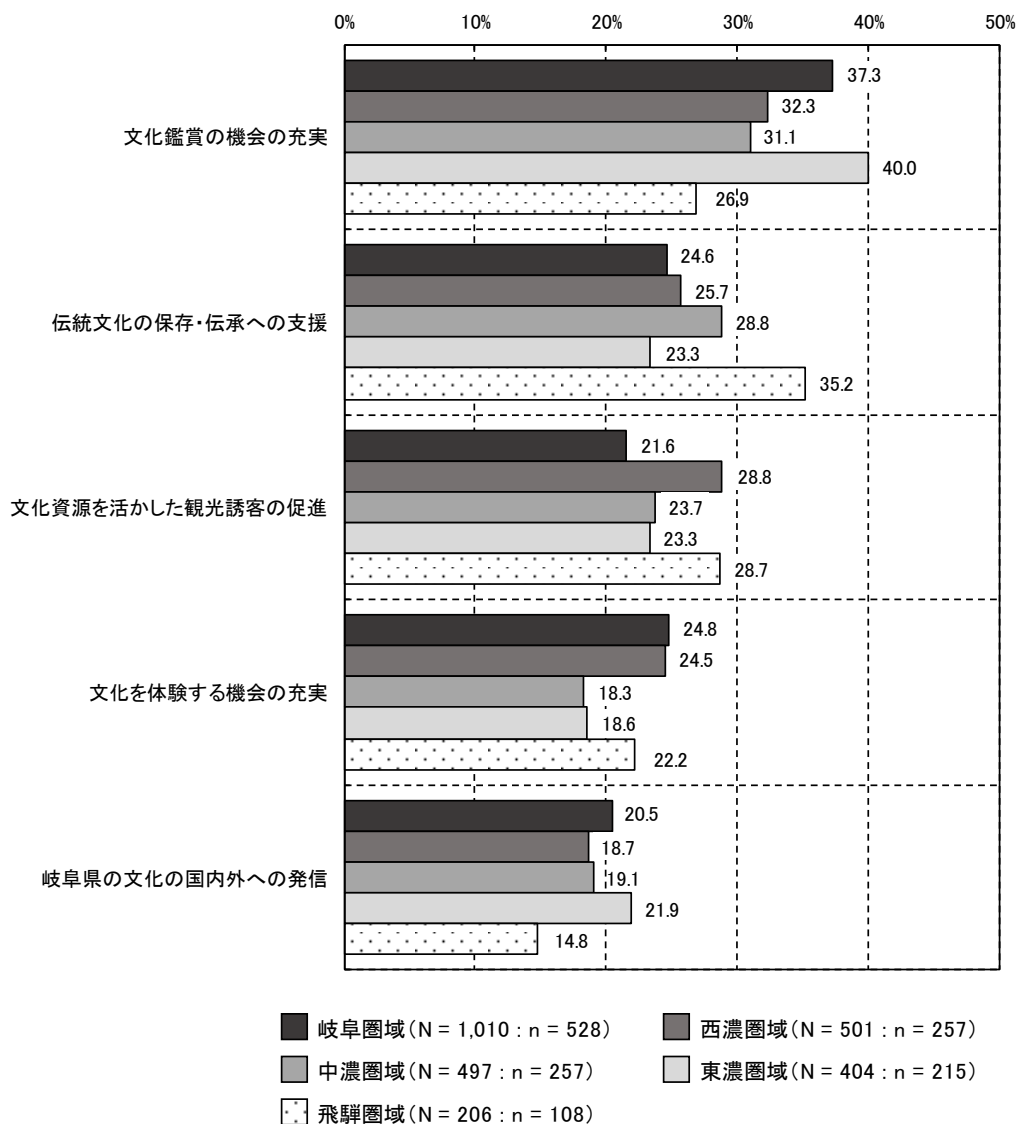
図 19-2-3 【年代別】文化行政に望むこと（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

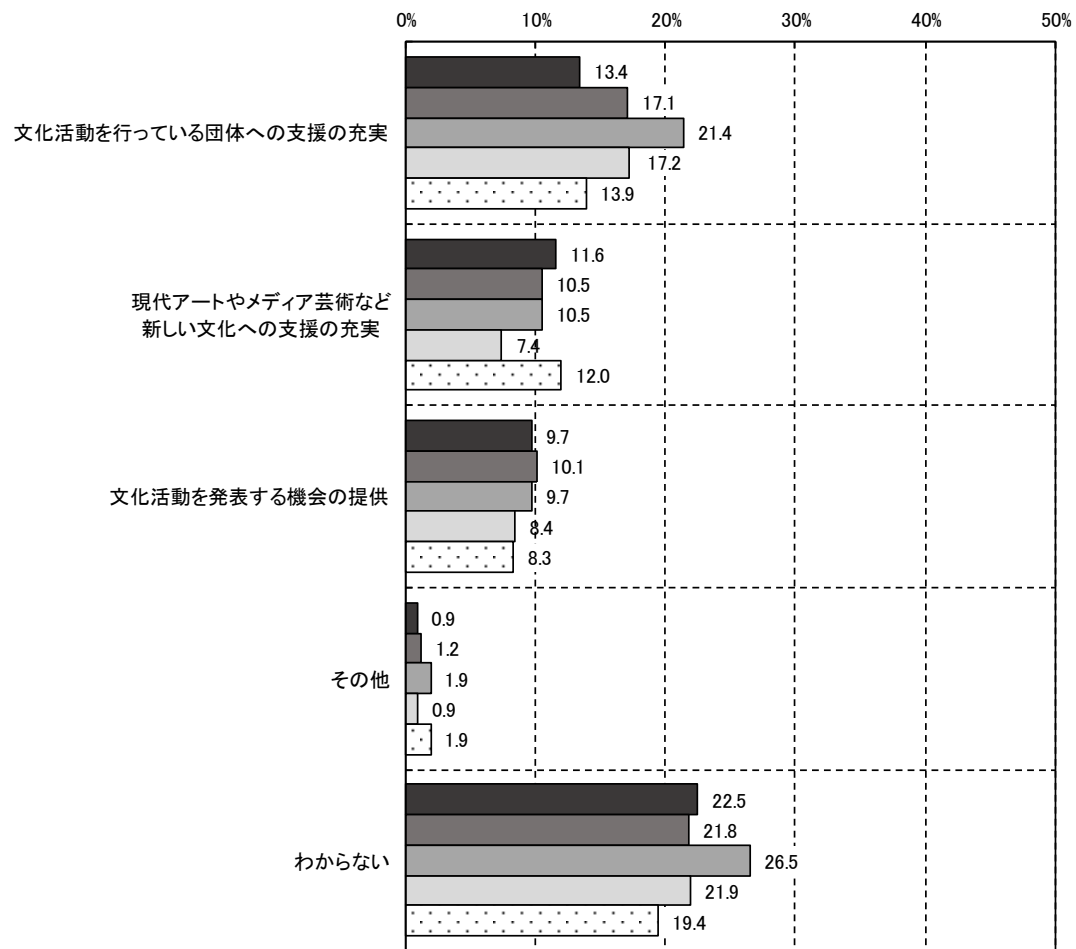
居住圏域別（図 19-2-4）でみると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「文化鑑賞の機会の充実」が最も高く、そのうち東濃圏域が 40.0%と最も高くなっている。飛騨圏域では「伝統文化の保存・伝承への支援」が 35.2%と最も高くなっている。

図 19-2-4 【居住圏域別】文化行政に望むこと



※ N=総回答数 n=回答者数

図 19-2-4 【居住圏域別】文化行政に望むこと（続き）



■ 岐阜圏域 (N = 1,010 : n = 528) ■ 西濃圏域 (N = 501 : n = 257)
 ■ 中濃圏域 (N = 497 : n = 257) ■ 東濃圏域 (N = 404 : n = 215)
 ■ 飛騨圏域 (N = 206 : n = 108)

※ N=総回答数 n=回答者数

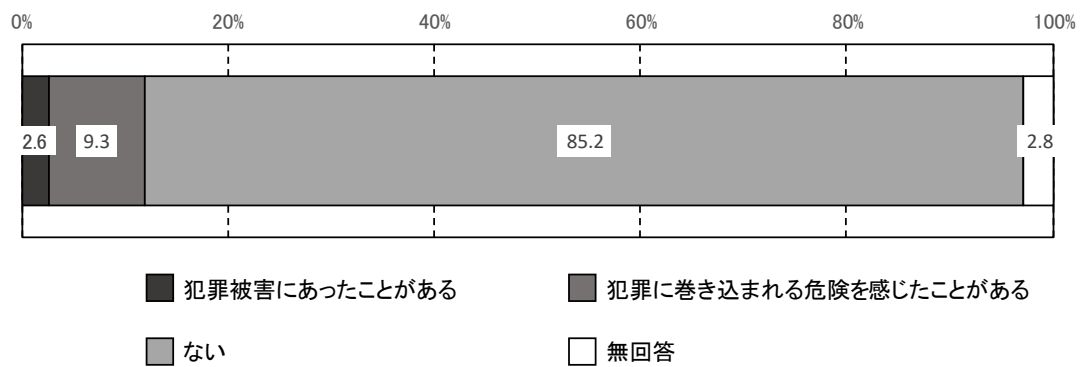
問20 過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無

問20 あなたは、過去1年間に犯罪被害にあったこと、または犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがありますか。(1つだけ)

全体(図20-1)でみると、「ない」が85.2%と最も高くなっている。

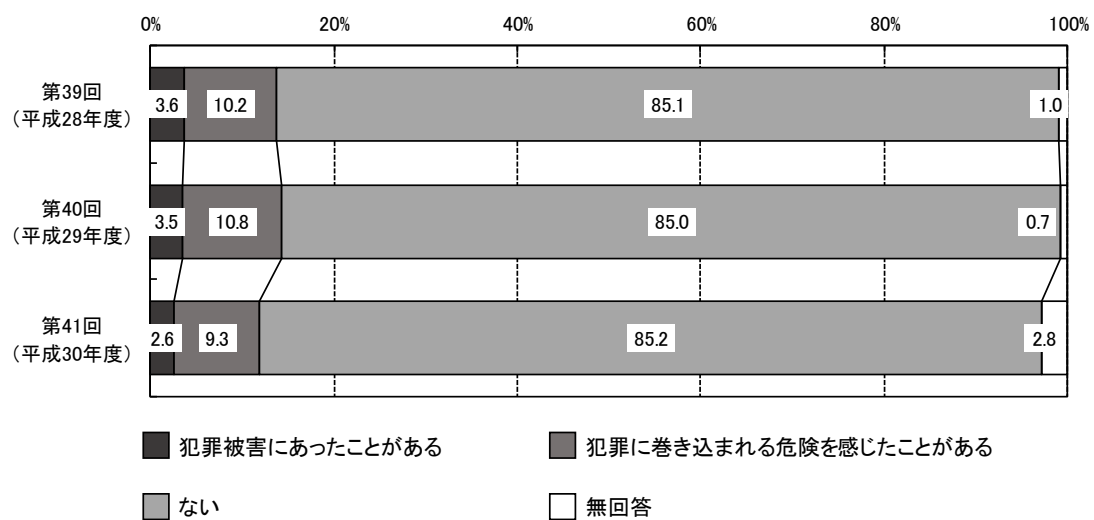
図20-1 過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無

回答者数(n = 1,436)



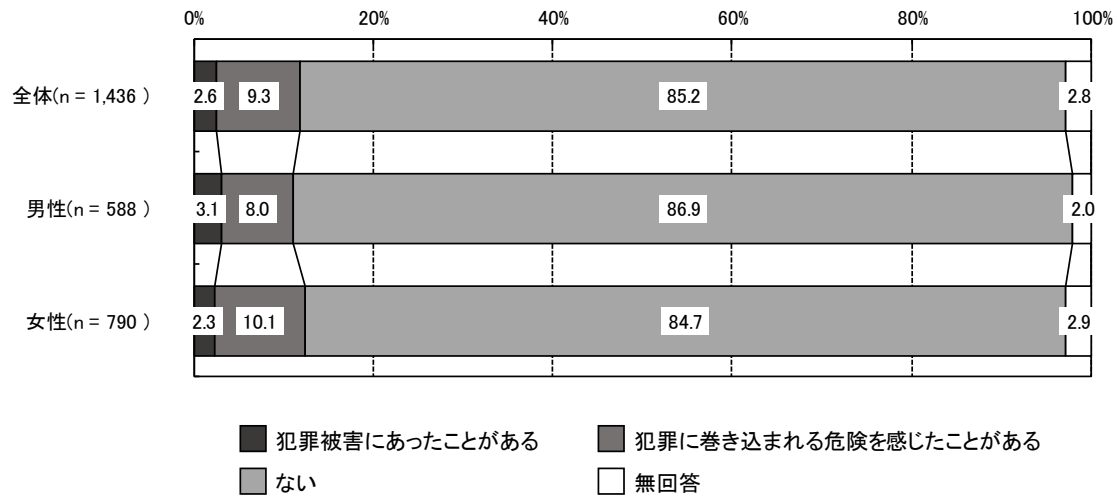
前々回・前回比較(図20-2)でみると、前々回・前回と同様に「ない」が最も高く、前回より0.2ポイント増加している。

図20-2 【前々回・前回比較】過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



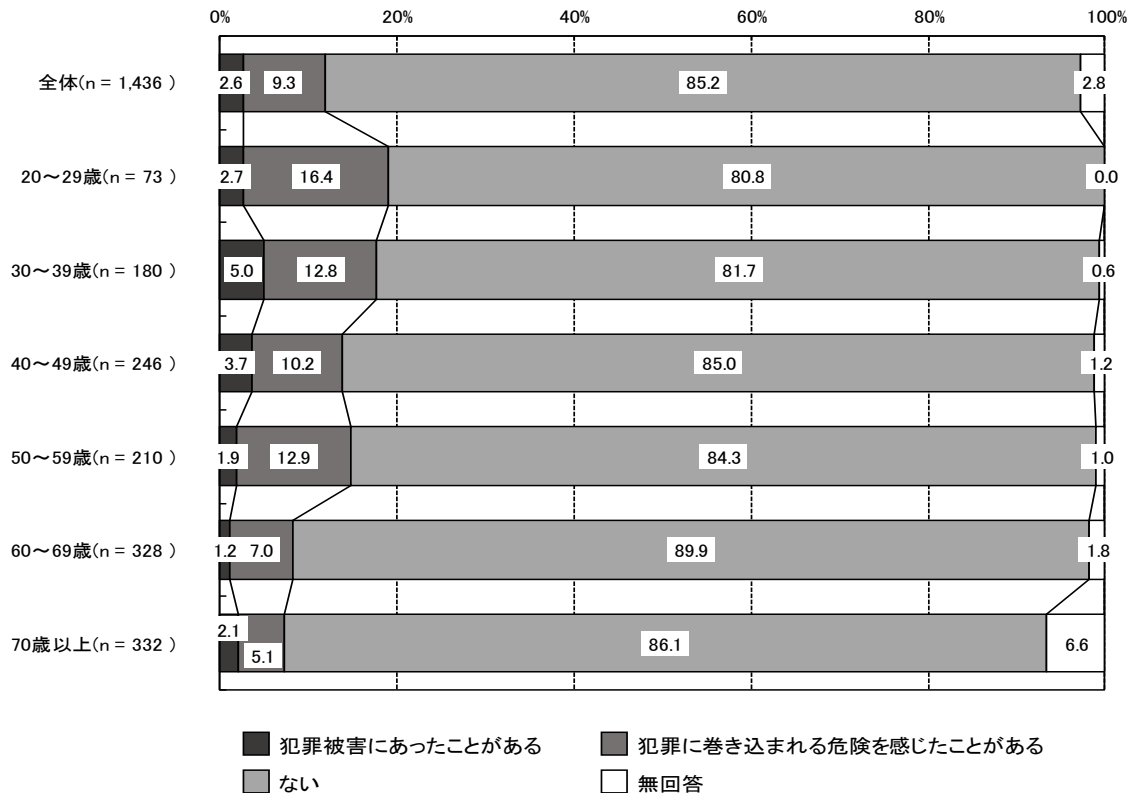
性別（図 20-3）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は男性が 11.1%、女性が 12.4%で、女性が男性より 1.3 ポイント高くなっている。

図 20-3 【性別】 過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



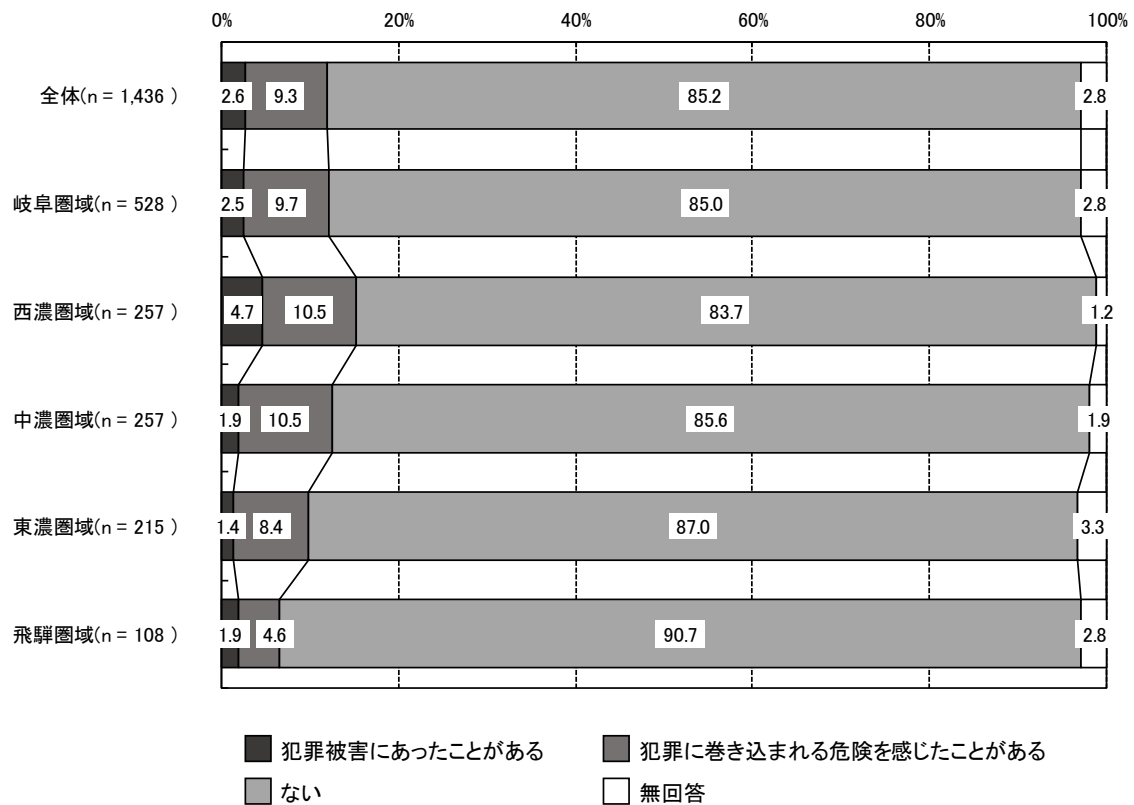
年代別（図 20-4）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は 20 歳代が 19.1%と最も高く、70 歳以上が 7.2%と最も低くなっている。

図 20-4 【年代別】 過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



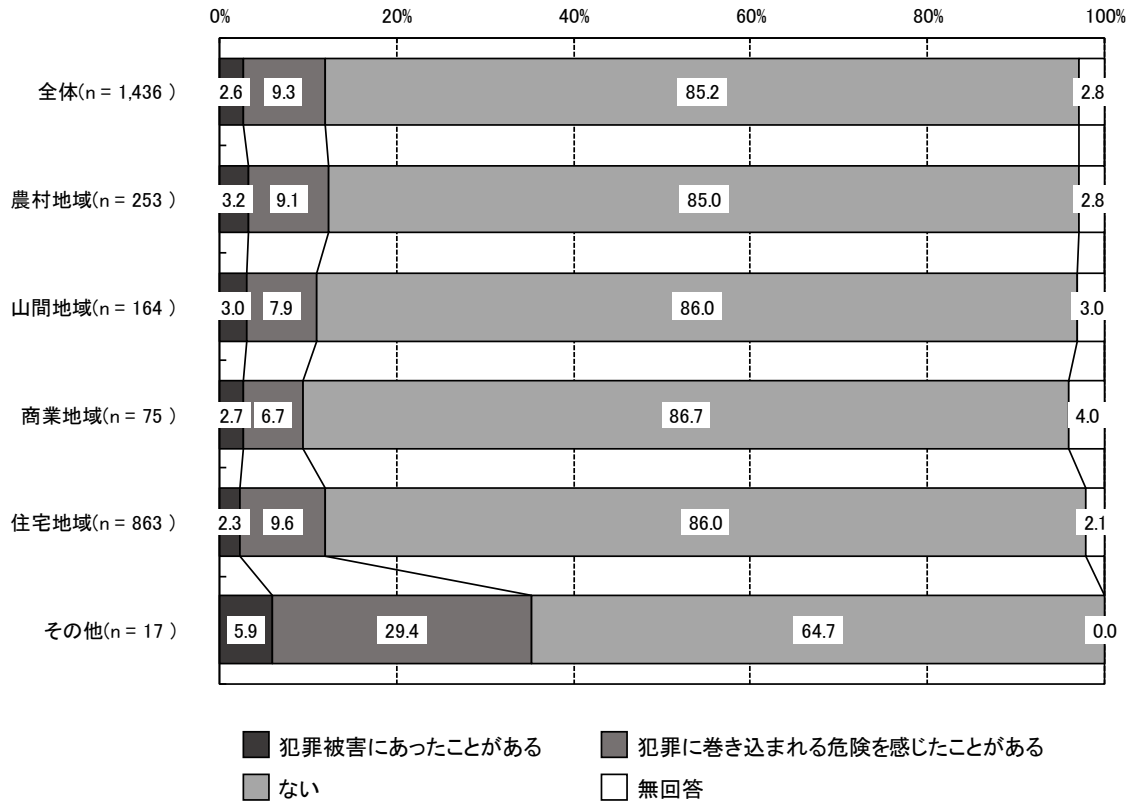
居住圏域別（図 20-5）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計は西濃圏域が 15.2%と最も高く、飛騨圏域が 6.5%と最も低くなっている。

図 20-5 【居住圏域別】 過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



居住環境別（図 20-6）でみると、「犯罪被害にあったことがある」と「犯罪に巻き込まれる危険を感じたことがある」の計はその他を除き、農村地域が 12.3%と最も高く、商業地域が 9.4%と最も低くなっている。

図 20-6 【居住環境別】 過去1年間に犯罪にあったこと、危険を感じたことの有無



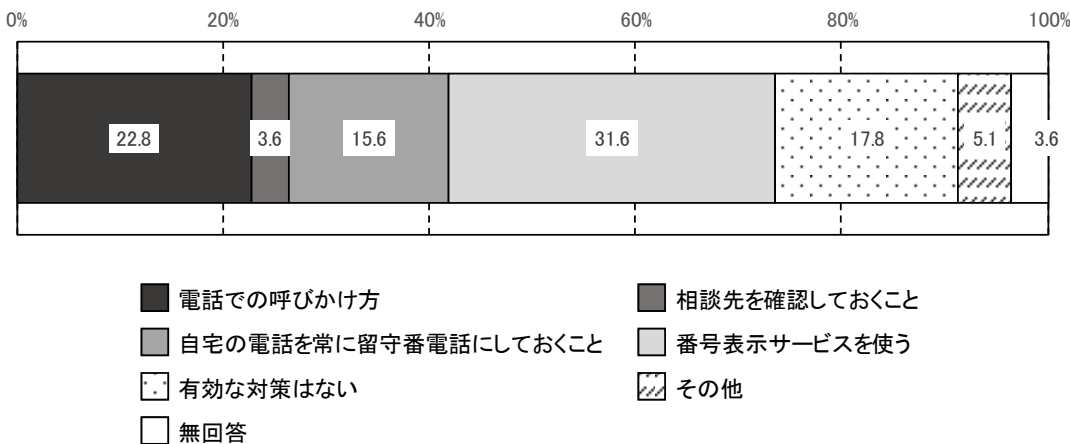
問2 1 不審な電話による勧誘被害の対策

問2 1 あなたは、不審な電話による悪質商法や振り込め詐欺被害などを防ぐためにどのようなことをしていますか。（1つだけ）

全体（図 21-1）でみると、「番号表示サービスを使う」が31.6%と最も高く、次いで「電話での呼びかけ方」（22.8%）、「有効な対策はない」（17.8%）の順となっている。

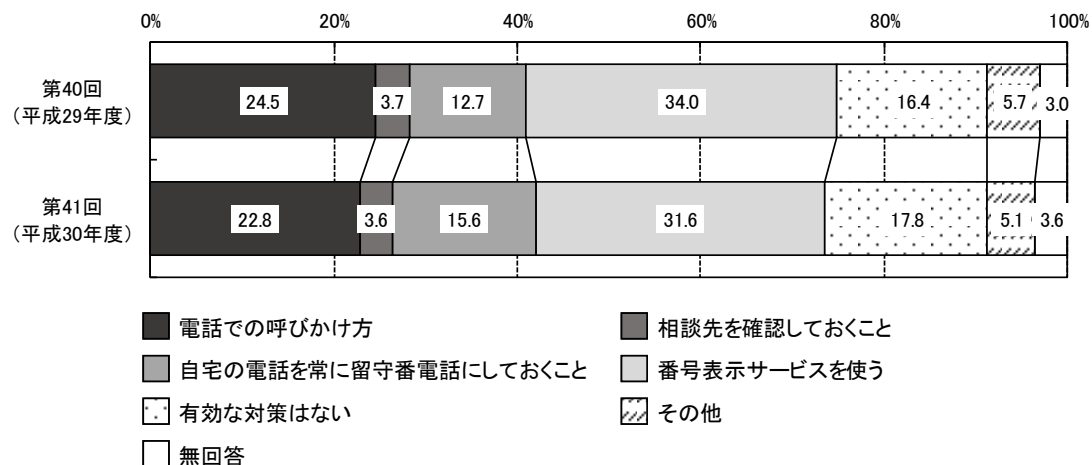
図 21-1 不審な電話による勧誘被害の対策

回答者数（n = 1,436）



前回比較（図 21-2）でみると、前回と同様に「番号表示サービスを使う」が最も高くなっている。

図 21-2 【前回比較】不審な電話による勧誘被害の対策



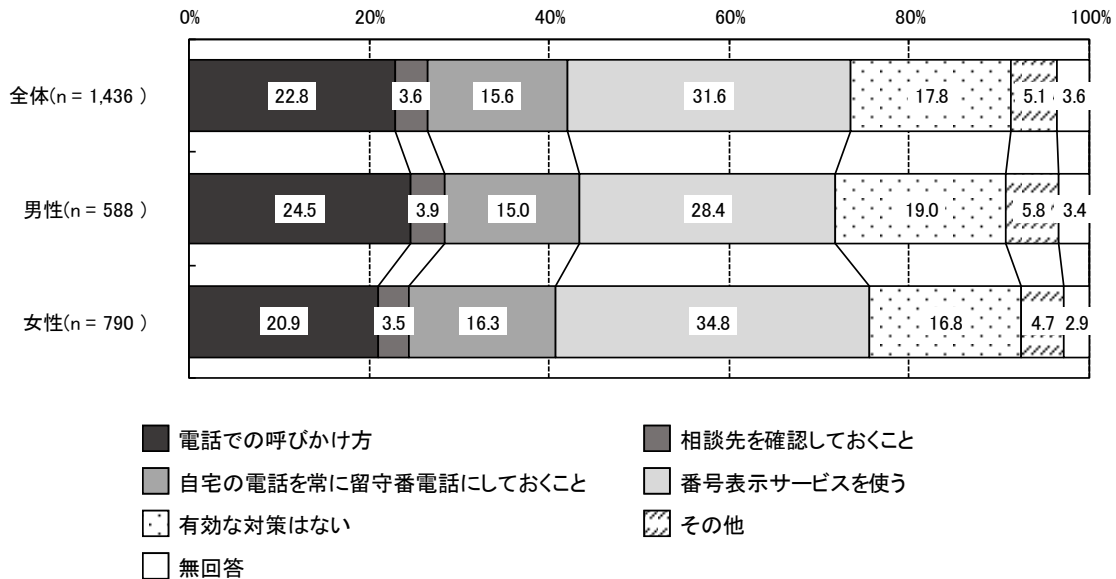
※ 第 39 回調査では、「不審な電話による勧誘被害の対策」は聞いていない。

※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。

- ・電話での呼びかけ方：日頃から家族と電話での呼びかけ方などについて話し合っておくこと
- ・番号表示サービスを使う：番号表示サービスを使って、知らない相手からの電話には出ないこと

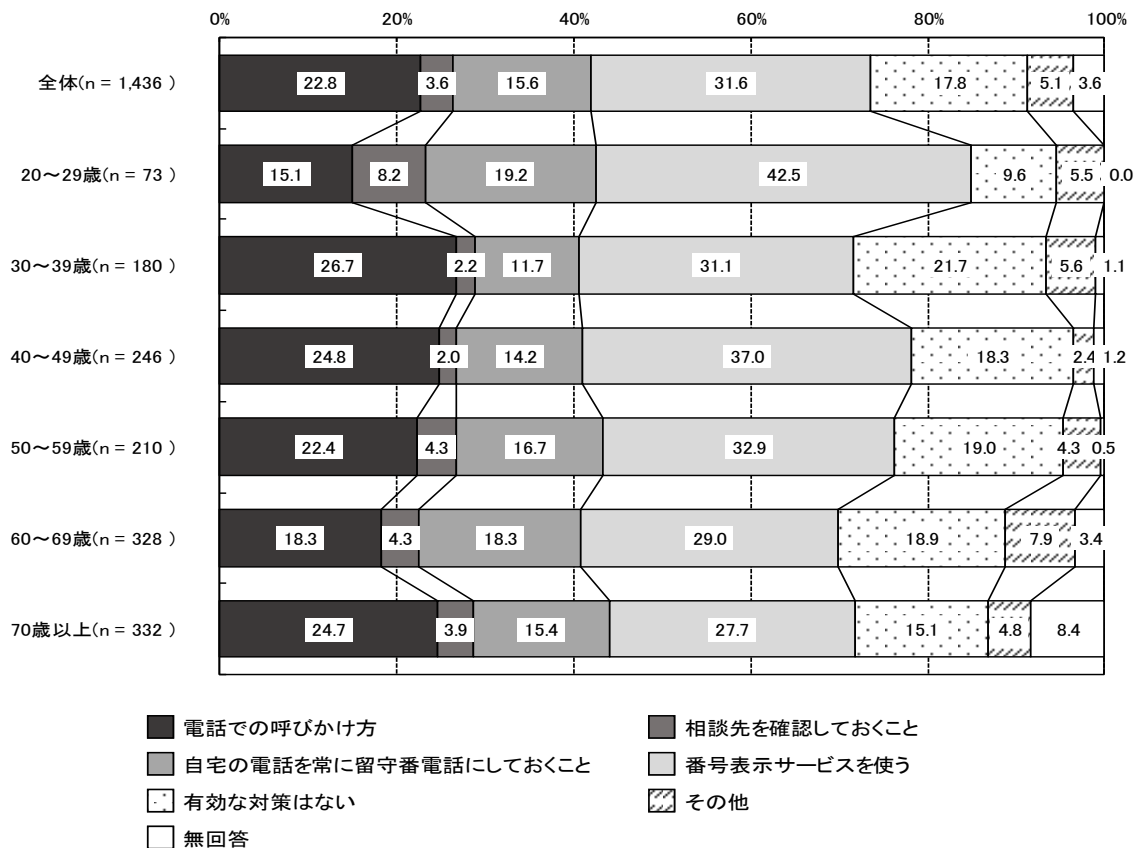
性別（図 21-3）でみると、男女ともに「番号表示サービスを使う」が最も高く、女性が男性より 6.4 ポイント高くなっている。「電話での呼びかけ方」では、男性が女性より 3.6 ポイント高くなっている。

図 21-3 【性別】 不審な電話による勧誘被害の対策



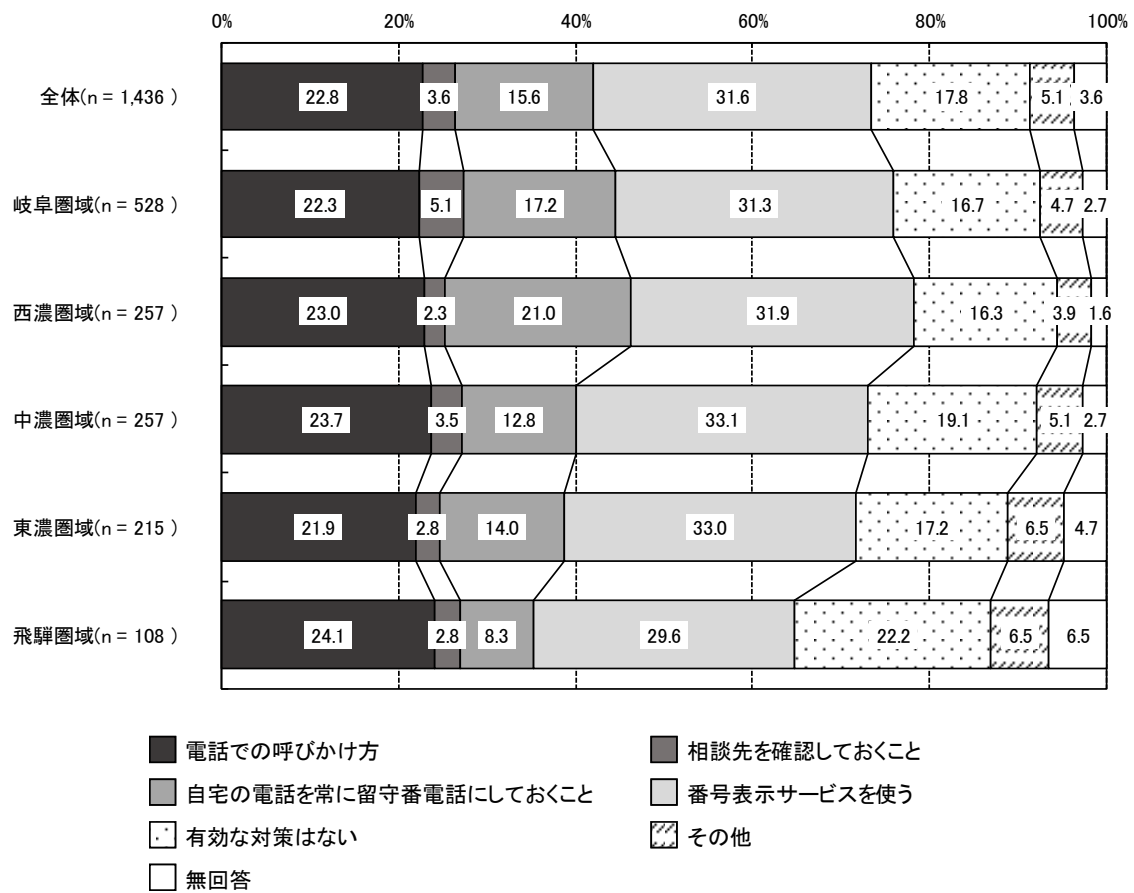
年代別（図 21-4）でみると、いずれの年代においても「番号表示サービスを使う」が最も高く、そのうち 20 歳代が 42.5% と最も高くなっている。

図 21-4 【年代別】 不審な電話による勧誘被害の対策



居住圏域別（図 21-5）でみると、いずれの居住圏域においても「番号表示サービスを使う」が最も高く、そのうち中濃圏域が 33.1%と最も高くなっている。

図 21-5 【居住圏域別】不審な電話による勧誘被害の対策



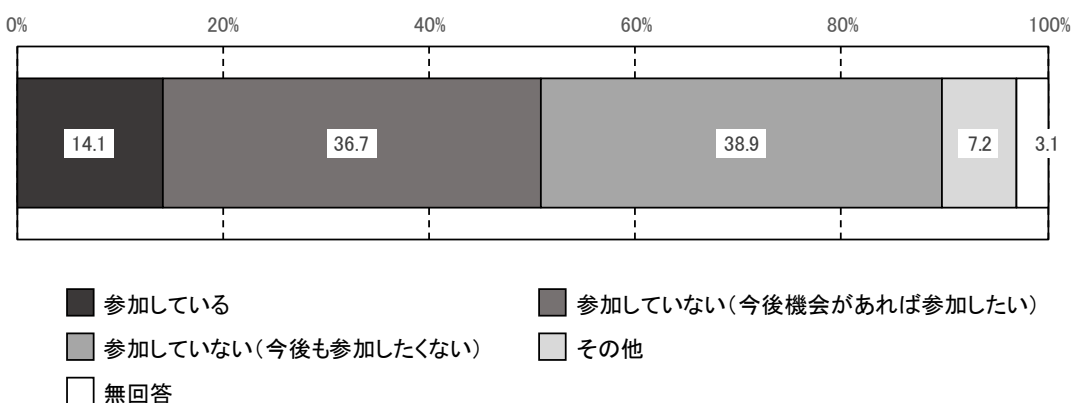
問22 社会貢献活動への参加

問22 あなたは、NPO（民間非営利組織）やボランティアなど、自発的に社会のために取り組む活動に参加していますか。（1つだけ）

全体（図22-1）でみると、「参加していない（今後も参加したくない）」が38.9%と最も高く、次いで「参加していない（今後機会があれば参加したい）」（36.7%）、「参加している」（14.1%）の順となっている。

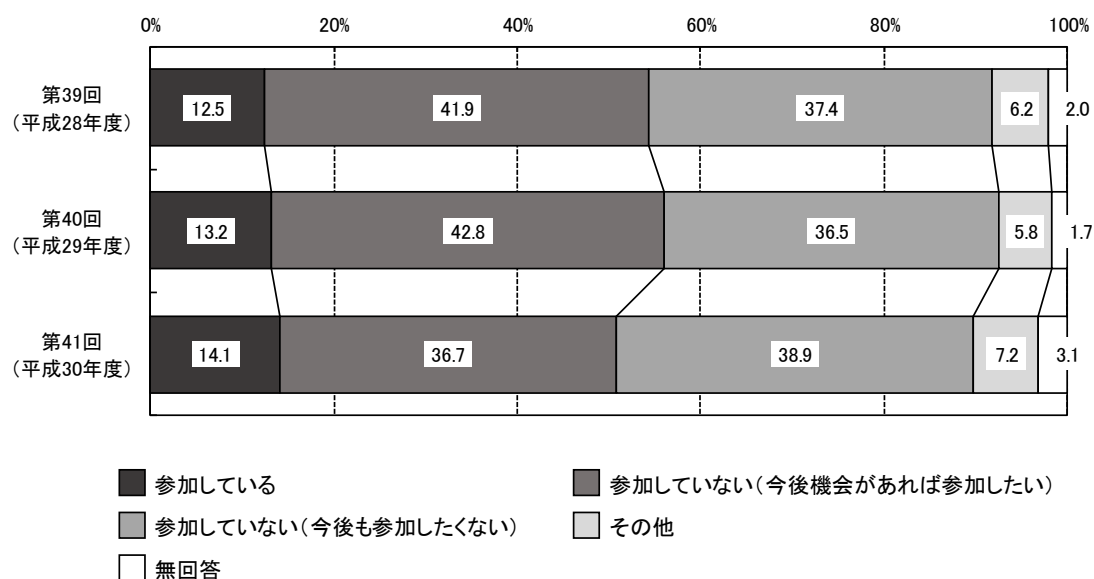
図22-1 社会貢献活動への参加

回答者数(n = 1,436)



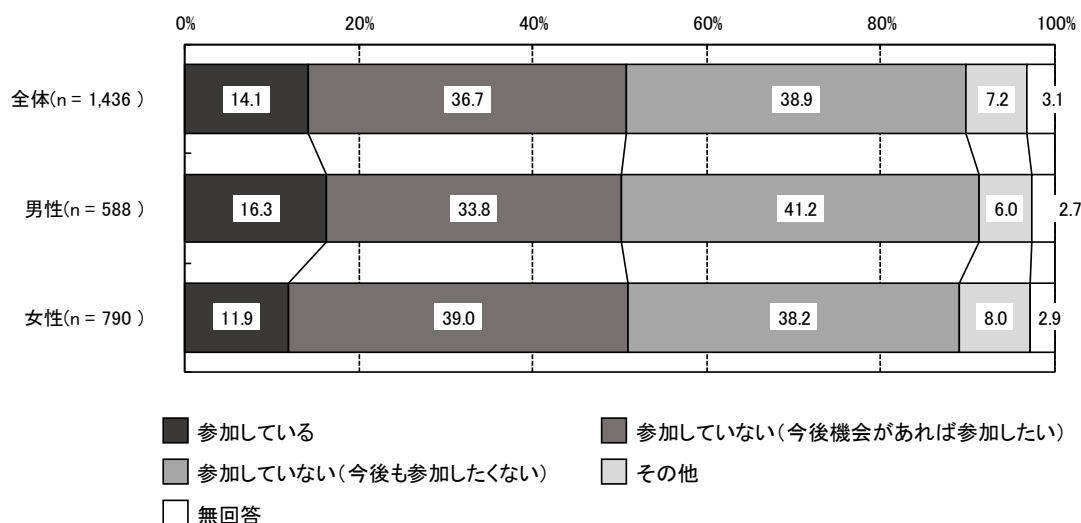
前々回・前回比較（図22-2）でみると、「参加している」が年々増加している。「参加していない（今後機会があれば参加したい）」では、前回より6.1ポイント減少し、「参加していない（今後も参加したくない）」が2.4ポイント増加している。

図22-2【前々回・前回比較】社会貢献活動への参加



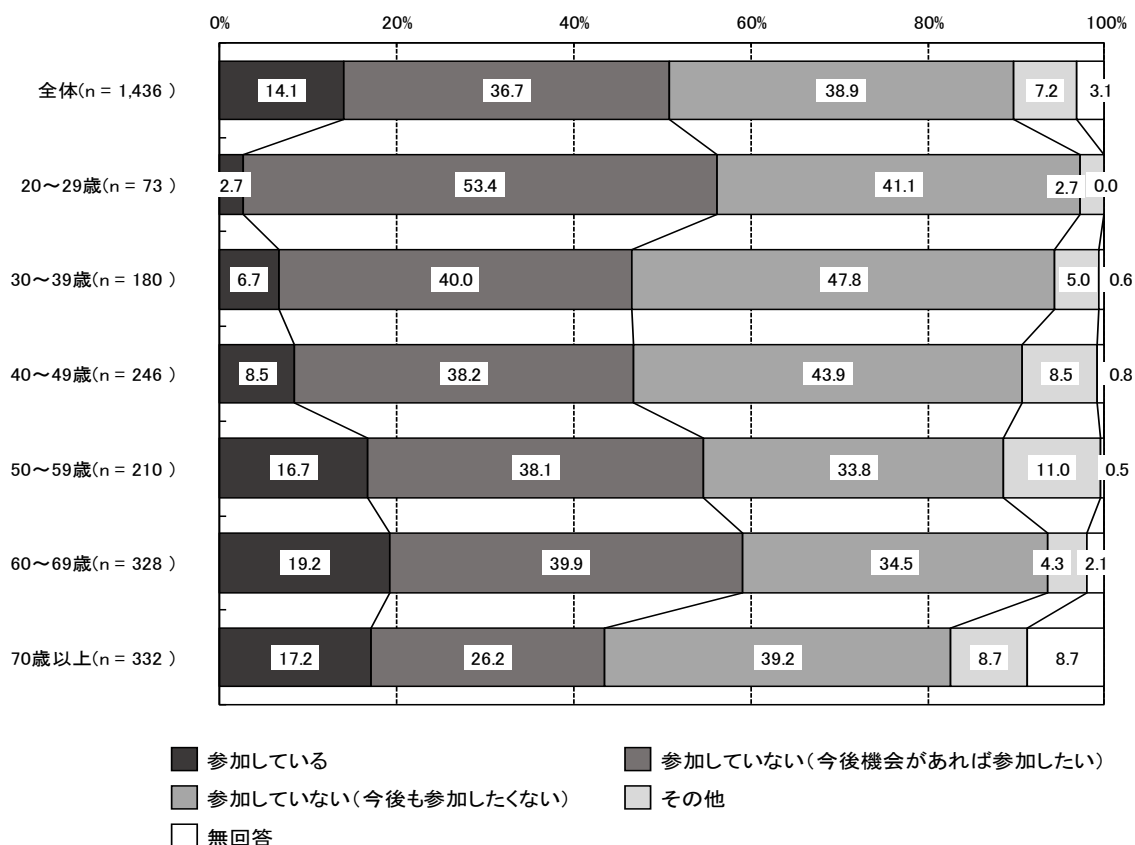
性別（図 22-3）でみると、男性は「参加していない（今後も参加したくない）」が 41.2%と最も高く、女性では「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が 39.0%と最も高くなっている。

図 22-3 【性別】 社会貢献活動への参加



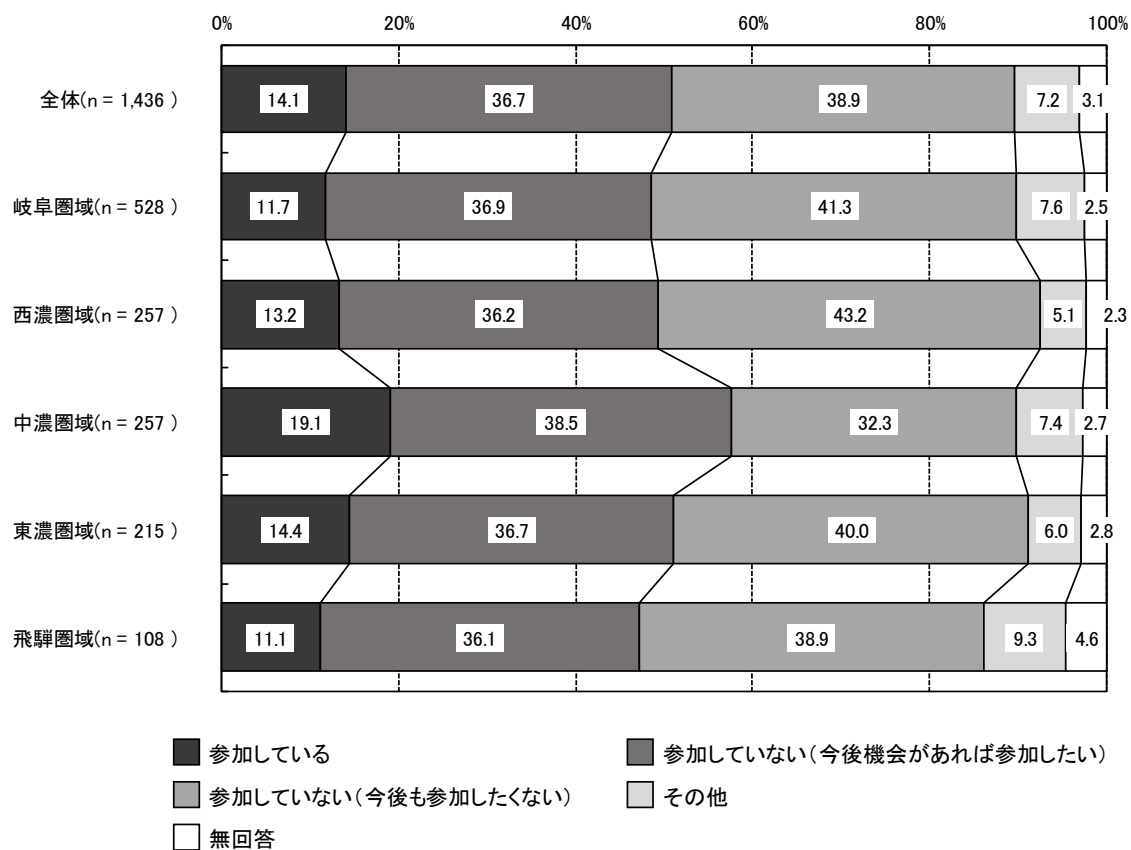
年代別（図 22-4）でみると、20 歳代、50 歳代、60 歳代では「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が最も高く、そのうち 20 歳代が 53.4%と最も高くなっている。30 歳代、40 歳代、70 歳以上では「参加していない（今後も参加したくない）」が最も高く、そのうち 30 歳代が 47.8%と最も高くなっている。

図 22-4 【年代別】 社会貢献活動への参加



居住圏域別（図 22-5）でみると、中濃圏域を除くいずれの居住圏域においても「参加していない（今後も参加したくない）」が最も高く、そのうち西濃圏域が 43.2%と最も高くなっている。中濃圏域では、「参加していない（今後機会があれば参加したい）」が 38.5%と最も高くなっている。

図 22-5 【居住圏域別】社会貢献活動への参加



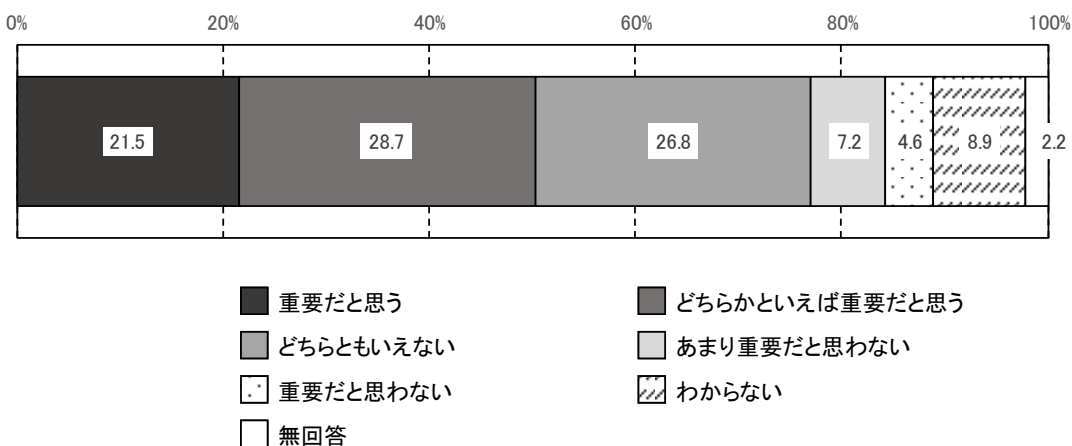
問23 在住外国人との共生

問23 現在、県内では、多くの外国人が暮らし、定住化が進んでいます。あなたは、在住外国人と共生する社会の実現についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図23-1）でみると、「どちらかといえば重要だと思う」が28.7%と最も高く、次いで「どちらともいえない」（26.8%）、「重要だと思う」（21.5%）の順となっている。

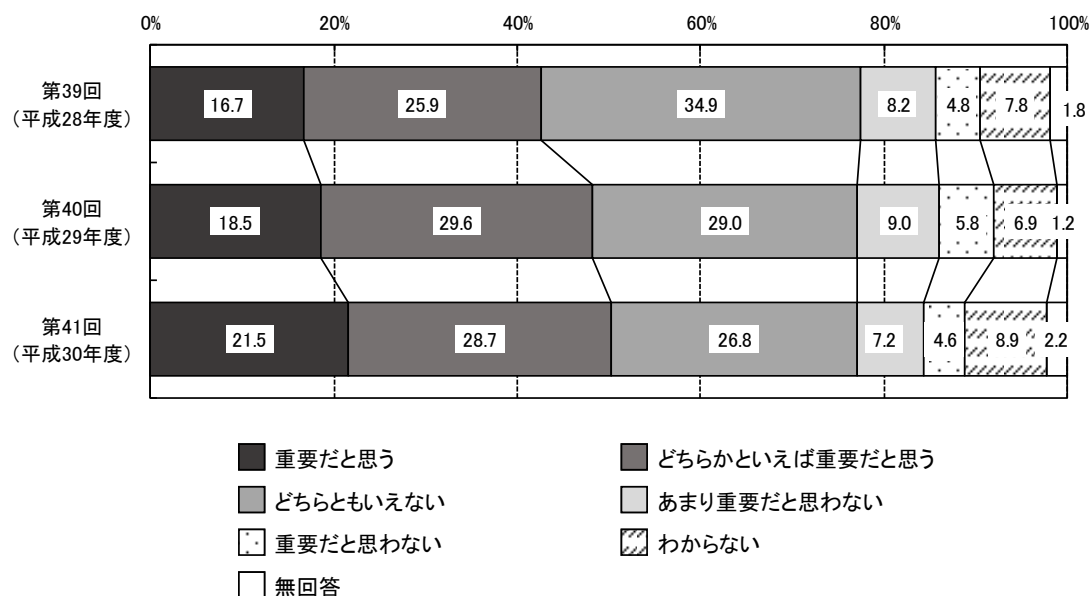
図23-1 在住外国人との共生

回答者数(n = 1,436)



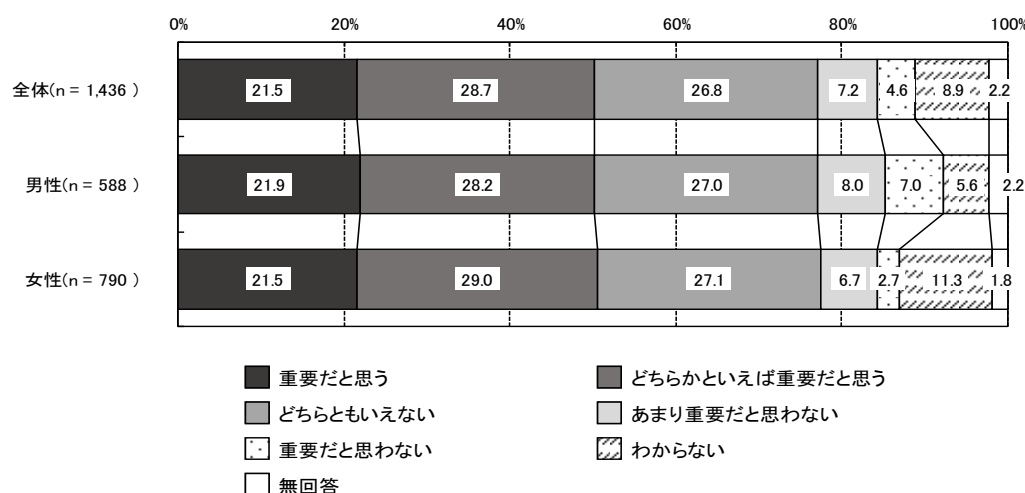
前々回・前回比較（図23-2）でみると、「重要だと思う」は前回から3ポイントの増加、「どちらかといえば重要だと思う」では前回から0.9ポイント、「どちらともいえない」では2.2ポイント、「あまり重要だと思わない」では1.8ポイント、それぞれ減少している。

図23-2【前々回・前回比較】 在住外国人との共生



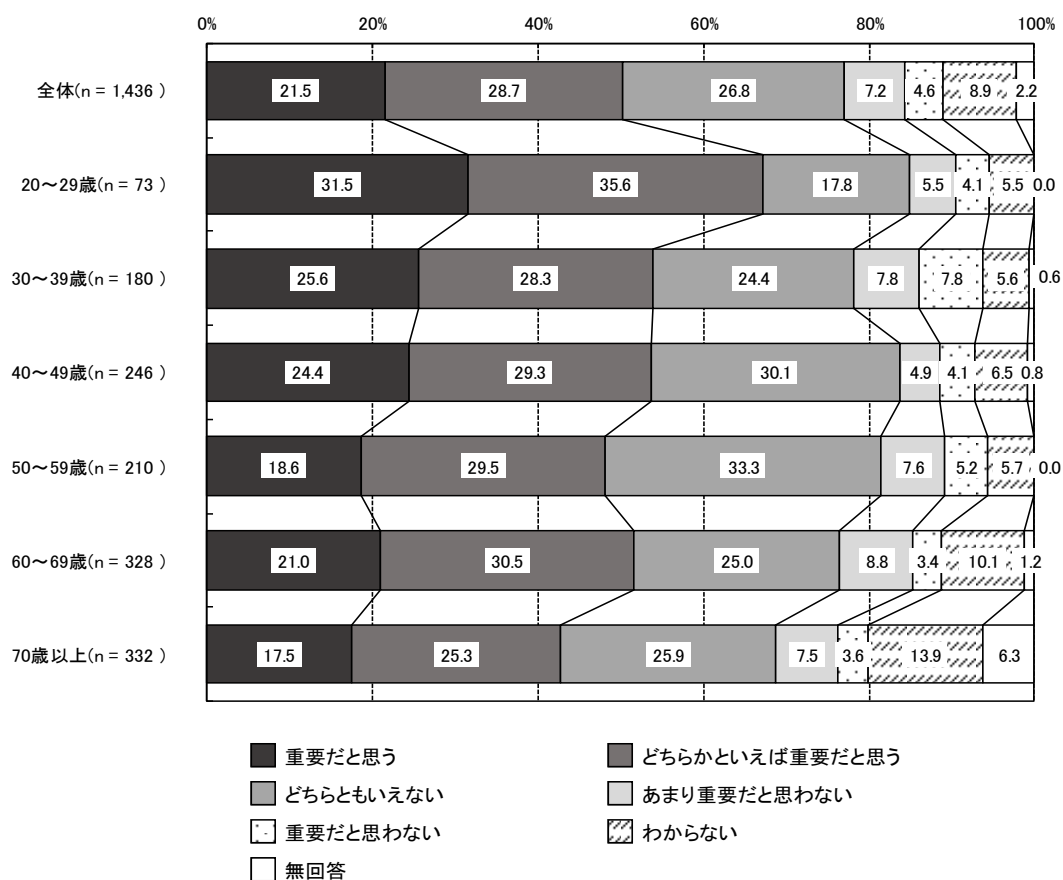
性別（図 23-3）でみると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」の計は男性が 50.1%、女性が 50.5%と、女性が男性より 0.4 ポイント高くなっている。

図 23-3 【性別】 在住外国人との共生



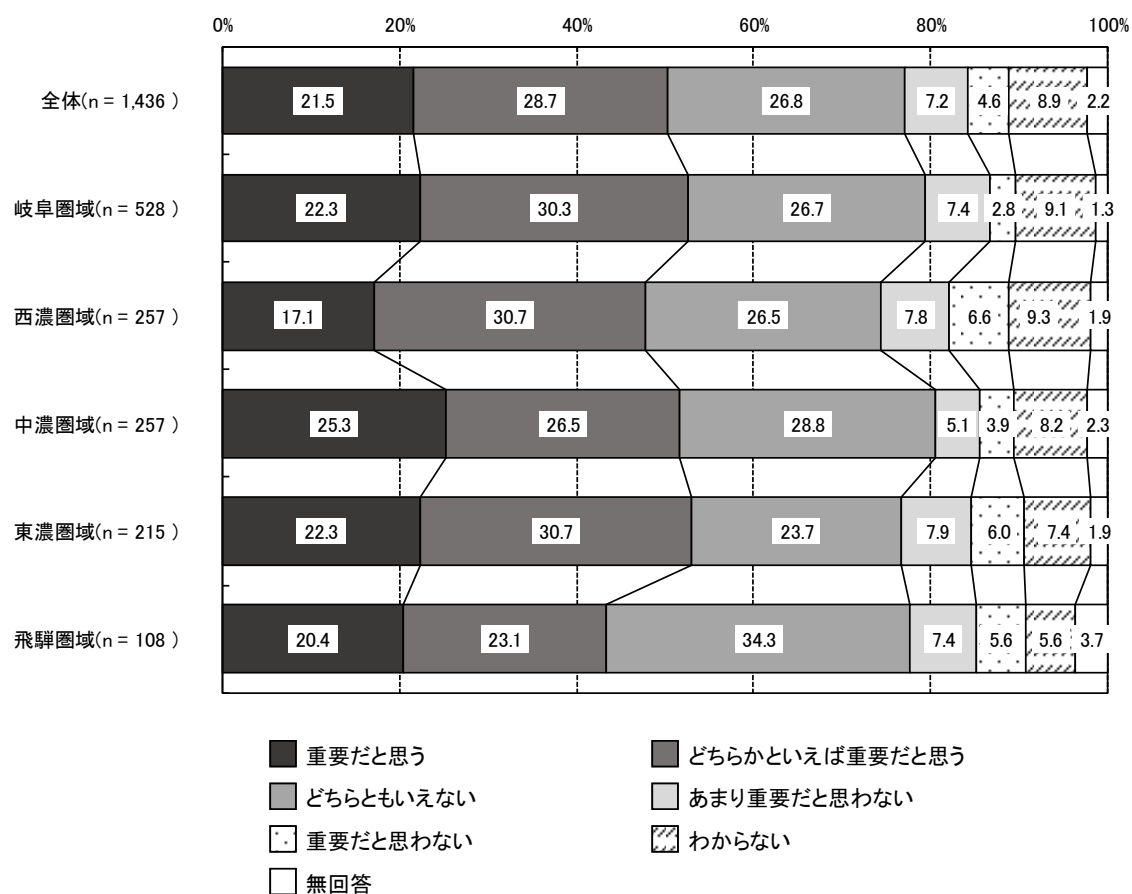
年代別（図 23-4）でみると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」の計は 20 歳代が 67.1%と最も高く、70 歳以上は 42.8%と最も低くなっている。

図 23-4 【年代別】 在住外国人との共生



居住圏域別（図 23-5）でみると、「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」の計は東濃圏域が 53.0%と最も高く、飛騨圏域が 43.5%と最も低くなっている。

図 23-5 【居住圏域別】 在住外国人との共生



問24 「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

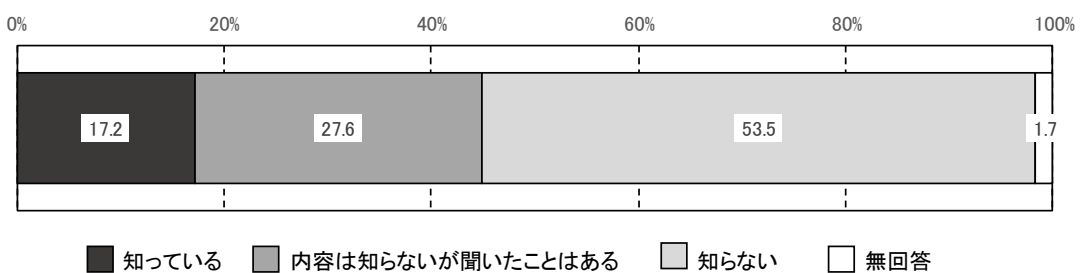
問24 岐阜県では、県民の皆様に「清流の国ぎふ森林・環境税※」を負担していただき、豊かな森づくりや清流の保全に取り組んでいます。

あなたは、この「清流の国ぎふ森林・環境税」を知っていますか。（1つだけ）

全体（図24-1）でみると、「知らない」が53.5%と最も高く、次いで「内容は知らないが聞いたことはある」（27.6%）、「知っている」（17.2%）の順となっている。

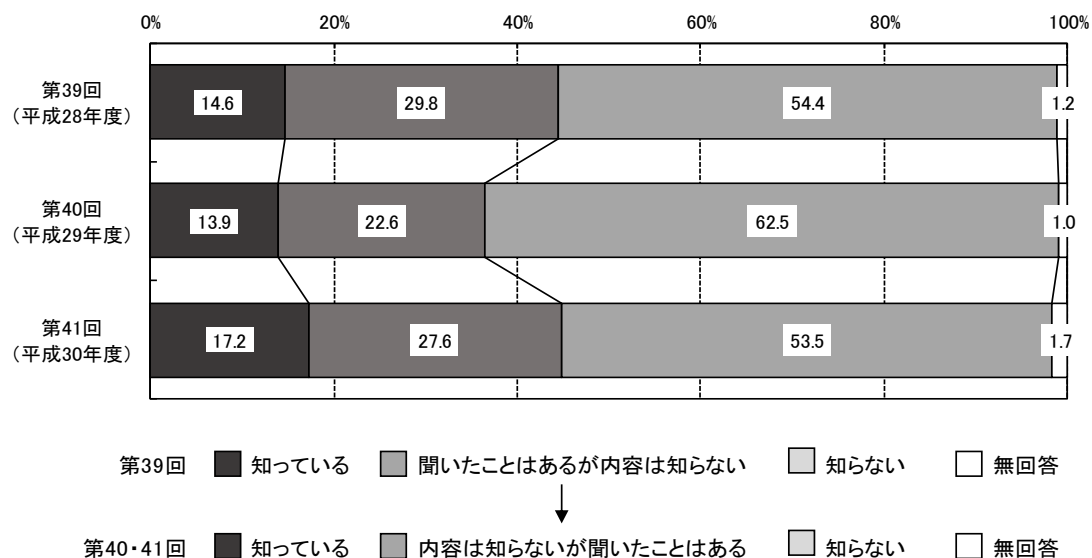
図24-1 「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

回答者数(n = 1,436)



前々回・前回比較（図24-2）でみると、「知っている」が前回と比べて3.3ポイント、「内容は知らないが聞いたことはある」が前回と比べて5ポイント、それぞれ増加している。「知らない」では前回と比べて9ポイント減少している。

図24-2 【前々回・前回比較】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度

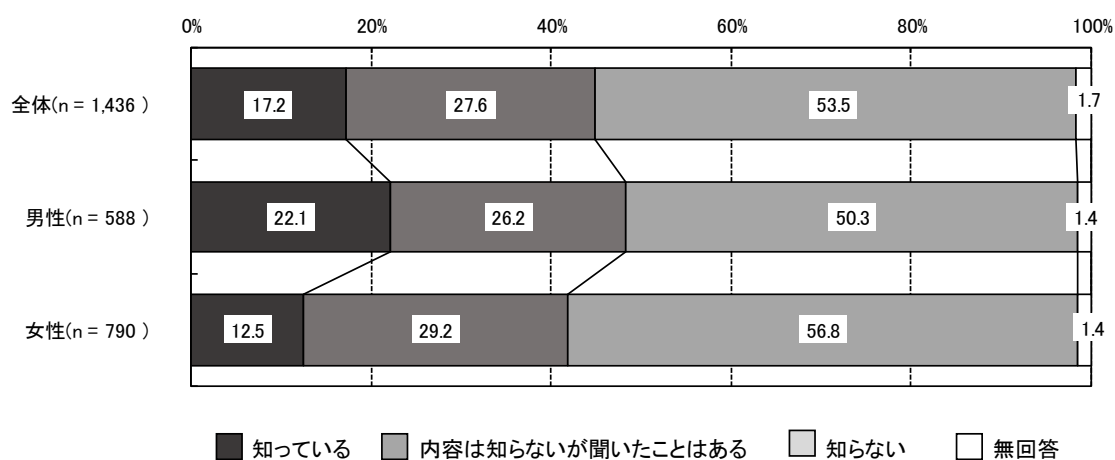


※ 清流の国ぎふ森林・環境税: 自然環境の保全・再生を県民全体で支える取組みを進めるため、平成24年度から導入している。個人は年額1,000円を個人県民税に上乗せして、法人は均等割額の10%相当額を法人県民税の申告納付の際に併せて県に納めていただくもの。

※ 第40回調査で選択肢を変えているため、第39回の「聞いたことはあるが内容は知らない」は第40回の「内容は知らないが聞いたことはある」と比較している。

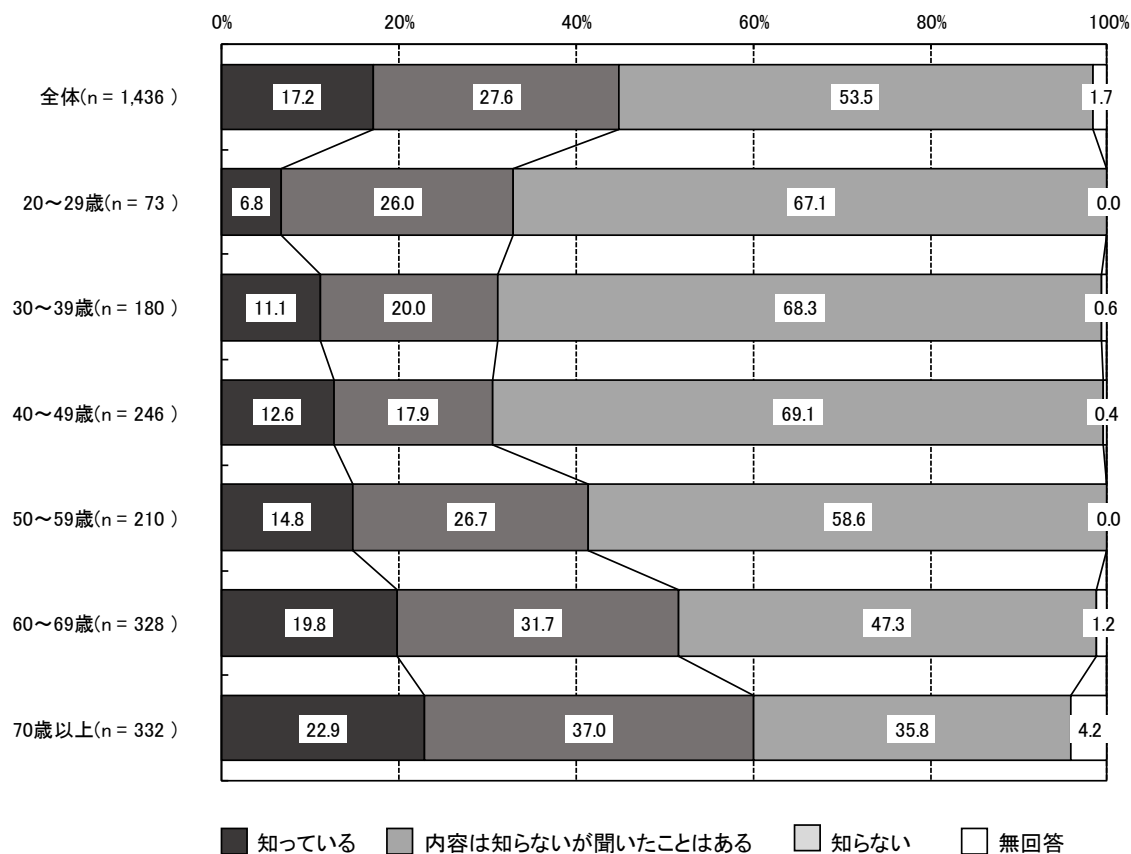
性別（図 24-3）でみると、「知っている」は男性が 22.1%、女性が 12.5%と、男性が女性より 9.6 ポイント高くなっている。

図 24-3 【性別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



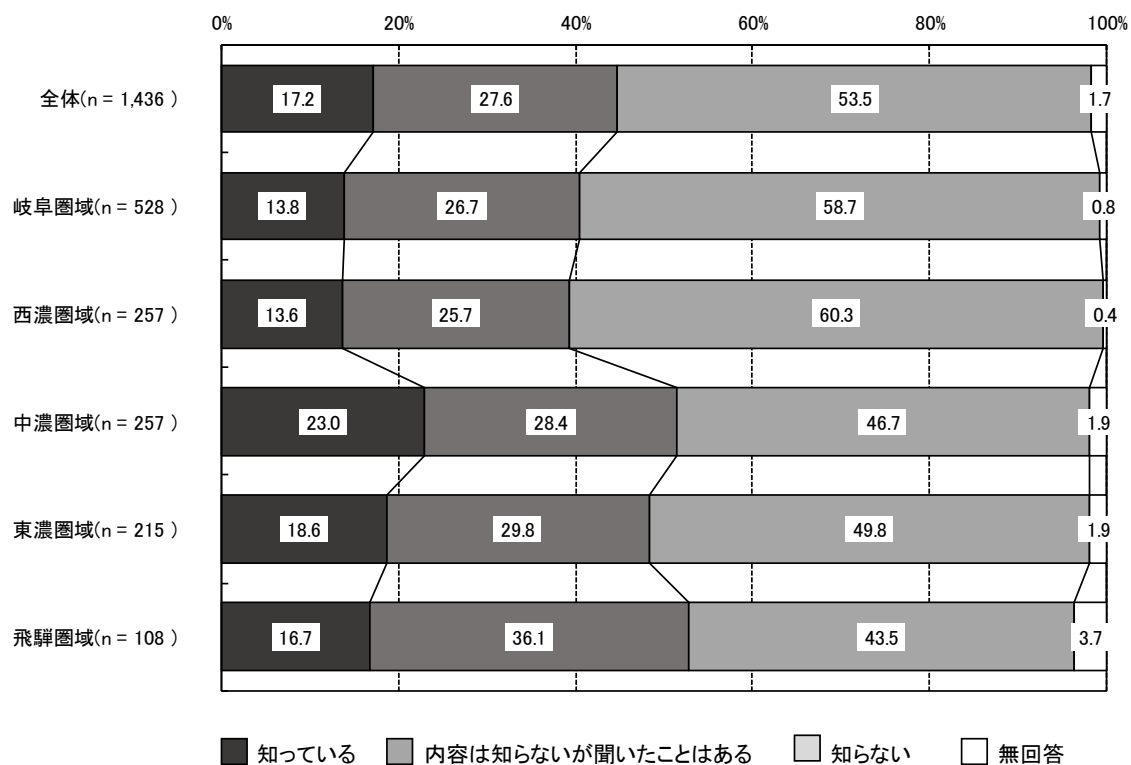
年代別（図 24-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「知らない」が最も高く、そのうち 40 歳代が 69.1%と最も高くなっている。70 歳以上では「内容は知らないが聞いたことはある」が 37.0%と最も高くなっている。

図 24-4 【年代別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



居住圏域別（図 24-5）でみると、いずれの居住圏域においても「知らない」が最も高く、そのうち西濃圏域が 60.3%と最も高くなっている。「知っている」では、中濃圏域が 23.0%と、他の居住圏域と比較して高くなっている。

図 24-5 【居住圏域別】「清流の国ぎふ森林・環境税」の認知度



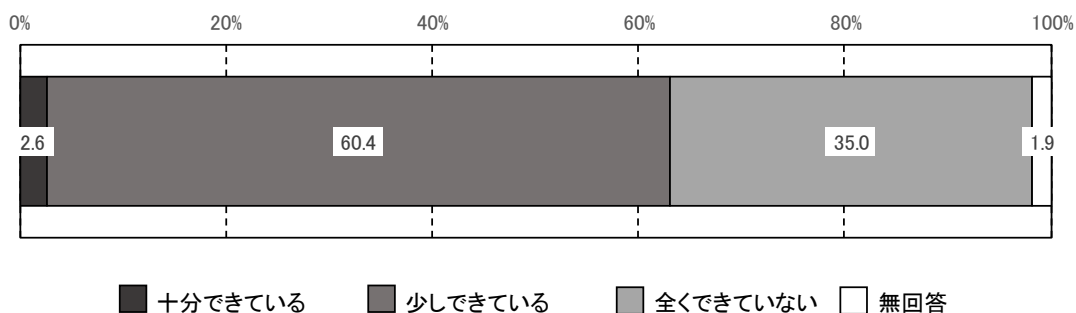
問25 災害や緊急時の備え

問25 あなたは、地震や台風などの災害や緊急時の備え※ができていますか。(1つだけ)

全体(図25-1)でみると、「少しできている」が60.4%と最も高くなっている。次いで「全くできていない」(35.0%)、「十分できている」(2.6%)の順となっている。

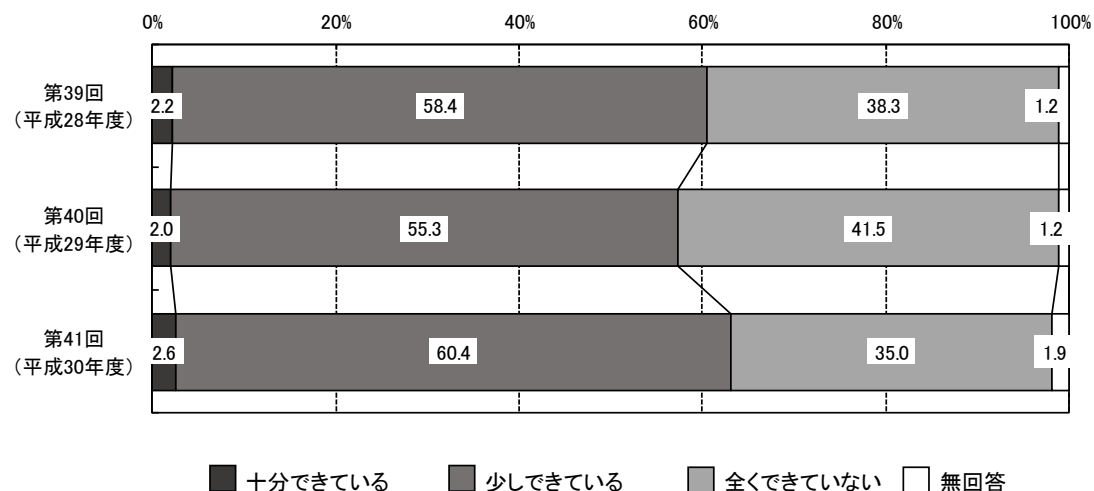
図25-1 災害や緊急時の備え

回答者数(n=1,436)



前々回・前回比較(図25-2)でみると、「少しできている」が前回と比べて5.1ポイント増加し、「全くできていない」が6.5ポイント減少している。

図25-2 【前々回・前回比較】災害や緊急時の備え



※ 災害や緊急時の備えの具体例: ・地震に備えた家具類の固定

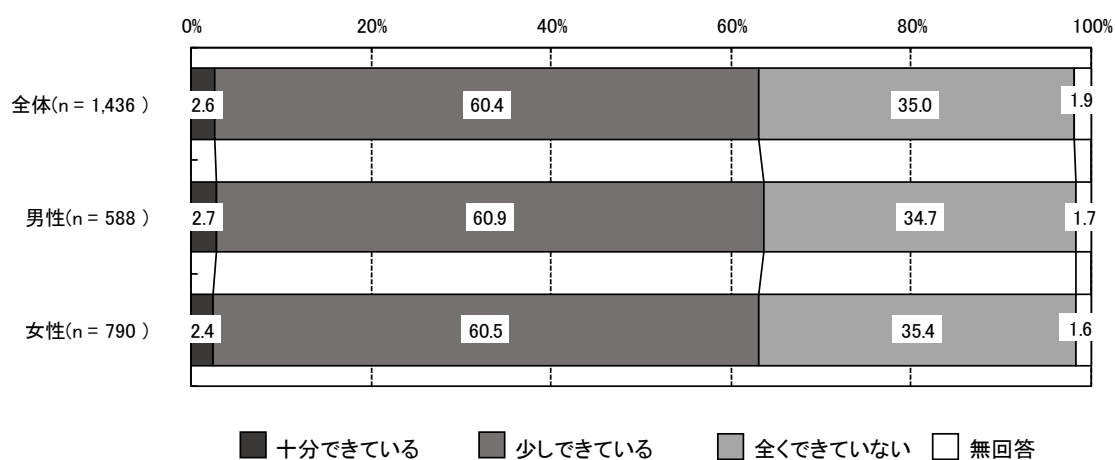
・避難路・避難場所の確認

・飲料水や食料品の備蓄

・非常持ち出し品(携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の用意 など

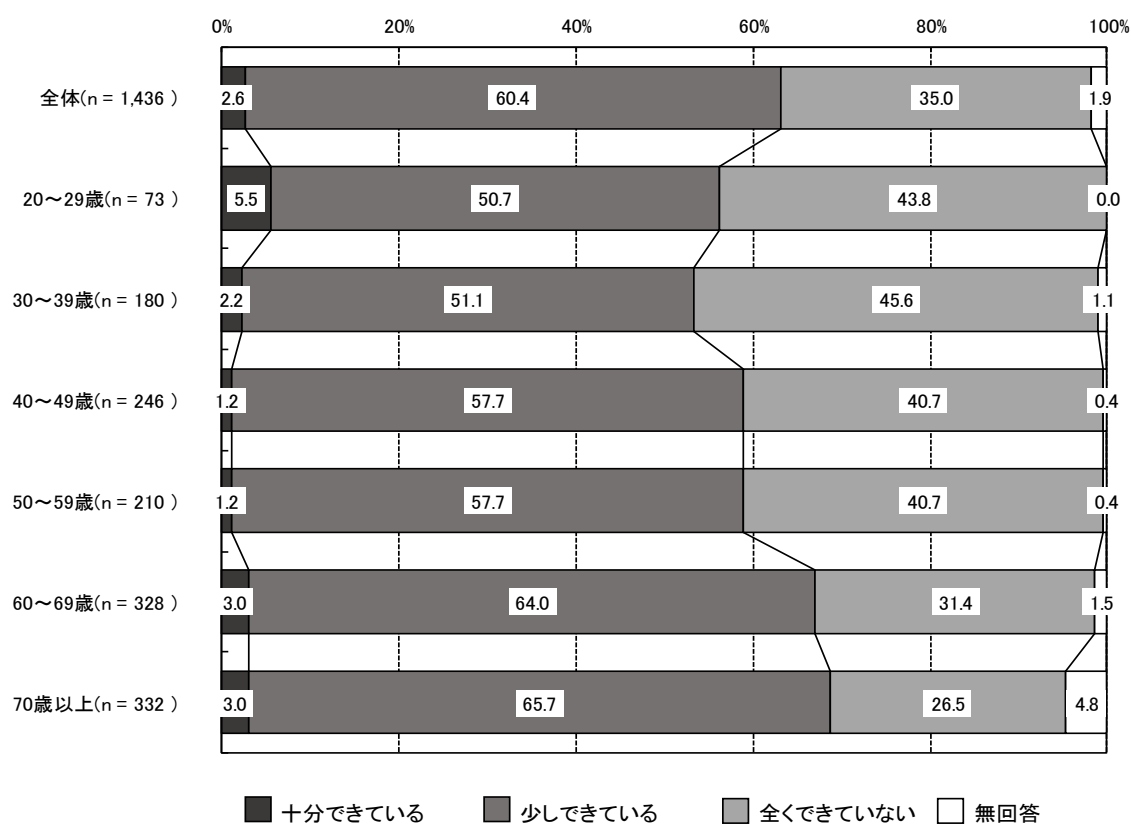
性別（図 25-3）で見ると、男女ともに「少しできている」が最も高く、男性が 60.9%、女性が 60.5%と、男性が女性より 0.4 ポイント高くなっている。

図 25-3 【性別】 災害や緊急時の備え



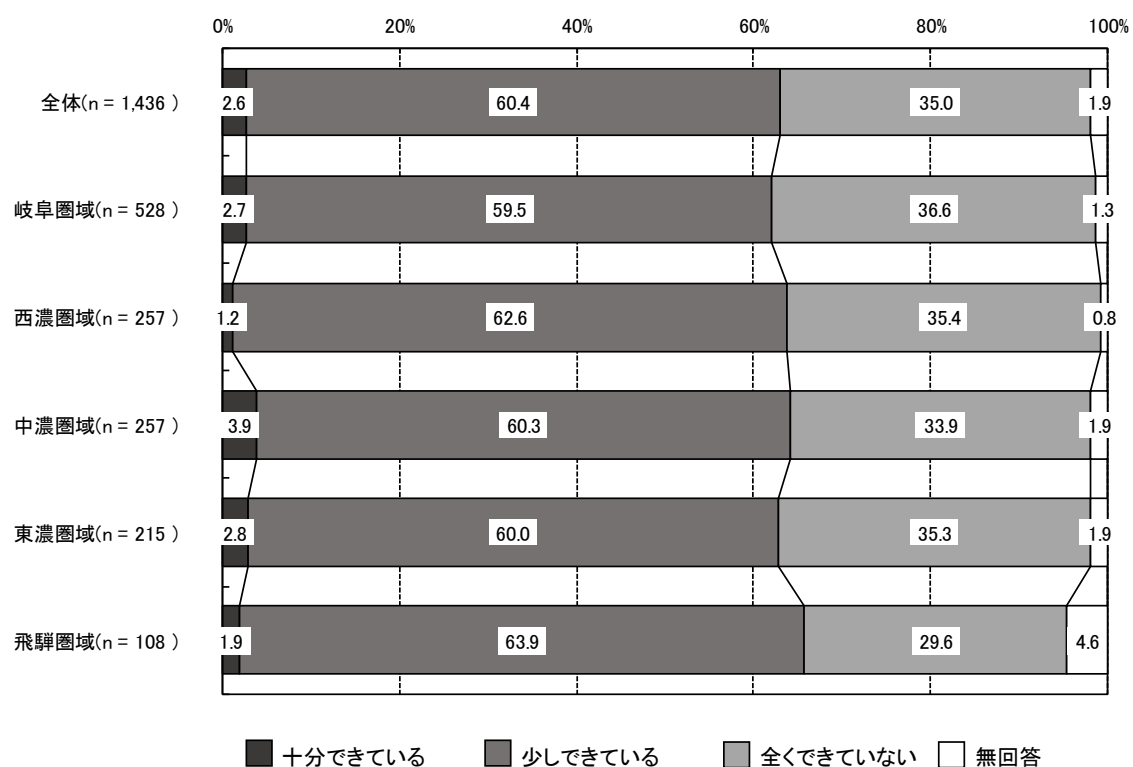
年代別（図 25-4）で見ると、いずれの年代においても「少しできている」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 65.7%と最も高くなっている。

図 25-4 【年代別】 災害や緊急時の備え



居住圏域別（図 25-5）でみると、いずれの居住圏域においても「少しできている」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 63.9%と最も高くなっている。

図 25-5 【居住圏域別】災害や緊急時の備え



問26 防災対策や避難行動の情報源

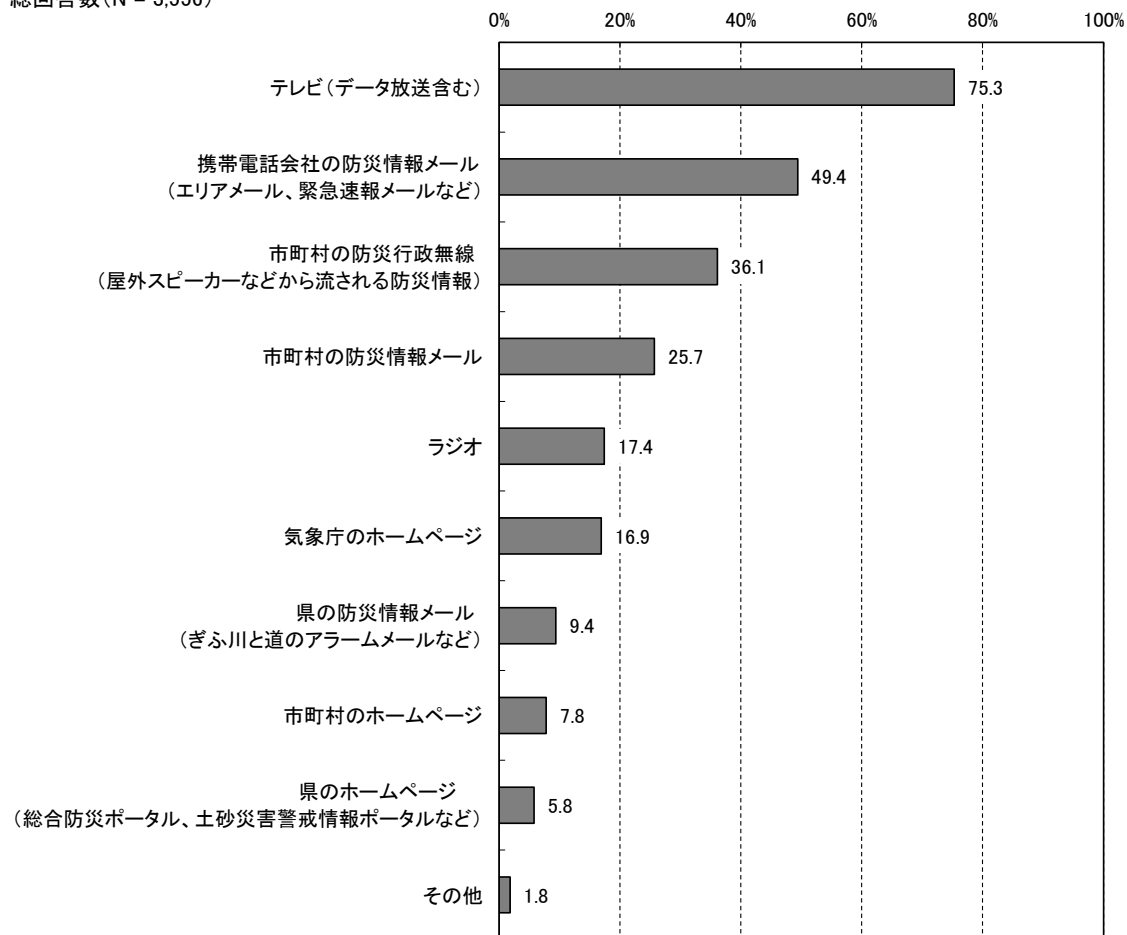
問26 あなたは、台風や集中豪雨発生時に、防災対策や避難行動に役立つ情報を何によって知ることが多いですか。(いくつでも)

全体(図26-1)でみると、「テレビ(データ放送含む)」が75.3%と最も高く、次いで「携帯電話会社の防災情報メール(エリアメール、緊急速報メールなど)」(49.4%)、「市町村の防災行政無線(屋外スピーカーなどから流される防災情報)」(36.1%)の順となっている。

図26-1 防災対策や避難行動の情報源

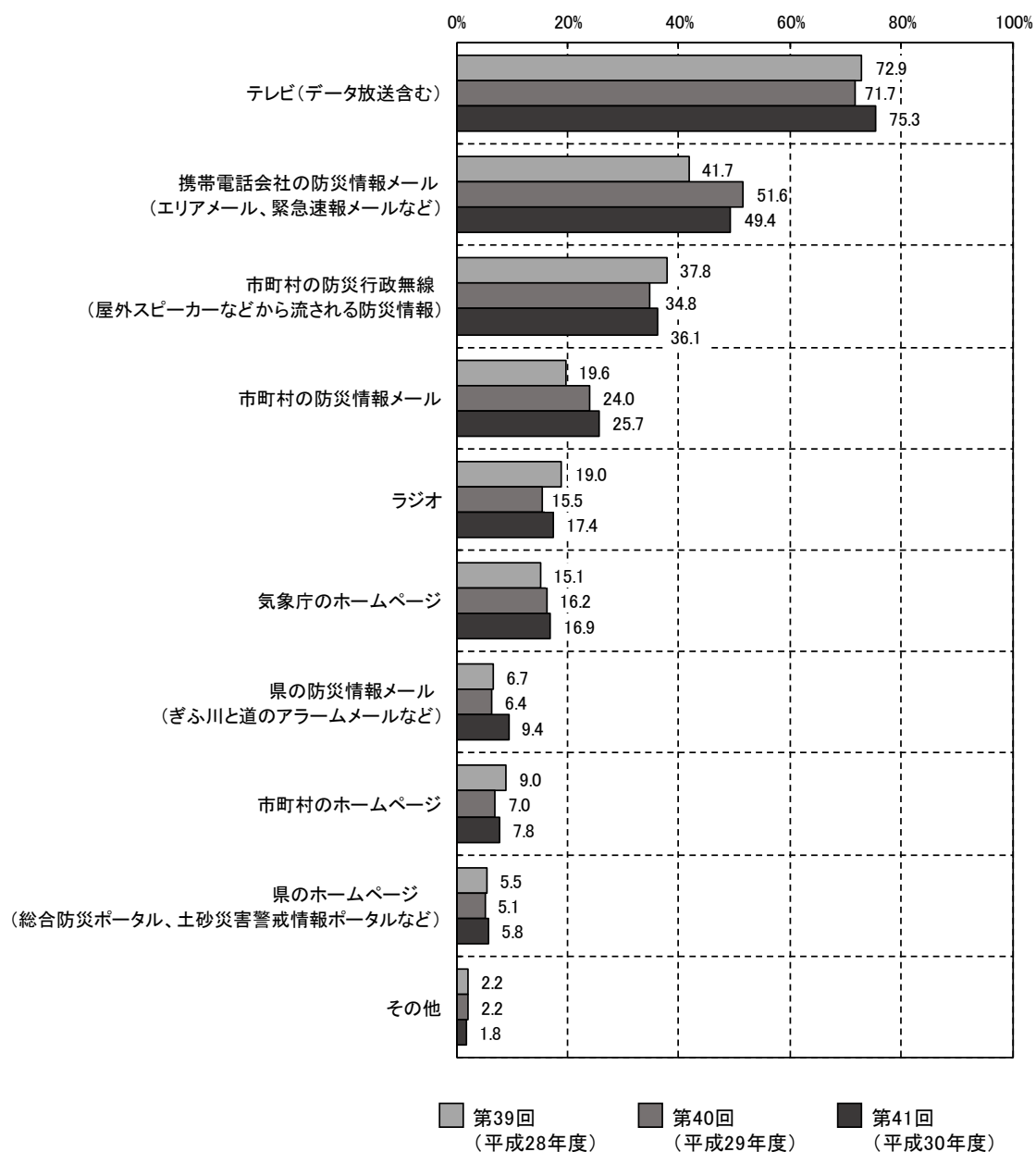
回答者数(n = 1,436)

総回答数(N = 3,556)



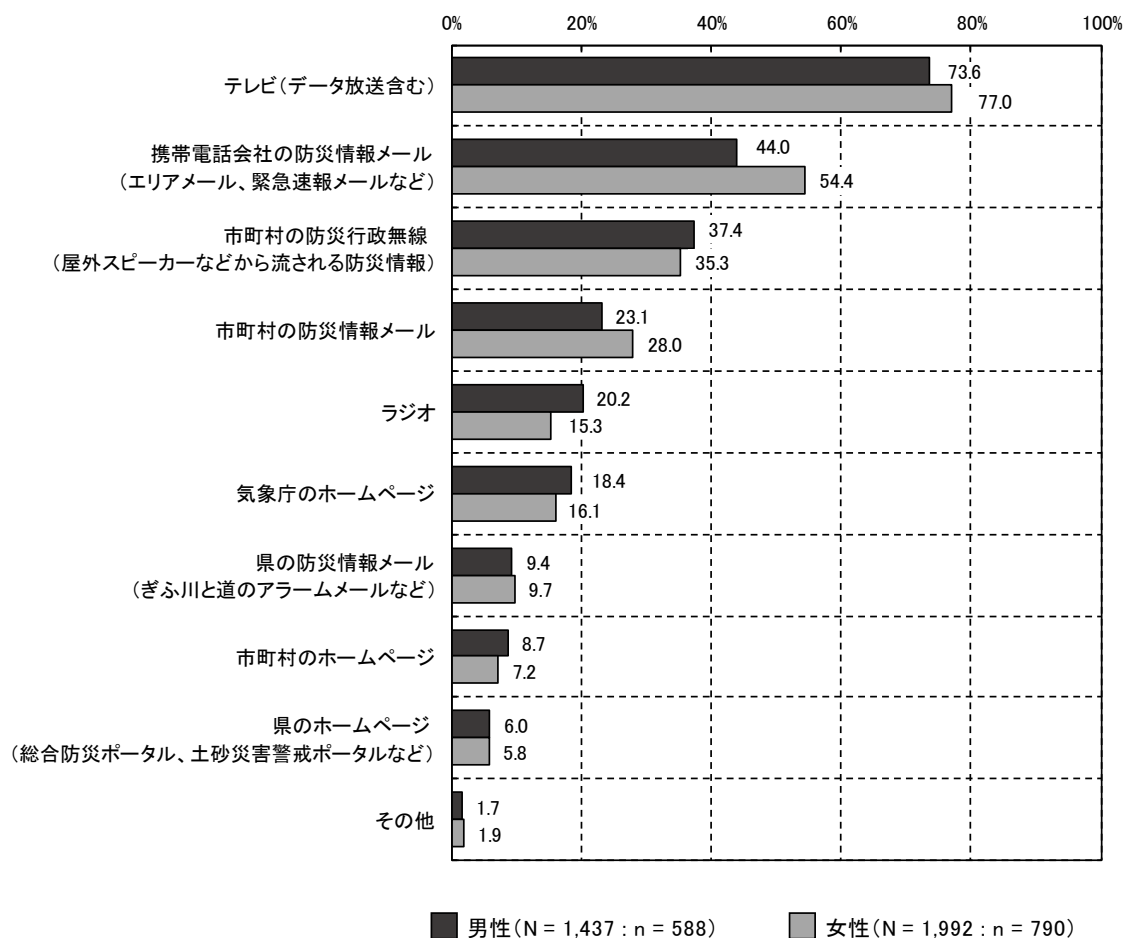
前々回・前回比較（図 26-2）でみると、前々回・前回と同様に「テレビ（データ放送含む）」が最も高くなっており、前回と比べて 3.6 ポイント増加している。「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」は、前回と比べて 2.2 ポイント減少している。

図 26-2 【前々回・前回比較】 防災対策や避難行動の情報源



性別（図 26-3）でみると、男女ともに「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、男性が 73.6%、女性が 77.0%となっている。「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」では、女性が男性より 10.4 ポイント高くなっている。

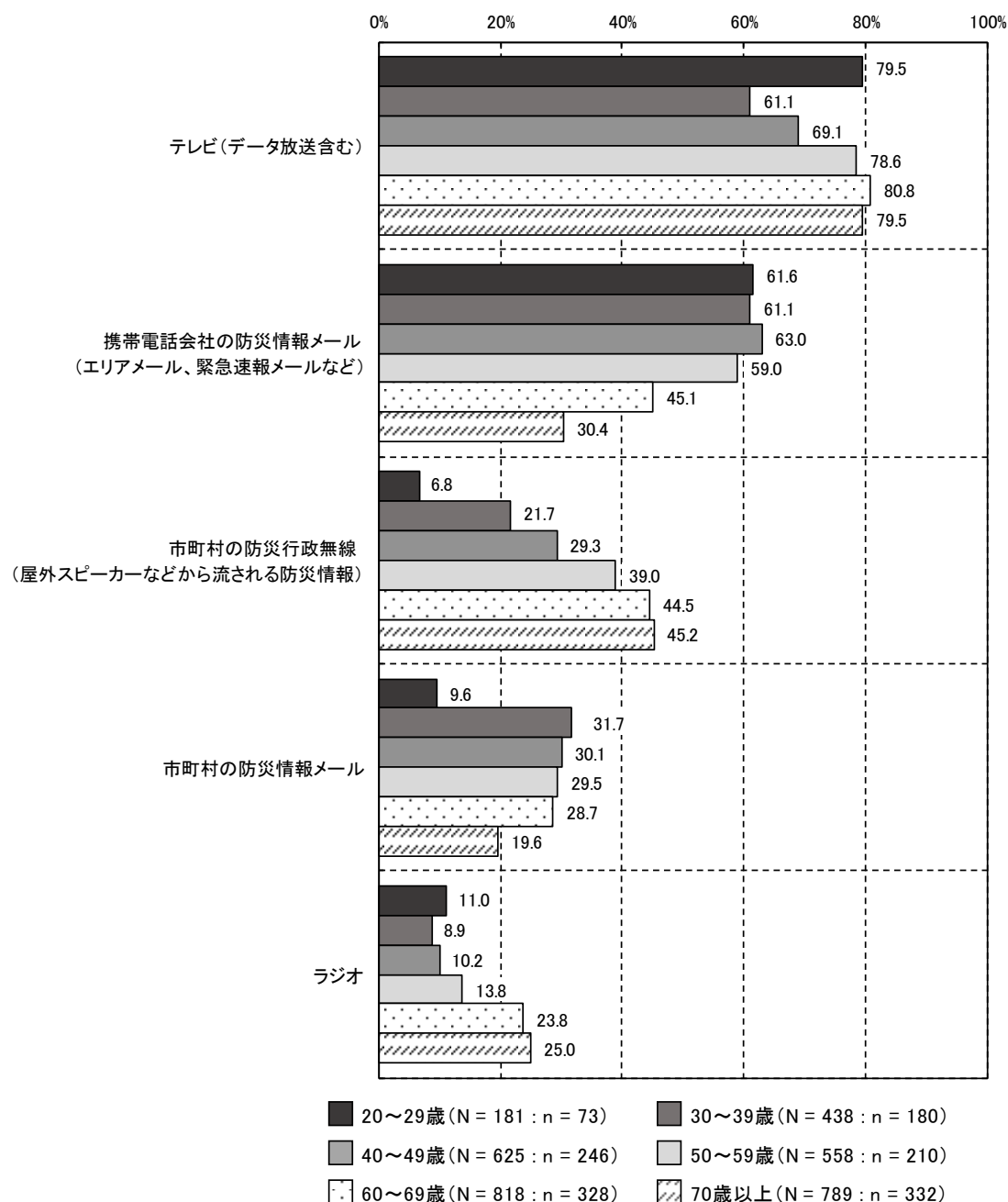
図 26-3 【性別】 防災対策や避難行動の情報源



※ N=総回答数 n=回答者数

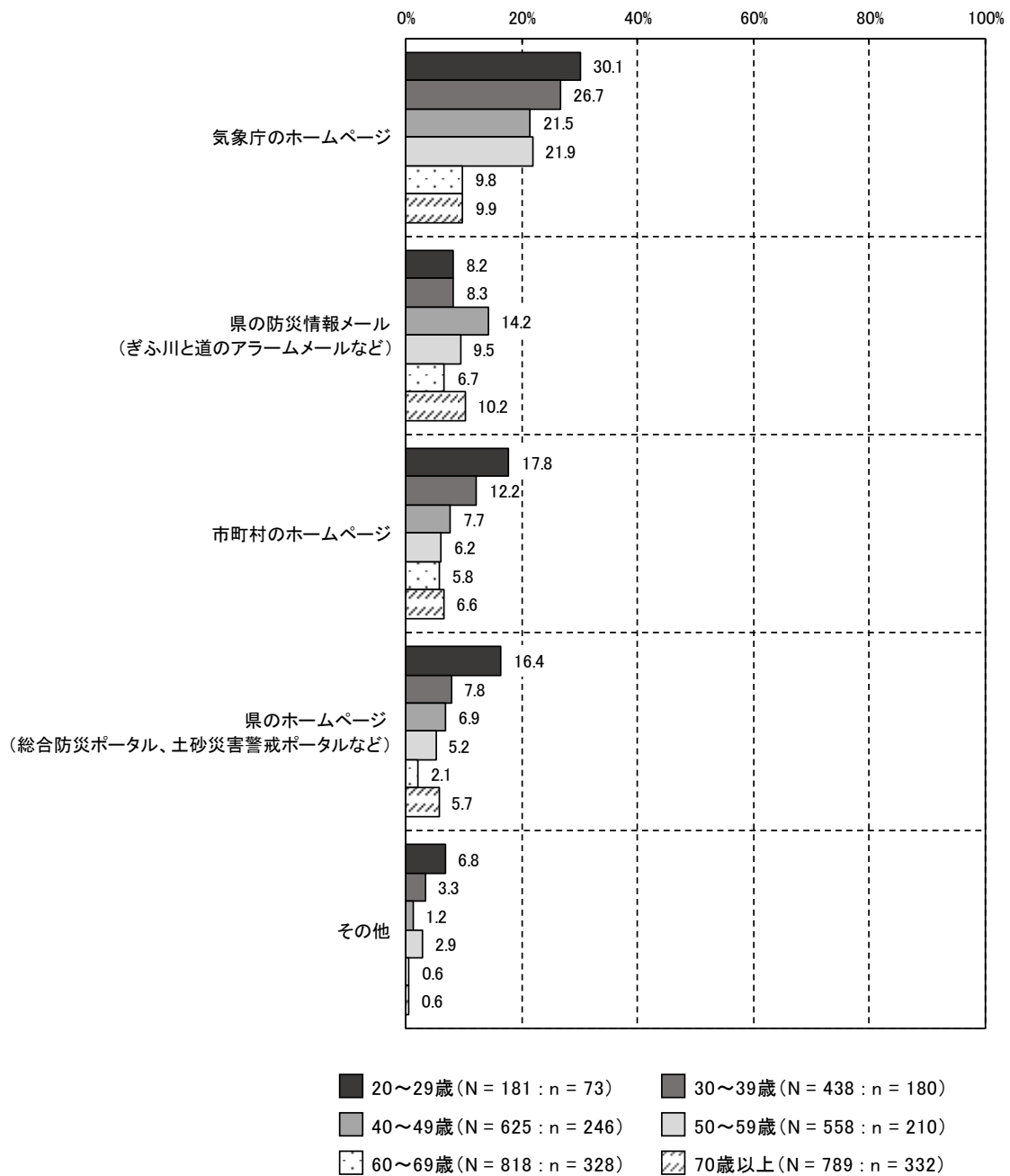
年代別（図 26-4）でみると、いずれの年代においても「テレビ（データ放送含む）」が最も高く（30 歳代では「テレビ（データ放送含む）」と「携帯電話会社の防災情報メール（エリアメール、緊急速報メールなど）」がともに 61.1%）、そのうち 60 歳代が 80.8%と最も高くなっている。

図 26-4 【年代別】 防災対策や避難行動の情報源



※ N=総回答数 n=回答者数

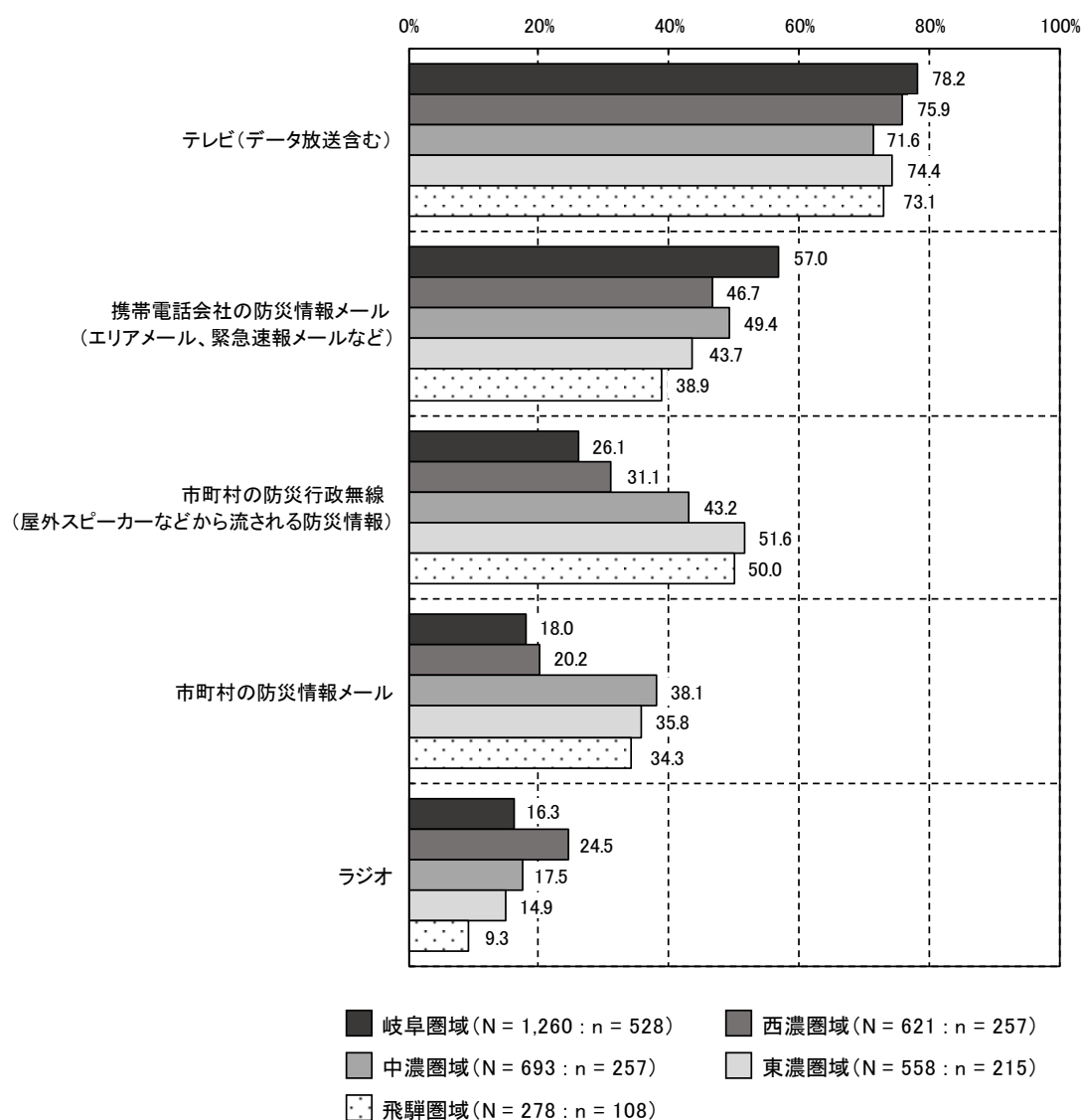
図 26-4 【年代別】 防災対策や避難行動の情報源（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

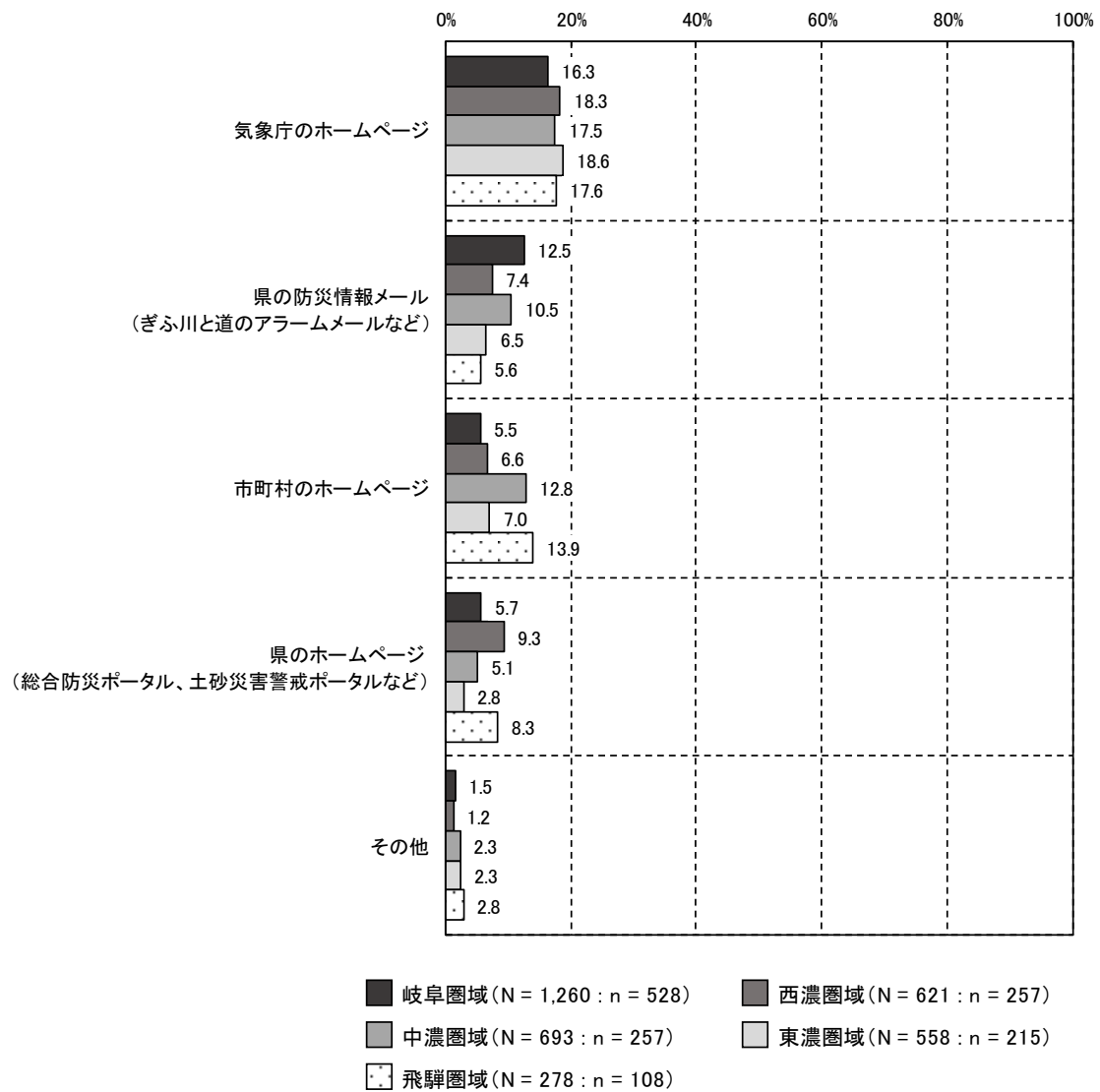
居住圏域別（図 26-5）でみると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送含む）」が最も高く、そのうち岐阜圏域が78.2%と最も高くなっている。

図 26-5 【居住圏域別】防災対策や避難行動の情報源



※ N=総回答数 n=回答者数

図 26-5 【居住圏域別】防災対策や避難行動の情報源（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

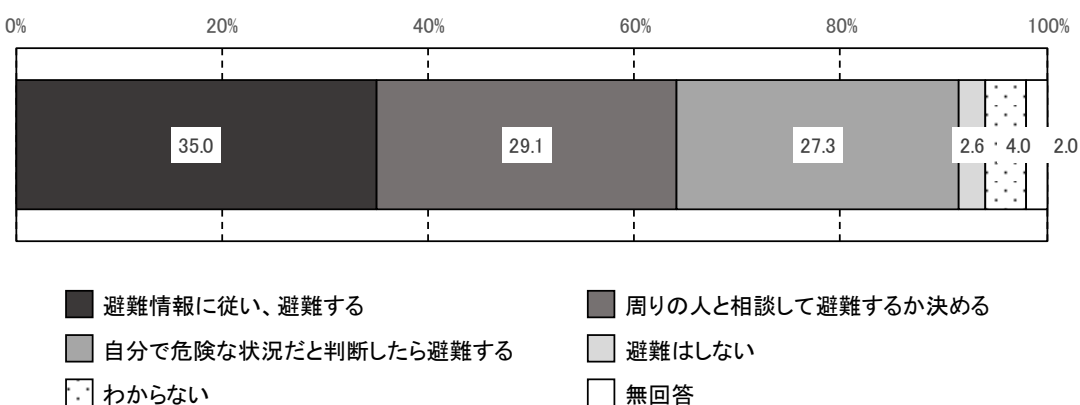
問27 避難情報に対する行動

問27 あなたは、台風や集中豪雨発生時に市町村から「避難準備・高齢者等避難開始※」や「避難勧告」などの避難情報が発令された場合、勧告等に従って行動しますか。
(1つだけ)

全体(図27-1)でみると、「避難情報に従い、避難する」が35.0%と最も高く、次いで「周りの人と相談して避難するか決める」(29.1%)、「自分で危険な状況だと判断したら避難する」(27.3%)の順となっている。

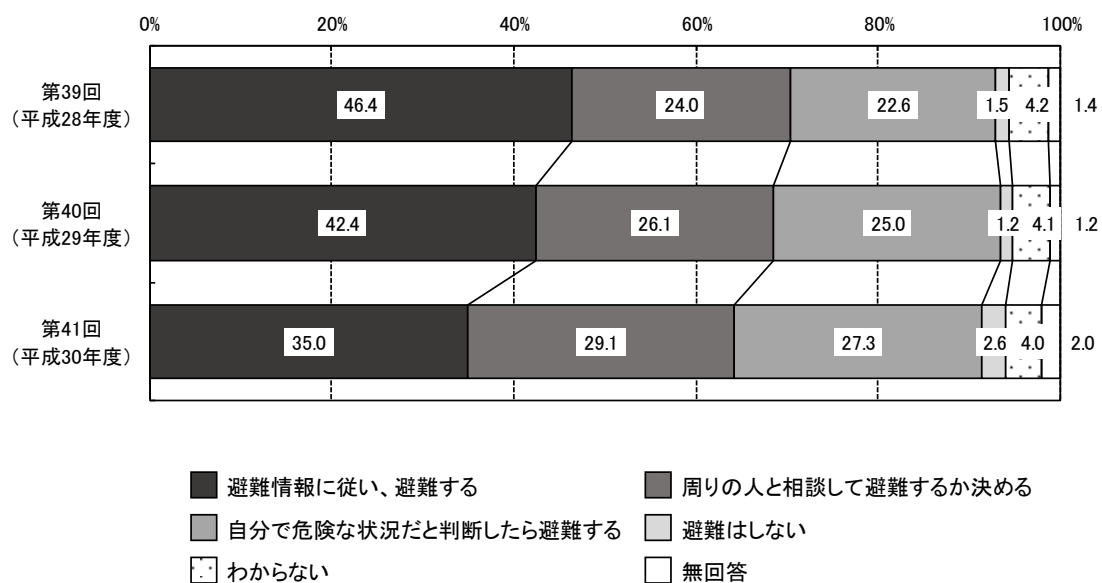
図27-1 避難情報に対する行動

回答者数(n = 1,436)



前々回・前回比較(図27-2)でみると、前々回・前回と同様に「避難情報に従い、避難する」が最も高いが、7.4ポイント減少している。

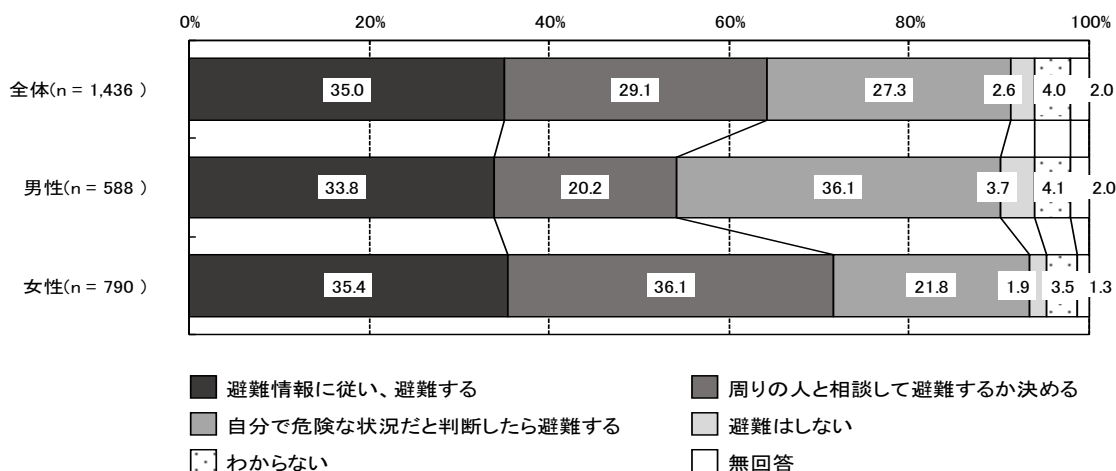
図27-2【前々回・前回比較】避難情報に対する行動



※ 避難準備・高齢者等避難開始:平成28年台風第10号による水害で、岩手県岩泉町の高齢者施設において避難準備情報の意味するところが伝わっておらず、適切な避難行動がとられなかったことを踏まえ、名称が変更された。

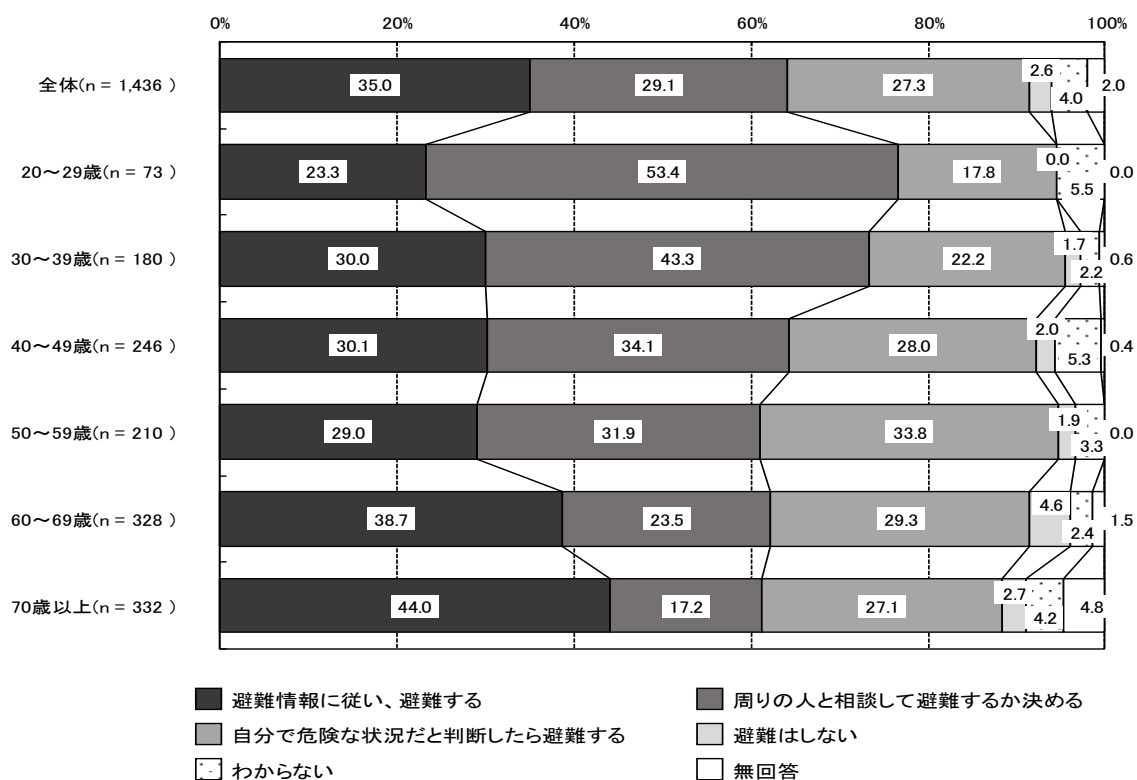
性別（図 27-3）でみると、男性では「自分で危険な状況だと判断したら避難する」が最も高く、36.1%となっている。女性では「周りの人と相談して避難するか決める」が最も高く、36.1%となっている。「避難情報に従い、避難する」では、女性が男性より 1.6 ポイント高くなっている。

図 27-3 【性別】 避難情報に対する行動



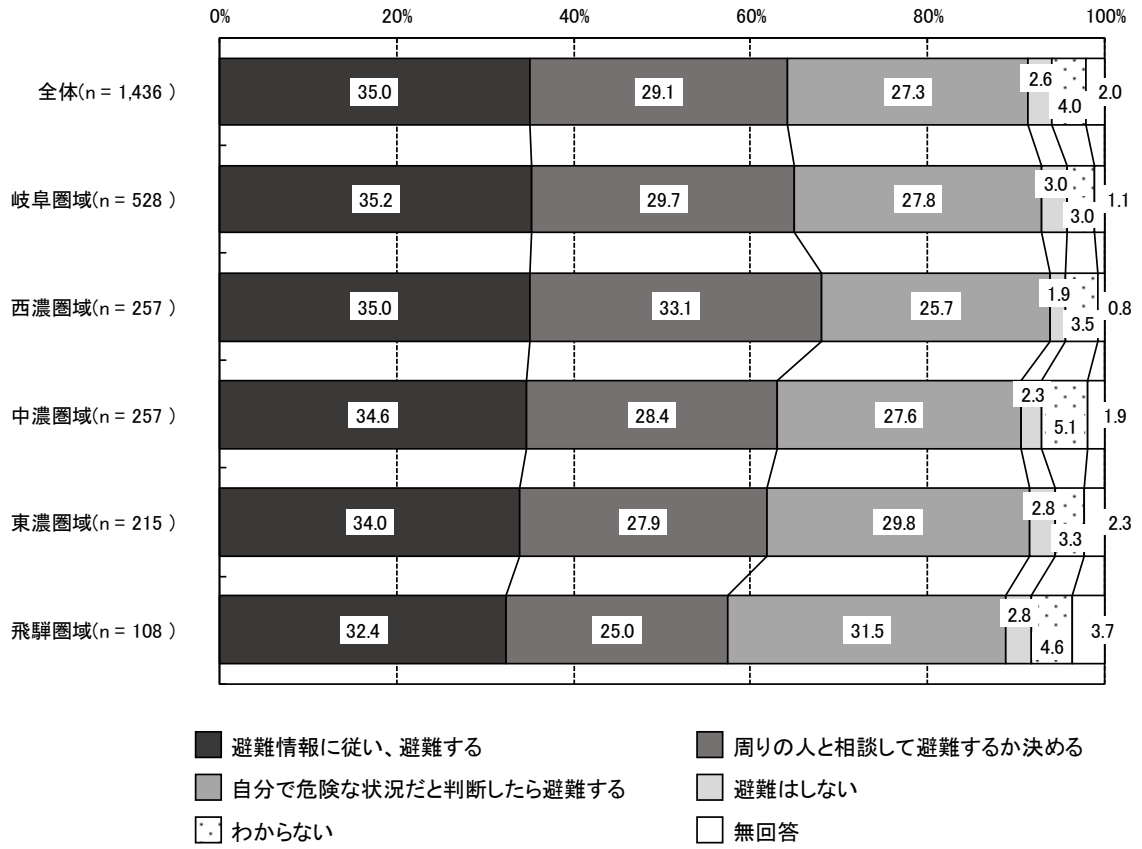
年代別（図 27-4）でみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「周りの人と相談して避難するか決める」が最も高く、そのうち 20 歳代が 53.4%と最も高くなっている。50 歳代では「自分で危険な状況だと判断したら避難する」が最も高く、33.8%となっている。60 歳代、70 歳以上では「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 44.0%と最も高くなっている。

図 27-4 【年代別】 避難情報に対する行動



居住圏域別（図 27-5）でみると、いずれの居住圏域においても「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 35.2%と最も高くなっている。

図 27-5 【居住圏域別】 避難情報に対する行動



居住環境別（図 27-6）でみると、いずれの居住環境においても「避難情報に従い、避難する」が最も高く、そのうち商業地域が 38.7%と最も高くなっている。

図 27-6 【居住環境別】 避難情報に対する行動

